佐賀県文化財調査報告書第 197 集

－嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 9 －

垣ノ内遺跡
西畑瀬遺跡３
東畑瀬遺跡４

平成２４（2012）年３月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第 197 集

－嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書９－

垣ノ内遺跡
西畑瀬遺跡３
東畑瀬遺跡４

平成 24（2012）年３月

佐賀県教育委員会

序

本書は、国土交通省九州地方整備局による嘉瀬川ダム建設事業に伴い、佐賀県教育委員会が実施している埋蔵文化財発掘調査の記録をまとめたものです。

今回の報告は、垣ノ内遺跡、西畑瀬遺跡８・９区と東畑瀬遺跡 6T 区に関するもので、縄文時代～古墳時代の集落跡、中世の集落跡等を調査しました。いずれも地域の歴史を物語る貴重な資料であり、先人の生活や文化を偲ばせるものです。

本書が学術文化の向上に幾分なりとも寄与し、併せて地域の歴史を学ぶ資料のひとつとして生涯教育や学校教育の場で活用されるものになれば幸いに存じます。

発刊にあたり、埋蔵文化財の保護に深い御理解と多大な御協力を賜った国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所並びに関係各位に対し衷心より厚くお礼申し上げ、御挨拶といたします。

平成 24 年３月

佐賀県教育委員会

教育長　川﨑俊広

例　言

1　本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴い佐賀県教育委員会が平成 19・21・22 年度に実施した佐賀市富士町所在の垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡８・９区・東畑瀬遺跡 6T 区の発掘調査報告書で、嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第９冊である。

2　発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所の委託を受けて実施した。

3　発掘調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所、佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県県土づくり本部水資源調整室)、富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会)、富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）及び地元各位の協力を得た。

4　本書の表紙と写真図版の一部に用いた平成４年撮影の航空写真は、嘉瀬川ダム工事事務所から提供を受けた。

5　垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡８・９区・東畑瀬遺跡 6T 区の現地調査から報告書作成までの作業に従事したものは下記のとおりである。

発掘作業：　糸山禎一　岩熊素子　内川さつき　嬉野みつ代　遠藤啓輔
大谷節子　川﨑恵美子　川﨑はつえ　川原トシ子　北島裕司
坂井和子　坂井義人　實松政秀　杉原茂子　千綿一夫
千綿伸義　野田美恵子　丸内隆康　三角憲一郎　光武宣子
藤井千枝子　古川　勲　杠　義臣　新井英雄　荒木聖剛
井手口 昇　江口敏郎　江嵜　章　柿本由紀子　古賀芳子
副島正義　下川利信　竹下政征　長　清一　長倉眞美子
野中賢之　野中静枝　松藤孝幸　諸角敏子　山口榮次

遺構実測：　有馬絢子　内田真一郎　嬉野みつ代　梶山裕史　北島裕司
白木原 宜　竹内奈央　津田　文　西野元勝　野田美恵子
光武宣子　森 幸一郎　吉田大輔　渡部芳久
（株）埋蔵文化財サポートシステム

遺構写真撮影：　内田真一郎　白木原 宜　竹内奈央　津田　文
西野元勝　森 幸一郎　吉田大輔　渡部芳久

遺跡空中写真撮影：(有）空中写真企画

遺物整理：　植木玲子　坂本明子　佐保敦子　谷澤裕美　堀田香澄
松尾三枝子

遺物実測：　江島美恵子　江副朋子　指山美江子　谷澤裕美　鶴田啓子
村里育子　山浦美香　渡部芳久
（株）とっぺん　（株）埋蔵文化財サポートシステム

整図（デジタルトレース)：　今泉好孝　白木原 宜　徳永智恵子　西野元勝
藤井菜穂子　（株）埋蔵文化財サポートシステム

遺物写真撮影：　今泉好孝　梶山裕史　渋谷　格　西野元勝

写真整理・編集：　市田佳奈子　江副朋子　奥 知恵子　西野元勝
藤井菜穂子　村里育子　吉田大輔

調査記録整理：垣ノ内遺跡）　遺構：西野元勝・吉田大輔
遺物：市田佳奈子・吉田大輔
西畑瀬遺跡）　遺構：市田佳奈子・竹内奈央・森 幸一郎・吉田大輔・渡部芳久
遺物：市田佳奈子・渋谷　格・渡部芳久
東畑瀬遺跡）　遺構：竹内奈央・森 幸一郎
遺物：市田佳奈子・渋谷　格・渡部芳久

7　本書の編集は藤井菜穂子の協力を得て渋谷　格が行った。執筆分担は下記のとおりである。
第１章、第２章：渋谷　格・德永貞紹
第３章：吉田大輔
第４章、第５章：渋谷　格
第６章：パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

8　垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡８・９区・東畑瀬遺跡 6T 区の整理・報告にあたって、下記の方々から御教示・御協力をいただいた。
家田淳一　大橋康二　德永貞紹　水ノ江和同　森田孝志
藤原友子　（五十音順）

本書の記載方法

1　嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の対象遺跡には英大文字３文字の略号を与え、実測図・写真等の記録類や出土遺物の注記等に使用している。本書で報告する垣ノ内遺跡はＫＮＵ、西畑瀬遺跡はＮＨＴ、東畑瀬遺跡はＨＨＴの略号で示される。

2　個々の遺構名は、遺構の種別を表す英大文字２文字の分類記号（下記参照）と４桁の遺構番号の組み合わせで示す。遺構番号の千の位には、各遺跡の地区名を示す数字を付けている。

なお、小穴･柱穴は遺物の出土したものに限り、Ｐの略号を用いて他の遺構とは別個の遺構番号を与えている。このうち掘立柱建物や柵列などの遺構を構成するものについては英大文字を用いてＰＡ、ＰＢ、…の要領で示し、それ以外の柱穴・小穴については算用数字４桁の一連番号を付け、千の位で地区名を示す。

ＳＡ：柵列・塀・土塁・石塁　　ＳＢ：掘立柱建物・礎石建物　　ＳＣ：石棺墓・石蓋土坑墓
ＳＤ：堀・溝・流路　　ＳＥ：井戸　　ＳＦ：道路　　ＳＧ：園池・庭園
ＳＨ：竪穴住居・竪穴建物　　ＳＪ：甕棺墓・土器棺墓　　ＳＫ：土坑
ＳＰ：土坑墓・木棺墓　　ＳＴ：古墳・その他の墳墓　　ＳＸ：その他・不明遺構

3　出土遺物の○○形土器は、○○とのみ表現する。例）甕形土器→甕

4　実測した出土遺物には８桁の遺物登録番号を１点ずつ付し、挿図中には各章ごとでの通し番号を付した。

5　縄文時代の石器のうち、スクレーパー類については刃の角度を分類の第１基準として、急なものを掻器、緩やかなものを削器とした。

6　表で示した出土遺物の計測値は、復元値に *、残存値に + を付けて表現する。表中の RF は二次加工ある剥片、MF は微細剥離痕ある剥片を意味する。

7　平成 14 年４月に改正測量法が施行されたが、調査時の記録類は全て日本測地系による旧国土座標であることから、混乱を回避するため、嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財発掘調査では今のところ世界測地系による座標を使用していない。

本書で示す方位は旧国土座標第Ⅱ系の座標北で、磁北はこれより西偏約６°30′である。

8　出土遺物に関して、本文・表中で記述の煩雑さを避けるため下記の分類・編年を使用・参照したものがある。

・中世前期の中国陶磁：
太宰府市教育委員会（2000）『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市の文化財第 49 集
・中世後期の中国陶磁：
森田　勉（1982）「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2　日本貿易陶磁研究会
・中世の土器鍋：
徳永貞紹（1990）「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究Ⅵ』 日本中世土器研究会

目次

本文目次

第１章　調査の経過…… 1

1　調査の経緯…… 1
2　調査組織…… 1
3　発掘調査の経過…… 2

第２章　位置と環境…… 5

1　地理的環境…… 5
2　歴史的環境…… 6

第３章　垣ノ内遺跡…… 11

1　垣ノ内遺跡の概要…… 12
2　縄文時代の遺構と遺物…… 20
　1）遺構　…… 20
　2）遺物　…… 20
3　弥生～古墳時代の遺構と遺物…… 26
　1）遺構と遺構に伴う遺物　…… 26
　2）遺物包含層出土の遺物　…… 28
4　その他の遺構…… 31
5　まとめ…… 34

第４章　西畑瀬遺跡８・９区…… 37

1　西畑瀬遺跡８・９区の概要…… 38
2　縄文時代の遺構と遺物…… 42
　1）８区縄文時代の遺構と遺物　…… 42
　2）9A 区縄文時代の遺構と遺物 …… 48
　3）9B 区縄文時代の遺構と遺物 …… 72
3　弥生～古墳時代の遺物…… 88
4　中世の遺構と遺物…… 89
5　まとめ…… 94

第５章　東畑瀬遺跡 6T 区 …… 97

1　東畑瀬遺跡 6T 区の概要 …… 98
2　6T 区縄文時代の遺構と遺物 …… 101
　1）6T 区上層縄文時代の遺構と遺物 …… 101
　2）6T 区下層縄文時代の遺物 …… 134
3　6T 区中世以降の遺構と遺物 …… 147
4　東畑瀬遺跡出土の遺物（補遺）…… 150
5　まとめ…… 152

第６章　自然科学分析…… 155

1　西畑瀬遺跡・東畑瀬遺跡・垣ノ内遺跡出土縄文時代資料の放射性炭素年代測定…… 156
　1）はじめに …… 156
　2）試料と方法 …… 156
　3）結果 …… 157
　4）考察 …… 157

挿図目次

図１　嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区　（１/25,000）…… 3
図２　垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡・東畑瀬遺跡の位置（1/600,000）…… 7
図３　嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡　（１/100,000）…… 8
図４　垣ノ内遺跡周辺の地形（1/5,000）…… 13
図５　垣ノ内遺跡１～４区の位置（1/2,000）…… 14
図６　試掘坑の配置（1/1,000）…… 15
図７　１区の土層１（1/40・1/50）…… 16
図８　１区の土層２（1/40）…… 17
図９　２・４区の土層（1/40）…… 18
図 10　２・３区の土層４（1/40）…… 19
図 11　SX1001（1/20）…… 20
図 12　縄文時代遺構・遺物の平面分布（1/1,000）…… 21
図 13　縄文時代の土器１（1/3）…… 23
図 14　縄文時代の土器２（1/3）・石器（16 ～ 25 は 1/2、26 は 1/3）…… 24
図 15　SX3001・SX3003（1/8）…… 26
図 16　弥生～古墳時代遺構・遺物の平面分布（1/1,000）…… 27
図 17　SX3001・SX3003 出土の遺物（1/3）…… 28
図 18　弥生時代の遺物（1/3）…… 29
図 19　弥生～古墳時代の遺物（1/3）…… 30
図 20　SX3002（1/200）…… 32
図 21　SX3002 試掘坑の土層（1/60）…… 33
図 22　西畑瀬遺跡周辺の地形（1/5,000）…… 39
図 23　西畑瀬遺跡８・９区の位置（1/2,000）…… 40
図 24　西畑瀬遺跡４～９区の調査範囲（1/2,000）…… 41
図 25　８区縄文時代遺構・遺物の平面分布（1/400）…… 43
図 26　８区の土層（1/60）、遺構（1/40）…… 44
図 27　８区縄文時代土器の平面分布（1/400）…… 45
図 28　８区縄文時代石器の平面分布（1/400）…… 46
図 29　８区縄文時代の遺物（１～３は 1/3、４～ 13 は 2/3、14・15 は 1/2）…… 47
図 30　9A 区縄文時代遺構の分布（1/200）…… 49
図 31　9A 区縄文時代の遺構（1/20）…… 50
図 32　9A 区の土層（1/60）…… 51
図 33　9A 区縄文時代土器の平面分布（1/400）…… 53
図 34　9A 区縄文時代土器型式別の平面分布（1/400）…… 54
図 35　9A 区縄文時代の土器１（1/3）…… 55
図 36　9A 区縄文時代の土器２（1/3）…… 56
図 37　9A 区縄文時代の土器３（1/3）…… 57
図 38　9A 区縄文時代の土器４（1/4）…… 58

図 39　9A 区縄文時代の土器５（1/4）…… 59
図 40　9A 区縄文時代の土器６（1/3）、土製品（1/2）…… 60
図 41　9A 区縄文時代定形石器・石製品の平面分布（1/400）…… 62
図 42　9A 区縄文時代剥片・石核類の平面分布（1/400）…… 63
図 43　9A 区縄文時代の石器１（2/3）…… 64
図 44　9A 区縄文時代の石器２（2/3）…… 65
図 45　9A 区縄文時代の石器３（133 ～ 140 は 2/3、141 ～ 147 は 1/2）…… 66
図 46　9A 区縄文時代の石器４（1/2）…… 67
図 47　9A 区縄文時代の石器５（1/2）…… 68
図 48　9A 区縄文時代の石器６、石製品（1/2）…… 69
図 49　9A 区縄文時代の石器７（1/2）…… 70
図 50　9A 区縄文時代の石器８（1/3）…… 71
図 51　9B 区の土層（1/60）…… 73
図 52　9B 区縄文時代土器の平面分布（1/400）…… 74
図 53　9B 区縄文時代土器型式別の平面分布（1/300）…… 75
図 54　9B 区縄文時代定形石器の平面分布（1/300）…… 76
図 55　9B 区縄文時代剥片・石核類の平面分布（1/300）…… 77
図 56　9B 区縄文時代の土器１（1/3）…… 78
図 57　9B 区縄文時代の石器１（194 ～ 208 は 2/3、209 ～ 213 は 1/2）…… 79
図 58　9B 区縄文時代の石器２（1/2）…… 80
図 59　８・９区弥生・古墳時代の遺物（1/3）…… 88
図 60　８区中世遺構の分布（1/400）…… 90
図 61　9A 区中世遺構の分布（1/400）…… 91
図 62　８・９区中世の遺物 …… 92
図 63　東畑瀬遺跡周辺の地形（1/5,000）…… 99
図 64　東畑瀬遺跡 6T 区の位置（1/2,000）…… 100
図 65　6T 区上層縄文時代遺構の分布（1/250）…… 102
図 66　6T 区縄文時代の土層１（1/60）…… 103
図 67　6T 区縄文時代の土層２（1/60）…… 104
図 68　6T 区上層 SX6307・6315（1/50）…… 105
図 69　6T 区上層縄文時代の遺構（SX6313 は 1/20、他は 1/40）…… 107
図 70　6T 区上層縄文時代土器・土製品の分布（1/300）…… 109
図 71　6T 区上層縄文時代定形石器の分布（1/300）…… 110
図 72　6T 区上層縄文時代剥片・石核類の分布（1/300）…… 111
図 73　6T 区上層縄文時代磨製石器・礫石器の分布（1/300）…… 112
図 74　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物１（１～ 14 は 1/3、15 ～ 21 は 2/3）…… 113
図 75　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物２（23 ～ 29 は 2/3、30・32 は 1/2、他は 1/3）…… 114
図 76　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物３（40 ～ 42 は 2/3、他は 1/3）…… 115
図 77　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物４（44・45・57・58 は 1/3、56・62 は 1/2、他は 2/3）…… 116
図 78　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物５（63 ～ 65 は 1/3、66・67 は 1/4）…… 117

図 79　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器１（1/3）……118
図 80　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器２（1/3）……119
図 81　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器３（1/3）……120
図 82　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器４（1/3）……121
図 83　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器５（1/3）……122
図 84　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器６（1/3）……123
図 85　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器７（1/3）・土製品（1/2）……124
図 86　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器１（2/3）……126
図 87　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器２（2/3）……127
図 88　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器３（2/3）……128
図 89　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器４（196 は 2/3、他は 1/2）……129
図 90　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器５（215 は 1/3、他は 1/2）……130
図 91　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器６（216 は 1/2、他は 1/4）……131
図 92　6T 区下層縄文時代土器の分布（1/125）……132
図 93　6T 区下層縄文時代石器の分布（1/125）……133
図 94　6T 区下層縄文時代の出土遺物１（1/3）……135
図 95　6T 区下層縄文時代の出土遺物２（1/3）……136
図 96　6T 区下層縄文時代の出土遺物３（242 ～ 245 は 1/3、247 ～ 253 は 2/3、他は 1/2）……137
図 97　6T 区中世以降の遺構分布（1/400）……148
図 98　6T 区中世の遺物（1/3）……149
図 99　１・３・６区の遺物……151
図 100　暦年較正結果（１）……160
図 101　暦年較正結果（２）……161
図 102　放射性炭素年代測定資料を採集した土器（1/4）……162

表目次

表１　嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査…… 2
表２　垣ノ内遺跡縄文時代の出土土器…… 25
表３　垣ノ内遺跡縄文時代の出土石器…… 25
表４　垣ノ内遺跡弥生～古墳時代の出土土器…… 31
表５　西畑瀬遺跡縄文時代の出土土器…… 81
表６　西畑瀬遺跡縄文時代の出土石器…… 83
表７　西畑瀬遺跡弥生～古墳時代の出土土器…… 88
表８　西畑瀬遺跡中世以降の出土遺物…… 93
表９　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土土器 …… 138
表 10　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土石器 …… 142
表 11　東畑瀬遺跡 6T 区中世の出土遺物 …… 149
表 12　東畑瀬遺跡１・３・６区の出土遺物 …… 150
表 13　測定試料及び処理 …… 156
表 14　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果 …… 158

写真図版目次

写真図版１　嘉瀬川ダム予定地中心部（真俯瞰合成）…… 165
写真図版２　垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡・東畑瀬遺跡全景（南から）…… 166
写真図版３　垣ノ内遺跡全景（南東から）…… 167
写真図版４…… 168
１・２区全景（南東から）
３・４区全景（南東から）
写真図版５…… 169
１区全景（上が北）
２区全景（上が北）
写真図版６…… 170
３区全景（上が北西）
４区全景（上が北西）
写真図版７…… 171
SX1001 検出状況（東から）
試掘坑 M3　北壁土層および土器出土状況（南東から）
試掘坑 I6　北壁土層（南東から）
試掘坑 K4　西壁土層（南東から）
SX1001（南東から）
押型文土器出土状況
試掘坑 K4　北壁土層（南東から）
試掘坑 K9　北壁土層（南東から）
写真図版８…… 172
試掘坑 L7　北壁土層（南東から）
塞ノ神式土器出土状況
SX3001（南から）
SX3003（東から）
押型文土器出土状況
塞ノ神式土器出土状況
SX3001 完掘状況（南から）
SX3003 完掘状況（東から）

写真図版９…… 173

試掘坑 C14　北壁土層（南東から）
試掘坑 C17　北壁土層（南東から）
試掘坑 C14　東壁土層（西から）
弥生土器出土状況
土師器出土状況
試掘坑 C16　北壁土層（南東から）
作業状況（南東から）
弥生土器出土状況

写真図版 10 …… 174

弥生土器出土状況
SX3002（南西から）
弥生土器・土師器出土状況
SX3002 試掘坑１　北壁土層（南東から）
試掘坑 D15　北壁土層（南東から）
SX3002 試掘坑１　北壁土層西側（南東から）
弥生土器・土師器出土状況
SX3002 試掘坑２　北壁土層（南東から）

写真図版 11　垣ノ内遺跡の出土遺物１ …… 175
写真図版 12　垣ノ内遺跡の出土遺物２ …… 176
写真図版 13　垣ノ内遺跡の出土遺物３ …… 177
写真図版 14　西畑瀬遺跡全景（北東から）…… 179
写真図版 15 …… 180

８・９区　全景（南から）
9A 区　上層全景（真上から）

写真図版 16 …… 181

８区　全景（真上から）
9B 区　全景（真上から）
9B 区　全景（北西から）

写真図版 17 …… 182

８区　A-B 土層（南西から）
9A 区　土層（南西から）
８区　試掘坑５西壁土層（東から）
9A 区　SX9004 完掘状況（東から）
８区　SK8001（東から）
9A 区　SX9004 検出状況（東から）
9A 区　W28 区画土層（南から）
８区　SK8002（東から）

写真図版 18 …… 183

9A 区　SX9005（南から）
9A 区　作業風景（西から）
9B 区　R36 区画土層（南東から）
9A 区　SX9002（南から）
9A 区　SX9003（東から）
9B 区　S36 区画遺物出土状況（東から）
9A 区　SX9013（北から）
9B 区　S36 区画土層（南東から）

写真図版 19　８・９区縄文時代の出土遺物１ …… 184
写真図版 20　８・９区縄文時代の出土遺物２ …… 185
写真図版 21　８・９区縄文時代の出土遺物３ …… 186
写真図版 22　８・９区縄文時代の出土遺物４ …… 187
写真図版 23　８・９区縄文時代の出土遺物５ …… 188
写真図版 24　８・９区縄文時代の出土遺物６ …… 189
写真図版 25　８・９区縄文時代の出土遺物７ …… 190
写真図版 26　８・９区弥生時代～中世の出土遺物 …… 191
写真図版 27　東畑瀬遺跡主要部全景（北西から）…… 193
写真図版 28 …… 194

6T 区　遠景（西から）
6T 区　全景（北西から）
6T 区　SX6307・6315（東から）

写真図版 29 …… 195

6T 区　区画１完掘状況（南西から）
6T 区　区画１（C-D）土層（北西から）
6T 区　区画２（A-B）土層（南東から）
6T 区　SX6315 焼土検出状況（南東から）
6T 区　区画２完掘状況（東から）
6T 区　区画２（A-B）土層（南西から）
6T 区　SX6307・6315 検出状況（東から）
6T 区　SX6302・6309 検出状況（南西から）

写真図版 30 …… 196

6T 区　SK6305 土層（南東から）
6T 区　SX6301 土層（西から）
6T 区　SX6302 検出状況（西から）
6T 区　SX6304 検出状況（南西から）
6T 区　SK6305 完掘状況（北東から）
6T 区　SX6301 完掘状況（西から）
6T 区　SX6303 検出状況（南東から）
6T 区　SX6304 土層（東から）

写真図版 31 …… 197

6T 区　SX6309 検出状況（南西から）
6T 区　SX6311 検出状況（東から）
6T 区　上層区画１遺物出土状況（東から）
6T 区　下層遺物出土状況（南東から）
6T 区　SX6309 土層（東から）
6T 区　SX6311 土層（南西から）
6T 区　SX6313（南西から）
6T 区　坂の下式土器出土状況（南東から）

写真図版 32　6T 区縄文時代の出土遺物１…… 198
写真図版 33　6T 区縄文時代の出土遺物２…… 199
写真図版 34　6T 区縄文時代の出土遺物３…… 200
写真図版 35　6T 区縄文時代の出土遺物４…… 201
写真図版 36　6T 区縄文時代の出土遺物５…… 202
写真図版 37　6T 区縄文時代の出土遺物６…… 203
写真図版 38　6T 区縄文時代の出土遺物７…… 204
写真図版 39　6T 区縄文時代の出土遺物８…… 205
写真図版 40　6T 区縄文時代の出土遺物９…… 206
写真図版 41　6T 区縄文時代の出土遺物 10・中世の出土遺物、１・３・６区出土遺物 …… 207

第 1 章　調査の経過

1　調査の経緯

嘉瀬川ダムは、嘉瀬川水系嘉瀬川の総合開発の一環として佐賀県佐賀市富士町（平成 17 年 10 月 1 日に佐賀市、佐賀郡富士町、同郡大和町、同郡諸富町、神埼郡三瀬村が対等合併した）で建設が進められており、洪水調節をはじめ、流水の正常な機能の維持、灌漑用水及び都市用水の補給、及び水力発電に供される多目的ダムである。

嘉瀬川ダム建設事業とこれに伴う文化財調査の詳しい経緯については既刊の『東畑瀬遺跡 1 ・大野遺跡 1 』に記しているので参照されたい。平成 23 年度は事業の最終年度であり、本書を含め 3 冊の発掘調査報告書を刊行する予定である。

本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第 9 冊目となるもので、垣ノ内遺跡、西畑瀬遺跡 8 ・ 9 区、東畑瀬遺跡 6T 区の 4 地区を収録した。本書が、本事業の最終の発掘調査報告書である。

2　調査組織

調査主体　　佐賀県教育委員会

調査協力　　国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所
富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会）
佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県県土づくり本部水資源調整室）
富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）
地元各位

調査組織（平成 23 年度）

総括	佐賀県教育委員会教育長	川﨑俊広
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課長	瀬戸口義郎
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課副課長	森田孝志
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課副課長	徳富則久
調査総括	佐賀県教育庁社会教育・文化財課係長	白木原　宜
調査員	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	梶山裕史
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	今泉好孝
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	渋谷　格
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	市田佳奈子
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	西野元勝
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課嘱託	藤井菜穂子
事務局	佐賀県教育庁社会教育・文化財課副課長	古川英生
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主査	井手弘幸
	佐賀県教育庁社会教育・文化財課主事	黒田康裕

佐賀県教育庁社会教育・文化財課主事　　池田陽介

調査指導・助言　　文化庁記念物課　佐賀県文化財保護審議会

3　発掘調査の経過

嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、関連工事に伴って富士町教育委員会（当時）により平成７～９年度に断続的に行われたが、平成 11 ～ 12 年度の水没地区内確認調査の結果を踏まえ、平成 12 年度以降は佐賀県教育委員会が継続して実施している。水没地区内及び付替国道・付替市道など嘉瀬川ダム工事事務所所管工事に伴って発掘調査が必要な遺跡は、13 遺跡にのぼり（表１、図１）、平成 22 年度前半までに東畑瀬遺跡、畑瀬城跡、西畑瀬遺跡、垣ノ内遺跡、小ヶ倉遺跡、入道遺跡、音無瓦窯跡、地蔵平遺跡、九郎遺跡、大串遺跡、平畠遺跡、フルタ遺跡、大野遺跡のすべての本調査対象地区で発掘作業を終了しており、これまでに調査報告書を８集刊行している。

表１　嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

番号	遺跡名	略号	対象面積（㎡）	遺跡の時代	遺跡の種類
①	東畑瀬遺跡	HHT	121,300	縄文～近世	集落・城館 神社・墓地
②	畑瀬城跡	HTJ	12,800	中世～近世	城郭・墓地
③	西畑瀬遺跡	NHT	58,800	縄文～近世	集落
④	垣ノ内遺跡	KNU	21,000	縄文～近世	集落
⑤	九郎遺跡	KRO	17,950	旧石器～近世	集落
⑥	大串遺跡	OOK	3,000	縄文・中世	集落
⑦	大野遺跡	OON	35,200	縄文～近世	集落・官衙

番号	遺跡名	略号	対象面積（㎡）	遺跡の時代	遺跡の種類
⑧	フルタ遺跡	FRT	11,700	縄文～近世	集落
⑨	小ヶ倉遺跡	KKA	47,000	旧石器～近世	集落
⑩	地蔵平遺跡	JZD	20,000	旧石器～縄文	集落
⑪	平畠遺跡	HBT	13,000	縄文～近世	集落
⑫	音無瓦窯跡	OTN	1,500	近世～近代	生産遺跡
⑬	入道遺跡	NYD	400	旧石器～縄文	集落

本書で報告する垣ノ内遺跡の発掘調査は、平成 21・22 年度に実施した。調査開始以前にはダム建設に伴う工事用道路が遺跡内に敷設されていたため、全面的に表土を掘削することはできず、道路切換えの工程に合わせて発掘作業を行った。調査の結果、縄文時代の遺構・遺物包含層、弥生～古墳時代の遺構・遺物などが確認された。

垣ノ内遺跡

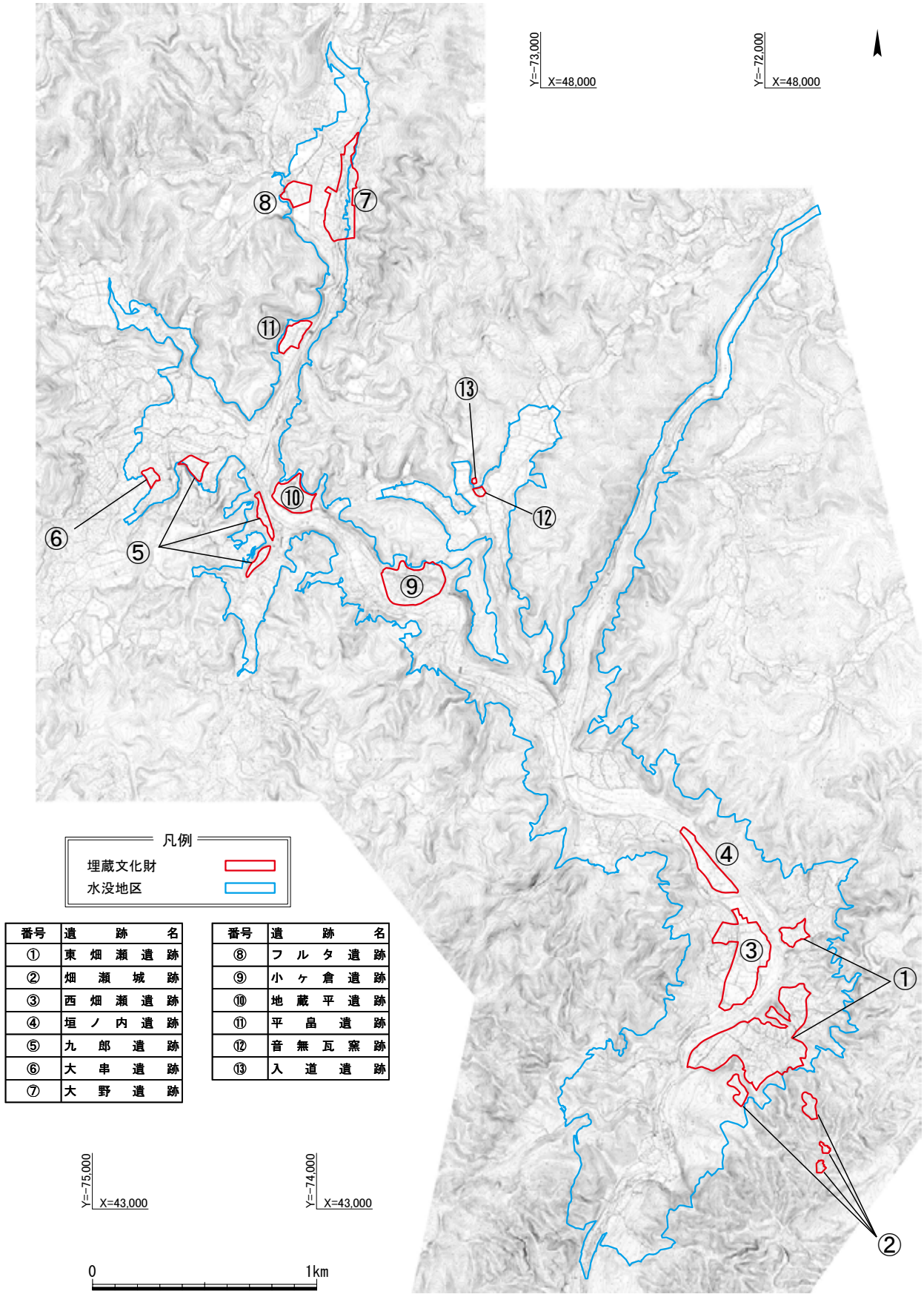
略号：ＫＮＵ

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字垣ノ内

調査対象面積：21,000㎡

調査担当：梶山裕史・白木原宜・津田文・西野元勝・吉田大輔・渡部芳久（平成 21・22 年度）

西畑瀬遺跡８・９区は、平成 19 年度に８・9A 区、平成 21 年度に 9B 区の発掘調査を行った。調査にあたって、遺物の取り上げなどに用いた区画名は、８・９区南側の１～７区において設定した区画名を連続して使用している。これまでの西畑瀬遺跡の調査と同様、上層で弥生時代～中世の遺構・遺物、下層で縄文時代の遺構・遺物包含層が確認された。



番号	遺跡名
①	東畑瀬遺跡
②	畑瀬城跡
③	西畑瀬遺跡
④	垣ノ内遺跡
⑤	九郎遺跡
⑥	大串遺跡
⑦	大野遺跡

番号	遺跡名
⑧	フルタ遺跡
⑨	小ヶ倉遺跡
⑩	地蔵平遺跡
⑪	平畠遺跡
⑫	音無瓦窯跡
⑬	入道遺跡

図１　嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区　（１/25,000）

西畑瀬遺跡８区

略号：ＮＨＴ８

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字中田（なかた）

調査対象面積：2,300㎡

調査担当：白木原宜・内田真一郎（平成 19 年度）

西畑瀬遺跡 9A 区

略号：ＮＨＴ 9A

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字前田（まえだ）・中田

調査対象面積：4,000㎡

調査担当：白木原宜・内田真一郎・森幸一郎・竹内奈央（平成 19 年度）

西畑瀬遺跡 9B 区

略号：ＮＨＴ 9B

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字中田

調査対象面積：4,600㎡

調査担当：白木原宜・西野元勝・吉田大輔・渡部芳久（平成 21 年度）

東畑瀬遺跡 6T 区の発掘調査は平成 19 年度に実施した。調査当初は近接する 1 区で中世前期の集落が確認されているため、表土除去後に遺構検出を行ったが、明確な遺構は検出できなかった。そのため、試掘坑を設定して掘り下げたところ、縄文時代の遺構・遺物包含層、中世～近世初頭の自然流路を確認した。なお、6T 区北東側は 6S 区としたが、試掘坑を数本設定して調査した結果、遺構や遺物包含層などが確認できなかったため、本格的な発掘調査は実施していない。

東畑瀬遺跡 6T 区

略号：ＨＨＴ 6T

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字関屋（せきや）字鶴（つる）

調査対象面積：3,700㎡

調査担当：森幸一郎・竹内奈央（平成 19 年度）

調査記録や出土遺物の整理は発掘作業と並行して順次進めたが、本格的な報告書作成作業は平成 21 年度から着手し、平成 23 年度に本書を作成刊行した。

第１章　参考・引用文献

嘉瀬川ダム環境検討委員会・国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所（2003）『嘉瀬川ダム事業における環境保全への取り組み』国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所

第２章　位置と環境

1　地理的環境

嘉瀬川は、佐賀県と福岡県の分水嶺をなす脊振山地の金山に源を発し、山間部を流下して神水川、天河川、名尾川などの支流を合わせ、肥前国府や肥前国一宮河上神社のあたりで山地を抜け、佐賀平野のほぼ中央を貫流して有明海に注ぐ、幹線流路延長 57km、流域面積 368k㎡の一級河川である。上流部には灌漑用水を主な目的とする北山ダムが昭和 32（1957）年に完成しているが、すぐ下流にあたる佐賀市富士町の中央部に多目的ダムとして建設され、平成 23 年度に完成予定なのが嘉瀬川ダムである。ダム予定地の下流には古湯温泉と熊の川温泉があり、県内外から多くの人が訪れている。

佐賀市富士町（旧佐賀郡富士町）は、佐賀県の北端部に位置し、北は県境の分水嶺を境に福岡県前原市・福岡市早良区と、東は佐賀市三瀬村（旧神埼郡三瀬村）・佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）と、西は唐津市七山・厳木町（旧東松浦郡七山村・厳木町）と、南は天山山地の尾根筋で小城市小城町・多久市とそれぞれ接している。旧富士町役場、現在の佐賀市役所富士支所の位置で言うと、東経 130° 12′ 03″、北緯 33° 22′ 58″に位置し、東西 10 km、南北 17 km、面積 143.25 k㎡である。気候は、温暖湿潤な佐賀県内の中でも平均気温が低く、降水量は多い。山間部特有の日照時間の短さともあいまって冬季の寒さが厳しい地域である。

地勢は、福岡県との県境をなす脊振山地の東西脊梁のうち羽金山・雷山・井原山・金山の峰々を北に仰ぎ、南に脊振山地の一部でもある天山山地がそびえ、両山地の間は高原状の丘陵地・山地とその間を流れる河川により開析された谷底平野・河岸段丘などからなる。西側には羽金山から亀岳を経て天山に連なる南北方向の分水界峰があり、これより東側が有明海に注ぐ嘉瀬川水系、西側が玄界灘に注ぐ玉島川・松浦川水系となっている。佐賀市富士町地域は、東側の佐賀市三瀬村や更に東側の神埼市脊振町（旧神埼郡脊振村）と大小の谷や峠を介して連続しており、このような一体的な地勢の特徴が、「山内」という独自の地域圏を育んできた。

表層地質は中世代白亜紀に生成した花崗岩類を主体とし、雷山や天山周辺に局地的に三郡変成岩の塩基性深成岩類及び蛇紋岩と結晶片岩類が分布する。土壌は、南北の大起伏山地は礫質・粗砂質であるが、中央部の小起伏山地・丘陵地では風化が進んでやや粘土質の土壌に覆われている。山麓部や斜面には礫質・中粗粒の黄色土壌、河川沿いの谷底平野に中粗粒の黄色土壌や礫質・中粗粒・細粒の灰色低地土壌などが分布する。また、嘉瀬川上流域の北山ダム（北山湖）を中心とする一帯には北山層と名付けられた泥炭層を挟む湖成層が分布していて、第四期更新世末期頃に存在した「古北山湖」の湖底に堆積したものと考えられている。

旧富士町域の８割以上が森林で、更にその８割以上がスギ・ヒノキの人工林である。人工林以外の植生は、ほとんど常緑広葉樹林帯に属するが、標高 900 m級の南北山地の山頂部近くには夏緑広葉樹林帯が僅かに認められる。動物相は、大型哺乳類ではイノシシ、キツネ、ニホンザル、タヌキ、アナグマ、イタチ、ノウサギ、テンなどが生息し、ニホンザルやキツネは減少傾向にあるが、イノシシは近年急増しており、発掘調査中にも遭遇することがある。鳥類では主な留鳥として大小のサギ類、キジ、コジュケイ、キジバト、カワセミ、ヤマセミなどが見られ、国指定天然記念物のカササギ（カチガラス）は古湯地区より上流部には生息しておらず、嘉瀬川ダム地区内では確認されない。

2　歴史的環境

本地域の歴史的環境全般については、『富士町史』などを参照していただくとして、ここでは近年の遺跡調査により急速に充実してきた考古学的な所見を中心に概述する。

旧石器時代の遺跡は、地蔵平遺跡（10）、小ヶ倉遺跡（９）、九郎遺跡（５）などでナイフ形石器などの示準石器が出土している。特に、地蔵平遺跡では以前から旧石器～縄文時代の遺物が多く採集されていて、この地域の拠点的な遺跡と目されていたが、平成 18 年度から着手した発掘調査で姶良Ｔｎテフラ（ＡＴ）の堆積層が部分的に良好な状態で検出され、その堆積層の上下から多様な石器が出土しており、北部九州地域の旧石器時代の様相が今後の研究によってより明らかになることが期待される。周辺地域まで目を向けると、唐津市七山の馬川谷口遺跡ではナイフ形石器文化期から細石刃文化期の多数の遺物が、佐賀市三瀬村田ノ宇曽（床並）遺跡でもナイフ形石器・彫器が出土しており、旧石器時代の遺跡は脊振山地山間部一帯に広く分布するものと思われる。

縄文時代の遺跡として知られる箇所は非常に多く、近年の発掘調査で縄文時代各時期の遺物が竪穴住居や炉跡などの遺構と共に検出され、遺跡の内容が明らかになりつつある。早期前葉の資料としては、小ヶ倉遺跡、地蔵平遺跡で円筒形刺突文土器や石槍、入道遺跡（13）で刺突文土器が出土している。早期中葉では、入道遺跡で当該時期と推定される集石炉が確認され、中原遺跡、平畠遺跡（11）、九郎遺跡、垣ノ内遺跡（４）、貝野遺跡などで稲荷山式～手向山式期の遺物が出土している。早期後葉では、中原遺跡、平畠遺跡、九郎遺跡、垣ノ内遺跡、西畑瀬遺跡（３）で平栫式、塞ノ神Ａ式・Ｂ式、轟Ａ式系土器などが出土しており、西畑瀬遺跡では地床炉と思われる焼土遺構と焼礫集積遺構が検出されている（垣ノ内遺跡については本書）。前期では九郎遺跡や小ヶ倉遺跡、西畑瀬遺跡で轟Ｂ式・西唐津式・曽畑式土器が出土しており、西畑瀬遺跡では鬼界アカホヤテフラ（Ｋ－Ａｈ）を含む層が部分的にではあるが広がっていて、下層から塞ノ神Ｂ式・轟Ａ式期、上層から轟Ｂ式・曽畑式期の遺構・遺物が確認されている。早期～前期の資料は、採集品も含めて山間部各地で比較的多く知られ、佐賀市三瀬村天塘遺跡で集石遺構や土坑と共に早期～前期の資料が出土しているほか、同村狂言平遺跡などで押型文土器、同村宿北方遺跡では１個体分の曽畑式土器が採集されている。また、佐賀平野部の遺跡ではあるが、佐賀市東名遺跡で早期後葉の塞ノ神式期を中心とした国内最古の湿地性貝塚を伴う集落跡が確認され、貴重な調査成果が得られており、山間部における同時期の遺跡との関連性が今後の課題として浮かび上がってきている。中期の資料はやや少ないが、平畠遺跡、九郎遺跡、西畑瀬遺跡で船元式・春日式・阿高式系土器が出土している（調査成果の一部については本書）。後期初頭では東畑瀬遺跡（１）で坂の下式土器、西畑瀬遺跡から中津式系土器が出土している（本書）。後期中葉～末では、西畑瀬遺跡で鐘崎式～御領式系土器が確認され（調査成果の一部については本書）、鐘崎式期頃の遺物集中部から石製垂飾が出土している。また、大野遺跡（７）で三万田式期の竪穴住居など集落跡が検出されており、三瀬村吉野山遺跡では北久根山式～太郎迫式期頃の遺物が多数採集されている。晩期では、東畑瀬遺跡で黒川式期～弥生時代前期まで集落が断続的に営まれているほか（調査成果の一部については本書）、西畑瀬遺跡でも黒川式期の遺物群が出土している。また、フルタ遺跡では刻目突帯文土器が出土している。

縄文時代と比べると、当地域における弥生時代から平安時代までの様相を知る手がかりは非常に少ない。標高が高く寒冷地であるこの地域では水稲耕作を基盤とする生活が成り立ちにくかったようで、弥生時代の遺跡数は極端に減少している。それでも、近年の埋蔵文化財調査の進展によって、これまで不明であった山間部の弥生時代～古代の様相が少しずつ知られるようになってきた。

弥生時代では、東畑瀬遺跡で弥生時代前期の竪穴住居らしき遺構が検出されているが、弥生時代特有の大陸系磨製石器は出土しておらず、縄文時代的な生活が続いていたようである。西畑瀬遺跡や大野遺跡でも、前期の土器が少数ながら出土している（調査成果の一部については本書）。西畑瀬遺跡では中期の土器埋納遺構や後期の小児甕棺墓が検出されており、１点ずつではあるが石包丁（磨製穂摘具）・磨製石斧も見つかっている。また、垣ノ内遺

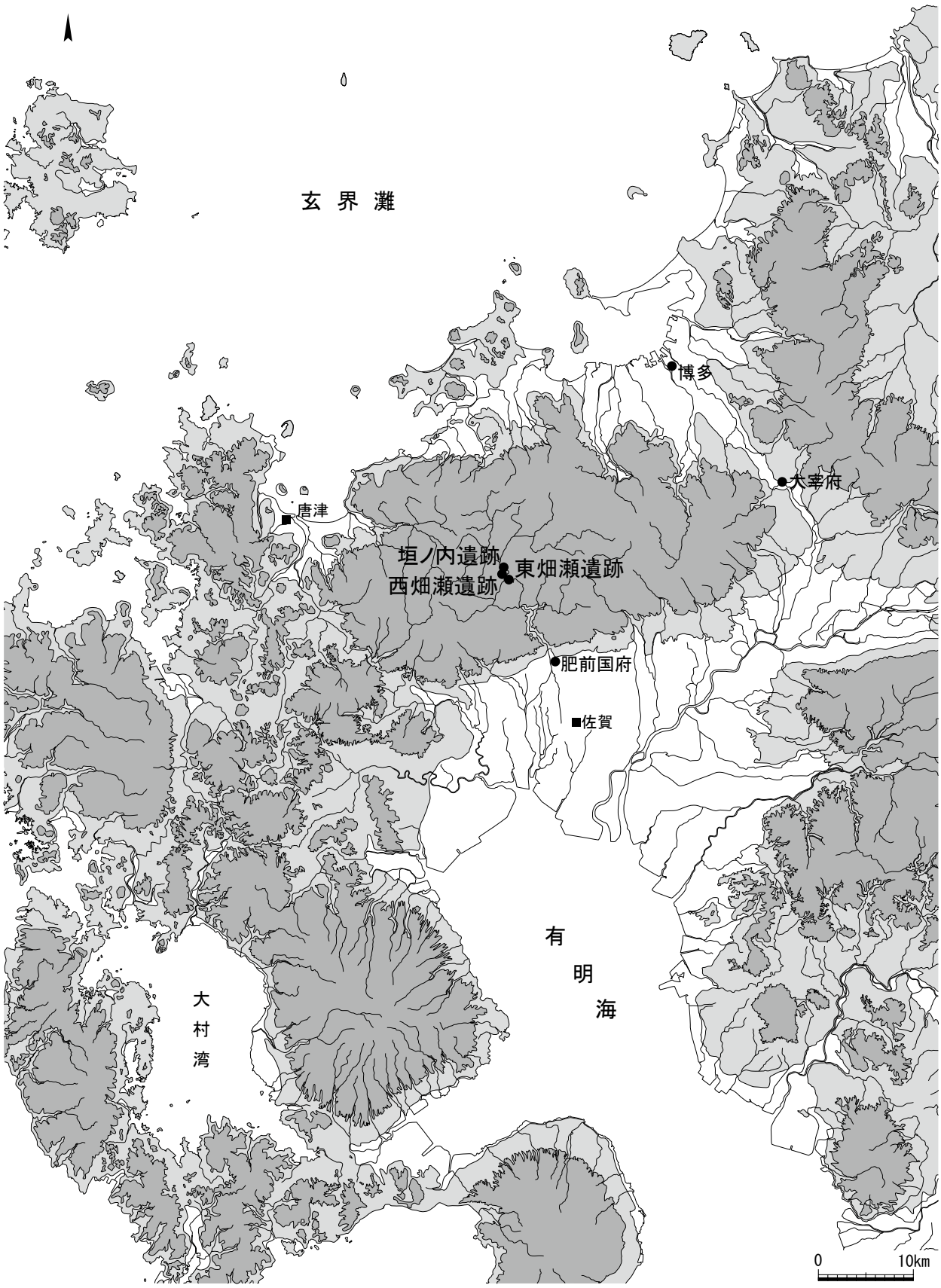


図２　垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡・東畑瀬遺跡の位置（1/600,000）

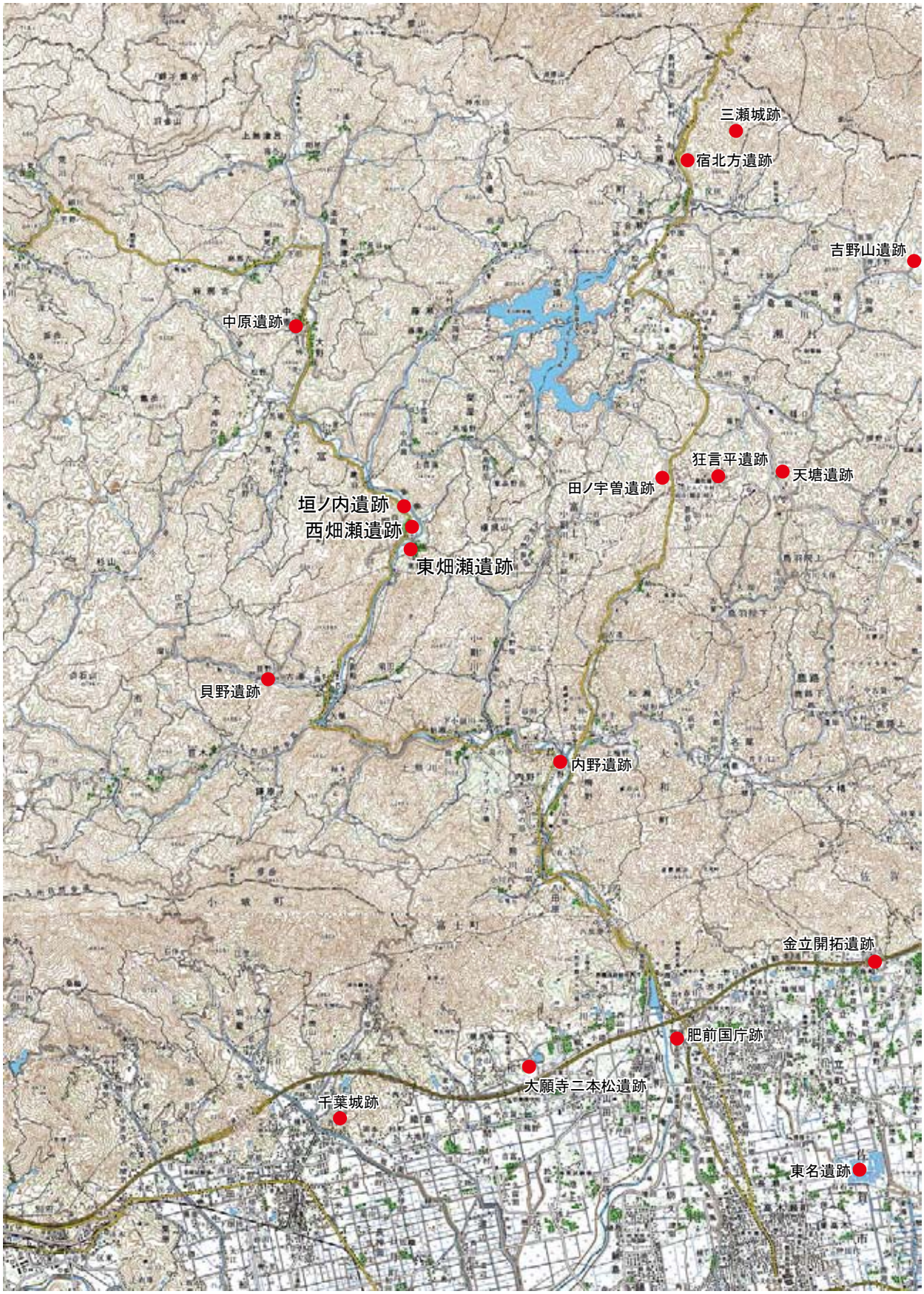


図 3　嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡　（1 /100,000）　　国土地理院の数値地図 50,000（地図画像）『佐賀・長崎』を使用

跡では中期～後期の遺物が出土している（本書）。

古墳時代では、古墳はもちろん竪穴住居などを伴う集落の広がりも確認されていないが、同時代の土器は発掘調査や採集資料で散見される。西畑瀬遺跡では完形の土師器甕と土師器高杯の杯部２点を埋納した何らかの祭祀に関わる小穴が発見され、前期を中心とした土器が少量出土しており、垣ノ内遺跡でも前期の土器埋納遺構が確認されている（調査成果の一部については本書）。また、大野遺跡でも土坑が検出されている。

律令制下の当地域は肥前国佐嘉郡の範囲であったと思われ、嘉瀬川沿いの脊振山間部と佐賀平野部との結節点に肥前国府が置かれていることを考えると、嘉瀬川上流域も律令国家の関心外であったとは思えないが、具体的な様相を知る史料はなく、遺跡にしても内野遺跡で平安時代前期頃の土師器、西畑瀬遺跡で越州窯系青磁碗や須恵器等の平安時代前半期に遡る遺物が数点出土している程度である。

古代末以降においても、富士町域の各所がどの荘園公領に含まれていたかを示すことが難しいが、少なくとも肥前安富荘領があったことは史料上で確認できる。南北朝初期の暦応２（1339）年４月 25 日石志定阿譲状案（石志氏家文書）は中世前期の富士町域を知る貴重な史料で、松浦党一族の石志氏が恩賞として配分された所領を子孫に伝えたものであるが､その中に「安冨庄内畑瀬村､同村内火桶」と「安富庄畑瀬村内上於副河」が記されている。肥前安富荘に関しては宮武（1991）に詳しいが、佐賀郡一帯に散在的に散らばる荘領のうち、富士町畑瀬・上小副川、佐賀市大和町東山田・佐保・久留間、佐賀市久保田町北部で確認される遺称地については、嘉瀬川流域に分布している点が注目される。古代末～中世前期の遺跡としては、東畑瀬遺跡、西畑瀬遺跡、九郎遺跡、大野遺跡、中原遺跡で屋敷地などの遺構が見つかっていて、特に東畑瀬・西畑瀬遺跡の屋敷地は安富荘畑瀬村との関連で重要である。また、中原遺跡では土師器杯・皿を 40 点ほど集積した遺構が検出されている。

安富畑瀬の名は、近世初期まで鍋島直茂所領目録（杠家文書）の「安冨畑瀬山」や東畑瀬宗源院半鐘銘の「佐賀郡安富庄畑瀬山」などで確認できるが、中世後期には畑瀬、栗並、藤瀬、菖蒲、等々の山内の各地を名字とする在地勢力の台頭によって荘園としては実態の伴わないものへ変化していったものと思われる。大串遺跡（６）では 14 ～ 15 世紀代の在地有力層に関わると思われる遺構群が見つかっており、平畠遺跡でも中世後期の領主居館と推定される建物群が確認されている。

戦国期に至ると、神代勝利が各地に割拠した小領主をまとめあげて山内を統一し、佐賀市三瀬村三瀬城を本城として佐賀の龍造寺隆信と覇を競った。富士町域にも畑瀬城、熊川城、谷田城などを構えたとされる。戦国期の城館については近年の中近世城館跡分布調査によって、山内では三瀬城の規模が際立って大きく、それ以外の在地領主のものと考えられる山城は規模・構造とも簡素なものが多いこと、個々の集落単位で領主居館跡、詰城、領主の墓址、菩提寺、氏神がセットで残っている例が数多く確認できることなど、この地域の独自性が徐々に明らかになりつつある。東畑瀬遺跡・畑瀬城跡（２）では、勝利が隠居所として築いたとされる畑瀬城に関連すると考えられる居館跡や城郭遺構が確認されており、総体としての畑瀬城の実態がかなり把握できるようになってきている。

勝利の嫡子長良は龍造寺氏と和睦し、龍造寺氏の重臣で鍋島藩祖となる鍋島直茂の甥を養子に迎えた。神代氏は小城芦刈、更に佐嘉川久保へと転封されたが、川久保邑主として１万石の大身を保持した。山内は鍋島氏の所管となったが、元和３（1617）年の小城鍋島家（小城支藩）創設にあたって嘉瀬川以西の地域が分け与えられた。これ以降、明治維新を迎えるまで、それぞれ佐賀山内、小城山内として郷村支配が続き、佐賀山内郷では松瀬三反田に、小城山内郷では大野に代官所が設置された。このうち大野地区に現存する大野代官所跡は、近年の調査によりその様相が徐々に明らかになりつつある。また、隣接する大野遺跡では近世初期と前期の役所的施設と見られる建物群が検出されており、これが大野代官所の前身のような施設であった可能性がある。東畑瀬遺跡では神代勝利の菩提寺である宗源院跡で近世から現代までの寺院跡が４面重複して確認され、付属する墓地では多数の近世墓が調査されている。また、集落部の調査によって山内における近世の開発の様相が明らかになりつつある。

明治維新の後、伊万里県の設置や長崎県への統合などの紆余曲折を経て、明治 16（1883）年に現在の佐賀県が

成立した。これに先立つ明治 11（1878）年の郡区町村編成法により、富士町域にあたる範囲では、佐賀郡小副川村、関屋村の２ヶ村、小城郡鎌原村、苣木村、市川村、杉山村、大串村、栗並村、大野村、中原村、麻那古村、上無津呂村、下無津呂村、上合瀬村、下合瀬村、古場村、藤瀬村、畑瀬村、古湯村、上熊川村、内野村、下熊川村の 20 ヶ村が行政単位となっていたが、明治 22（1989）年の市制町村制により上記の各村は佐賀郡小関村と小城郡北山村・南山村の３村に統合され、旧村名は大字として残ることになった。近代の遺跡として、音無瓦窯跡（12）の調査を実施し、石見地方と関連が深い瓦窯の実態が明らかとなった。

昭和 31（1956）年には佐賀郡小関村と小城郡北山村・南山村の３村が対等合併して富士村となり、昭和 41（1966）年 10 月 1 日の町制施行により佐賀郡富士町となった。その 39 年後にあたる平成 17（2005）年 10 月 1 日に、佐賀市・佐賀郡大和町・同郡諸富町・神埼郡三瀬村と対等合併して佐賀市富士町となった。なお、佐賀市は平成 19 年 10 月 1 日に、佐賀郡川副町・東与賀町・久保田町を編入合併している。

第２章　参考・引用文献

嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』富士町教育委員会
佐賀県企画室（1979）『土地分類基本調査　浜崎』
佐賀県教育委員会（1997）『佐賀県の地質鉱物』佐賀県文化財調査報告書第 134 集
佐賀県教育委員会（1964）『佐賀県の遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 13 集
佐賀県教育委員会（2007）『東畑瀬遺跡１・大野遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 170 集
佐賀県教育委員会（2008）『西畑瀬遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 176 集
佐賀県教育委員会（2009）『西畑瀬遺跡２・大串遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 180 集
佐賀県教育委員会（2010）『東畑瀬遺跡２・畑瀬城跡』佐賀県文化財調査報告書第 185 集
佐賀県教育委員会（2011a）『小ヶ倉遺跡・入道遺跡・九郎遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 186 集
佐賀県教育委員会（2011b）『東畑瀬遺跡３』佐賀県文化財調査報告書第 190 集
佐賀県教育庁文化財課（1998）「大野遺跡（１区）」『佐賀県文化財年報３』
佐賀県教育庁文化課（2008a）「地蔵平遺跡（１区）」『佐賀県文化財年報 13』
佐賀県立図書館（1986）『佐賀縣史料集成古文書編』第 27 巻
佐賀市教育委員会（2004）『東名遺跡群Ⅰ』第１・２分冊　佐賀市文化財調査報告書第 150 集
佐賀市教育委員会（2007a）『大串遺跡』佐賀市埋蔵文化財調査報告書第 16 集
佐賀市教育委員会（2007b）『中原遺跡―２・３区の調査―』佐賀市埋蔵文化財調査報告書第 19 集
佐賀市教育委員会（2009a）『東名遺跡群Ⅰ』第３・４分冊　佐賀市文化財調査報告書第 150 集
佐賀市教育委員会（2009a）『東名遺跡群Ⅱ』佐賀市埋蔵文化財調査報告書第 40 集
七田忠志（1949）「三瀬村出土の縄文式土器」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第８輯　佐賀県教育委員会
全国神代ゆかりの会（1980）「神代家伝記」『神代家とその一族』１号
徳永貞紹（1995）「神埼群三瀬村田ノ宇曽遺跡の旧石器時代遺物」『佐賀考古』第２号　佐賀考古談話会
七山村教育委員会（2001）『馬川谷口遺跡１区・２区』七山村文化財調査報告第２集
富士町教育委員会（1999）『貝野遺跡１区』富士町文化財調査報告書第１集
富士町教育委員会（2003a）『富士町内遺跡発掘調査報告書平成７年度～ 13 年度』富士町文化財調査報告書第２集
富士町教育委員会（2003b）『中原遺跡１区』富士町文化財調査報告書第３集
富士町教育委員会（2005）『畑瀬城跡』富士町文化財調査報告書第４集
富士町誌編さん委員会（1968）『富士町誌』　富士町教育委員会
富士町史編さん委員会（2000）『富士町史』　富士町
三瀬村誌編纂委員会（1977）『三瀬村誌』　三瀬村
宮武正登（1991）「本村遺跡をめぐる中世世界―安富荘内村落としての位置付け―」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集　佐賀県教育委員会

第３章　垣ノ内遺跡

第３章　垣ノ内遺跡

1　垣ノ内遺跡の概要

垣ノ内遺跡は、佐賀市富士町大字畑瀬字垣ノ内に所在する（図４）。

垣ノ内地区は、嘉瀬川中流域の右岸に位置し、南流する嘉瀬川と西側の急峻な山麓との間に形成された緩やかな河岸段丘上にあり、水田および畑地として利用されていた。この周辺の集落は、垣ノ内遺跡から約 200 ｍ南側の西畑瀬周辺にあり、ダム建設に伴い全戸移転するまで河岸段丘を臨む山麓部一帯に展開していた。

垣ノ内地区を含む西畑瀬地区の嘉瀬川を挟んだ対岸には東畑瀬地区があり、両畑瀬地区は、藩政期には西畑瀬が小城鍋島家（小城支藩）領、東畑瀬が佐賀本藩領に属し、昭和 31 年（1956）に旧富士町として合併するまで小城郡南山村と佐賀郡小関村に分かれていた。ちなみに、江戸時代後期に描かれた「小城郡山内郷畑瀬村之絵図」によると、垣ノ内遺跡周辺は田畑とされている。

垣ノ内遺跡は、西畑瀬遺跡の約 400 ｍ北西に位置し、西側の山麓裾部を巡っていた嘉瀬川の旧河道と現在の河道に囲まれた平坦な段丘面上に立地している。遺跡の標高は 245 ｍ前後で、西側の旧河道部分を除き全体的に大きな起伏はみられない。

垣ノ内遺跡では、ほぼ南北に長い垣ノ内遺跡を図５のように１～４区に分け、調査範囲のほぼ全域に試掘坑を設定して調査を行った（図６）。調査では、縄文時代の集石遺構や古墳時代の土器埋納遺構、縄文時代～近世の遺物が確認された。

縄文時代の遺構･遺物として集石遺構１基のほか､遺物包含層から縄文時代早期の土器･石器が出土した｡土器は、下菅生Ｂ式～田村式並行期の押型文土器を主体として､無文土器､撚糸文土器､押型文と撚糸文が併用された土器､塞ノ神式古段階のもの等が確認された。縄文時代の遺構と遺物は１・４区を中心に出土しており、特に調査区域の南東側に集中して分布していることが窺え、２・３区ではわずかに遺物が確認されただけである。

弥生～古墳時代の遺構・遺物としては、古墳時代の土器埋納遺構２基が検出されたほか、遺物包含層から弥生時代中期前半～後期末の弥生土器および古墳時代前期の土師器が多数出土した。土器埋納遺構は、古墳時代前期のものとみられ（SX3001・3003)、何らかの祭祀行為に伴うものと考えられる。弥生～古墳時代の遺構と遺物は２・３区で確認されているだけで、１・４区では全くみられないことから、調査区域の北西側に集中して分布することが窺える。

このように､垣ノ内遺跡では少数ながら古墳時代の遺構が検出されるとともに､遺物包含層からある程度まとまった数の弥生土器・土師器が出土した。これらは西畑瀬遺跡や東畑瀬遺跡で確認されている弥生～古墳時代の遺構・遺物とともに、脊振山間部における当該期の様相を知るうえで重要な資料といえる。

上記以外の時期のものとしては、３区で検出した中世以降のものと考えられる石列（SX3002）がある。この石列の性格は不明であるが、何らかの区画を意図したものとも推測される。さらに、１～４区のほぼ全域にわたって中世の遺物包含層が分布しており、龍泉窯系青磁碗、景徳鎮窯系青花碗・白磁皿、漳州窯系青花碗、土師器杯・小皿、東播系須恵器捏鉢、瓦質土器鍋・茶釜、滑石製石鍋等が出土した。これらは、中世前期に遡るものや、近世前期のものも含まれるが、中世後期のものが主体である。調査では、掘立柱建物等の遺構は確認されていないが、中世～近世の遺物が出土したことや、前述した石列が確認されたことなど、垣ノ内遺跡を含めた西畑瀬地区周辺の中世～近世における様相を知る手がかりを得ることができた。

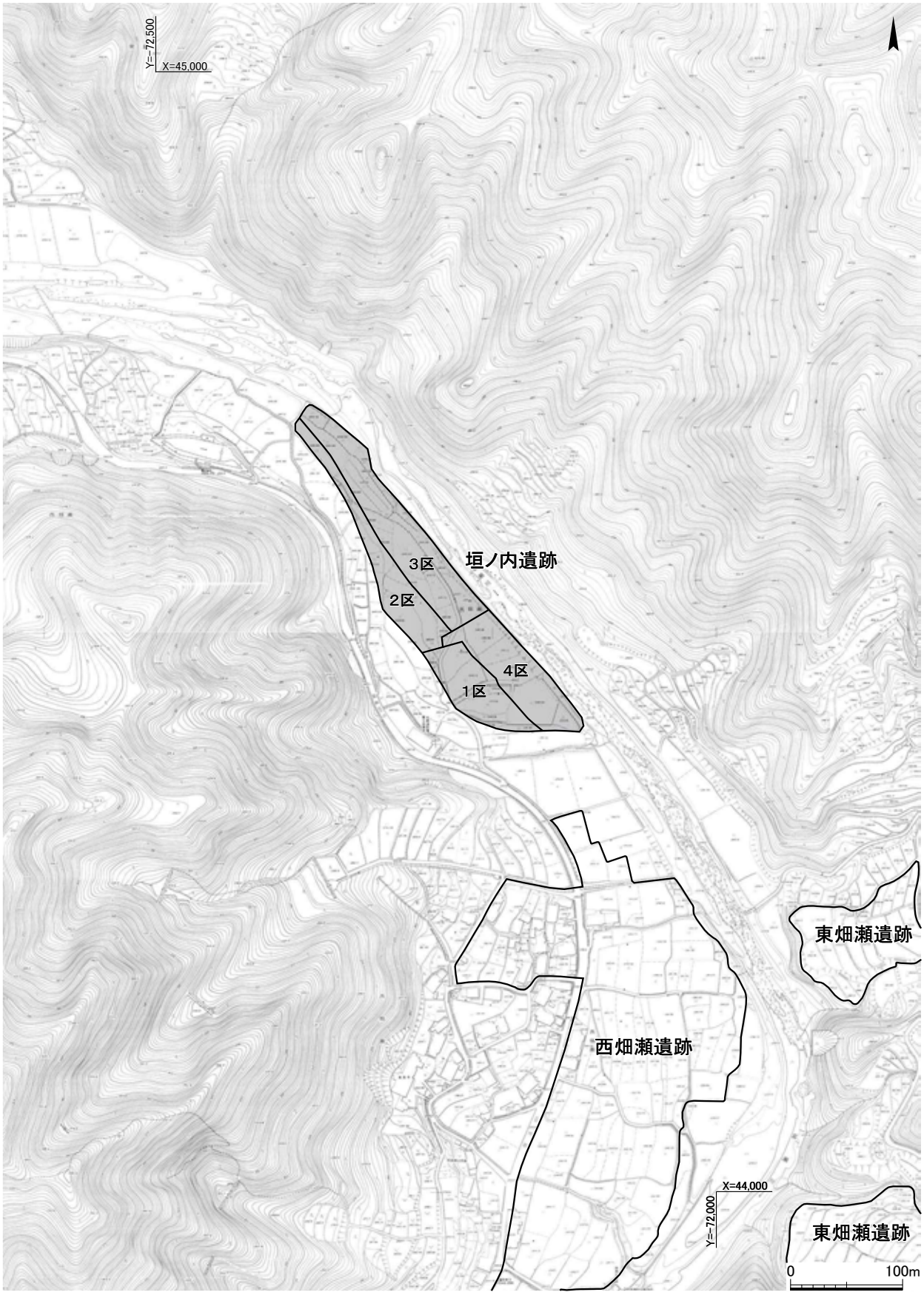


図４　垣ノ内遺跡周辺の地形（1/5,000）

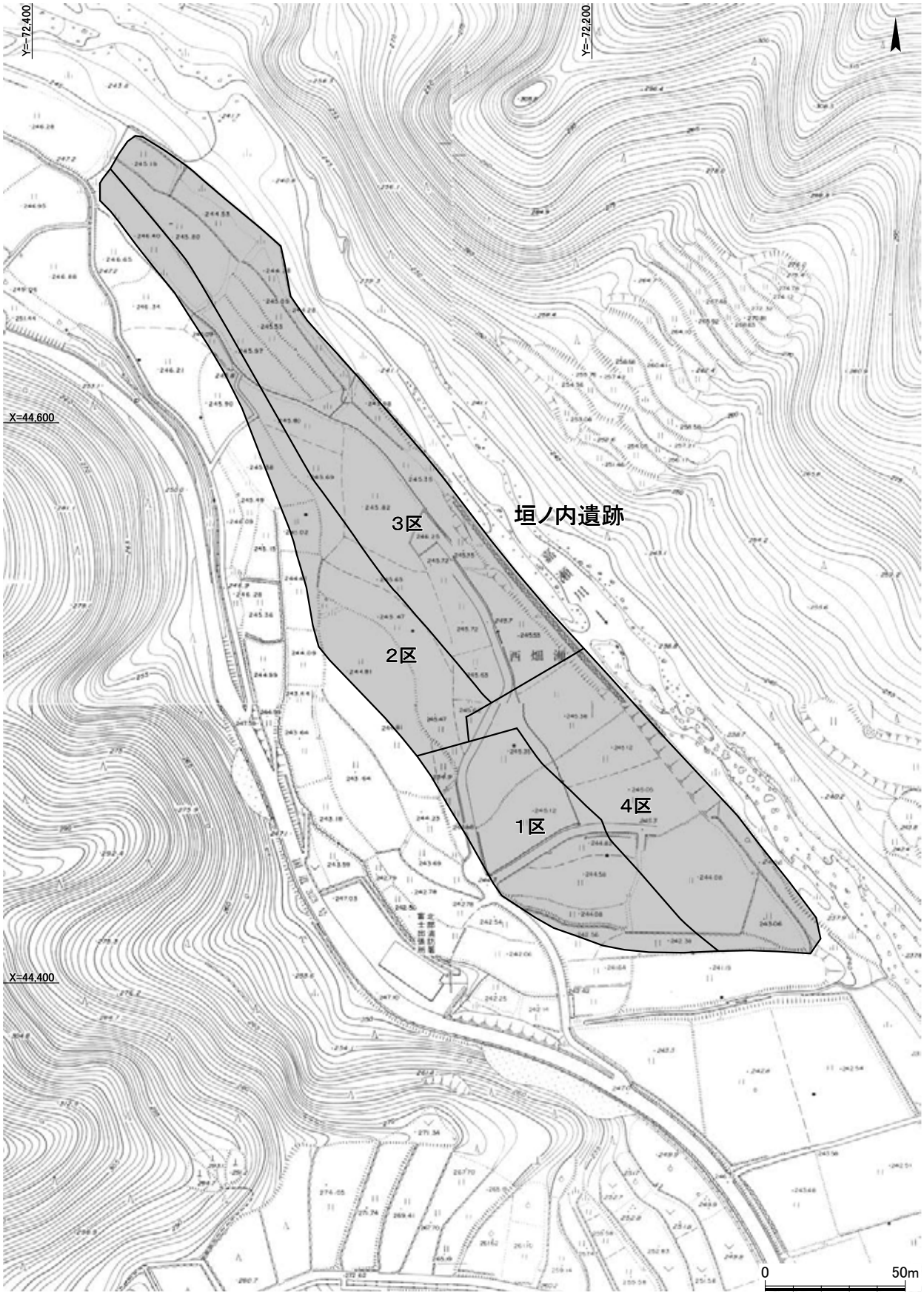


図５　垣ノ内遺跡１～４区の位置（1/2,000）

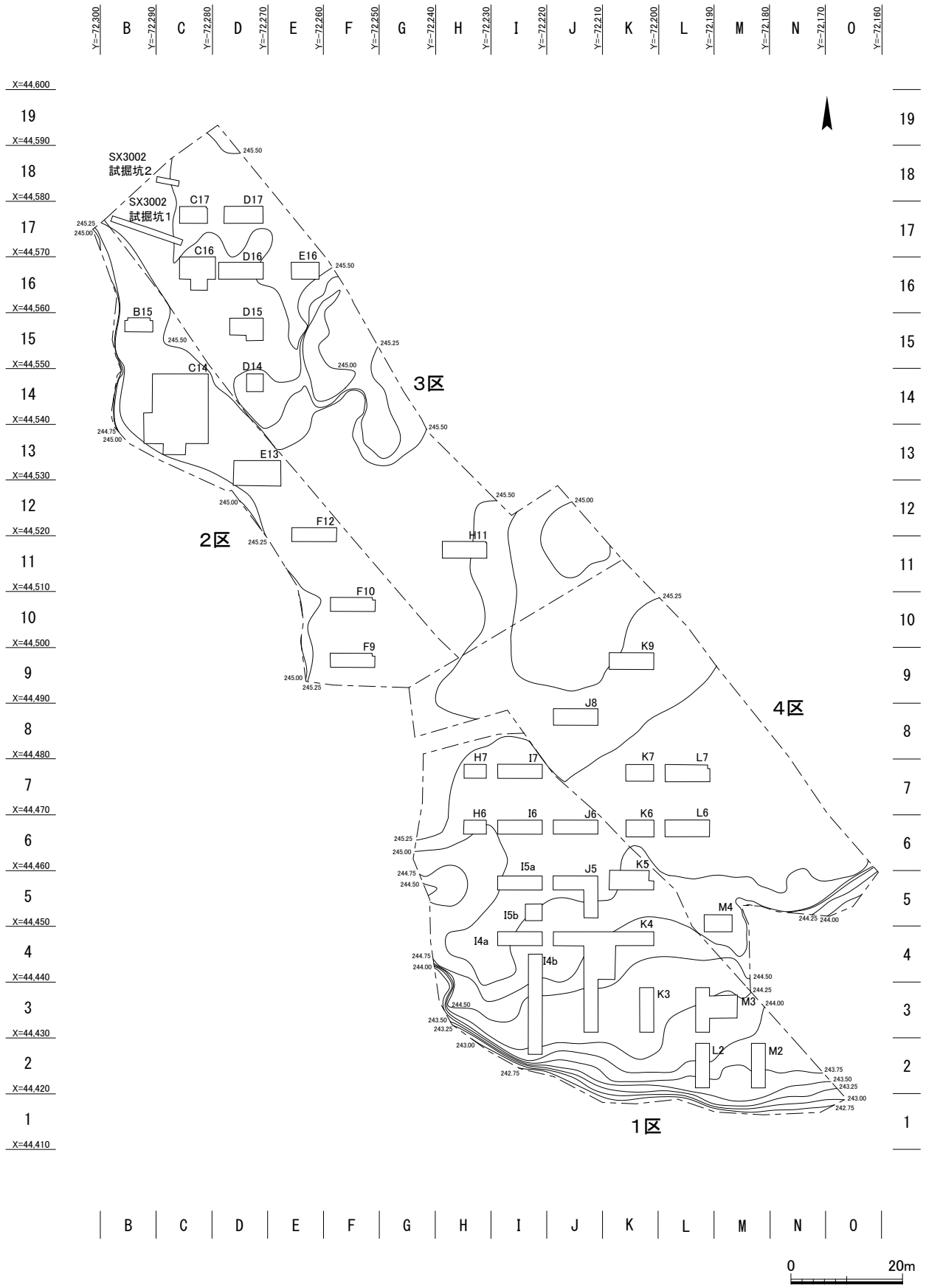


図６　試掘坑の配置（1/1,000）

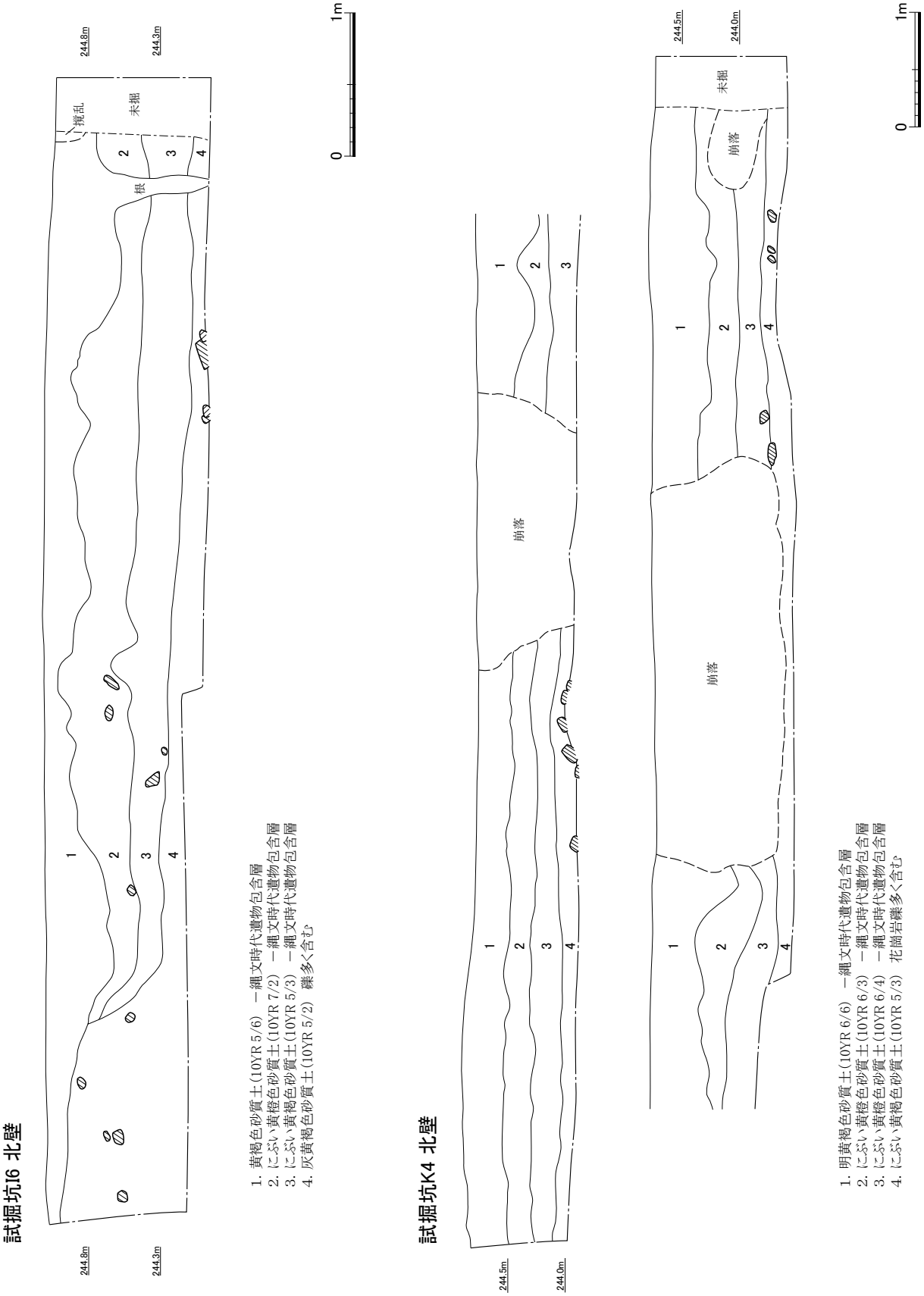
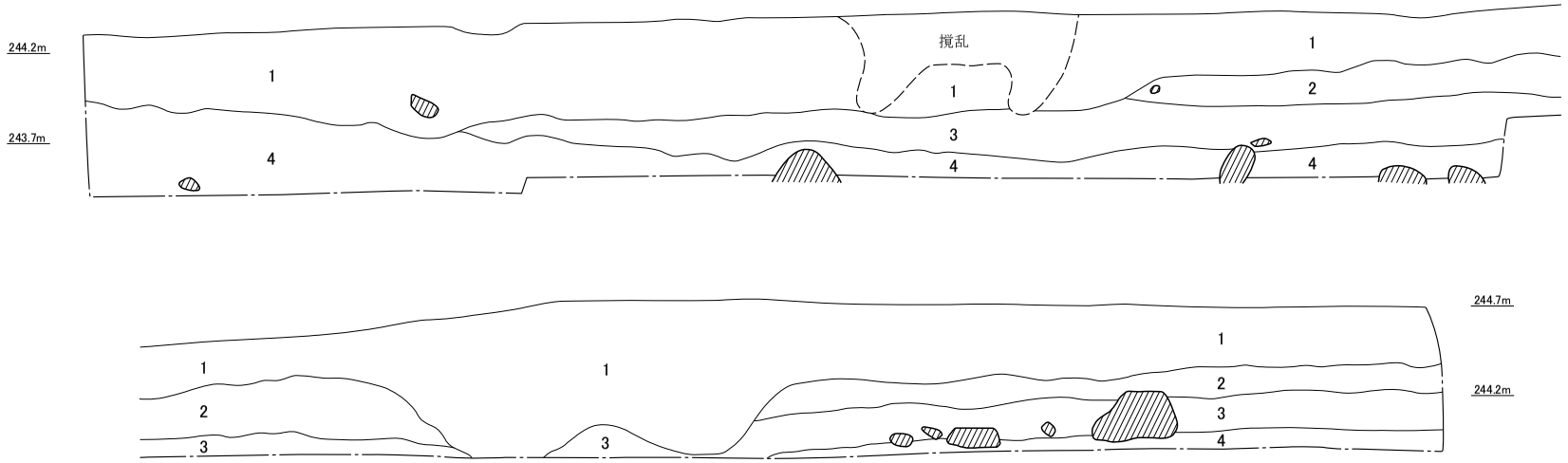


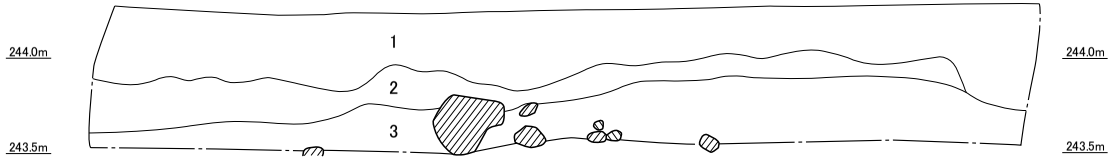
図7　1区の土層1（1/40・1/50）

試掘坑K4 西壁



1. 明黄褐色粘質土(10YR 6/6) －縄文時代遺物包含層
2. にぶい黄橙色土(10YR 6/3) －縄文時代遺物包含層
3. 黄褐色粘質土(10YR 5/6) －縄文時代遺物包含層
4. 褐色砂質土(10YR 4/4)

試掘坑M3 北壁



1. 明黄褐色砂質土(10YR 6/6) －縄文時代遺物包含層
2. にぶい黄橙色砂質土(10YR 6/3) －縄文時代遺物包含層
3. にぶい黄橙色粘質土(10YR 6/4) －縄文時代遺物包含層
4. 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2)

0 1m

図8 1区の土層2 (1/40)

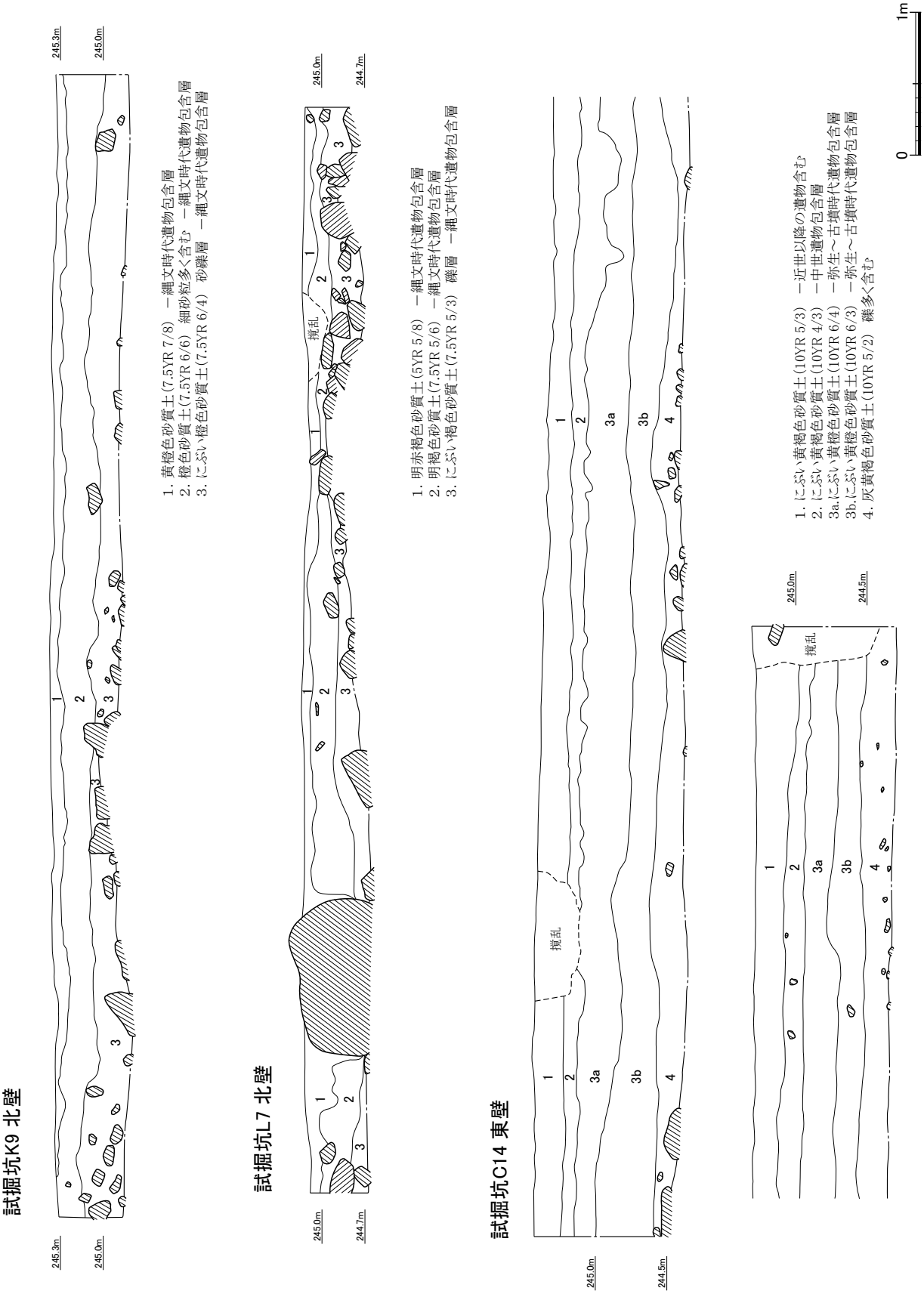
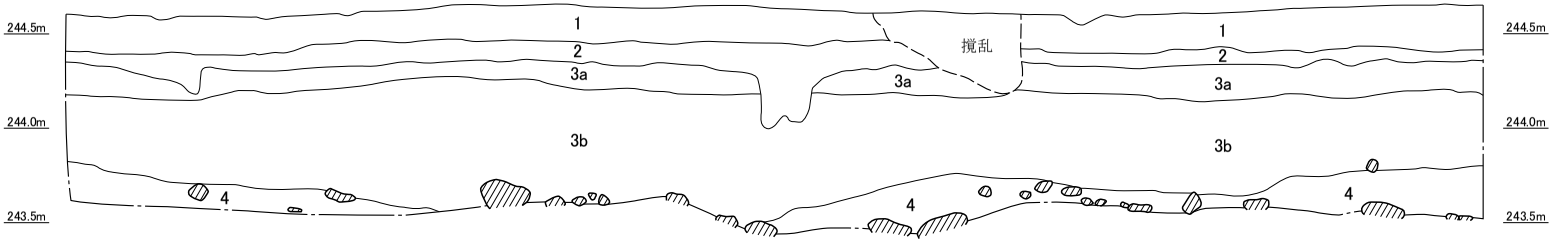


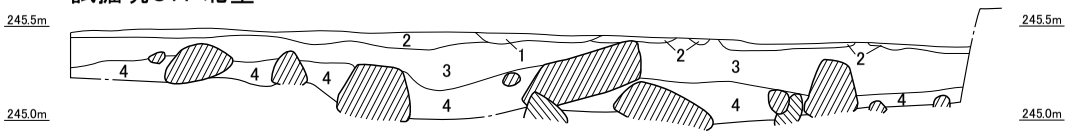
図9　2・4区の土層（1/40）

試掘坑C14 北壁



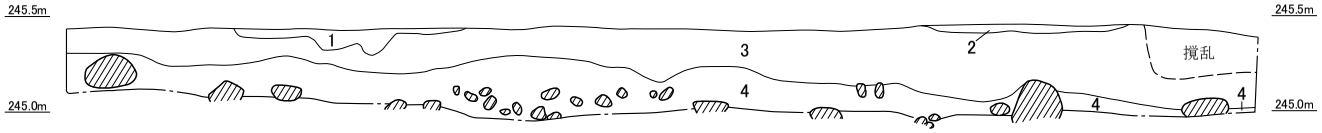
1. にぶい黄褐色土(10YR 5/4)　近世以降の遺物含む
2. 褐灰色砂質土(10YR　5/1)　－中世遺物包含層
3a.にぶい黄橙色砂質土(10YR 6/4)　－弥生～古墳時代遺物包含層
3b.にぶい黄橙色砂質土(10YR 6/4)　－弥生～古墳時代遺物包含層
4. 灰黄褐色砂質土(10YR 6/2)　礫含む

試掘坑C17 北壁



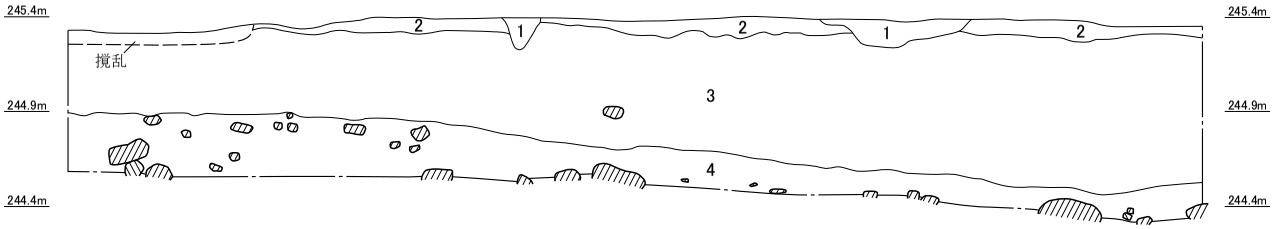
1. オリーブ黒色粘質土(5Y 3/2)　－中世遺物包含層
2. 黄褐色砂質土(10YR　5/6)　－弥生～古墳時代遺物包含層
3. にぶい黄褐色砂質土(10YR 4/3)　－弥生～古墳時代遺物包含層
4. 明黄褐色砂質土(2.5Y 6/6)花崗岩礫含む

試掘坑C16 北壁



1. にぶい黄褐色砂質土(10YR 5/4)
　－中世遺物包含層
2. 明黄褐色砂質土(10YR 7/6)
　－弥生～古墳時代遺物包含層
3. 黄褐色砂質土(10YR 5/6)
　－弥生～古墳時代遺物包含層
4. 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2)　花崗岩礫含む

試掘坑D15 北壁



1. 黒褐色粘質土(7.5YR 3/1)　－中世遺物包含層
2. にぶい黄褐砂質土(10YR 5/4)
　－弥生～古墳時代遺物包含層
3. にぶい黄褐色砂質土(10YR 5/3)
　－弥生～古墳時代遺物包含層
4. 灰黄褐色砂質土(10YR 5/2)　礫層

0　1m

図10　2・3区の土層4 (1/40)

2　縄文時代の遺構と遺物

垣ノ内遺跡では、縄文時代の遺構として集石遺構１基（SX1001）が検出され、遺物包含層から縄文時代早期中葉～後葉を中心とする土器・石器が出土した。遺物は、トータルステーションを用いて３次元で出土位置を記録しながら取り上げた。

遺物の出土状況についてみてみると、２・３区では少量であるが、１・４区では多くの遺物が出土しており、遺物の分布は調査区域の南東側に集中することが窺える。特に１区の試掘坑 K4・M3、４区の試掘坑 K7・K9 で遺物集中部がみられる（図 12）。

１区では、１～４層の土層が確認された（図７・８）。このうち１～３層が縄文時代の遺物包含層であり、縄文時代早期中葉の押型文土器・無文土器・撚糸文土器が出土した。２・３層で出土した土器には時期差がほぼ認められないこと、また１層で出土した土器と３層で出土した土器が接合関係にあることから、１～３層は一定の時間を要して堆積したものではなく、短期間のうちに堆積したものであると考えられる。

４区では、１～３層の土層が確認されたが、いずれも縄文時代の遺物包含層である（図９）。１・２層では縄文時代早期後葉の塞ノ神式古段階の土器が出土し、３層では早期中葉の押型文土器・無文土器・撚糸文土器が出土するため、１・２層と３層には層位的に時間差が認められよう。

以上のように、１・４区で確認された各層についてみると、１区の２・３層と４区の３層が対応し、いずれも縄文時代早期中葉（下菅生 B 式～田村式並行期）、４区の１・２層が縄文早期後葉（塞ノ神式古段階）を中心とする時期であると考えられる。

1）遺構

縄文時代の遺構として、集石遺構 1 基が検出された。

SX1001（図 11）

１区南東部に位置する試掘坑 M3 の 1 層で検出された集石遺構である。長軸 1.9 m、短軸 1.1 mの半円形状の範囲に礫が広がる。礫の下部に掘り込み等は確認されなかった。

出土した礫は、総数 45 点、総重量 9,575.7 g、平均重量 212.8 g である。礫の破損状態は、完形礫 11 点、破損礫 34 点で、破損率は 75.6％である。礫の赤化状態は、赤化完形礫 11 点、割れ面赤化礫 16 点、割れ面非赤化礫 17 点である。また、43 点に黒色付着物がみられる。礫はほぼ全てが角礫で、石質は花崗岩類が 43 点、非花崗岩類が２点である。礫のうち接合したものは４例８点である。

SX1001 の時期は、遺構が検出された層位や周辺で出土した土器から、縄文時代早期中葉～後葉前後の時期と考えられるが、さらに時期を絞り込むことは難しい。

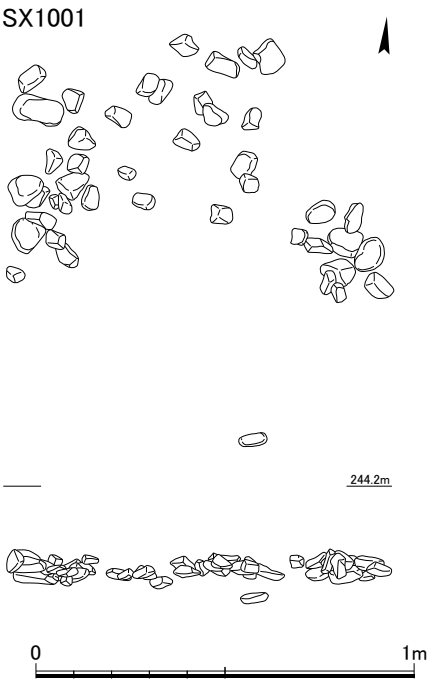


図 11　SX1001（1/20）

2）遺物

縄文時代の遺物包含層から出土した遺物は、集石遺構の礫も含めた約 250 点について、出土位置を３次元で記録しながら取りあげた。出土した遺物は土器 139 点、石器 66 点である。全体的に遺物数は

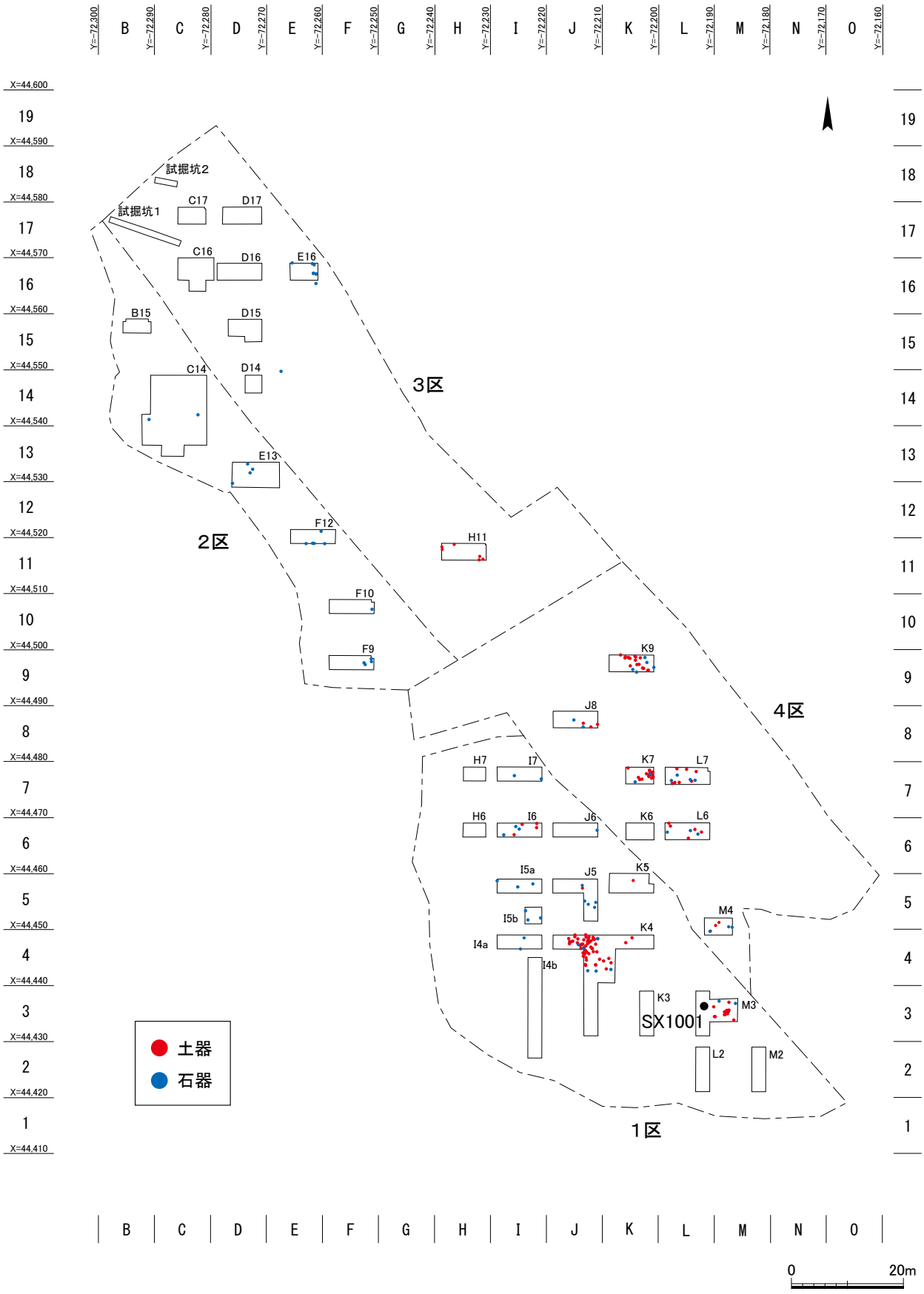


図 12　縄文時代遺構・遺物の平面分布（1/1,000）

それほど多くない。遺物は調査区域の全体に分布しているわけではなく、特に北側においては皆無であるが、調査区域の中央付近より南側に分布しており、特に南東部の１区試掘坑 K4・M3 と４区試掘坑 K7・K9 に集中している（図 12）。

縄文土器（図 13・14）

土器には、押型文土器（楕円文・格子目文）・無文土器・撚糸文土器・押型文と撚糸文が併用された土器・塞ノ神式土器があり、このうち楕円押型文を施す押型文土器が主体を占める。なお、無文土器については、押型文土器と近接して出土していること、また器形・器壁の厚さ等から、押型文土器に伴う時期のものと考えられる。

１～ 12・14 は押型文土器で、器面調整はいずれもナデである。１～３は深鉢の口縁部でやや外反する。１・２の外面には斜位あるいは横位に粗大な楕円押型文が、３の外面にはやや小粒の楕円押型文が施される。また、１・２の口縁内面にはそれぞれ楕円押型文・原体条痕が施され、２の口縁端部は面取りされる。４～ 10 は深鉢の胴部であると考えられ、外面に斜位あるいは横位に粗大な楕円押型文が施される。７の外面には煤が付着している。11 は小型の鉢で、外面に細長い楕円押型文が施される。12 は鉢の底部である。やや丸みを帯びた平底とみられ、胴部には粗大な楕円押型文が施されている。14 は深鉢の胴部と考えられる。外面に格子目文の押型文が斜位および横位に施され、煤が付着している。器面調整はナデで、工具状のものによるとみられるナデの痕跡が残る。格子目文の押型文土器は、押型文土器の中では一般的に早水台式土器より古い土器であると考えられているが、西北九州や中九州においては器壁の厚さなどから、下菅生 B 式～田村式並行期のものと考えられる。

13 は撚糸文土器で、深鉢の胴部と考えられる。外面には横位の撚糸文が施され、器面調整はナデである。

15 は波状口縁の深鉢で、胴部から口縁部にかけて稜をもって大きく外反し、口縁端部には刻みが施される。外面口縁から頸部にかけて刻みを施す隆帯文が６条めぐり、五つの区画がある。最も口縁端部に近い区画には二枚貝による条痕文が斜位に施され、その下の四つの区画は無文である。口縁部には、補修孔とみられる穿孔がある。このような形態や施文の特徴から塞ノ神式古段階のものと考えられる[1)]。また図示していないが、15 と同一個体と思われる胴部片も出土しており、外面には縦位に撚糸文が施される。

石器

調査区で出土した石器のうち、66 点については出土位置を３次元で記録しながら取り上げたが、剥片石器・剥片がほとんどを占め、礫石器は１点と非常に少ない。また、検出面等で採集された石器も剥片石器と剥片が多く、礫石器は３点（敲石２点・磨石１点）と少ない。調査区で出土した石器は、ともに出土した土器の時期から推測すると、縄文時代早期中葉～後葉のものと位置づけられよう。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が３点（うち黒曜岩１点、無斑晶質安山岩２点）、スクレイパーが８点（うち黒曜岩１点、無斑晶質安山岩７点）である。このほか、二次加工剥片・微細剥離痕のある剥片が６点（うち黒曜岩１点、無斑晶質安山岩５点）、剥片が 45 点（うち黒曜岩 17 点、無斑晶質安山岩 20 点、石英８点）、石核が３点（うち黒曜岩１点、無斑晶質安山岩１点、石英１点）であり、剥片・石核類が剥片石器類の８割以上を占める。剥片石器に用いられた石材は、黒曜岩と無斑晶質安山岩と石英で、その比率は約２：３：１で無斑晶質安山岩が多い。

礫石器は、敲石が１点（検出面で出土したものを含めると敲石が３点、磨石が１点）である。

打製石器（図 14）

16 ～ 23 は石鏃で、16 ～ 18 は鍬形鏃、19 は小型でやや側縁が膨らんだ正三角形に近い凹基のもの、20 ～ 22 は二等辺三角形に近い凹基のもので、21 は側縁がやや内湾する。23 は五角形に近い微凹基のものである。24 は製作途中で放棄された石鏃の未製品とみられる。

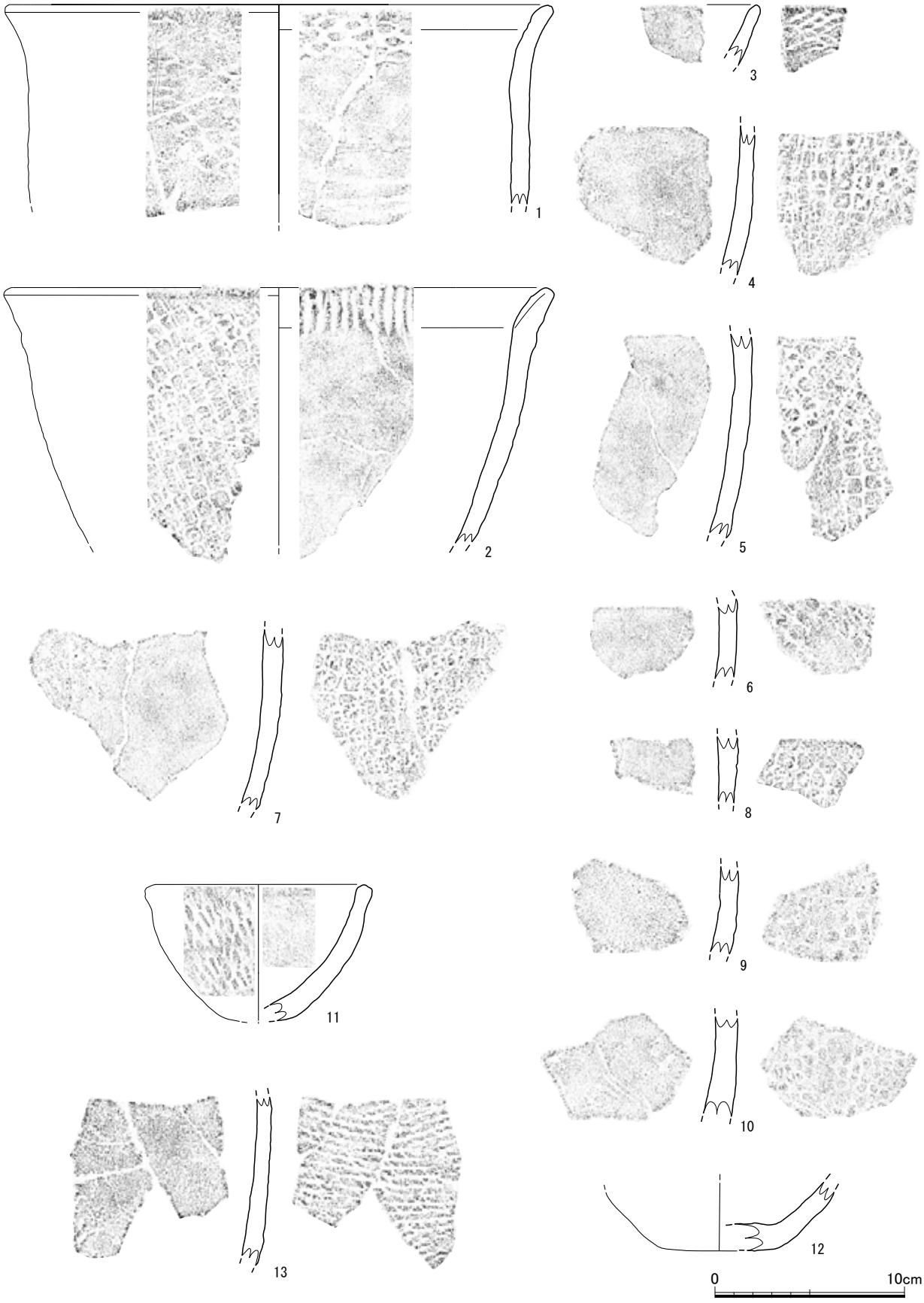


図 13　縄文時代の土器１（1/3）

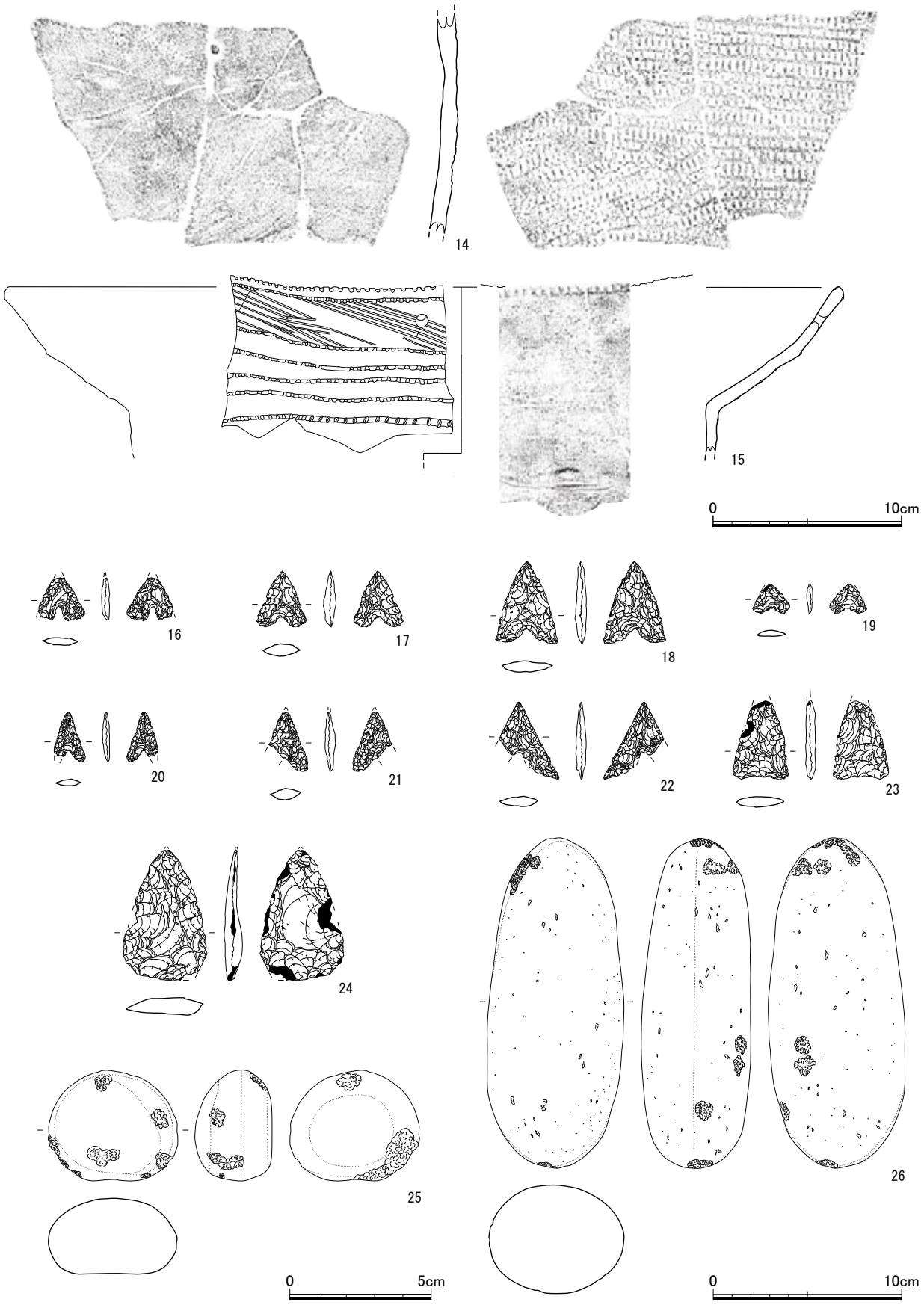


図 14　縄文時代の土器 2（1/3）・石器（16 ～ 25 は 1/2、26 は 1/3）

礫石器（図 14）

25 は敲石で、両端に敲打痕がみられる。26 は磨石で、両面に使用によるものと思われる磨滅痕がみられ、側面には敲打痕も残ることから、敲石としても使用されていることがわかる。石材は、両者とも花崗岩の類であろう。

表 2　垣ノ内遺跡縄文時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 13-1 11001658	tr.M3 1・3 層	縄文土器 深鉢	28.4*	-	-	外 : 黒褐・にぶい黄橙・にぶい黄褐 内 : 黒褐・にぶい黄橙		写真図版 11-1 20111403・1404
図 13-2 11001659	tr.M3 1・3 層	縄文土器 深鉢	14.1*	-	-	外 : 橙・にぶい橙 内 : にぶい黄褐・黒褐		写真図版 11-2 20111405・1406
図 13-3 11001664	tr.K4 3 層	縄文土器 深鉢	15.6*	-	-	にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 11-3 20111407・1408
図 13-4 11001666	tr.M3 1 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外 : 橙・にぶい黄橙 内 : 灰黄褐・にぶい黄橙		写真図版 11-4 20111411
図 13-5 11001667	tr.M3 1・3 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外 : 橙・にぶい橙 内 : 灰褐・にぶい橙		写真図版 11-5 20111413
図 13-6 11001669	tr.M3 3 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外 : 橙・にぶい褐 内 : にぶい褐		写真図版 11-6 20111417
図 13-7 11001668	tr.M3 1・3 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外 : 橙・にぶい橙 内 : 灰褐・にぶい橙		写真図版 11-7 20111415
図 13-8 11001670	tr.M3 3 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外 : 橙 内 : にぶい橙		写真図版 11-8 20111419
図 13-9 11001671	tr.M4 2 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外 : 橙・にぶい褐 内 : にぶい橙		写真図版 11-9 20111421
図 13-10 11001672	tr.K7 2 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外 : にぶい褐・灰褐 内 : にぶい橙・灰褐		写真図版 11-10 20111423
図 13-11 11001673	tr.L7 2 層	縄文土器 鉢	11.0*	-	-	外 : 橙・にぶい黄橙・にぶい黄褐 内 : 明黄褐・にぶい黄褐		写真図版 11-11 20111425
図 13-12 11001657	tr.K4 2・3 層	縄文土器 鉢	-	6.2*	-	外 : にぶい黄橙 内 : にぶい黄褐・にぶい黄橙		写真図版 11-12 20111402
図 14-13 11001665	tr.K4 3 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外 : 橙 内 : にぶい橙・褐灰		写真図版 11-13 20111409・1410
図 14-14 11001647	G11 区画 2 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	浅黄橙・橙	外面煤付着	写真図版 11-14 20111400・1401
図 14-15 11001674	tr.K9 2 層	縄文土器 深鉢	40.0*	-	-	外 : にぶい黄橙・灰褐 内 : にぶい黄橙		写真図版 11-15 20111427・1428

表 3　垣ノ内遺跡縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			重量	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ	g			
図 14-16 11001084	検出面	打製石器 石鏃	1.5+	1.6	0.3	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 12-16 20111429
図 14-17 11001086	tr. Ⅰ 5a 1 層	打製石器 石鏃	2.0	1.7	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 12-17 20111431
図 14-18 11001085	tr.K4 3 層	打製石器 石鏃	2.9	2.2	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 12-18 20111430
図 14-19 11001087	C14 区画 1 層	打製石器 石鏃	1.0	1.3	0.2	0.2	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 12-19 20111432
図 14-20 11001088	検出面	打製石器 石鏃	1.7	1.1+	0.3	0.4	無斑晶質安山岩	片脚部欠損	写真図版 12-20 20111433
図 14-21 11001091	G11 区画 検出面	打製石器 石鏃	2.1+	1.4+	0.4	0.6	黒曜岩	先端部・片脚部欠損	写真図版 12-21 20111436
図 14-22 11001092	J9 区画 検出面	打製石器 石鏃	2.7	2.1+	0.4	1.0	黒曜岩	片脚部欠損	写真図版 12-22 20111437
図 14-23 11001090	D14 区画 2 層	打製石器 石鏃	2.8+	2.0	0.4	2.2	無斑晶質安山岩	先端部欠損	写真図版 12-23 20111435
図 14-24 11001089	検出面	打製石器 石鏃	4.6+	3.0	0.7	8.0	無斑晶質安山岩	縁辺部欠損	写真図版 12-24 20111434
図 14-25 11001094	D17 区画 2 層	礫石器 磨石	3.9	4.6	2.7	68.0		完形	写真図版 12-25 20111440・1441
図 14-26 11001093	tr.E13 3a 層	礫石器 敲石	17.6	7.2	5.7	1080.0		完形	写真図版 12-26 20111438・1439

3　弥生～古墳時代の遺構と遺物

垣ノ内遺跡の調査では、古墳時代の遺構として３区で土器埋納遺構２基が検出された（SX3001･3003）。また、遺物包含層からは、弥生時代中期前半～後期末および古墳時代前期の弥生土器・土師器が約 330 点出土した。当該期の遺物の分布は、調査区域の中央から南東側（１・４区）においては皆無で、北西側でのみ出土しており、特に２区試掘坑 C14 と３区試掘坑 C16・D15 に集中している（図 16）。

遺構・遺物が確認された調査区域の北西側（２・３区）で把握された土層は大きく１～４層に分別できる。これらは上層から近世以降の遺物包含層、中世の遺物包含層、弥生～古墳時代の遺物包含層と続き、最下層には無遺物層がある（図９・10）。

弥生～古墳時代の遺物包含層から出土した土器は、概ね弥生時代中期前半～古墳時代前期頃までの時期幅をもつものが混在している。なお、出土遺物が比較的狭い範囲に分布すること、また摩滅が少ないこと等から、ごく短期間のうちに堆積したものと推測される。

１）遺構と遺構に伴う遺物

弥生時代の遺構は検出されなかったが、古墳時代の遺構として土器埋納遺構２基が検出された。

SX3001（図 15）

調査区域北東部の３区 D15 区画に位置する土坑である。長軸 0.30 m、短軸 0.25 m、深さ 0.15 mの不整な楕円形であるが、上部は削平されており、本来の形状は不明である。古墳時代前期の土師器甕１個体が出土したが、胴部から底部にかけて 1/3 程度が欠失する。甕は口縁部を下にして伏せられた状態で出土し、全体にやや南に傾いていた。SX3001 は、甕の出土状況等から土器埋納遺構と考えられる。埋土中からは、甕以外の遺物は出土しなかった。

SX3001 出土遺物（図 17）

27 は土師器甕で、胴部下半が大きく欠失する。丸底で、口縁はやや内湾ぎみに外に開き、口縁端部は若干つま

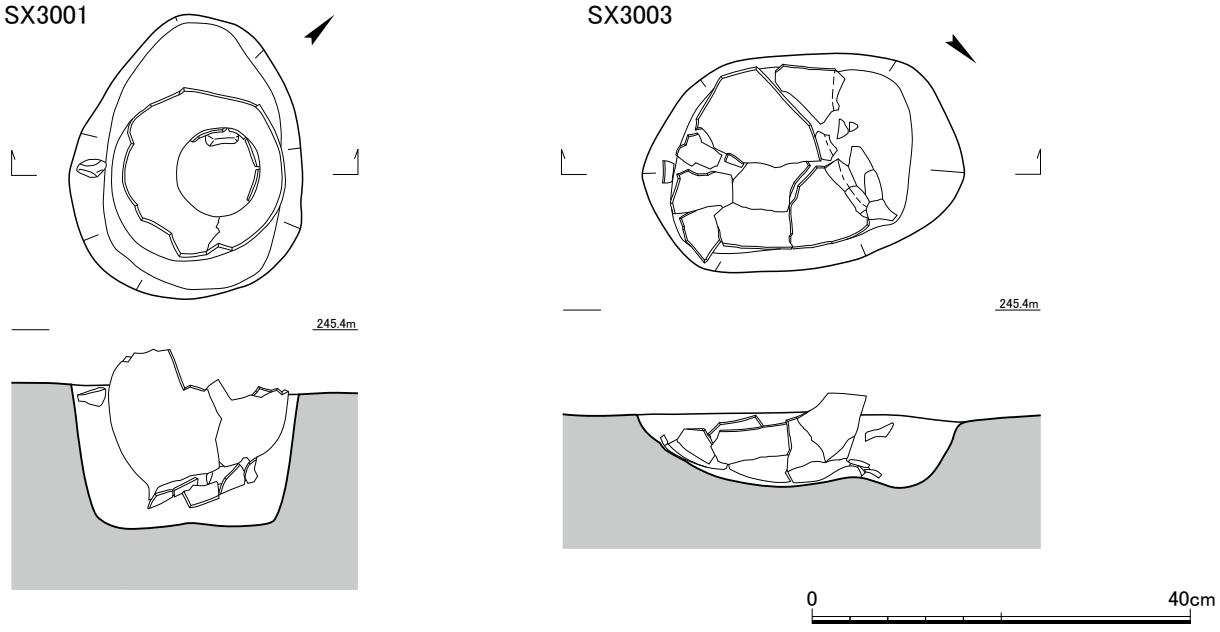


図 15　SX3001・SX3003（1/8）

図 16　弥生～古墳時代遺構・遺物の平面分布（1/1,000）

み上げられる。内面頸部下には粘土のつなぎ目が残り、指頭圧痕がみられる。器面調整は、内面頸部下から内面胴部はケズリのち、工具状のものによるナデである。口縁内面はハケメのちナデ、口縁外面はナデ、外面頸部下から底部にかけて縦方向のハケメのち底部周辺のみナデである。口縁部外面から胴部上半には煤が付着している。

SX3003（図 15）

調査区域北東部の３区 C15 区画に位置し、SX3001 から南東約 4 mの地点で検出された。長軸 0.34 m、短軸 0.23 m、深さ 0.08 mの楕円形であるが、上部は大きく削平されており、本来の形状は不明である。この土坑から古墳時代前期の土師器甕 1 個体が出土した。甕は口縁部を北西に向け、横になった状態で出土し、口縁部から底部にかけて 1/2 程度が欠失する。SX3001 と同様に土器埋納遺構であると考えられるが、確認された土坑は SX3001 と比較して浅く、甕の埋納状況も異なる。埋土中からは、甕以外の遺物は出土しなかった。

SX3003 出土遺物（図 17）

28 は土師器甕で、口縁部から底部にかけて 1/2 程度が欠失する。丸底で、口縁部は緩やかに外反する。内面頸部下に粘土のつなぎ目が残る。器面調整は、内面が頸部下から底部までケズリのち工具状のものによるナデ、内面口縁部から外面頸部上にかけてハケメのち工具状のものによるとみられるナデ、外面頸部から底部にかけてハケメのち底部のみナデである。外面胴部に煤が付着している。

２）遺物包含層出土の遺物

調査区の北東側（２・３区）で確認された遺物包含層から、弥生時代中期前半～後期末の弥生土器と古墳時代前期の土師器が出土した（図 18・19）。

29 は短い逆 L 字状の口縁をもつ甕である。調整は外面頸部以下がハケメのち頸部横ナデおよび外面はナデ。口縁部および内面頸部まで横ナデ、内面はナデ。内面に指頭圧痕が多く残る。30 は内側にわずかな張り出しをもつ逆 L 字状の口縁をもつ甕である。調整は外面頸部から内面はナデ、外面頸部下はハケメが施される。内面頸部の粘土のつなぎ目はナデ消しきれていない。

31 は小型の壺で、内外面とも全面に赤色顔料が施される。外面は摩耗が激しく調整は不明、内面はナデ。頸部

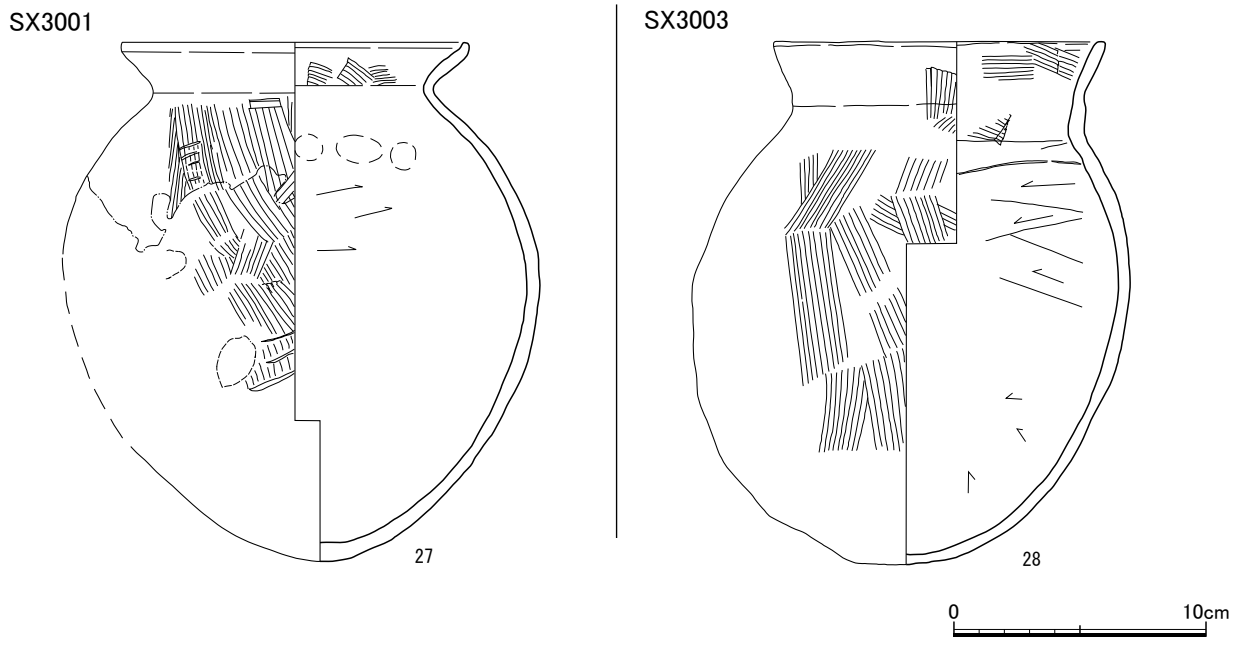


図 17　SX3001・SX3003 出土の遺物（1/3）

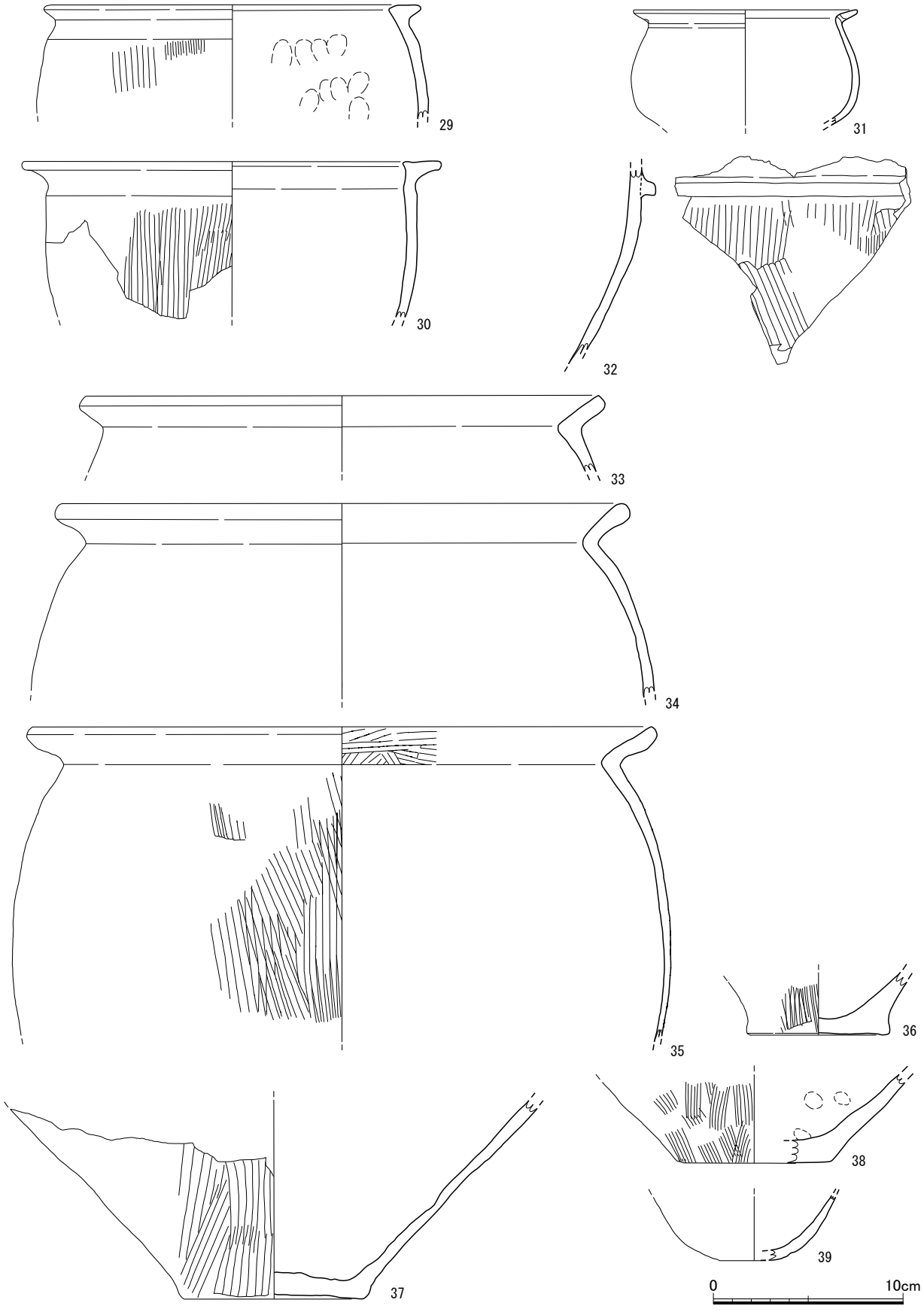


図 18　弥生時代の遺物（1/3）

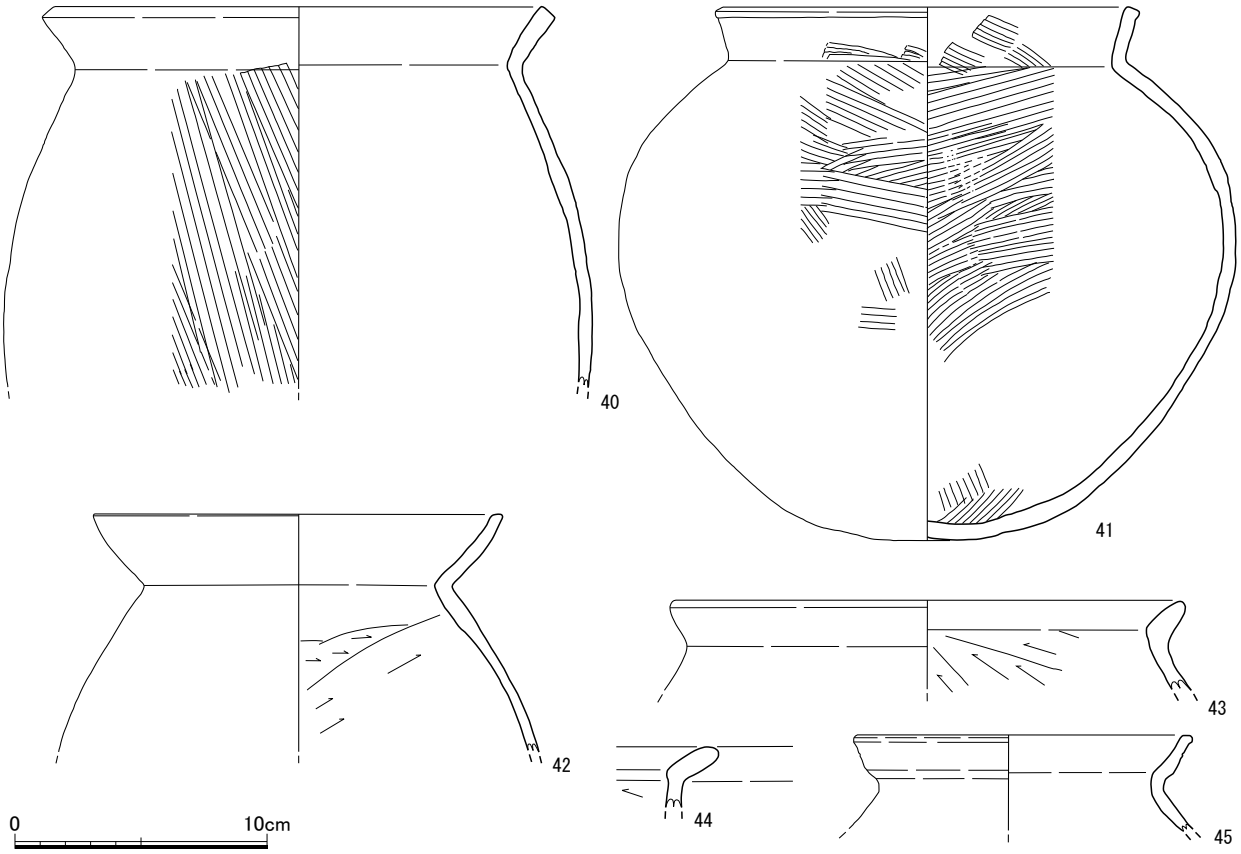


図 19　弥生〜古墳時代の遺物（1/3）

上には焼成前に施されたとみられる穿孔がある。底部は残存しないが平底だと思われる。32 は壺の胴部で、コの字状の突帯をもつ。外面はハケメを施したのち突帯を張り付けている。内面は摩耗と剥離のため調整は不明である。

33 〜 35・40 は、くの字状口縁の甕である。33 は直線的に外傾する口縁部で、調整は内外面ナデ。34 はやや外反しながら外傾する口縁部で、胴部最大径が口径より大きくなり、調整は外面ハケメのち口縁部横ナデ、内面はナデ。内面に指頭圧痕が多く残る。33・34 の外面には煤が付着する。35 は口縁部がわずかに内湾しながら外傾する。内面口縁と外面頸部下はハケメのち内面口縁のみナデ。40 は口縁部が直線的に外傾し、調整は外面ハケメのち口縁部のみナデ、口縁端部は横ナデ。内面はナデである。

36 〜 38 は甕の底部で、いずれも調整は外面ハケメ、内面はナデである。36 は胴部からややくびれながら底面に至るが、37・38 はくびれが弱い。37 のみわずかに上げ底である。39 は壺の底部と考えられ、底面は平底であるがやや丸みを帯びている。調整は外面ナデ、内面は不明である。

41 は口縁部が直立ぎみにやや外傾する短頸壺である。調整は内外面ハケメのち内面頸部上から外面頸部および外面底部はナデで、口縁端部は面取りされる。

42 〜 45 は土師器甕の口縁部である。42 は緩やかに内湾しながら外傾する。肩が張らず、胴部がやや長くなるタイプである。内面頸部下はケズリ、内面頸部から外面頸部まで横ナデ、口縁端部は丁寧に面取りされる。外面頸部以下は摩耗のため調整は不明である。43 は短く直線的に外傾する。内面頸部上から外面頸部まで横ナデ、内面頸部下はケズリである。44 は直線的に外傾する。調整は、内外面口縁部ナデ、内面はケズリ。45 はやや内湾しながら外傾し、口縁端部は横に若干つまみ出され、面取りされる。調整は口縁部が内外面ともナデで、その他は摩耗のため不明である。外面の一部に煤が付着している。

表４　垣ノ内遺跡弥生～古墳時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 17-27 11001095	SX3001	土師器 甕	13.8	18.9*	20.6	にぶい赤褐・明赤褐	外面煤付着	写真図版 12-27 20111399
図 17-28 11001096	SX3003	土師器 甕	13.1*	17.4*	20.8	にぶい黄橙・黒褐・暗褐	外面煤付着	写真図版 12-28 20111384
図 18-29 11001650	E16 区画 ３層	弥生土器 甕	19.9*	-	-	にぶい黄橙	外面付着物あり	写真図版 12-29 20111388
図 18-30 11001655	tr.C14　3b 層 tr.C17　３層	弥生土器 甕	22.0*	-	-	明赤褐・にぶい橙	外面煤付着	写真図版 12-30 20111393
図 18-31 11001100	SX3002tr.　３層 C17tr.　３層	弥生土器 壺	11.8*	12.0*	-	にぶい橙・橙・灰白	内・外面赤色顔料塗布 口縁部に穿孔	写真図版 12-31 20111385
図 18-32 11001656	tr.C16　３層	弥生土器 甕	-	-	-	明赤褐	外面煤付着	写真図版 13-32 20111394
図 18-33 11001652	tr.C16　３層	弥生土器 甕	30.4*	-	-	にぶい橙・橙	外面煤付着	写真図版 13-33 20111390
図 18-34 11001649	tr.C16　３層	弥生土器 甕	30.2*	-	-	橙		写真図版 13-34 20111387
図 18-35 11001663	tr.C14　3a 層	弥生土器 甕	32.6*	-	-	外 : 橙 内 : 橙・明褐・灰褐	内面に煤付着	写真図版 13-35 20111398
図 18-36 11001660	tr.C14　3b 層	弥生土器 甕	-	7.2*	-	外 : にぶい黄橙・褐 内 : 黒褐・黒		写真図版 13-36 20111395
図 18-37 11001099	C17 区画　３層 tr.C16　３層	弥生土器 甕	-	9.8*	-	明褐・赤褐	底部煤付着	写真図版 13-37 20111381
図 18-38 11001648	tr.D16　２層	弥生土器 甕	-	8.1*	-	にぶい黄橙・浅黄橙		写真図版 13-38 20111386
図 18-39 11001661	tr.C14　3a 層	弥生土器 壺	-	3.6*	-	外 : 明褐・黒褐 内 : にぶい褐・褐		写真図版 13-39 20111396
図 19-40 11001097	tr.C16　３層	弥生土器 甕	20.4*	23.4*	-	暗褐	外面煤付着	写真図版 13-40 20111382
図 19-41 11001098	tr.D15　３層	弥生土器 甕	16.6*	24.5*	21.2	橙・赤褐	外面黒斑	写真図版 13-41 20111383
図 19-42 11001653	tr.D15　３層	土師器 甕	16.2*	-	-	にぶい橙・浅黄橙		写真図版 13-42 20111391
図 19-43 11001654	tr.D17　３層	土師器 甕	20.4*	-	-	にぶい黄橙・浅黄		写真図版 13-43 20111392
図 19-44 11001651	E17 区画　３層	土師器 甕	-	-	-	橙		写真図版 13-44 20111389
図 19-45 11001662	tr.C14　3a 層	土師器 甕	14.0*	-	-	外 : にぶい橙・淡橙・橙 内 : 橙	口縁部に煤付着	写真図版 13-45 20111397

４　その他の遺構

中世以降の遺構と考えられるものとして、３区の北端付近で石列１基（SX3002）が検出された。

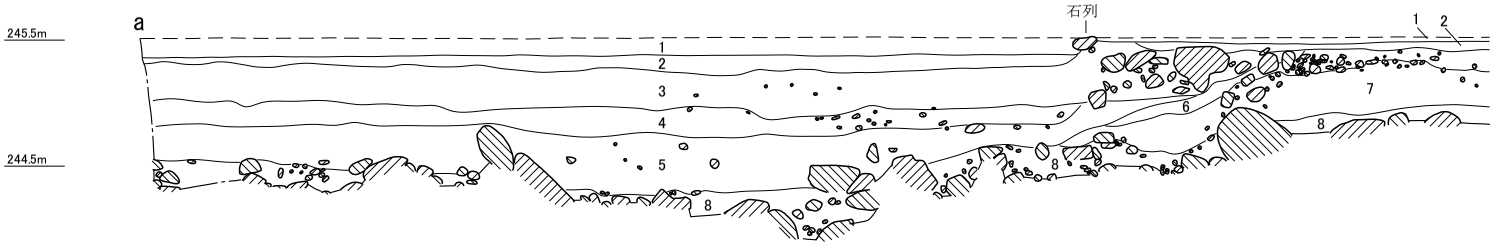
SX3002（図 20）

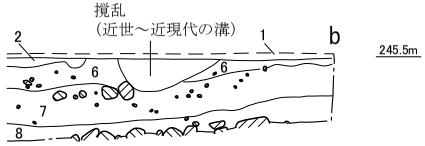
調査区域の北端付近（３区北端）に位置し、概ね北東～南西方向にのびる石列である。石列は、調査区外にもさらに続いていると考えられる。３区で確認した部分は、長さ 22.7 m、幅は概ね 0.3 ～ 0.5 m、最大幅は約 1.0 m である。列を構成する礫は、5 ～ 10cm 程度の小さなものも含まれるが、多くは 20 ～ 40cm のものである。また、100cm を超える大型のものもあるが数は少ない。礫は幾重にも積まれているわけではなく、１～２石が並べられた状態であり、下部に掘り込み等は伴っていない。

この石列の性格や構築された年代等を確認するため、石列に直交するように２本の試掘坑を設定し調査を行い、１～８層の土層を確認した（図 21）。１層は近世～近現代層、２～５層は中世の遺物包含層、６～７層は弥生～古墳時代の遺物包含層、８層は砂礫を多量に含む無遺物層である。石列は、中世の遺物包含層である３層が北西側に向かって一段低くなる段差のへりに沿って並べられている。石列に伴う遺物は確認されておらず、石列の時期を明確にすることは難しい。しかし、石列が３層の上に並べられていること、石列と２層の新旧関係が明確でないこと、さらに石列の上に１層が堆積していることを考慮すると、近世のものである可能性が高いと考えられる。

図 20　SX3002（1/200）

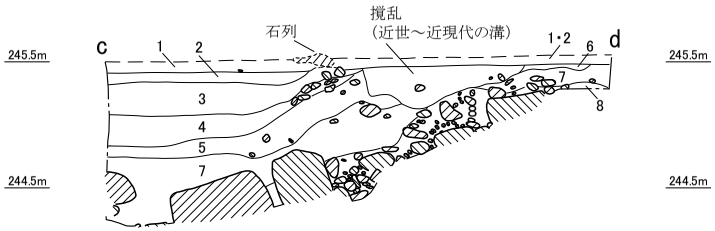
SX3002 試掘坑１





１．灰黄褐色土（10YR6/2）　粘性、しまり無。北壁土層では、除去しており表れていない。　－近世～近現代
２．褐灰色土(7.5YR5/1)　粘性、しまり有。鉄分が少量混じる。　－中世の遺物包含層
３．褐灰色土(10YR4/1)　粘性弱、しまり有。南側に20～50cm程の礫を含む。　－中世の遺物包含層
４．にぶい黄橙色砂質土(10YR6/4)　粘性無、しまり弱。粗い砂と細かい砂が互層になる。　－中世の遺物包含層
５．褐灰色砂質土(10YR4/1)　粘性やや有、しまり有。水気を含み、しっとりしている。　－中世の遺物包含層
６．黄褐色砂質土(10YR5/6)　しまり弱。礫を含む。水成鉄分を含む。　－弥生～古墳時代の遺物包含層
７．にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)　粘性、しまり無。土層南側はやや粗い砂を含む。　－弥生～古墳時代の遺物包含層
８．灰黄褐色砂土(10YR6/2)　砂・礫層。

SX3002 試掘坑２



１．灰黄褐色土(10YR6/2)　粘性、しまり無。　－近世～近現代
２．褐灰色土(7.5YR5/1)　粘性、しまり有。　－中世の遺物包含層
３．灰黄褐色土(10YR5/2)　粘性弱、しまり有。やや粗い砂をごく少量含む。　－中世の遺物包含層
４．黄灰色砂質土(2.5YR5/1)を主体に、にぶい黄橙色砂質土(10ＹＲ6/4)が斑状に混じる。礫を含む。　－中世の遺物包含層
５．褐灰色砂質土(10YR4/1)　粘性やや有、しまり有。試掘坑１の５層に対応するが、堆積が薄い。　－中世の遺物包含層
６．黄褐色砂質土(10YR5/6)　しまり弱。水成鉄分を含む。　－弥生～古墳時代の遺物包含層
７．にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)　しまり無。　－弥生～古墳時代の遺物包含層
８．にぶい黄褐色砂土(10YR5/3)　砂・礫層。
※撹乱は２層より新しい近世～近現代の溝（試掘坑１の撹乱も同様）

0　2m

図 21　SX3002 試掘坑の土層（1/60）

5　まとめ

垣ノ内遺跡では、縄文時代の遺構・遺物、弥生～古墳時代の遺構・遺物、中世の遺物、近世の遺構・遺物などを確認した。各時期の様相について、簡単にまとめておきたい。

縄文時代の様相

垣ノ内遺跡では、１・４区を中心に縄文時代の遺物が出土し、１区で集石遺構１基（SX1001）が確認された。出土した礫の多くに赤化や黒色付着物が認められることから、集石炉であった可能性があるが、遺構に伴う遺物が出土しておらず、時期を明確にすることは難しい。しかし、この遺構に近接した位置で押型文土器が集中して出土しており、この土器との関係から下菅生Ｂ式～田村式併行期（早期中葉）前後の時期と推定できる。また、押型文土器が多く出土した試掘坑 K4 では、撚糸文土器、押型文と撚糸文が併用されている土器が出土しており、これらの土器は撚糸文土器と押型文土器の同時性および類縁性を示すものと考えられる。

垣ノ内遺跡では、出土した縄文土器や石器の数が少なく、しかも限られた範囲に分布し、遺構も集石遺構１基が確認されただけであるため、狩猟や採集等の際の一時的な野営地としての利用が想定されよう。また、出土する遺物は早期中葉～後葉にかけてのものであり、遺跡周辺の土地利用はこの時期幅の中におさまり、比較的限定的なものであると推定される。

以上のように、調査区域の南東側では縄文時代の遺構・遺物が確認されているが、北西側ではほとんど確認されておらず、全く様相が異なっている。各試掘坑で確認された礫層の標高を比較してみると、調査区域の南東側付近（試掘坑 M3・M4 周辺）では 243.10 ～ 244.10 m、中央付近（試掘坑 F9・H11・H7・K4 周辺）では、244.90 ～ 245.00 m、北西側付近（試掘坑 B15・試掘坑１周辺）では 244.00 ～ 244.10 mである。このように、礫層は調査区域の中央付近で最も高くなっており、概ね南東および北西方向に緩やかに傾斜していることがわかる。上記した縄文時代の遺物包含層は、調査区域中央付近の礫層の高まりより南側に堆積する一方、北側には、次項で述べるように弥生～古墳時代の遺物包含層が堆積している。このことから、この礫層の高まりを挟んで南北で遺物包含層の形成過程が異なっていることが窺える。

弥生～古墳時代の様相

垣ノ内遺跡が所在する脊振山間部では縄文時代と比較して、弥生～古墳時代の遺跡数が極端に少なく、佐賀平野や唐津平野などの平野部・沿岸部の状況とは全く異なる様相を呈している。脊振山間部における弥生～古墳時代の遺跡の内容は、これまでほとんど知られておらず、佐賀市富士町内では、相尾遺跡をはじめ数遺跡において遺物が散見される程度であった。

しかし、近年の嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財発掘調査によって数は少ないが、弥生～古墳時代の遺構・遺物が確認されている。西畑瀬遺跡２区では弥生時代中期の土器埋納遺構２基が、６区では後期の小型甕棺墓１基や前期～中期の土器、１点ではあるが石包丁（磨製穂摘具）も出土している。また、同１区では古墳時代中期の土器埋納遺構１基と弥生時代前期の土器、古墳時代前期初頭の甕や前期の土師器も出土している。さらに、東畑瀬遺跡１区では弥生時代前期の竪穴住居とみられる遺構や土坑、大野遺跡３区では、古墳時代の土坑が検出されている。

このうち、垣ノ内遺跡と近接している西畑瀬遺跡では弥生時代前期前半～後期前半の遺物が出土しており、前期のものでは、前期前半の板付Ⅱａ式併行期と考えられる壺と甕が出土している。中期のものには、中期前葉、中期中頃と考えられる甕がある。また、後期の土器は後期前半の甕（SJ6005 棺体）があるが、これに続く後期中頃～後半の資料は出土していない。また、西畑瀬遺跡では古墳時代の土師器の甕と高杯の杯部２個体を小穴に埋納した土器埋納遺構が検出され、この遺構は、出土した甕から古墳時代中期のものと考えられている（佐賀県教委

2008）。

垣ノ内遺跡では、弥生時代の遺構は確認されなかったが、古墳時代前期と考えられる土器埋納遺構２基のほか、約 330 点の弥生土器・土師器が出土した。これらの土器を時期順に概観すると、弥生時代前期の土器はみられず、中期以降の土器が出土している。中期のものとしては、中期前半の甕（29）、中期中頃の甕（30）、中期中頃～後半（31）の壺があり、中期～後期の時期幅をもつものとしては、コの字状の突帯がつく壺の胴部（32）がある。後期のものとしては、後期前半の甕（33・34・35）、後期後半の長胴甕（40）、後期後半～末の壺の底部（39）がある。古墳時代初頭前後のものには、甕の口縁部（42・43・44）、短頸壺（41）があり、古墳時代前期の甕（27・28・45）もある。このように、垣ノ内遺跡で出土した弥生土器・土師器は、弥生時代中期前半から古墳時代前期までの時期幅をもつものである。

垣ノ内遺跡と西畑瀬遺跡を比較してみると、両遺跡は嘉瀬川右岸の河岸段丘上に立地し、ともに土器埋納遺構が検出され、遺跡の消長も概ね同じである。また、垣ノ内遺跡では一時期あたりの遺物数が少なく、遺構もほとんど検出されていないことから、土地利用のあり方は断続的であったとみられ、定住的な集落とは考えにくく、このような状況は西畑瀬遺跡でも同様であるとみられる。両者は同じような性格をもった遺跡であると考えられ、物資の獲得などの際の一時的な野営地、あるいは佐賀平野と唐津平野・福岡平野を結ぶ交通路上の中継地等といったような位置づけが想定されよう。

中世～近世の様相

垣ノ内遺跡では、中世以降の遺構として石列（SX3002）が検出された。石列の時期の詳細や性格は不明であるが、この石列より南側では各層が順調に堆積しており、安定した土地であったと考えられる一方、石列より北側では、南側に比べ一段低くなっていることや水分を比較的多く含むことなどから、水の影響を受けやすい不安定な場所であったことが窺える。このように、石列を境にして土層の堆積状況等が異なっており、石列は何らかの区画を意図して構築されたものであると推測される。また、調査区の大部分で中世の遺物包含層を確認した。この遺物包含層からは、龍泉窯系青磁碗、景徳鎮窯系青花碗・白磁皿、漳州窯系青花碗、土師器杯・小皿、東播系須恵器捏鉢、瓦質土器鍋・茶釜、滑石製石鍋等が出土している。これらは、13 ～ 14 世紀代、17 ～ 18 世紀代の遺物がある程度みられるが、主体は 15 ～ 16 世紀代の遺物である。

垣ノ内遺跡に近接する西畑瀬遺跡では、古代・中世の集落が確認されている（佐賀県教委 2007）。報告によれば、古代の集落は平安時代前半期の９世紀後半～ 10 世紀代まで遡ることが確認されているが、先行する古墳時代後期～奈良時代までの遺構・遺物は、周辺も含めて全く確認されていない。この周辺の開発は、平安時代に至って開始されたと考えられ、その後、西畑瀬遺跡では集落の中心となる場所を変えながら、平安時代末期の 11 世紀後半～12 世紀前半代から 14 世紀後半頃までは継続し、15 世紀には廃絶または調査区外に移動したと推定されている。

垣ノ内遺跡では、平安時代に遡る遺物はみられないが、中世以降の石列が検出されたこと、中世の遺物包含層が調査区のほぼ全域に分布していることから、西畑瀬遺跡で確認された集落と何らかの関連をもった場所であったことが推察されよう。さらに、垣ノ内遺跡では、西畑瀬遺跡で確認されていない中世後期の遺物が出土することや、上述したような中世以降（近世のものである可能性が高い）と考えられる石列が検出されること等、垣ノ内遺跡を含めた西畑瀬地区周辺の中世～近世における集落の様相や土地利用のあり方を窺う上での手がかりを得ることができた。

注

１）水ノ江和同氏にご教示いただいた。

第３章　参考・引用文献

嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』富士町教育委員会
蒲原宏行（2003）「佐賀平野における弥生後期の土器編年」『佐賀県立博物館・美術館調査研究書第 27 集』佐賀県立博物館・美術館
佐賀県教育委員会（2003）『梅白遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 154 集
佐賀県教育委員会（2006）『大江前遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 167 集
佐賀県教育委員会（2007）『東畑瀬遺跡１・大野遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 170 集
佐賀県教育委員会（2008）『西畑瀬遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 176 集
富士町教育委員会（2003）『中原遺跡１区』富士町文化財調査報告書第３集
水ノ江和同（1998）「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器』九州縄文研究会
諸富町教育委員会（1989）『土師本村遺跡』諸富町文化財調査報告書第７集

第４章　西畑瀬遺跡８・９区

第４章　西畑瀬遺跡８・９区

１　西畑瀬遺跡８・９区の概要

西畑瀬遺跡は、佐賀市富士町大字畑瀬字前田・堂ノ下・中道・中田・上の山・苣木に所在する（図 22）。

西畑瀬地区は、嘉瀬川中流域の右岸に位置し、ダム建設に伴い全戸移転するまで河岸段丘を臨む山麓部一帯に集落が展開していた。当地区は嘉瀬川流域の中では比較的広い平坦地があり、日当りも良好である。「畑瀬」は暦応２（1339）年４月 25 日石志定阿譲状案（石志氏家文書）に「安冨庄内畑瀬村、同村内火桶」とあるのが史料上の初見である。嘉瀬川を挟んだ対岸には東畑瀬地区があり、東西の畑瀬地区は、藩政期には西畑瀬が小城鍋島家（小城支藩）領、東畑瀬が佐賀本藩領に属し、昭和 31（1956）年に旧富士村として合併するまで小城郡南山村と佐賀郡小関村に分かれていた。

西畑瀬遺跡では、嘉瀬川ダム建設事業に伴いこれまでに１～９区の発掘調査を実施した。上層に中世を主体とする遺構検出面があり、その下層が縄文時代の遺物包含層となり、包含層中から遺構が検出されている。上層は古代後期～中世前期の集落跡を中心として、他に脊振山間部では比較的まとまって弥生～古墳時代の遺構・遺物が確認されている。下層では、縄文時代早期中葉～晩期末に至る長期間の遺構・遺物が多数出土しており、縄文時代の代表的な集落であったことが判明する。特に、5N 区では鬼界アカホヤテフラを含む層を鍵層として、その上下層で遺構・遺物が確認されている。

今回報告する８・９区は字前田・中田の範囲で、遺跡の北東部にあたり、主に水田として利用されていた嘉瀬川に面する標高約 240 ～ 243 ｍの河岸段丘上に位置する（図 23）。９区は調査年度が異なるため、南側を 9A 区、北側を 9B 区とした。これまでの調査と同様、上層で中世前期を中心とした集落跡、下層で縄文時代の集落跡を確認し、弥生・古墳時代の遺物も少量ではあるが出土した。

縄文時代では、調査範囲のほぼ全域に遺物包含層が認められるが、嘉瀬川に近くなるほど密度が薄くなる傾向がみられる。遺構としては、８区で土坑、9A 区で集石遺構、配石土坑などを検出したが、9B 区では確認できなかった。出土土器からすると、８区は前期、9A 区南西部は後期初頭の中津・阿高式系、南東部は後期中葉～後葉の太郎迫式系～御領式系、9B 区南部は中期初頭～中葉の船元・春日式系の時期の遺物が主体を占めるものと考えられる。石器組成は、定形石器の中で石鏃が多いという西畑瀬遺跡の他の地区と類似した様相を示し、竪穴住居が検出されていないことと合わせて、一時的に居住する狩猟の拠点であったと考えられる。ただ、出土点数でみると、９区で土器の比率が石器を大きく上回る状況がみられ、円盤形の土製品・石製品が出土していることから、他の地区とはやや異なる性格の集落であった可能性がある。

弥生・古墳時代では、遺物包含層上位などから弥生時代は前期・中期初頭～前葉の土器、古墳時代は前期とみられる土師器が出土した。脊振山間部では遺構・遺物が少なく不明な点が多いこの時代に、新たな資料を加えることになった。

中世では、８・9A 区上層で小穴を検出したが、掘立柱建物や柵列などは認められなかった。遺物の出土量も多くはないが、中世前期のものが主体を占めることから、４・5N 区を中心とした 13 世紀～ 14 世紀前葉の集落縁辺部の様相を示しているものと考えられる。

このほか、図示していないが、８区から旧石器時代終末～縄文時代草創期の細石刃石核が出土しており、周辺にこの時期の遺跡が存在したことをうかがわせる。また、19 世紀代を中心とする近世の遺物も出土しており、9B 区では 16 世紀末～ 17 世紀代の肥前陶器がみられる。

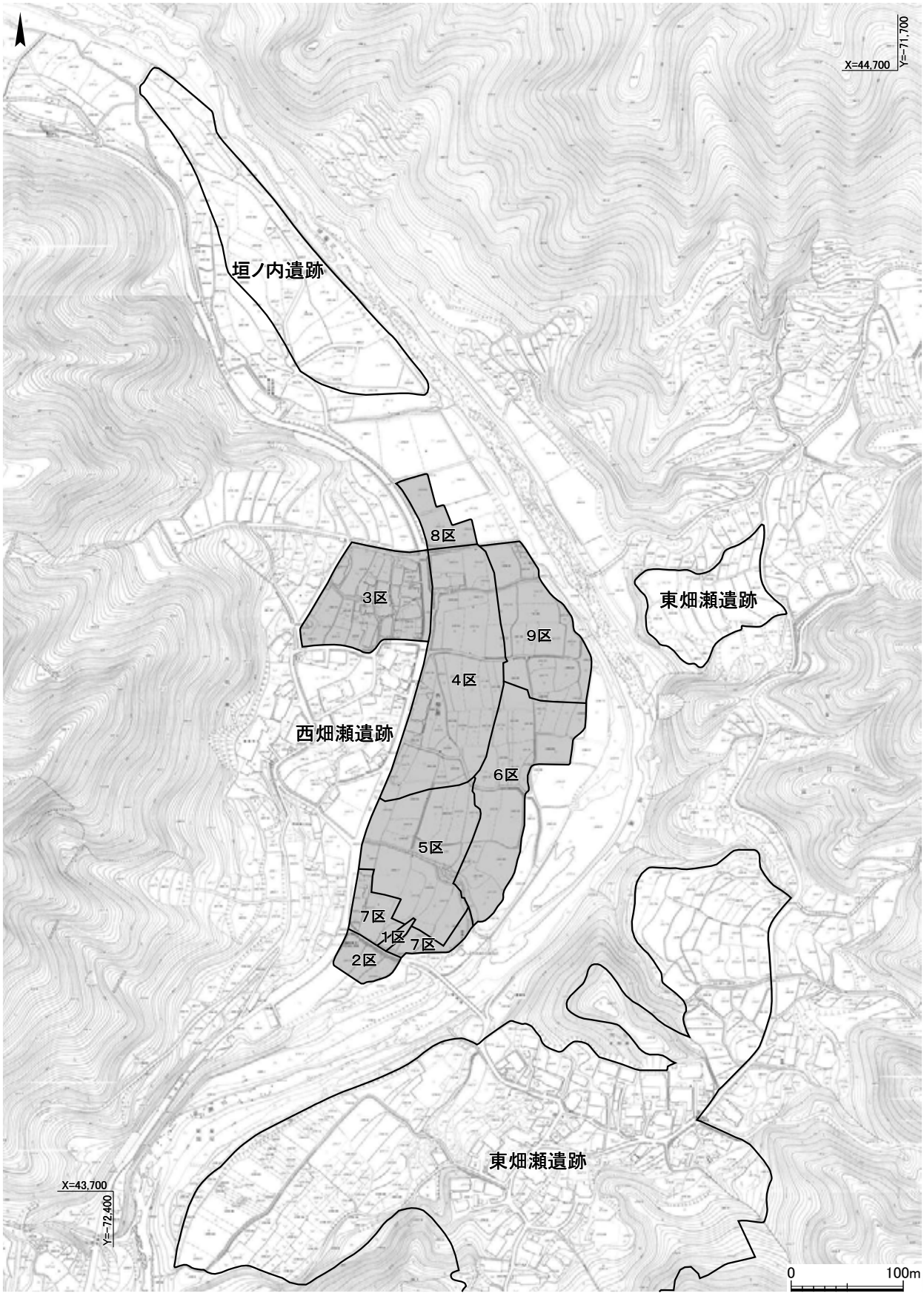


図 22　西畑瀬遺跡周辺の地形（1/5,000）

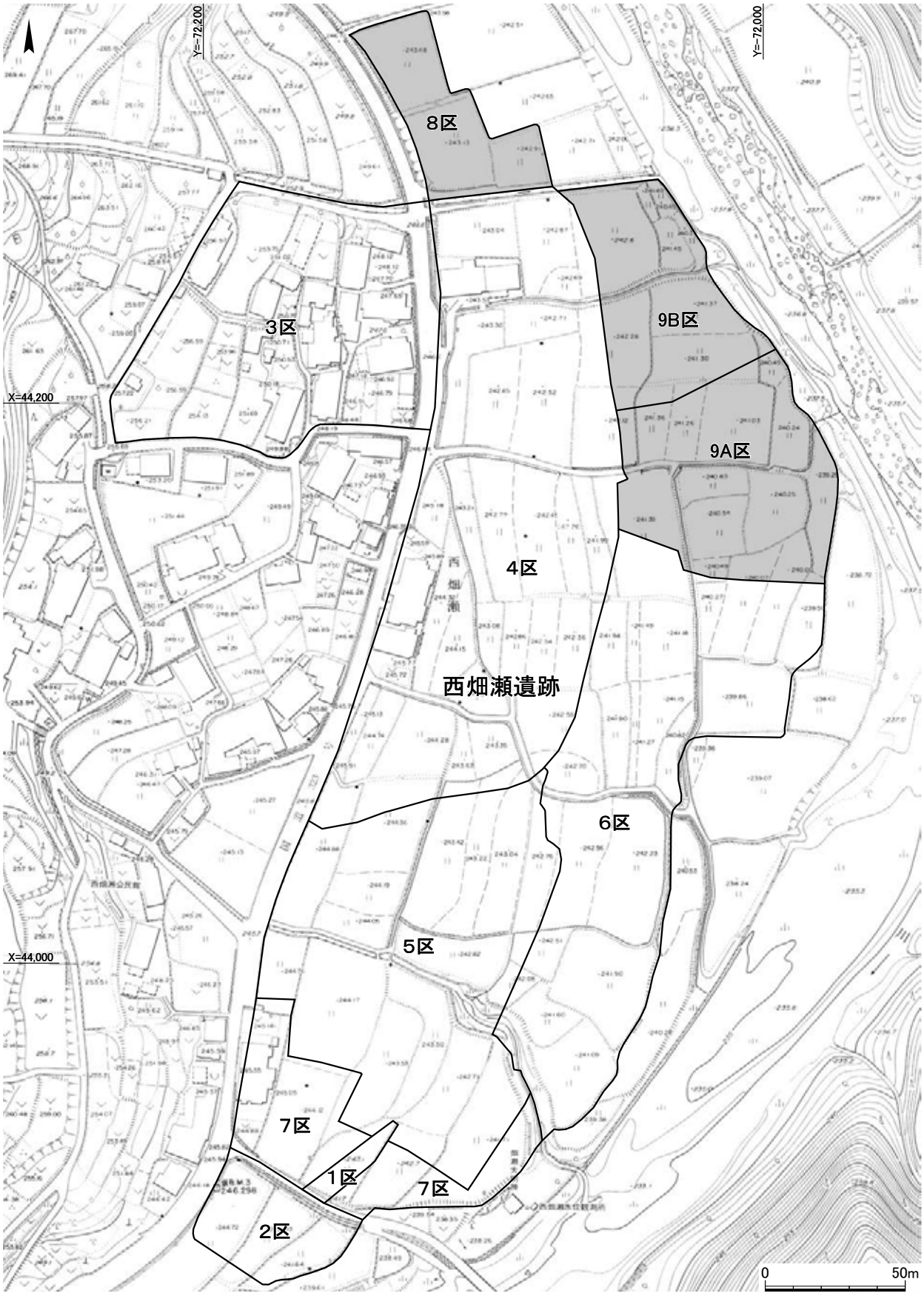


図 23　西畑瀬遺跡８・９区の位置（1/2,000）

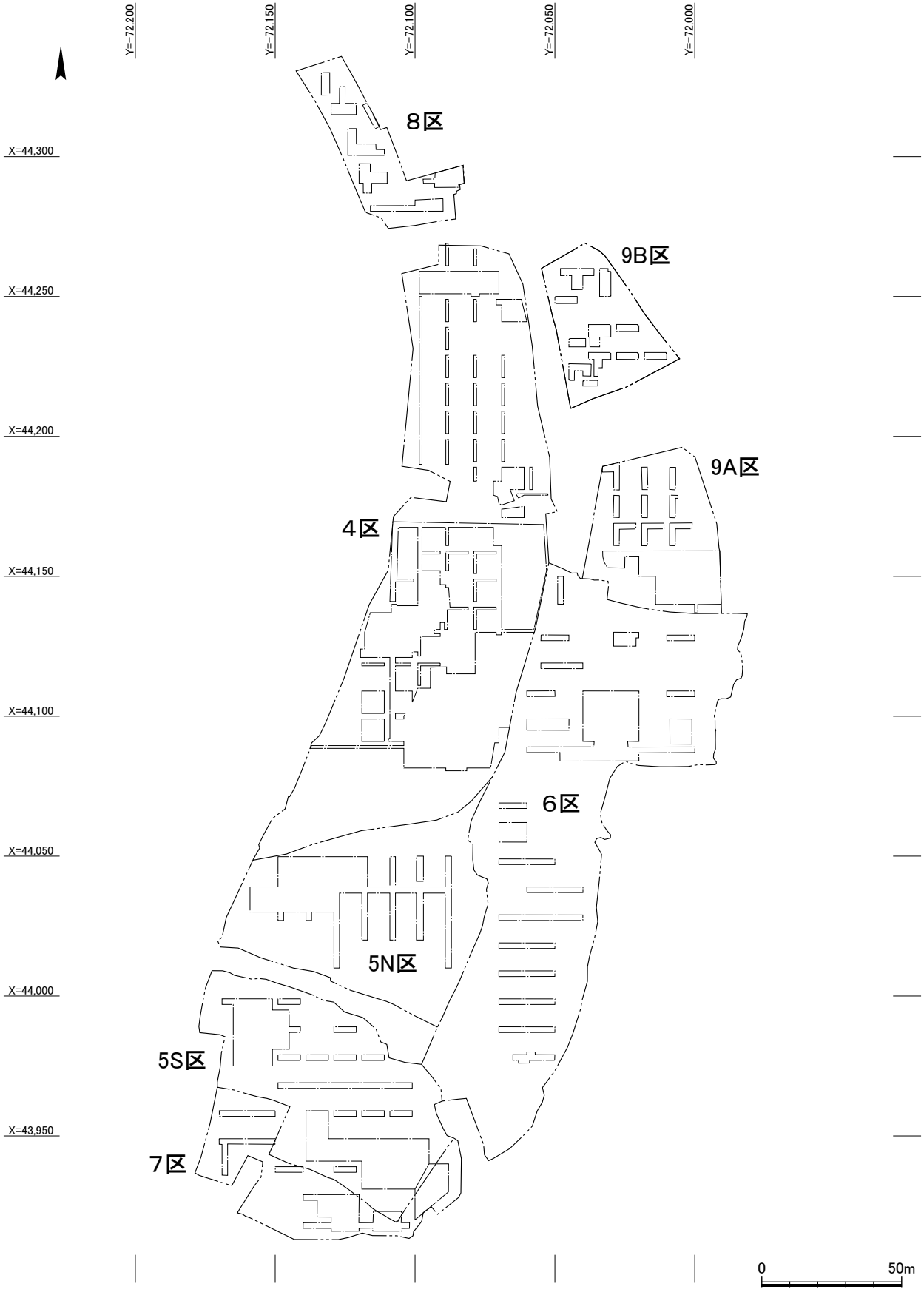


図 24　西畑瀬遺跡４～９区の調査範囲（1/2,000）

２　縄文時代の遺構と遺物

８・９区下層では、縄文時代の遺構と遺物包含層を確認し、土器・石器などが出土した。中世の遺構検出面以下が縄文時代の遺物包含層であるが、層の厚さはほとんどの部分で薄い。9A 区南東部に分布する後期後葉を中心とする遺物が主体を占め、他に出土量は少ないが、８区で前期、9A 区南西部で後期初頭、9B 区で早期中葉、前期後葉、中期前葉～中葉、後期中葉と考えられる遺物がある。

１）８区縄文時代の遺構と遺物

８区では、縄文時代の遺構と遺物包含層を確認し、遺構や包含層から土器・石器などが出土した（図 25）。遺物包含層は調査区ほぼ全域に広がっており、灰色系砂（７層）と黄褐色系土（８層）からなるが、遺物の密度は薄い。試掘坑７の土層（図 26）を調査区全体の基本土層として遺物を取り上げている。

遺構

縄文時代の遺構として、土坑２基を検出した。ともに掘り込みの浅い土坑で、縄文土器が出土しているが、小片のため詳細な時期は不明である。埋土に焼土などは含まれていなかった。

SK8001（図 26）

８区東部の N42 区画に位置し、長軸 1.95 m、短軸 1.34 m、深さ 0.22 mで、平面は不整楕円形である。埋土は小礫を含む暗褐色砂質土で、底面は西側に向かって緩やかに傾斜している。遺物は縄文土器片が出土したが、小片であり図示していない。

SK8002（図 26）

８区東部の M42 区画に位置し、長軸 1.58 m、短軸 1.28 m、深さ 0.17 mで、平面は不整形である。埋土は暗褐色砂質土で、底面は北に向かって階段状に深くなっている。遺物は縄文土器片が出土したが、小片であり図示していない。

遺物

８区では、遺物包含層や遺構から土器・石器が出土したが、遺物の分布密度は薄い（図 25）。出土土器から前期を中心とした遺物と考えられる。

縄文土器（図 29）

土器は K42 区画を中心に出土しており、79 点の出土位置を３次元で計測して取り上げた。K42 区画では轟式系、条痕文土器、J44 区画では曽畑式系土器がみられる（図 27）。また、小片のため図示していないが、中世の遺物包含層から押型文土器が数点出土している。

１は轟式系で、口縁外面に低い２条の突帯が巡り、口縁端部は面取りされ、浅い刻みが施される。２は胎土に滑石を多量に含む曽畑式系で、外面に沈線文が施される。３は外面に縦位の貝殻条痕が施される。

石器（図 29）

石器は J44 区画を中心に出土しており、105 点の出土位置を３次元で計測して取り上げた。すべて剥片石器類で、磨製石器・礫石器は出土していない（図 28）。

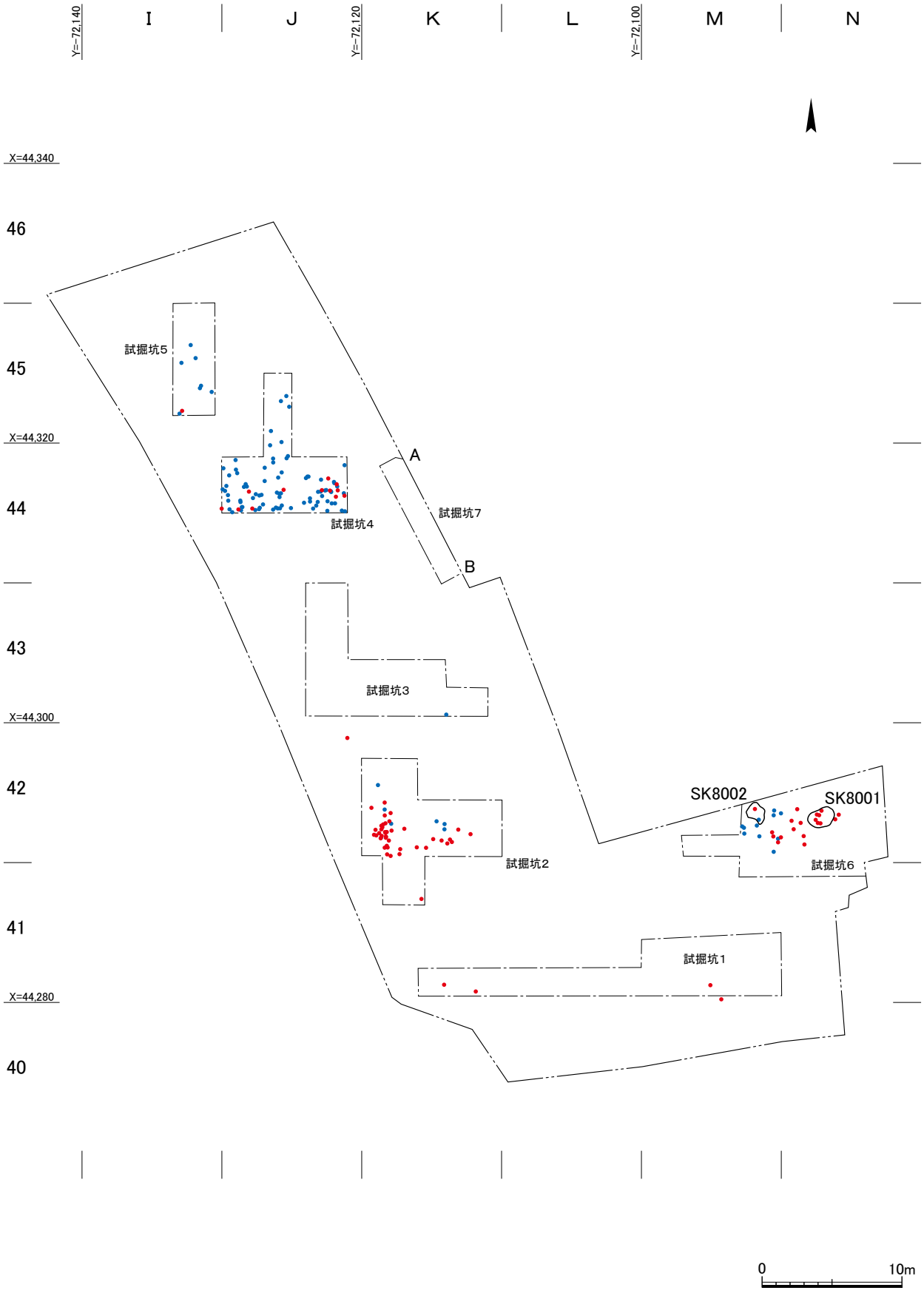


図 25　８区縄文時代遺構・遺物の平面分布（1/400）

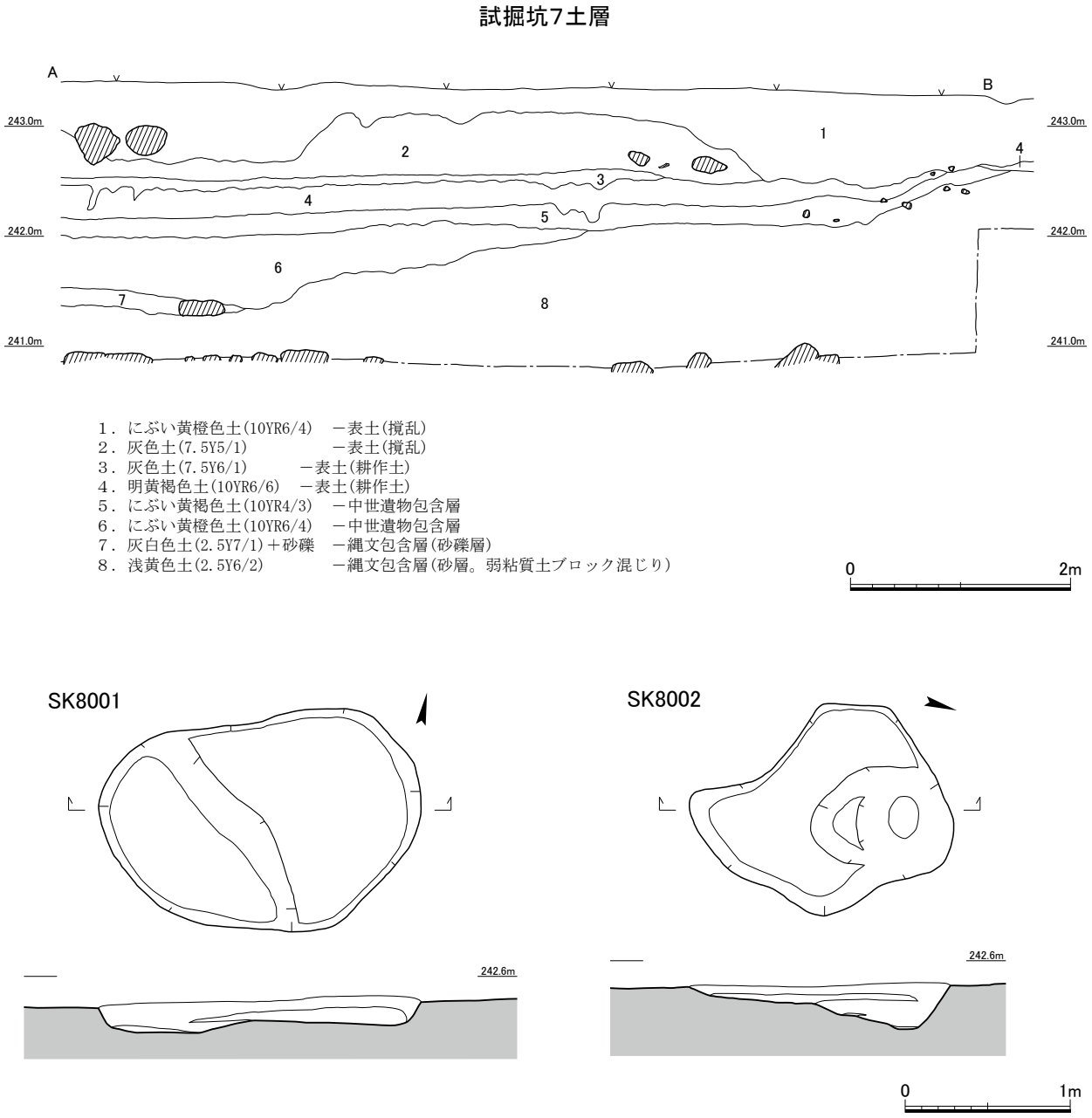


図 26　８区の土層（1/60）、遺構（1/40）

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 11 点（うち黒曜岩３点、無斑晶質安山岩８点）、石錐１点（黒曜岩）、削器が６点（無斑晶質安山岩）、二次加工ある剥片が４点（うち黒曜岩３点、無斑晶質安山岩１点）、剥片が 83 点（うち黒曜岩 24 点、無斑晶質安山岩 59 点）で、定形石器の比率は２割に満たない。剥片石器に用いられた石材は、黒曜岩が約３割、無斑晶質安山岩が約７割である。

４～ 13 は石鏃である。４は小型の剥片鏃とみられる。５～ 10 は平面が二等辺三角形で、基部が凹基のもので、両面に丁寧な調整剥離が施される。11 は平面が細長い石槍形のもので、基部は微凹基である。12・13 は製作途中で放棄された未製品と思われる。14 は黒曜岩製の石錐で、縁部にのみ調整加工を施して錐部を作り出している。15 は無斑晶質安山岩製の削器で、片面から調整加工を施して刃部を作出している。

図 27　8区縄文時代土器の平面分布（1/400）

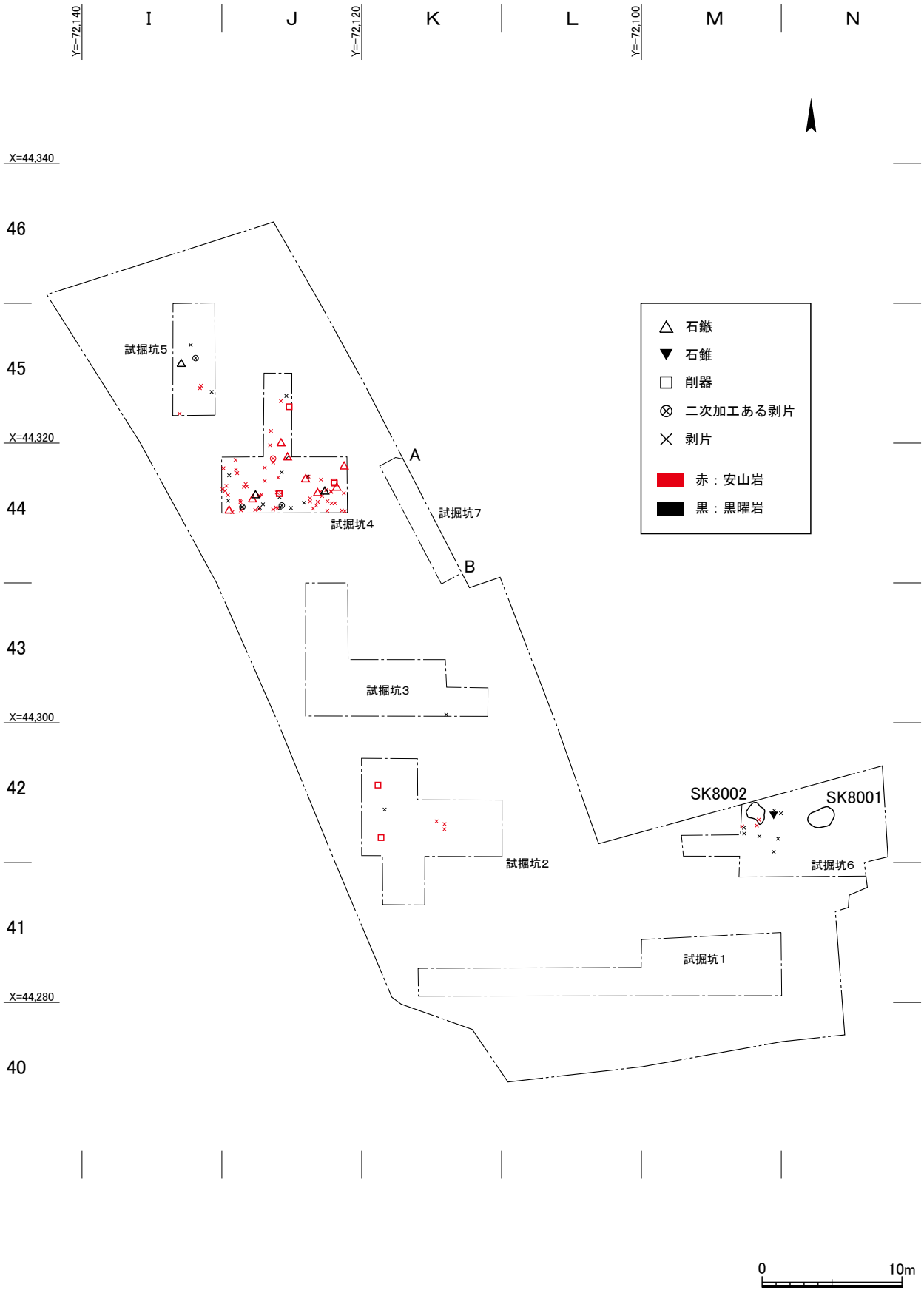


図 28　８区縄文時代石器の平面分布（1/400）

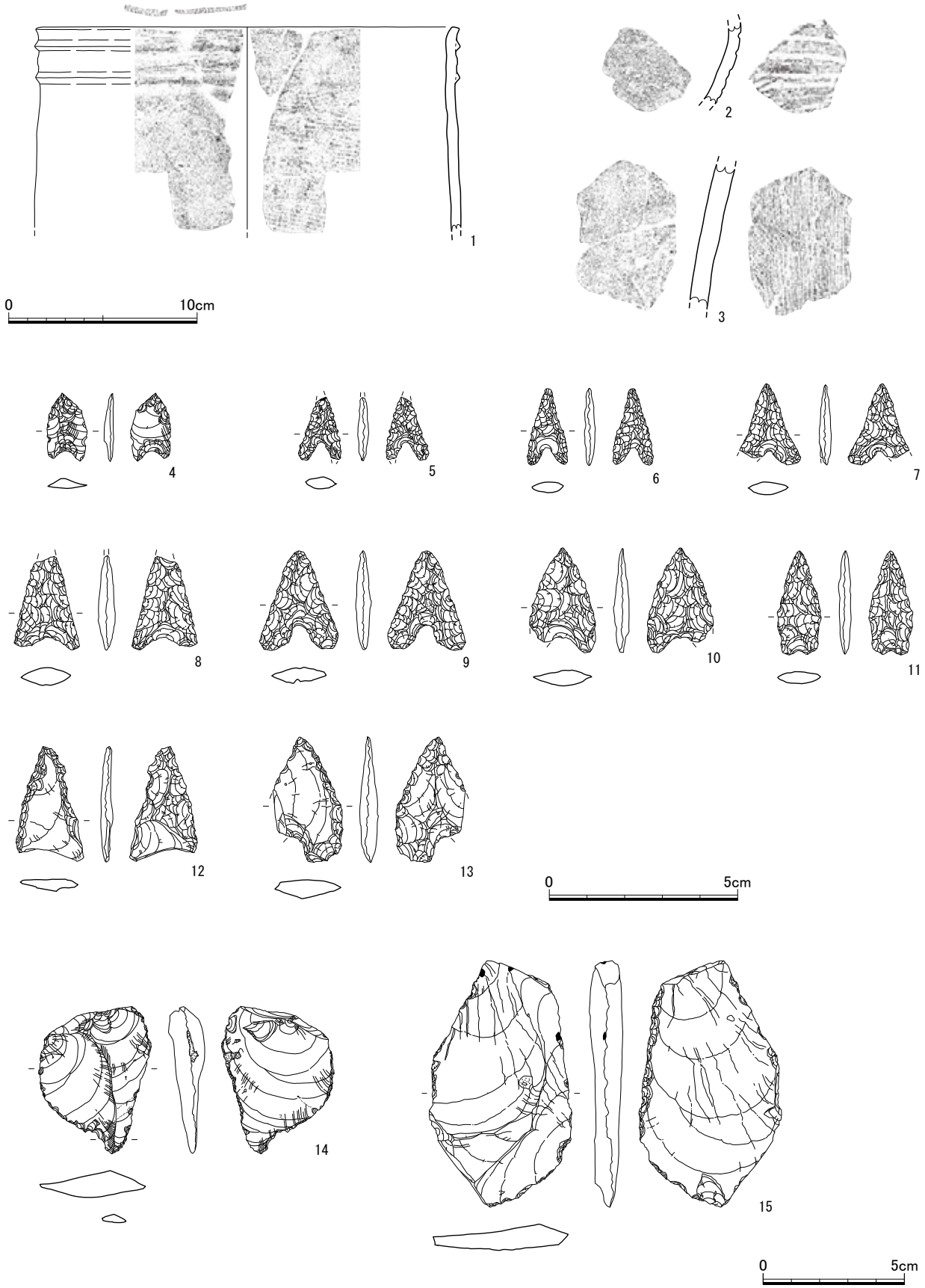


図 29　８区縄文時代の遺物（１～３は 1/3、４～ 13 は 2/3、14・15 は 1/2）

２）9A 区縄文時代の遺構と遺物

9A 区では、縄文時代の遺構と遺物包含層を確認し、土器・土製品・石器・石製品などが出土した。遺物包含層は調査区ほぼ全域に広がっているが、遺物の分布状況は粗密が顕著である。出土土器からみると、後期中葉～後葉前後のものが主体を占め、後期初頭が一定量あるが、それ以外の時期のものはほとんどみられない。西畑瀬遺跡の他の地区に比べ、土器の比率が高く、石器が少ない傾向が認められる。

遺構

縄文時代の遺構として、集石遺構１基、配石土坑１基を検出した（図 30）。このほか、残存状況が比較的良好な縄文土器３個体分を確認したが、明確な掘方を確認できなかったので、埋甕など遺構に伴うものであったかどうかは不明である。いずれも後期中葉～後葉を中心とする時期と考えられる。また、中世の遺構検出面で縄文土器が出土する土坑が３基検出されているが、確実に縄文時代のものであるとは断定できないので、報告していない。

SX9004（図 31）

9A 区北東側の V31 区画に位置する集石遺構である。径 0.8 mの範囲に礫が集中し、下部に長軸 0.93 m、短軸 0.92 m、深さ 0.24 mで平面が隅丸方形の掘り込みを検出した。総礫数は 18 点で、被熱による黒色化がみられるものがあるが、配置上での規則性はなく、埋土に炭化物や焼土が含まれていないことと合わせ、炉跡そのものではない可能性がある。礫の接合例が１例ある。周辺から遺物がほとんど出土していないため、時期は不明である。

SX9005（図 31）

9A 区南東側の V28 区画に位置する配石土坑である。長軸 2.27 m、短軸 1.83 m、深さ 0.24 mの平面が不整長方形の掘方で、土坑中央西寄りに扁平な石材を列状に２列配置している。遺物は縄文土器、石器が多数出土した。土器に御領式系（図 37-38・41）があり、後期後葉の土坑と考えられる。

SX9002（図 31）

9A 区ほぼ中央の V29 区画に位置し、半精製の浅鉢（図 38-51）と思われる底部を口縁部が上になるような状態で検出した。下部に掘方状のものが図化されているが、土器に伴うものであるかは不明である。

SX9003（図 31）

9A 区南東側の W29 区画に位置し、半精製の深鉢（図 38-52）を口縁部が北に向き横置されたような状態で検出した。掘方は確認できなかった。

SX9013（図 31）

9A 区中央北西寄りの U30 区画に位置し、半精製の深鉢（図 38-53）を倒置した状態で検出した。掘方は確認できなかったが、出土状況からすると、埋甕の可能性がある。

遺物

9A 区では、遺物包含層や遺構から土器・土製品・石器・石製品が出土したが、調査区南東部で遺物の分布密度が非常に高く、それ以外では比較的散漫である。出土土器から南東部は後期後葉、南西部は後期初頭を中心とした時期の遺物であるとみられる。

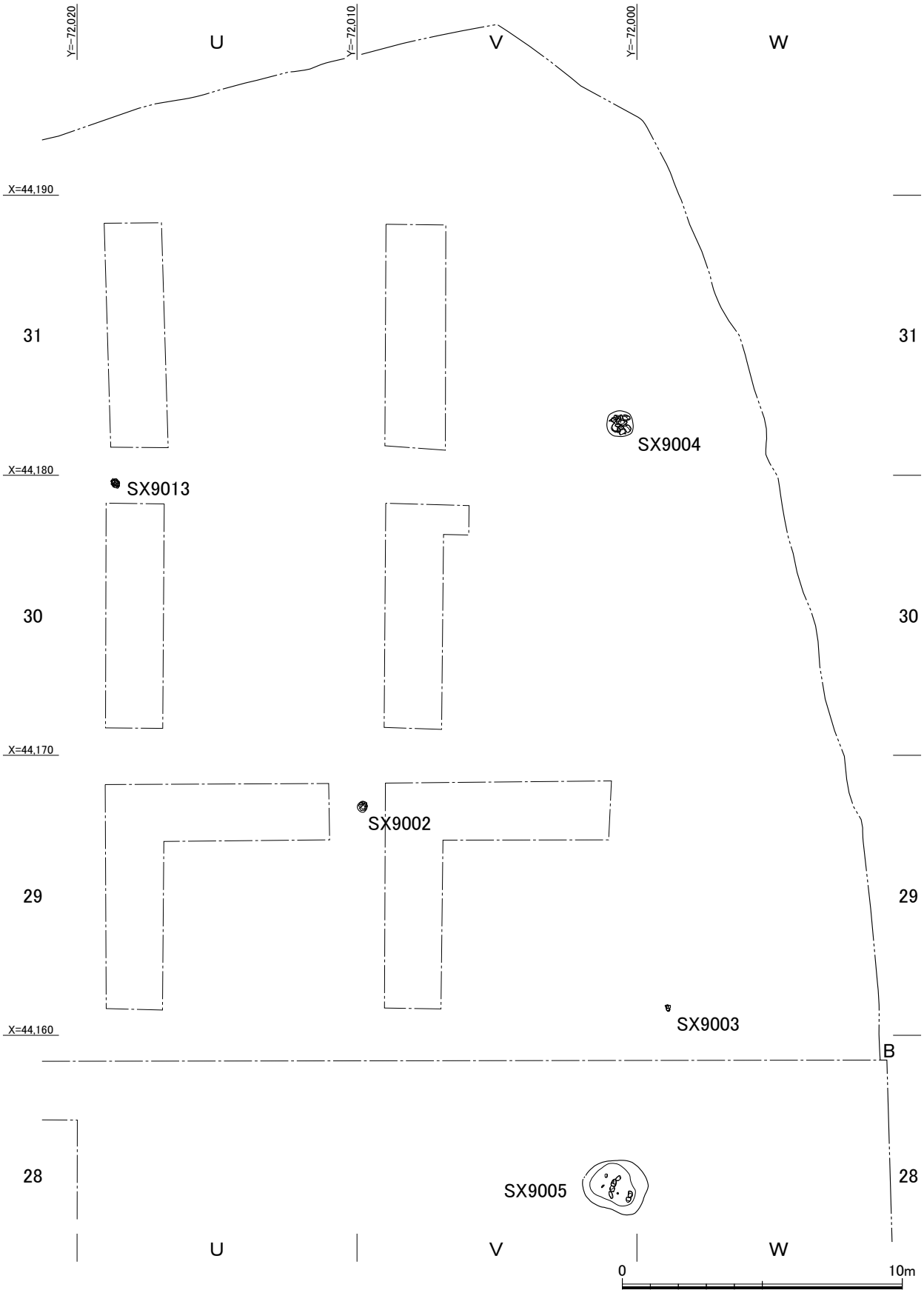


図 30　9A 区縄文時代遺構の分布（1/200）

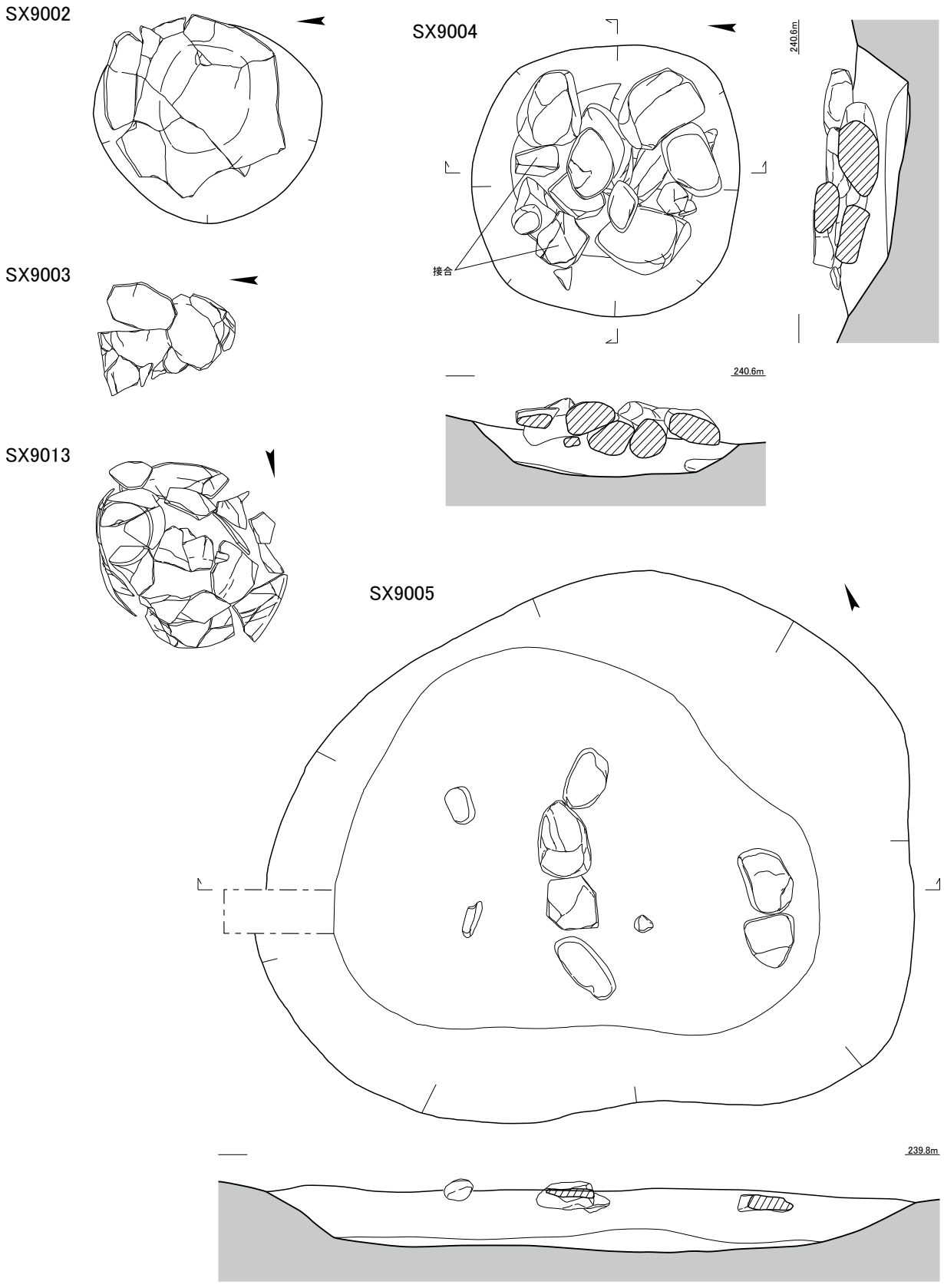


図 31　9A 区縄文時代の遺構（1/20）

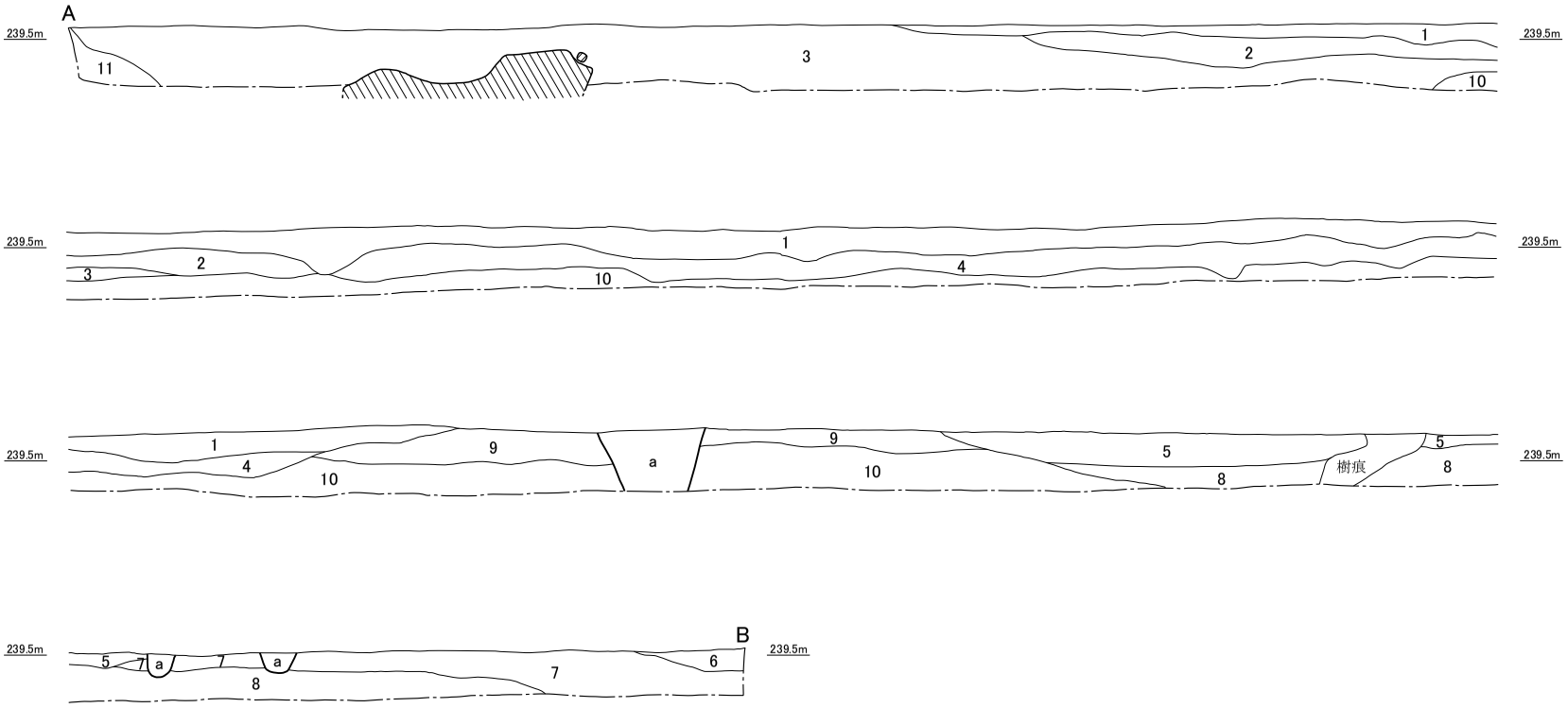


図32　9A区の土層（1/60）

a．上層の遺構埋土
1．灰黄色砂質土（2.5Y7/2）　粒子が細かく、よくしまる。縄文時代の遺物包含層。遺物の密度は東で高く、西で低い。
2．灰黄褐色砂質土（10YR6/2）　縄文時代の遺物包含層。遺物密度は１層より低い。
3．にぶい黄褐色粘質土（10YR5/4）　固くしまる。東側では砂質になる。縄文時代の遺物包含層。
4．オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/3）　１・２層より粒子が粗い。東側ほど粒子が粗くなる。縄文時代の遺物包含層。遺物の密度は１層より低い。
5．褐色砂質土（10YR4/4）　粒子が細かく、よくしまる。縄文時代の遺物包含層。遺物の密度は非常に高い。
6．にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）　遺物なし。
7．オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/3）　６層よりも粒子が粗い。よくしまる。縄文時代の遺物包含層。遺物の密度は非常に高い。
8．にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）　上層よりも粒子が粗く、しまりがない。遺物は少なく、上層からの混入である可能性がある。
9．黄灰色砂質土（2.5Y4/1）　しまりなし、径１～３mm程度の砂粒からなる。さらさらした砂層。遺物なし。
10．暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）　さらさらした砂層。遺物なし
11．灰黄褐色粘質土（10YR5/2）　礫層。地山か？

縄文土器（図 35 ～ 40）

土器は、10,449 点の出土位置を３次元で計測して取り上げた（図 33）。中期後葉～後期初頭、後期中葉～晩期前葉の遺物がみられるが、後期中葉～後葉が大部分を占め、後期初頭のものも一定量あるが、それ以外の時期は少ない。後期初頭のものが S28 区画、後期後葉が調査区南東部の V･W27 区画を中心に分布している（図 34）。なお、整理期間の都合で、数多く出土した粗製土器については主要なものだけを図示した。

16 は外面に連続刺突文と押引文が施される並木式系で、内面の器面調整は条痕である。胎土に滑石を含む。

17 ～ 19 は阿高式系で、17・18 の胎土には滑石を含む。17 は外面に凹線と三角形篦削文が施され、内面の器面調整は条痕である。18 の器面調整は外面が板状工具によるナデ、内面が条痕のちナデで、底面に鯨骨によると思われる圧痕がみられる。19 は口縁外面に雑な凹線が施され、器面調整はナデである。

20 ～ 22 は磨消縄文が施される中津式系で、内面の器面調整はナデを基本とする。20 は波状をなす口縁部で、口縁端部の一部は凹線状をなし、刺突文が施される。22 は強く内湾する器形で、J 字文などが施される。

23 は磨消縄文が施される北久根山式系とみられ、器面調整はミガキである。

24 ～ 32 は太郎迫式系の精製深鉢で、器面調整はミガキである。24 は口縁外面に２条の沈線文、口縁端部と屈曲部に縄文が施される。25 ～ 32 は横位の直線文と磨消縄文が施された胴部で、26・28・32 は屈曲部に連続刺突文が施される。25・26 は縄文を施したのち波状文が施されるが、27 は縄文が施されず、波状文のみである。28 には X 字状文がみられ、外面に付着した炭化物の放射性炭素年代を測定している。

33 ～ 35 は三万田式系の精製深鉢で、施された沈線文はいずれも凹線文化の傾向が強くなっており、器面調整はミガキである。

36 ～ 44 は口縁部に２条の沈線文が施された御領式系の精製土器であるが、37・39 は鳥井原式とした方がよいかもしれない。36・37 は鉢もしくは浅鉢で、37 の器面調整はミガキである。38 ～ 44 は深鉢で、器面調整は 39・43・44 がミガキ、それ以外はナデである。42 の外面に付着した炭化物の放射性炭素年代を測定している。

45･46 は御領式期以降で、晩期前葉までの精製土器と考えられる。45 は浅鉢で、口縁内面は玉縁状に段が付き、外面に沈線が１条巡り、器面調整はミガキである。46 は深鉢で、短く直立する口縁部には沈線などは施されず、器面調整は粗いミガキである。

47 ～ 50 は器面調整がミガキの精製浅鉢であるが、後期中葉～後葉のどの段階のものかの詳細は不明である。47 は胴部に沈線文が施される。48 は胴部の屈曲がなく直線的に開くもの、49 は胴部の屈曲が弱いもの、50 は胴部の屈曲が強い器形である。

51 ～ 53 は遺構番号を付して取り上げたもので、いずれもミガキが施されており、半精製土器と呼ぶべきものであろうか。51 は SX9002 とした浅鉢と思われる丸底の底部で、器面調整は外面が条痕、内面がミガキである。外面に付着した炭化物の放射性炭素年代を測定している。52 は SX9003 とした深鉢で、器面調整は外面が粗いミガキ、内面がナデである。53 は SX9013 とした深鉢で、倒立した状態で出土した。緩やかに外反する口縁部で、器面調整は外面が粗いミガキ、内面がナデである。54 も外面に粗いミガキが施された深鉢である。

55 ～ 66 は粗製深鉢で、器形は底部から直線的に立ち上がるものと胴部で屈曲するものの２種あるが、屈曲の程度や位置などは多様である。57 はわずかながら波状口縁をなしている可能性があり、60 は口縁端部の一部に、65 は口縁端部に刻みが施される。外面の器面調整は 55 ～ 63 がナデ、64 ～ 66 が条痕で、内面はナデである。

67・68 は精製土器の底部で、器面調整は底面を含めミガキである。69 ～ 71 は粗製土器の底部で、器面調整は 69 が外面条痕、内面ナデ、70 が内外面ナデ、71 が内外面条痕である。70 の底面には何らかの圧痕がみられ、71 の底面にも圧痕があるようだが、摩耗のため確実ではない。

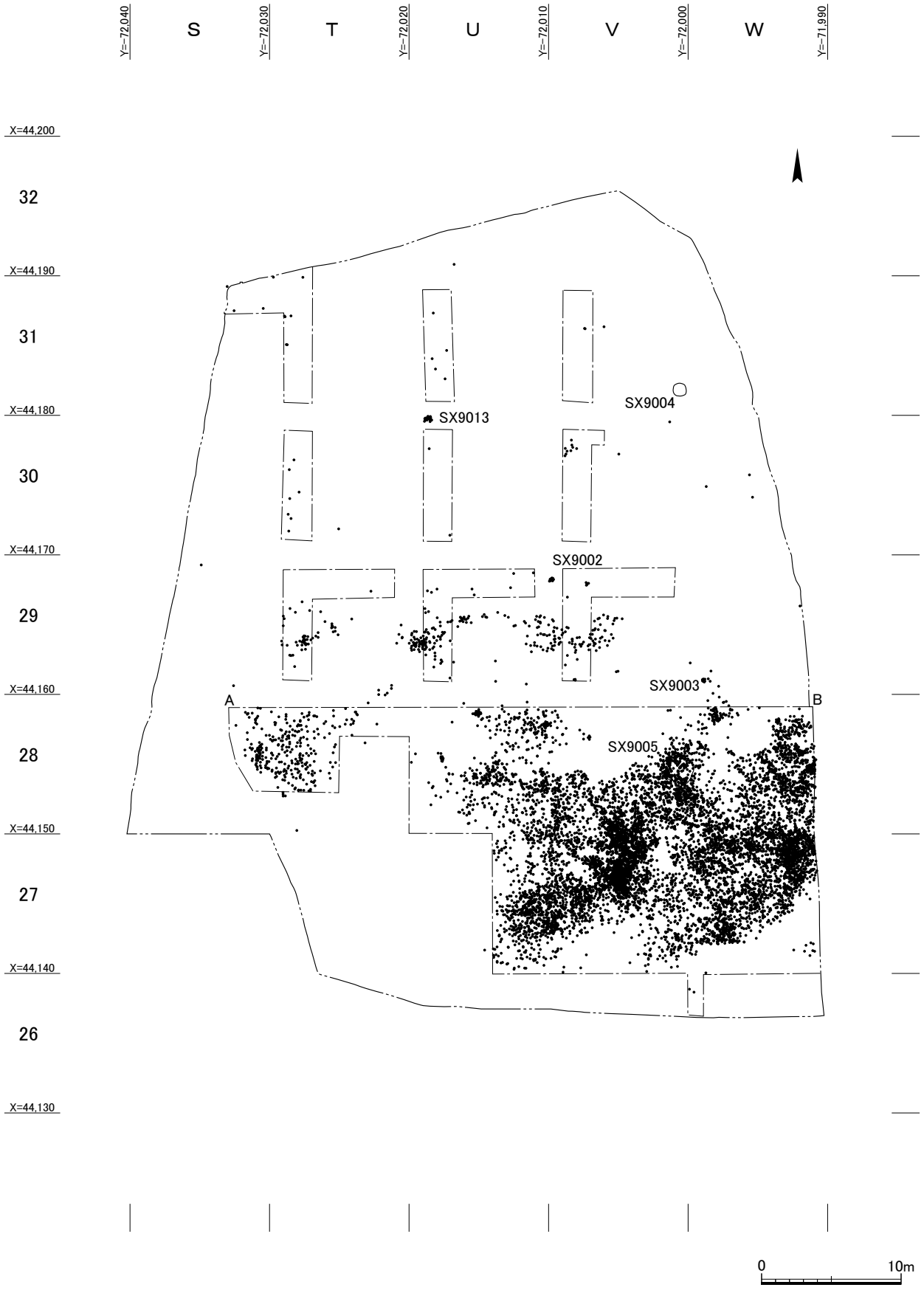


図 33　9A 区縄文時代土器の平面分布（1/400）

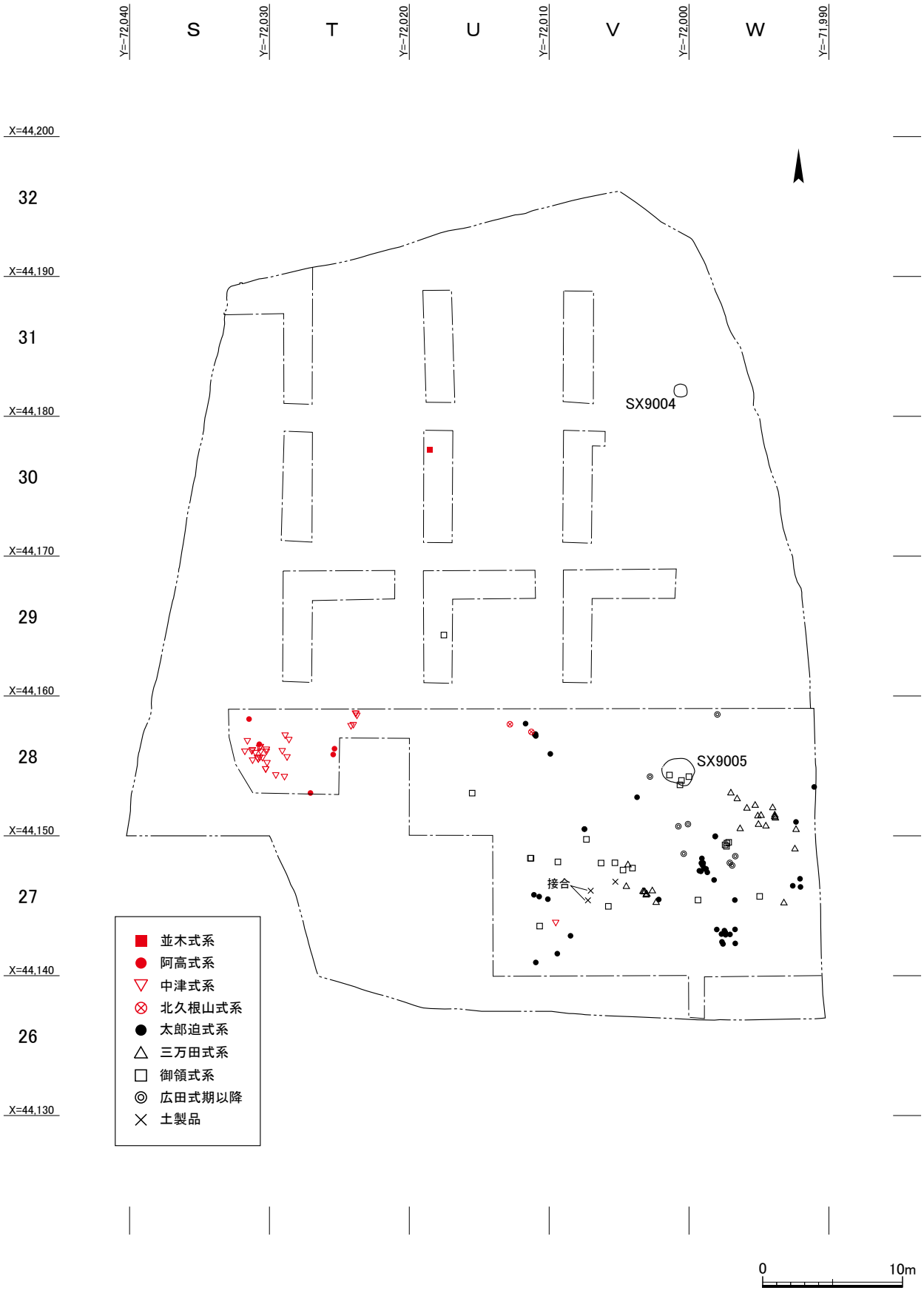


図 34　9A 区縄文時代土器型式別の平面分布（1/400）

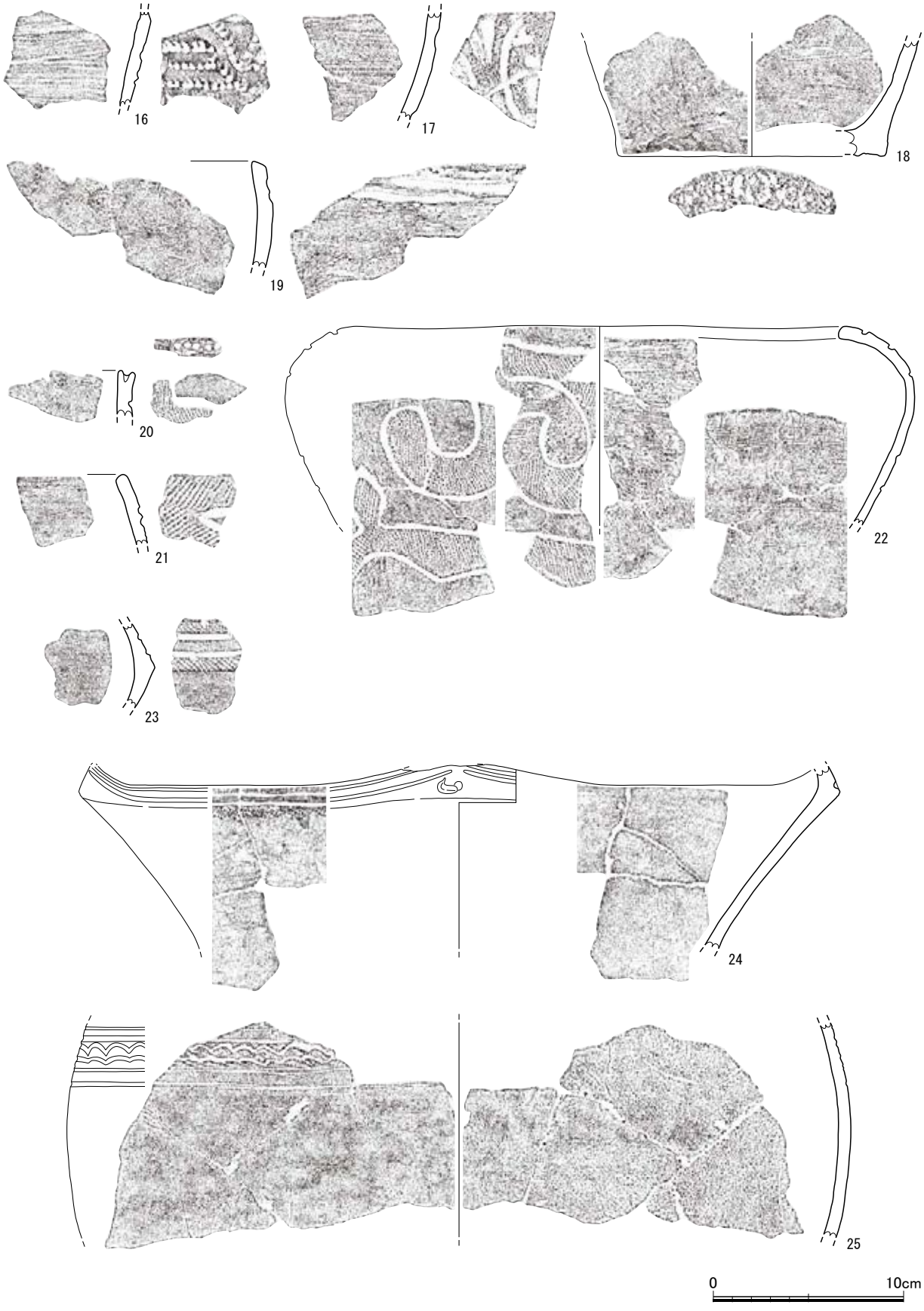


図 35　9A 区縄文時代の土器１（1/3）

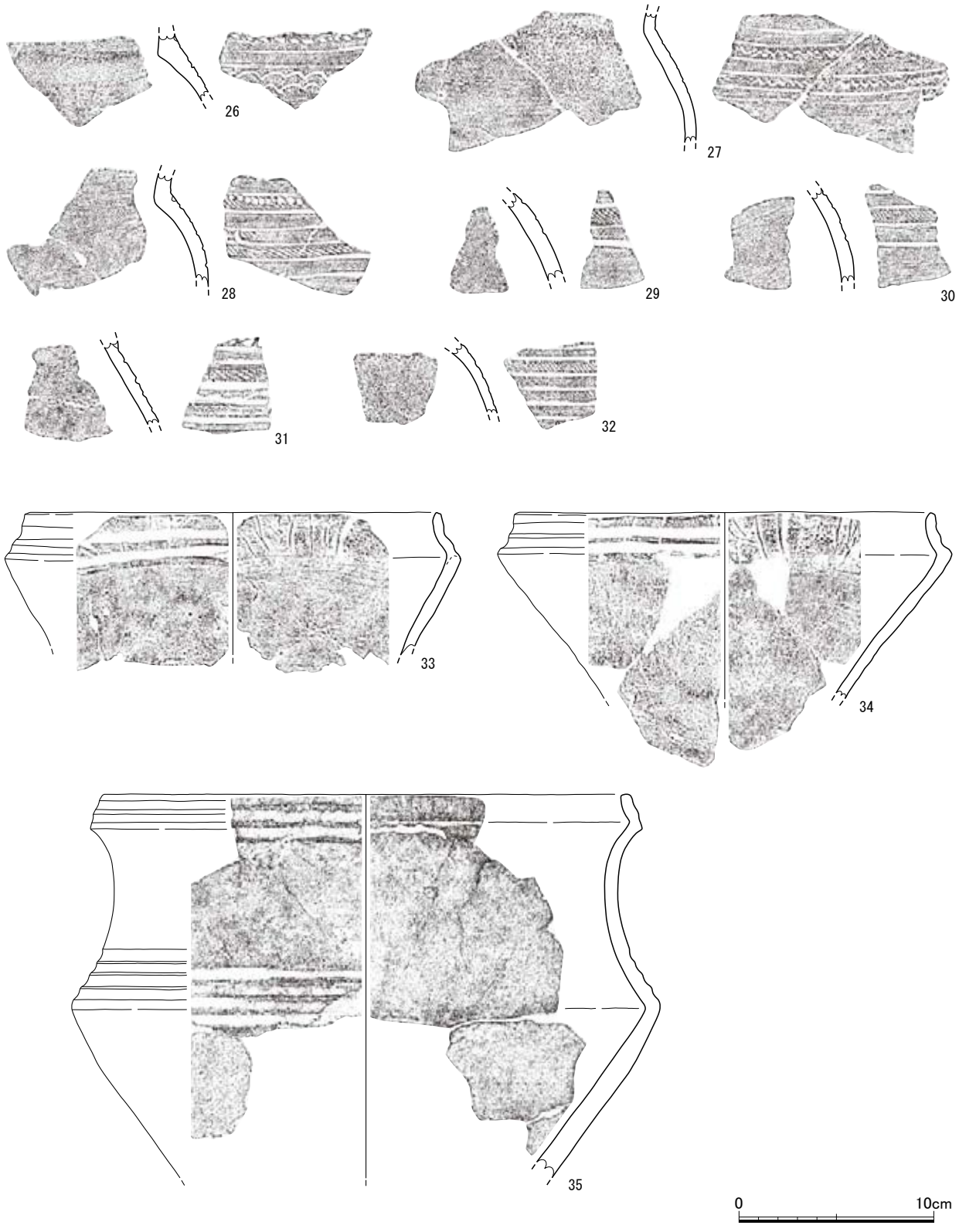


図 36　9A 区縄文時代の土器２（1/3）

図 37　9A 区縄文時代の土器３（1/3）

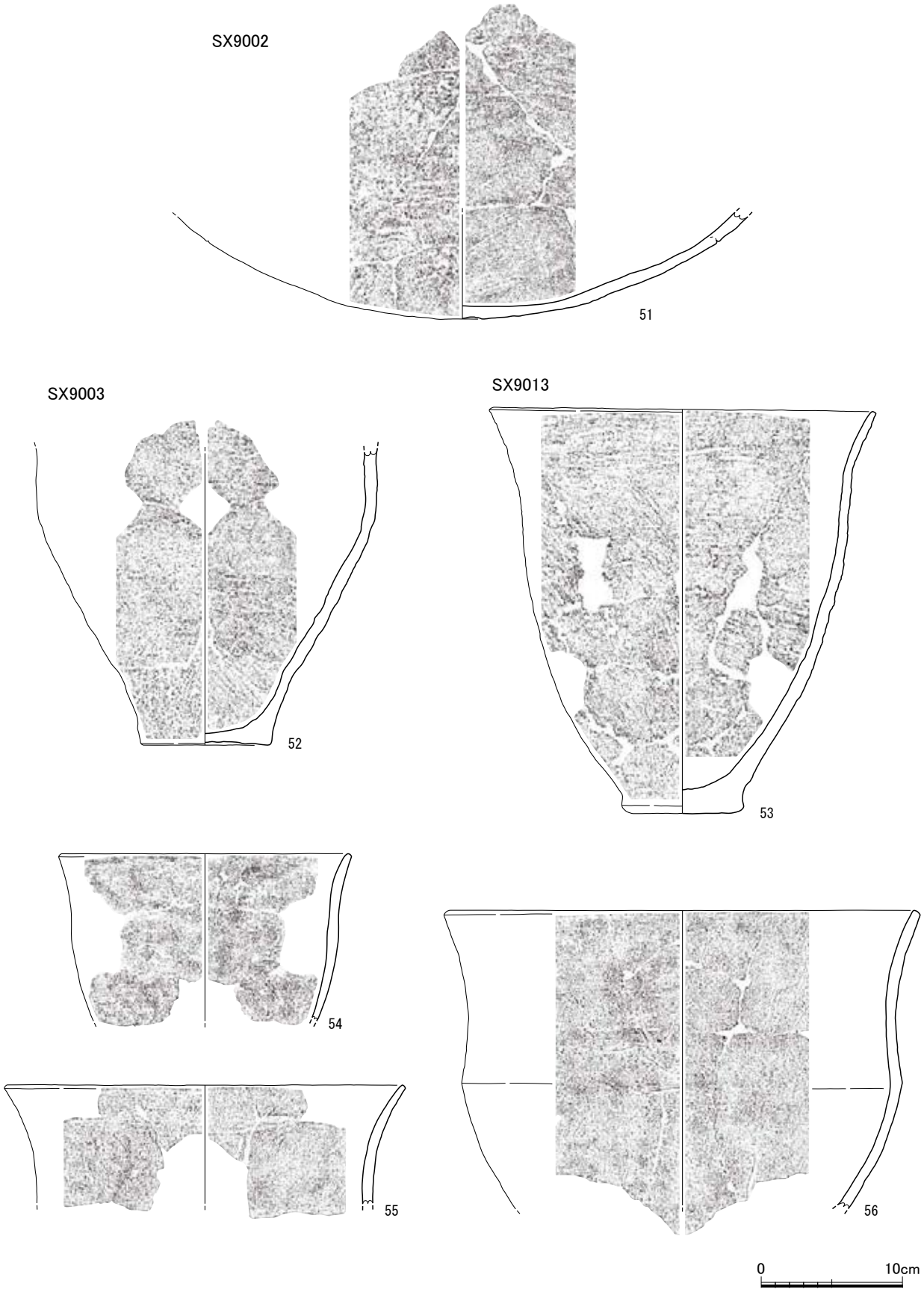


図 38　9A 区縄文時代の土器４（1/4）

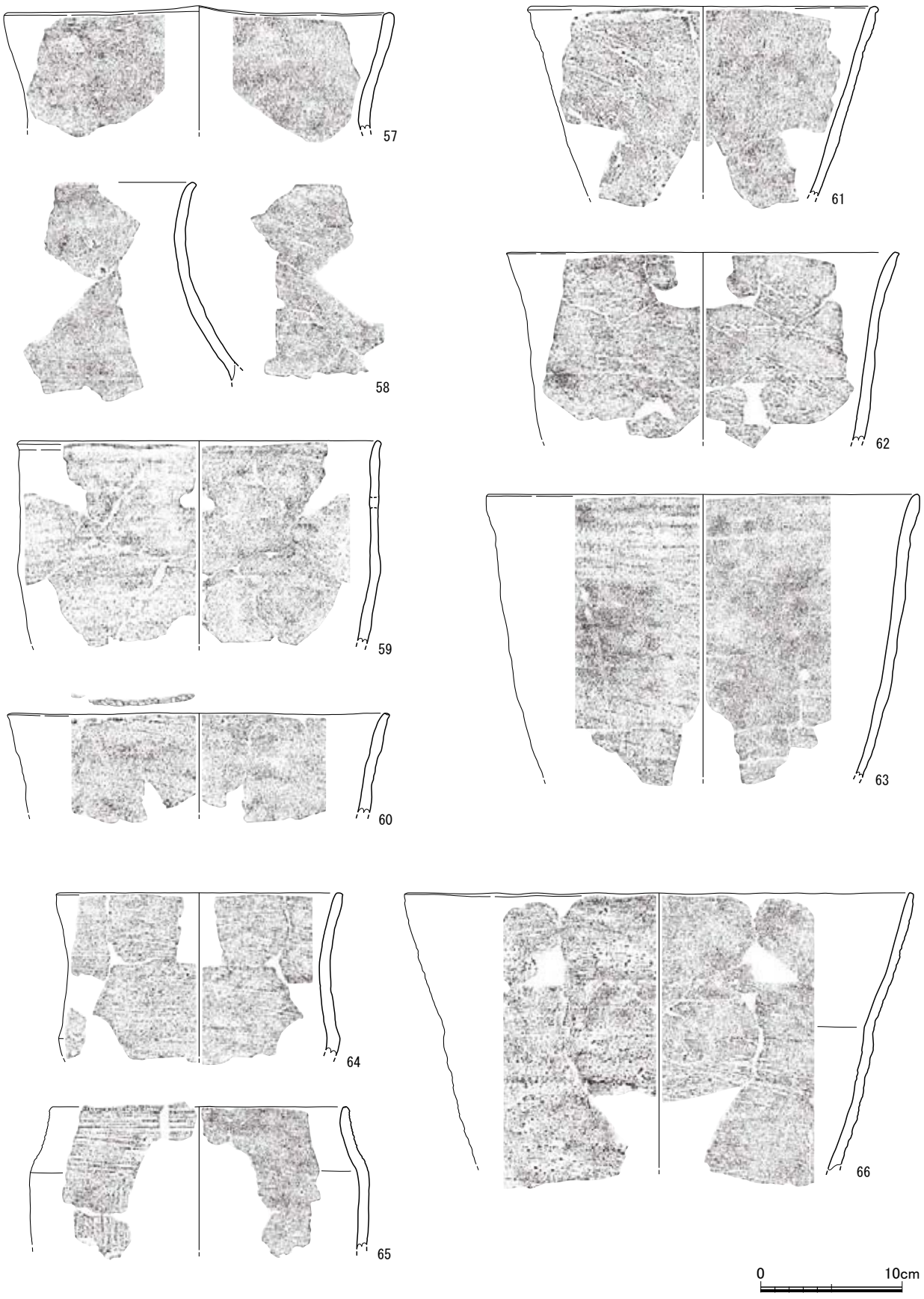


図 39　9A 区縄文時代の土器 5 （1/4）

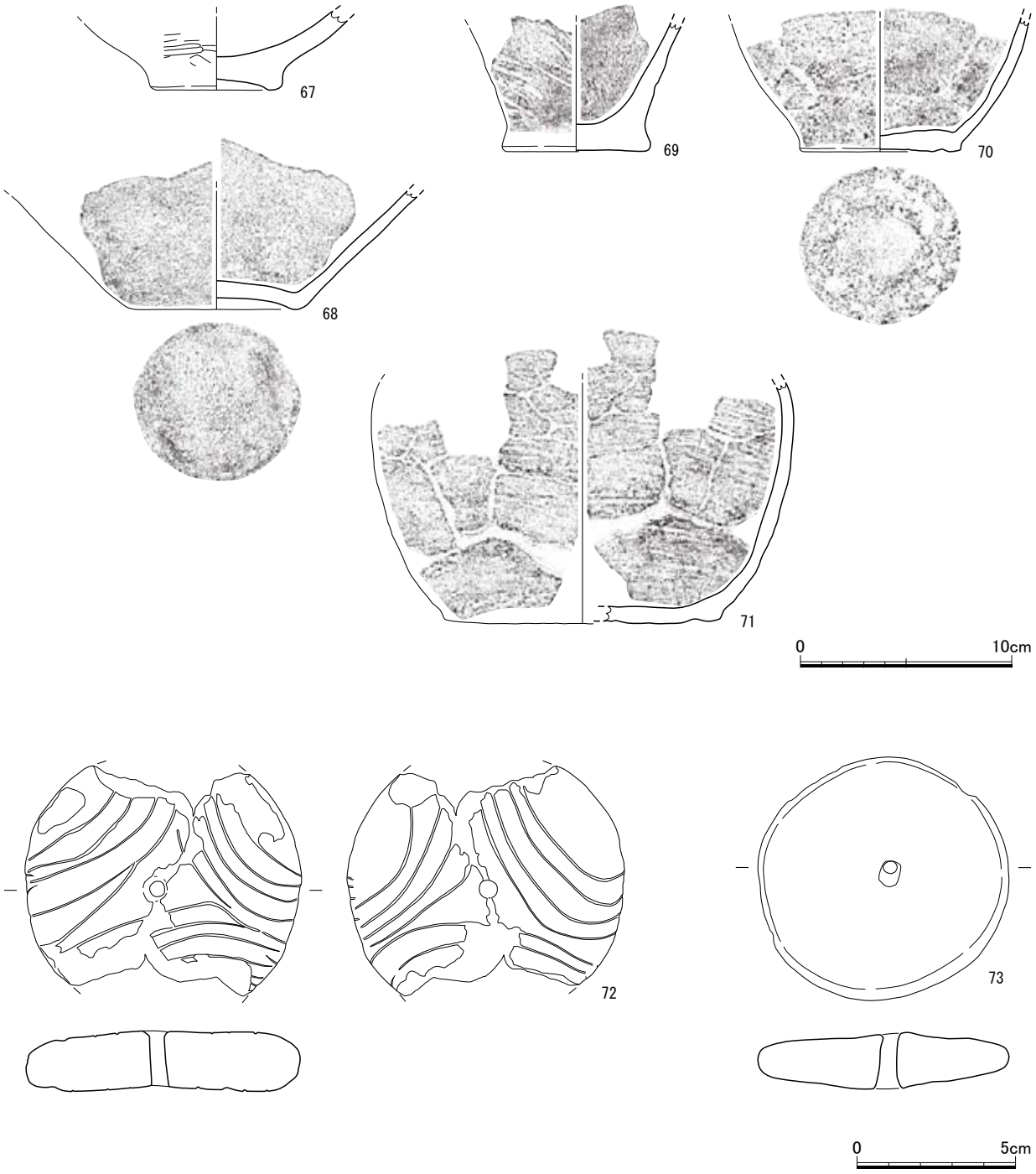


図 40　9A 区縄文時代の土器６（1/3）、土製品（1/2）

土製品（図 40）

72･73 は円盤形土製品で、ともに中央に径 0.4 ～ 0.5cm の小孔が貫通しており、調整はミガキの可能性がある。２点とも後期中葉～後葉の土器が集中する V27 区画から出土しており、ある程度時期は限定される。72 は約 0.7m離れて出土した破片が接合したもので、両面とも幅約 0.05cm の細く深い沈線で、雑に円弧状の文様を施している。73 は片面にのみ黒色磨研を施しているとみられ、両面で色調が異なっている。

石器・石製品（図 43 ～ 50）

石器･石製品は､1,497 点の出土位置を３次元で計測して取り上げた（図 41･42)。このうち剥片石器とその石核･剥片類がほとんどを占め、礫石器は６点と少なく、磨製石器は出土していない。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 96 点（うち黒曜岩 49 点、無斑晶質安山岩 47 点)、石槍１点（無斑晶質安山岩)、石錐が６点（うち黒曜岩３点、無斑晶質安山岩３点)、石匙が２点、（無斑晶質安山岩)、削器が 78 点（うち黒曜岩３点、無斑晶質安山岩 75 点)、定形石器のうち約５割が石鏃である。このほか、二次加工ある剥片が 47 点（うち黒曜岩 21 点、無斑晶質安山岩 26 点)、微細剥離痕ある剥片が 59 点（うち黒曜岩 26 点、無斑晶質安山岩 33 点)、剥片が 1,182 点（うち黒曜岩 442 点、無斑晶質安山岩 760 点)、石核・原石が 19 点（うち黒曜岩３点、無斑晶質安山岩 16 点）であり、剥片石器類の約８割を剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は、黒曜岩が約 1/3、無斑晶質安山岩が約 2/3 の比率である。

礫石器は、磨石５点、敲石１点である。嘉瀬川ダム建設に伴って調査された他の遺跡と同じく嘉瀬川に面していながら石錘はみられない。

石製品は、円盤形石製品が１点出土した。

74 ～ 136 は石鏃である。74 ～ 90 は石刃素材のいわゆる剥片鏃で、黒曜岩製である。基部はすべて凹基で、比較的丁寧に調整加工を施しているものが多い。91 は剥片鏃製作時に生じる残滓物と考えられるいわゆるつまみ形石器で、出土量は多くない。92 ～ 104 は無斑晶質安山岩製の剥片鏃で、基部は凹基のものがほとんどであり、調整加工の程度はさまざまである。92 は素材から折り採ったと思われる部分がみられる。105 ～ 113 は平面が五角形に近い形状のもので、基部は凹基である。側縁の屈曲は、緩やかなものと明瞭に角を作り出すものがみられる。107 は未製品の可能性がある。114・115 は鍬形鏃で、基部の抉りは比較的浅い。116 ～ 132 は平面が二等辺三角形で、基部が凹基のものである。側縁は直線的なもの、やや膨らんだもの、鋸歯状をなすものなどがみられ、両面の調整は素材面や自然面が残るものが比較的多い印象を受ける。133 ～ 136 は平面が二等辺三角形で、基部が平基のものである。調整剥離の程度は素材面が残るものがあるなど、やはりやや粗雑な感がある。137 は残存長から石槍とした。

138 ～ 141 は石錐で、錐部の作出にのみ調整剥離が施されるものがほとんどである。138・139 は黒曜岩の縦長剥片を利用している。

142 は縦型の石匙で、側縁の調整加工がほとんどみられず、刃部は欠損部側であったかもしれない。143 は石匙としたが、大きなつまみ形石器である可能性も残る。

144 ～ 168 は削器である。144 は黒曜岩の縦長剥片を素材としたもので、片面から剥離を施して刃部を作り出している。145 ～ 152 は無斑晶質安山岩の石刃や縦長剥片を、153 ～ 168 は無斑晶質安山岩の幅広・横長剥片などを素材としたものである。刃部の加工の程度は、両面あるいは片面から連続する調整剥離によって丁寧に作出されたものが多い。

169 は片岩系とみられる石材を用いた円盤形石製品で、縁部に調整加工を施して整形しているが、研磨の痕跡は認められない。

170 は黒曜岩の石刃に微細剥離痕がみられるもの、171 は無斑晶質安山岩の石刃である。172 は黒曜岩、173 ～ 177 は無斑晶質安山岩の石核である。

178 ～ 182 は磨石で、180・182 は片面、他は両面に使用によると思われる磨滅が認められる。178・179 には敲打痕がみられ､敲石としても使用していたと考えられる。岩石鑑定は行っていないが､178 ～ 180 は花崗岩類、181・182 は閃緑岩類であろう。

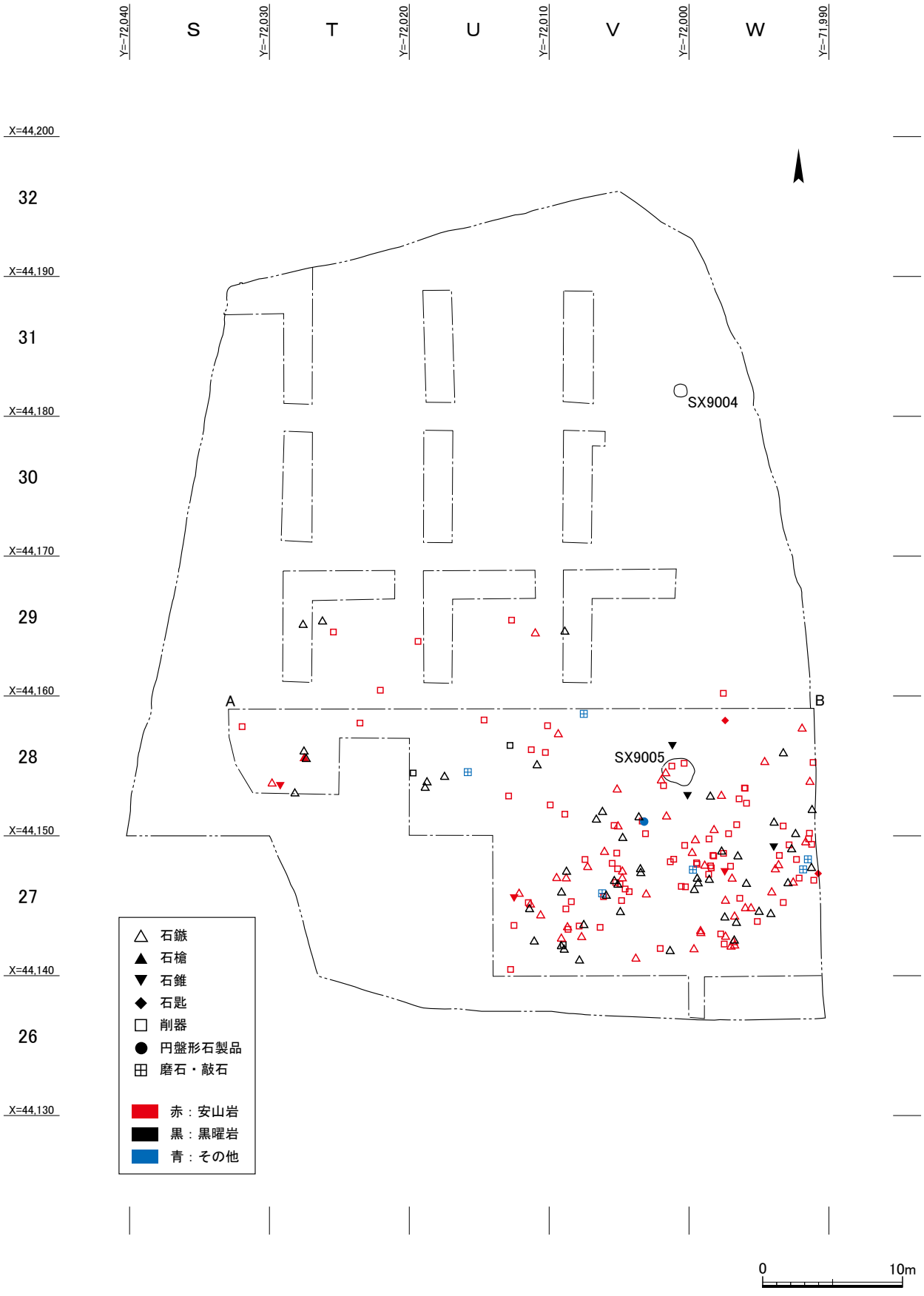


図 41　9A 区縄文時代定形石器・石製品の平面分布（1/400）

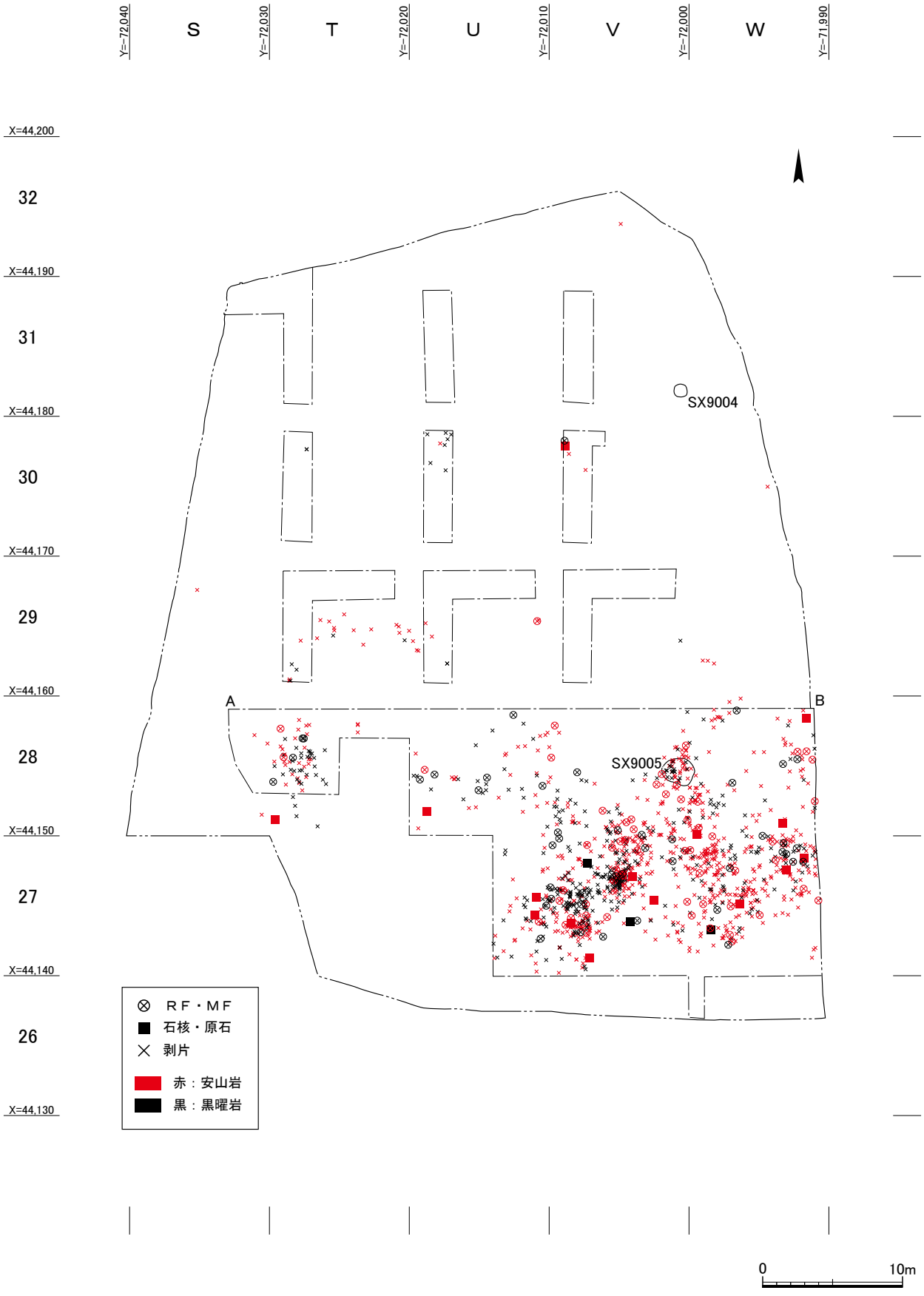


図 42　9A 区縄文時代剥片・石核類の平面分布（1/400）

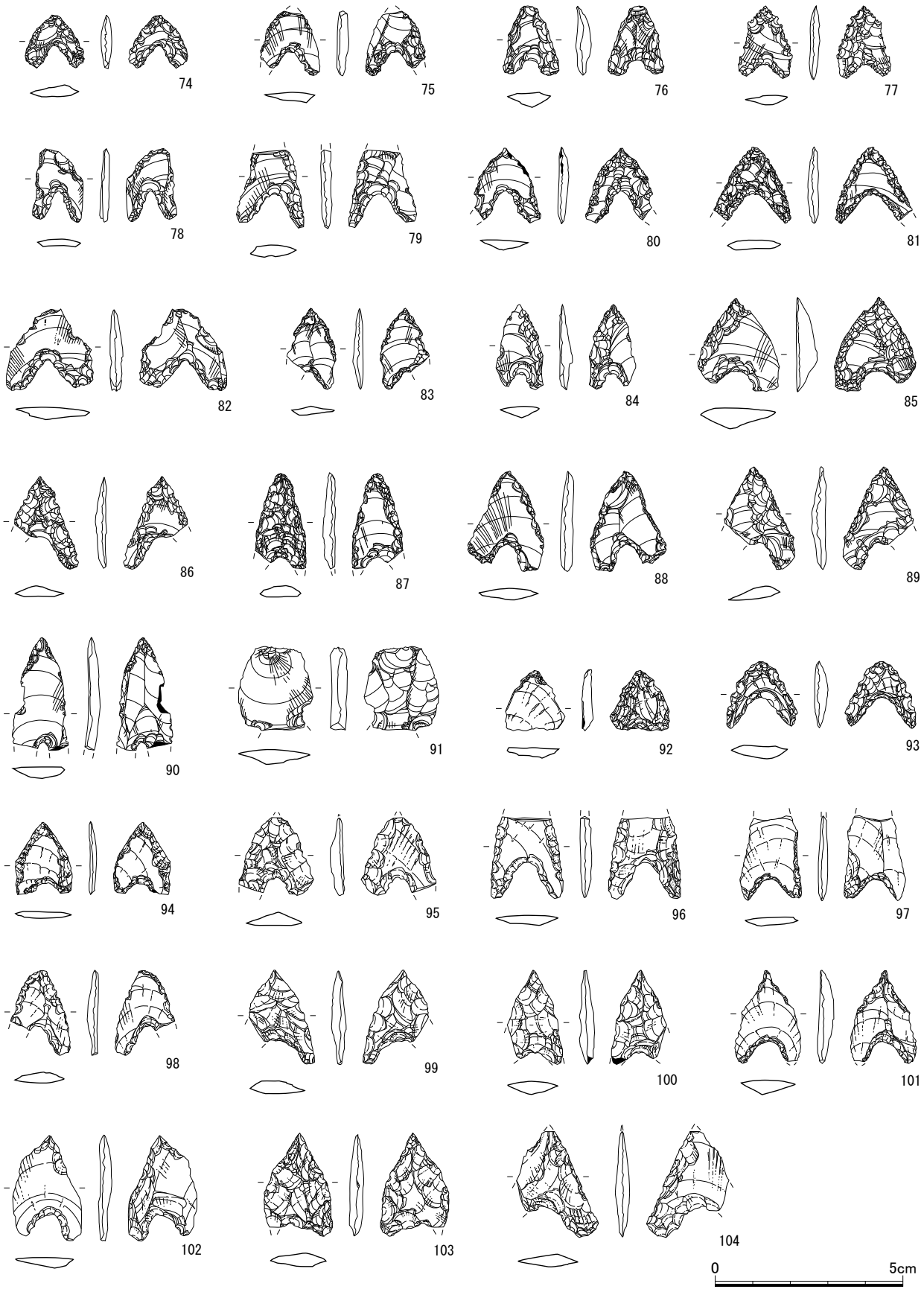


図 43　9A 区縄文時代の石器１（2/3）

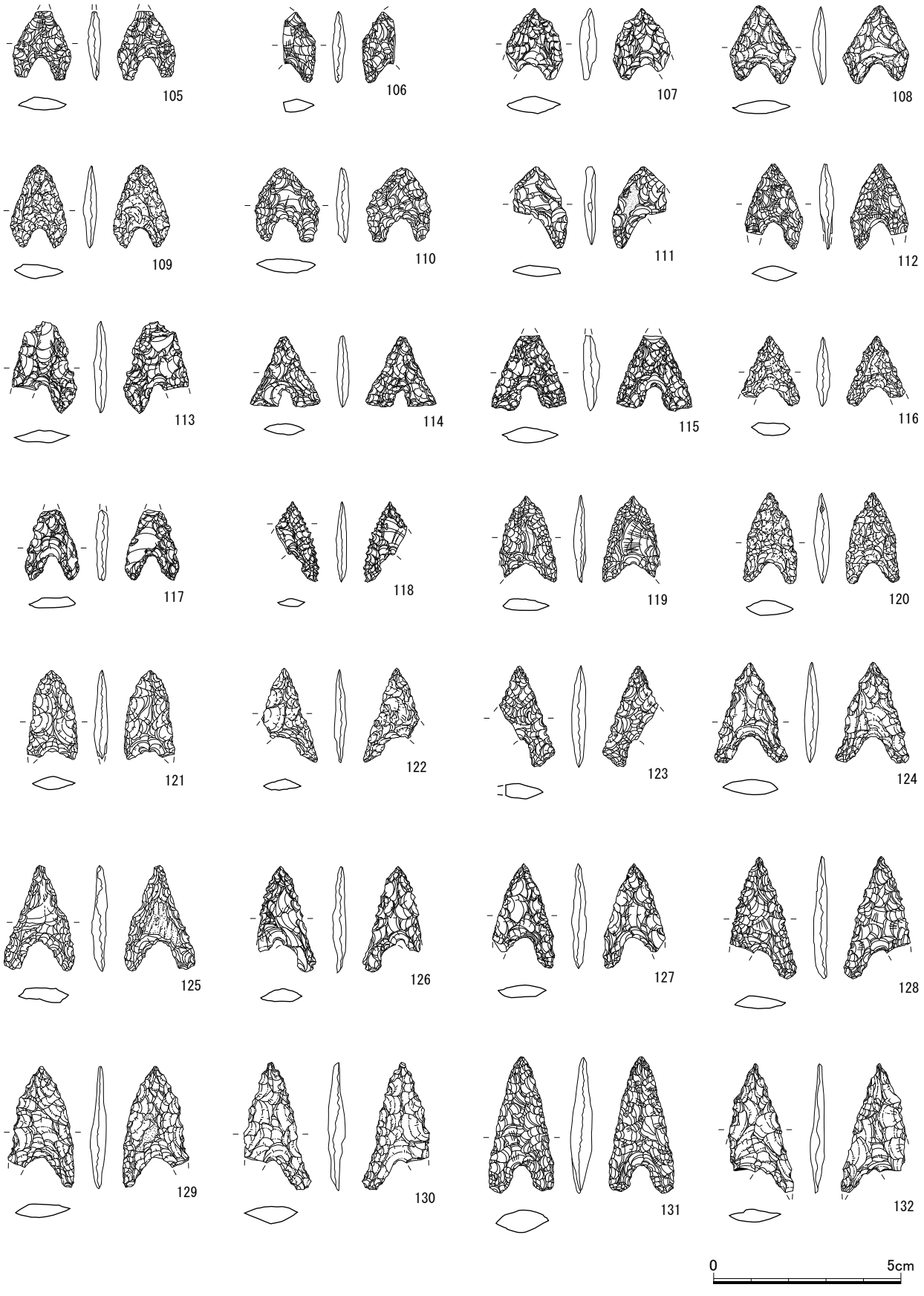


図 44　9A 区縄文時代の石器２（2/3）

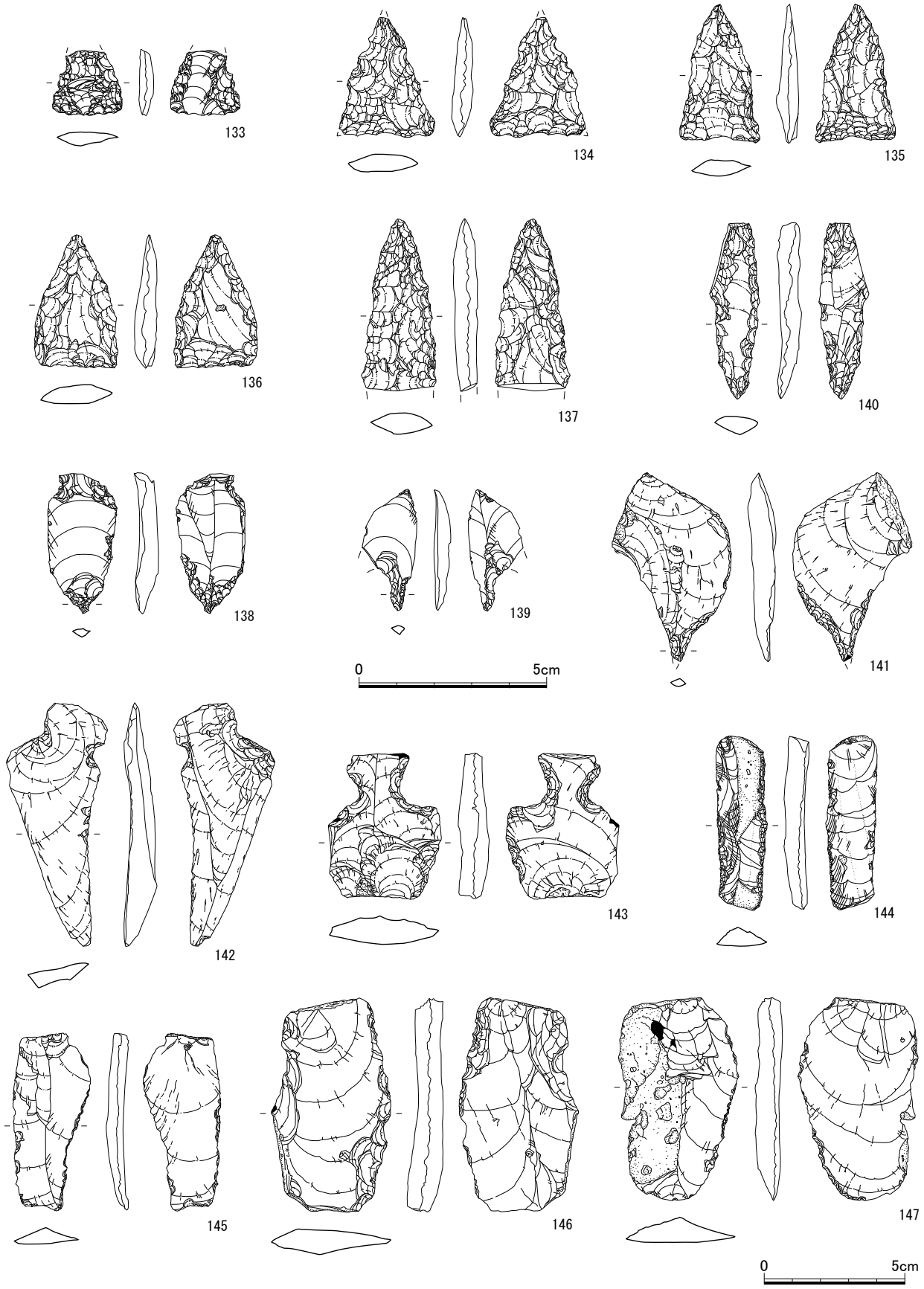


図 45　9A 区縄文時代の石器３（133 ～ 140 は 2/3、141 ～ 147 は 1/2）

図 46　9A 区縄文時代の石器４（1/2）

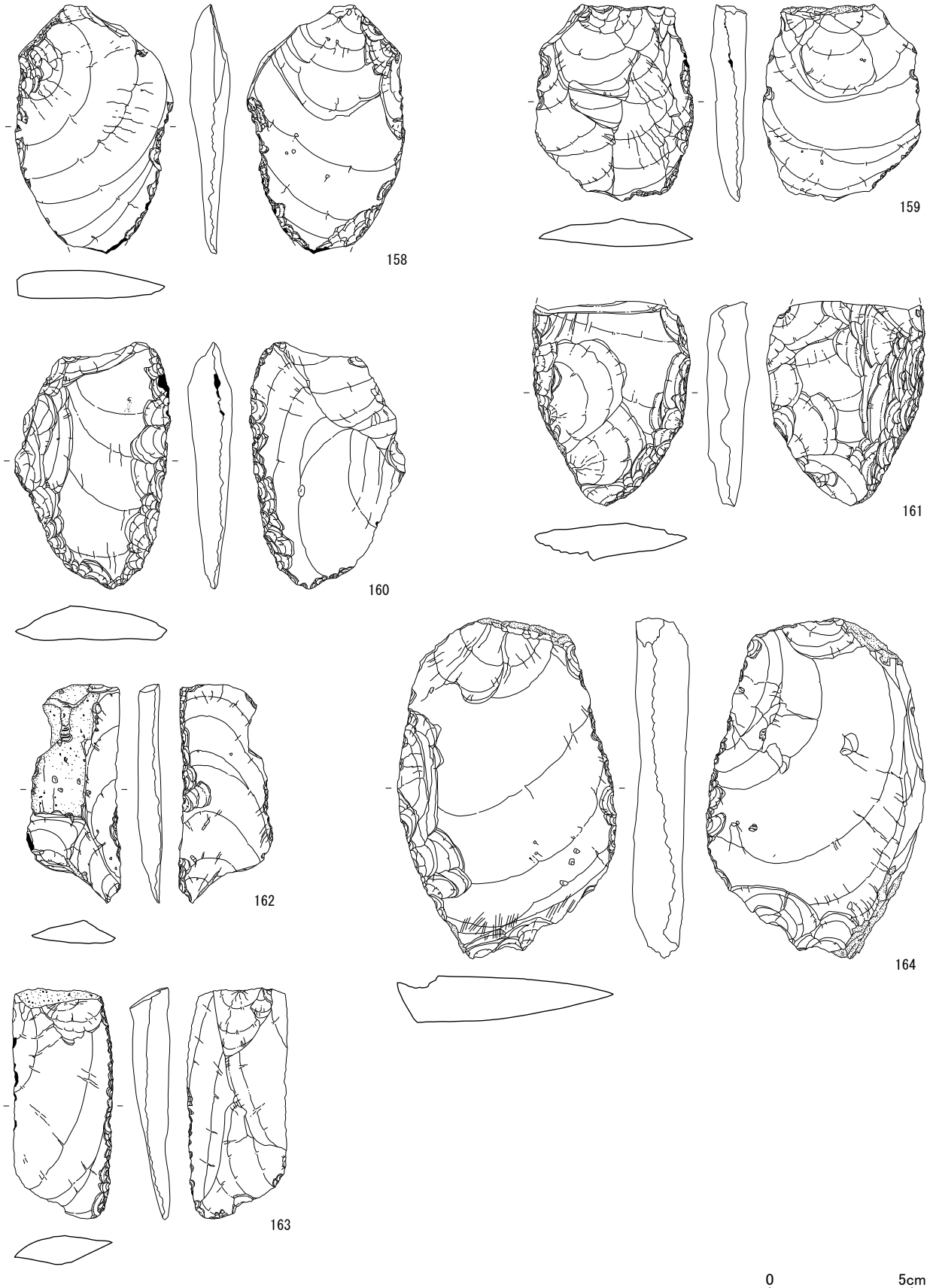


図 47　9A 区縄文時代の石器 5（1/2）

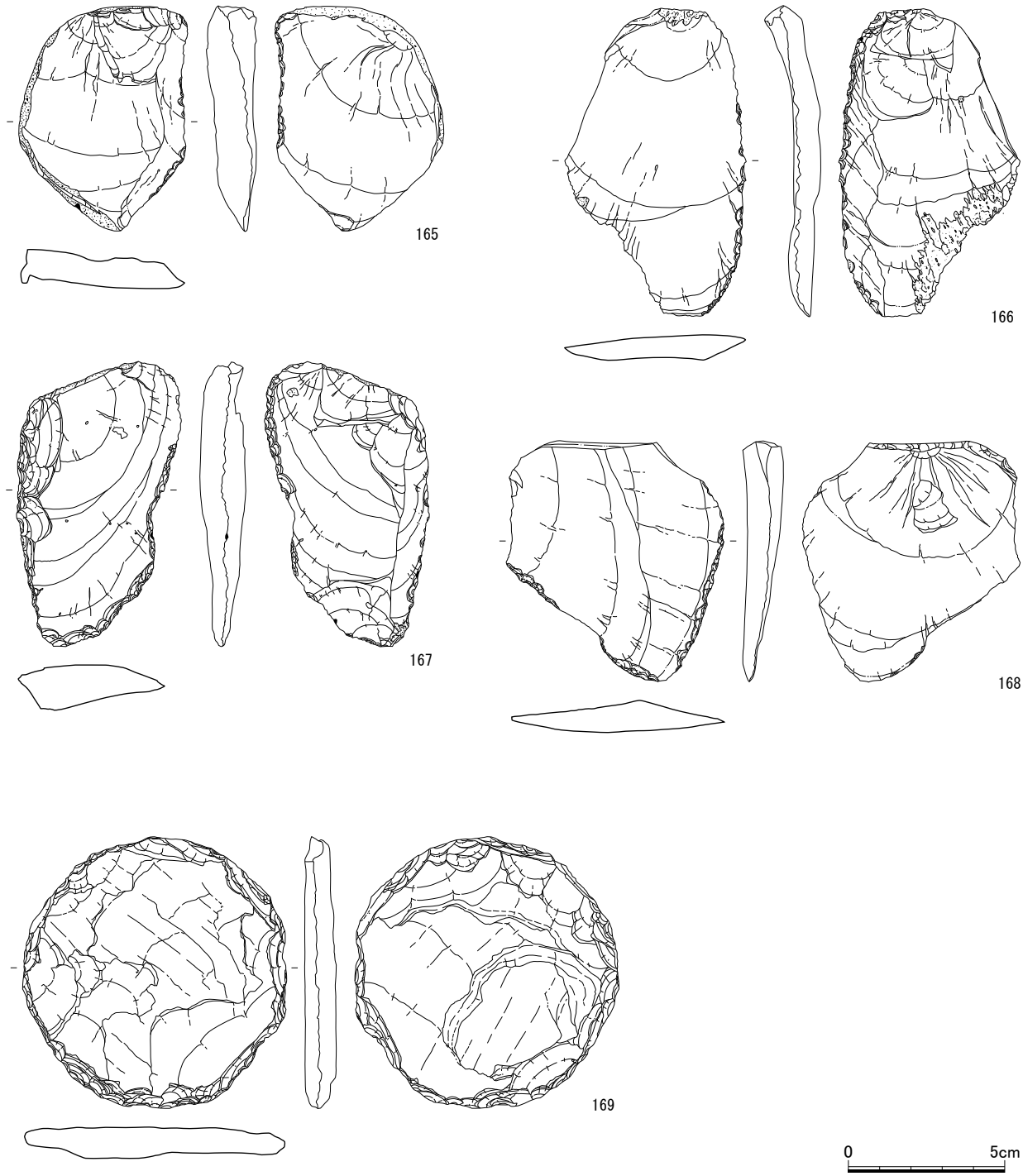


図 48　9A 区縄文時代の石器６、石製品（1/2）

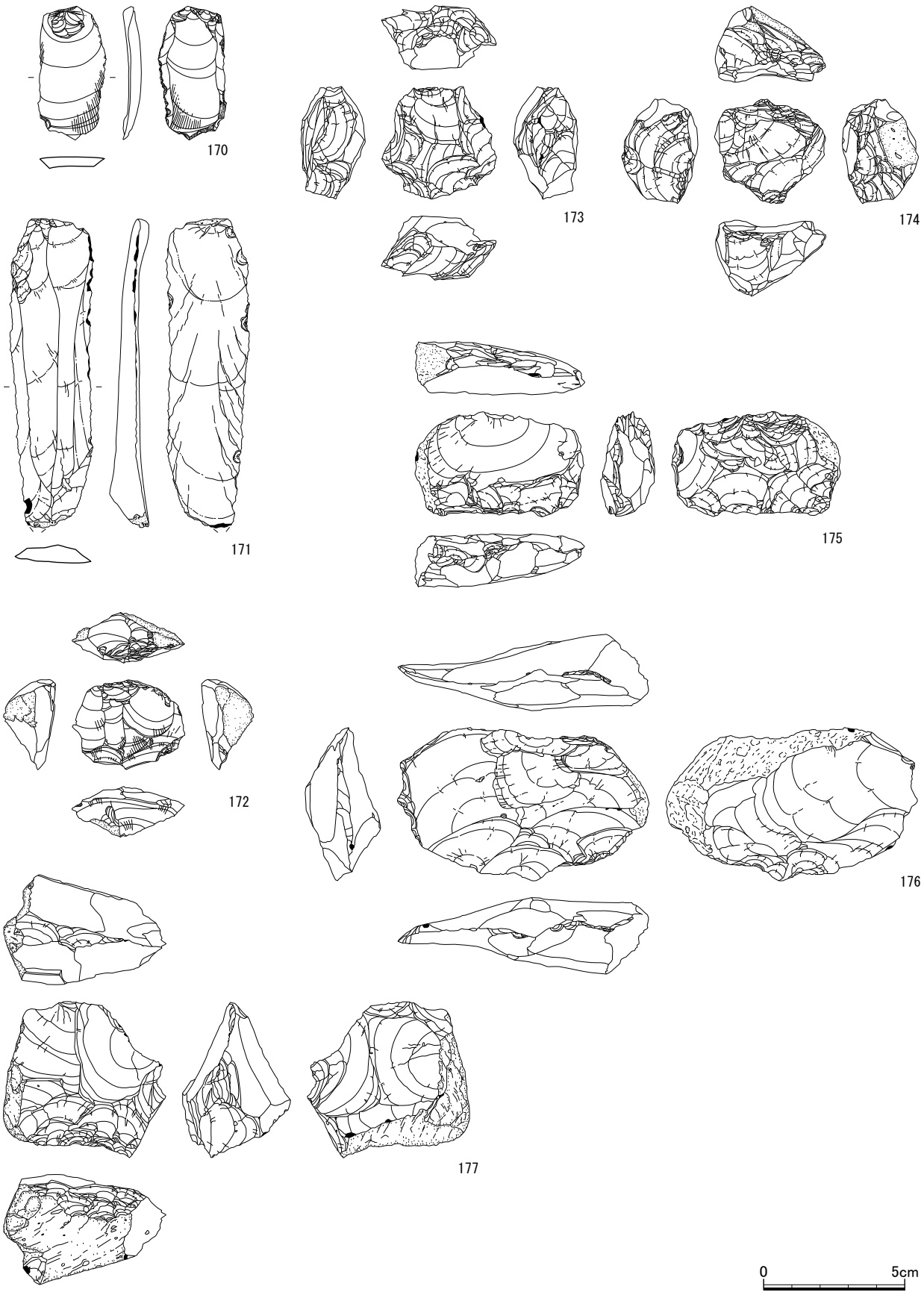


図 49　9A 区縄文時代の石器７（1/2）

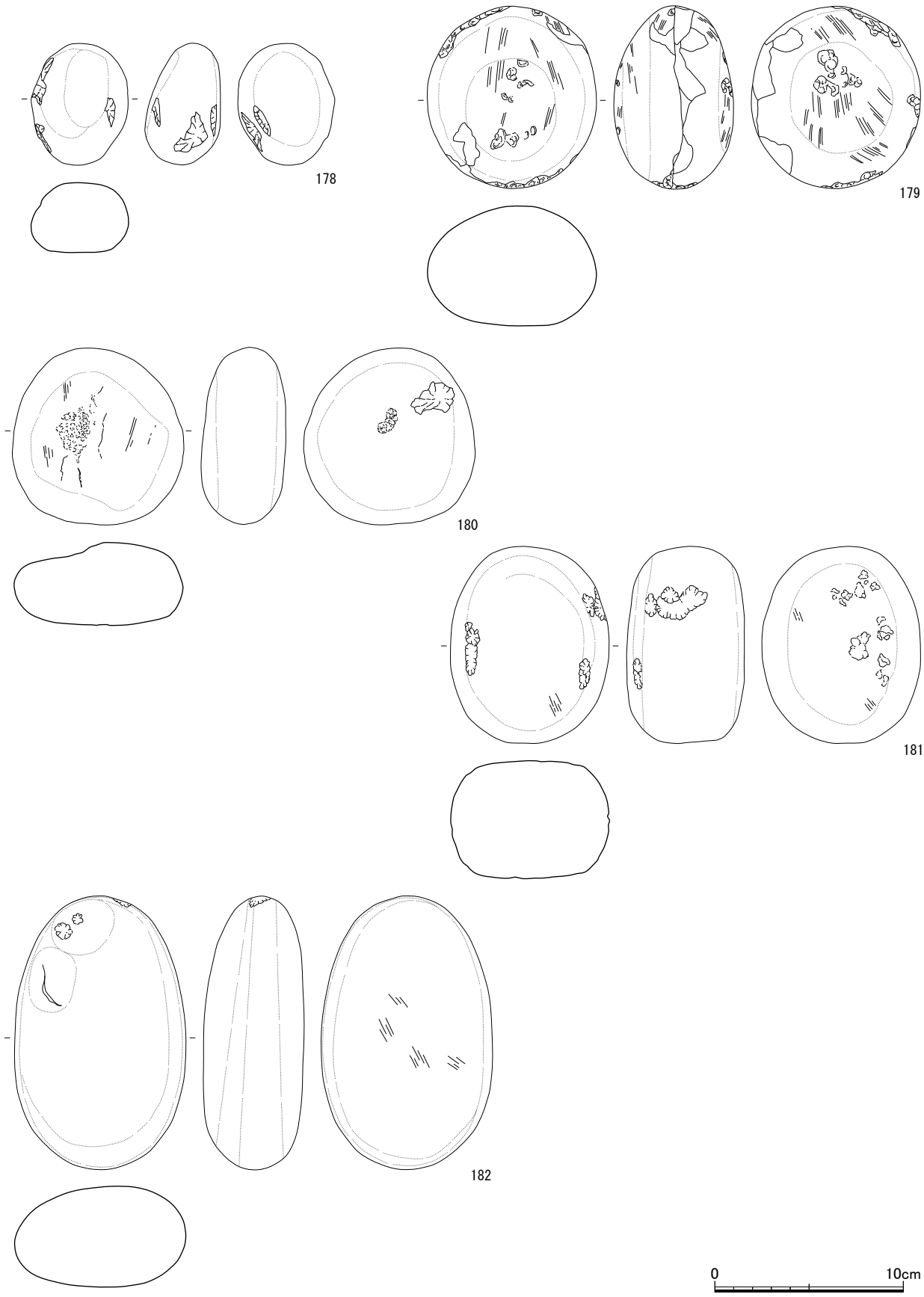


図 50　9A 区縄文時代の石器８（1/3）

３）9B 区縄文時代の遺構と遺物

9B 区では、縄文時代の遺物包含層を確認し、土器・石器などが出土したが、遺構は確認できなかった。S35・36 区画に遺物の集中部があり、中期前葉～中葉を中心として早期中葉から後期中葉のものがみられるが、全体的に出土量は多くない。遺構が検出されなかったことや、嘉瀬川に隣接することと合わせて、遺跡縁辺部の様相を示しているものと考えられる。遺物の取り上げにあたっては、R36 区画の土層を調査区全体の基本土層として、他の区画で同一と考えられる層位については同じ層番号としている（図 51）。

遺物

9B 区では、遺物包含層（３～５層）から土器・石器が出土したが、遺物の分布密度は調査区中央部と南西部で比較的高いものの、それ以外はかなり散漫な状況である。出土土器から中央部は前期・後期中葉、南西部は中期前葉～中葉を中心とした時期の遺物であると思われる。9A 区と同様、西畑瀬遺跡の他の地区に比べ、土器の比率が高く、石器が少ない傾向が認められる。

縄文土器（図 56）

土器は、972 点の出土位置を３次元で計測して取り上げた（図 52）。早期中葉の押型文土器、前期後葉の曽畑式系、中期前葉～中葉の船元・春日式系、後期中葉の鐘崎式系などが出土しているが、遺物量は多くない。調査区中央部の S36 区画で前期後葉･後期中葉、南西部の S35 区画で中期前葉、S34 区画で中期中葉のものが分布している（図 53）。

183 は斜走あるいは縦走する山形文が施された押型文土器で、器面調整はナデである。

184・185 は同一個体と考えられ、外面に連続刺突文と沈線文、口縁内面に連続刺突文が施される。曽畑式系とみられるが、胎土に滑石は含まない。

186・187 は同一個体とみられる船元式系で、外面から口縁端部・内面に縄文が施される。波状口縁で、口縁内面を肥厚させている。図示していないが、他にも同一個体と考えられる破片が出土しており、ほぼ 1 個体分になるものと思われる。188・189 は同一個体で、胴部が屈曲するキャリパー状の器形を残した春日式系とみられ、器面調整は条痕のちナデである。口縁外面に「ハ」の字状に沈線文と連続刺突文が施され、口縁端部には部分的に刻みが施される。188 の外面に付着した炭化物の放射性炭素年代を測定している。

190 は鐘崎式系と思われる小型の鉢で、波状口縁の波頂部には縦方向に突帯が付き、器面調整はナデである。口縁部は内側に突出させ、その上面に竹管状の原体で刺突文が施される。外面は沈線文で施文されるが、波頂部と波頂部の中間にあたると考えられる部分に刺突文が 1 箇所みられる。

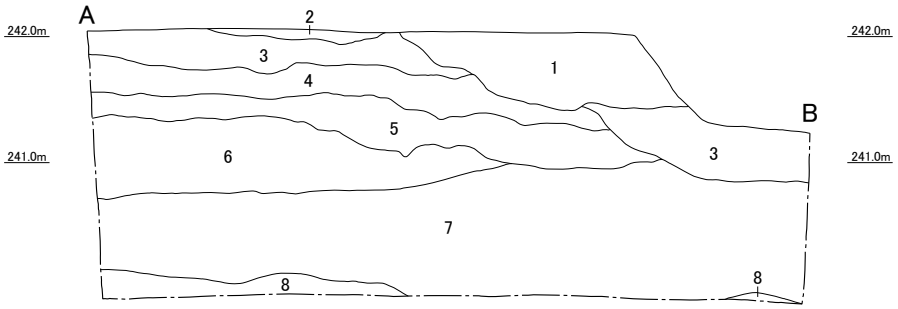
191 は外面に縦位の沈線文が粗雑に施される底部付近で、平底になる可能性がある。器面調整はナデである。192 は高台状の底部で器壁が薄い深鉢あるいは鉢とみられ、器面調整はミガキである。193 は内外面に条痕が施された深鉢で、外面の条痕は文様の意図があるかもしれない。

石器（図 57・58）

石器は、288 点の出土位置を３次元で計測して取り上げた（図 54･55）。このうちすべてが剥片石器とその石核･剥片類で、磨製石器・礫石器は出土していない。

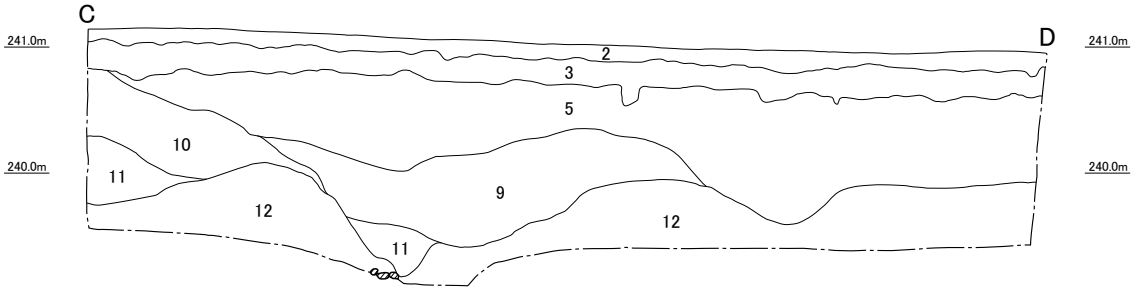
剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 16 点（うち黒曜岩 12 点、無斑晶質安山岩４点）、石錐が１点（無斑晶質安山岩）、石匙が２点、（無斑晶質安山岩）、削器が７点（うち黒曜岩１点、無斑晶質安山岩６点）、定形石器のうち約６割が石鏃である。このほか、二次加工ある剥片が 15 点（うち黒曜岩 10 点、無斑晶質安山岩５点）、剥片が 243 点（うち黒曜岩 133 点、無斑晶質安山岩 110 点）、石核・原石が４点（うち黒曜岩１点、無斑晶質安山

R36区画東西土層

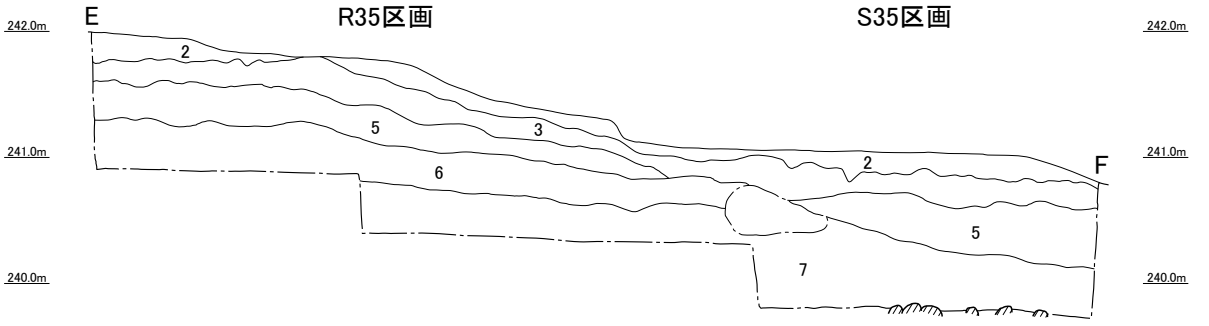


１．褐灰色土（10YR4/1）　粘性あり。中世遺物包含層。
２．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　若干粘性あり。
３．暗灰黄色土（2.5Y5/2）　黒色土混じり。　－縄文時代の遺物包含層
４．褐色土（10YR4/6）　砂層。わずかに粘性あり。　－縄文時代の遺物包含層
５．黄褐色土（10YR5/6）　－縄文時代の遺物包含層
６．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　砂層。
７．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　砂層。細粒だが一部白色粗砂と互層。
８．灰黄褐色土（10YR4/2）　粗砂層、礫層。小～中型の円礫多数。

S36区画東西土層



２．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　若干粘性あり。
３．暗灰黄色土（2.5Y5/2）　若干粘性あり。黒色土混じり。　－縄文時代の遺物包含層
５．黄褐色土（10YR5/6）　－縄文時代の遺物包含層
９．にぶい黄橙色土（10YR6/3）　粘性なし、しまりなし。粗砂だが、７層よりやや細かい
10．黄褐色土（2.5Y5/4）　粘性有、しまりあり
11．にぶい褐色土（7.5YR5/4）　粘性有、しまり強く固い。均質なシルト質。
12．にぶい黄褐色土（10YR7/2）　粗砂層。西側は礫を含み、灰白色の砂粒砂が混じる



２．にぶい褐色砂質土（7.5YR5/4）
３．にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）　－縄文時代の遺物包含層
５．褐色粘質土（10YR4/6）　粘性、しまりあり。　－縄文時代の遺物包含層
６．にぶい黄色砂質土（2.5Y5/3）　しまりなし。
７．灰黄褐色砂質土（10YR5/2）　６層よりも細粒、均質な砂。しまりなし。

図 51　9B 区の土層（1/60）

図 52　9B 区縄文時代土器の平面分布（1/400）

図 53　9B 区縄文時代土器型式別の平面分布（1/300）

図 54　9B 区縄文時代定形石器の平面分布（1/300）

図 55　9B 区縄文時代剥片・石核類の平面分布（1/300）

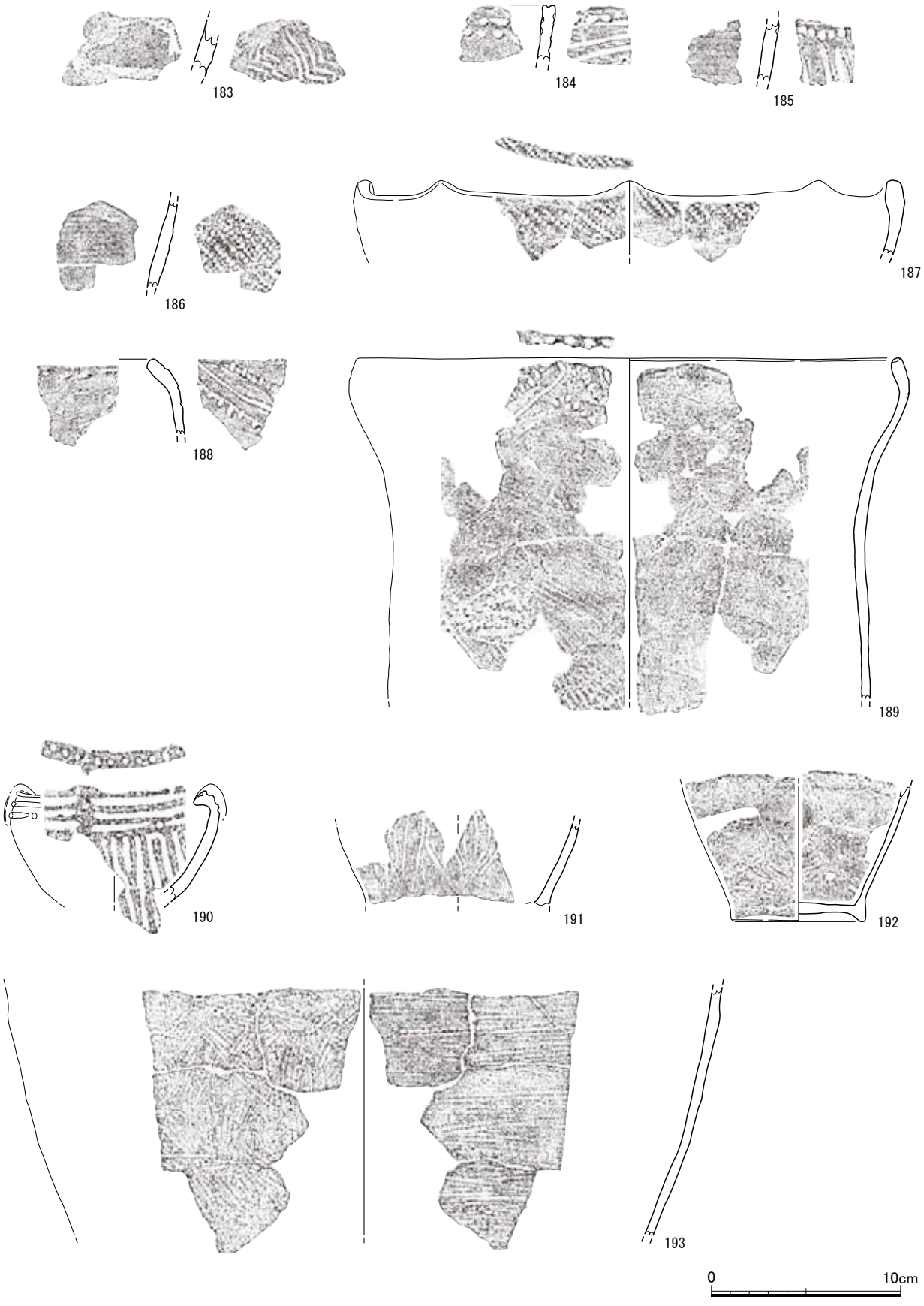


図 56　9B 区縄文時代の土器１（1/3）

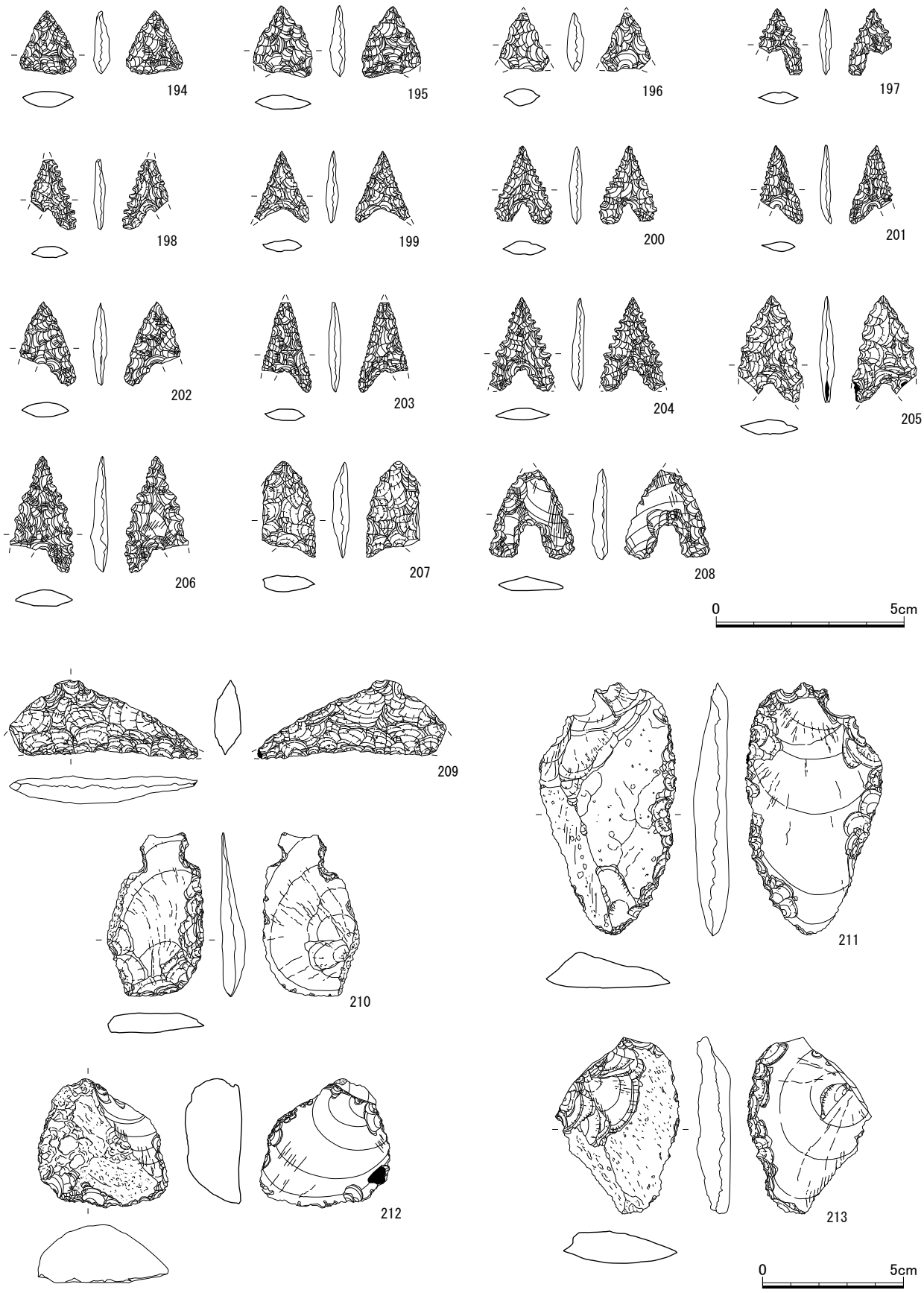


図 57　9B 区縄文時代の石器 1 （194 ～ 208 は 2/3、209 ～ 213 は 1/2）

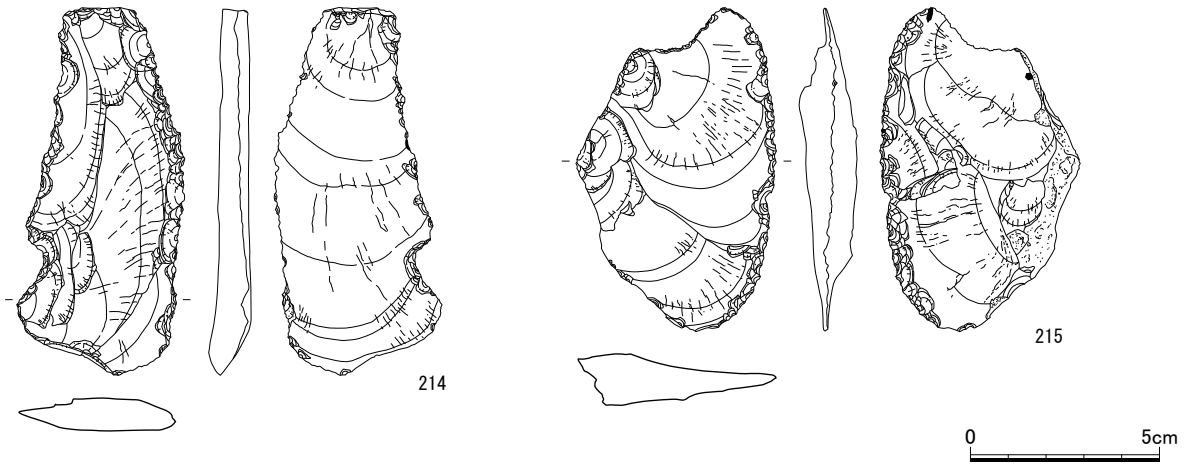


図 58　9B 区縄文時代の石器２（1/2）

岩３点）であり、剥片石器類の約９割を剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は、黒曜岩がやや多いものの、無斑晶質安山岩とほぼ拮抗している。

194 ～ 208 は石鏃で、両面の調整剥離は丁寧なものがほとんどである。194 ～ 196 は黒曜岩製で、平面形が正方形に近い小型のもので、基部は平基あるいは微凹基で、やや厚みがある。197 は長脚のもので、平面が二等辺三角形、側縁は鋸歯状をなしている。198 ～ 206 は平面が二等辺三角形、基部が凹基のもので、側縁は直線的なものと鋸歯状をなすものがみられる。207 は平面が二等辺三角形、基部が微凹基のもので、側縁がやや膨らむ。208 は黒曜岩の石刃素材のいわゆる剥片鏃である。

209 ～ 211 は無斑晶質安山岩製の石匙である。209 は両面調整を施した横型で、両面から調整加工を施して刃部を作出しているが、つまみの作り出しは弱い。210・211 は刃部にのみ調整剥離を施した縦型のものである。210 は片面からの剥離で刃部を作出し、つまみの作り出しは明瞭である。211 は両面からの剥離で刃部を作出しているが、つまみの作り出しは弱い。

212 は黒曜岩製の掻器で、ラウンドスクレーパーに近い形状である。213 ～ 215 は無斑晶質安山岩のさまざまな形状の剥片を使用して刃部にのみ調整を施した削器で、片面あるいは両面からの丁寧な連続剥離によって刃部を作出している。

表 5　西畑瀬遺跡縄文時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 29-1 11001924	K41・42 区画 8 層	縄文土器 深鉢	22.5*	-	-	外：にぶい黄褐・黒褐 内：にぶい黄橙・黒褐		写真図版 19-1 20120109
図 29-2 11001922	J44 区画 7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・褐灰 内：にぶい黄橙	滑石を含む	写真図版 19-2 20120107
図 29-3 11001923	K42 区画 8 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：灰黄褐		写真図版 19-3 20120108
図 35-16 11002361	U30 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・褐灰 内：黒褐	滑石を含む 内面炭化物付着	写真図版 19-16 20120151
図 35-17 11002136	T28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：にぶい黄褐・明褐	滑石を含む	写真図版 19-17 20120132
図 35-18 11002137	T28 区画	縄文土器 深鉢	-	14.0*	-	外：にぶい赤褐 内：にぶい黄橙	滑石を含む	写真図版 19-18 20120133
図 35-19 11002399	T・S28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐 内：にぶい褐・にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 19-19 20120156
図 35-20 11002138	T28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：灰黄褐		写真図版 19-20 20120134
図 35-21 11002139	T28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙		写真図版 19-21 20120135
図 35-22 11002140	S28・V27 区 画	縄文土器 深鉢	25.6*	-	-	外：橙・にぶい褐 内：灰黄褐・黒褐		写真図版 19-22 20120110•111
図 35-23 11002146	U28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐・にぶい黄褐 内：灰黄褐	外面煤付着	写真図版 19-23 20120141
図 35-24 11002409	W27 区画	縄文土器 深鉢	40.0*	-	-	外：黒褐 内：にぶい橙・灰黄褐		写真図版 19-24 20120127
図 35-25 11002149	U28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄褐 内：灰黄褐・黒褐	外面煤付着	写真図版 19-25 20120112
図 36-26 11002145	V27 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黄灰・黒褐 内：灰白・浅黄		写真図版 19-26 20120140
図 36-27 11002147	V28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・にぶい褐 内：灰黄褐・灰黄		写真図版 19-27 20120142
図 36-28 11002144	W27 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黄灰・黒褐 内：暗灰黄	外面煤付着 炭素年代測定	写真図版 19-28 20120139
図 36-29 11002141	W27 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：黒褐	外面煤付着	写真図版 19-29 20120136
図 36-30 11002143	W27 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・黒褐 内：黄灰・黄褐	外面煤付着	写真図版 19-30 20120138
図 36-31 11002142	W27 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐・灰黄褐 内：黒褐		写真図版 19-31 20120137
図 36-32 11002148	U27 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 19-32 20120143
図 36-33 11002396	V27 区画	縄文土器 深鉢	21.4*	-	-	外：にぶい橙・にぶい褐 内：にぶい黄橙・褐灰		写真図版 20-33 20120315
図 36-34 11002397	V27 区画	縄文土器 深鉢	21.6*	-	-	外：橙・にぶい橙 内：橙・灰黄褐		写真図版 20-34 20120126
図 36-35 11002415	W・V27・ W28 区画	縄文土器 深鉢	27.1*	-	-	外：橙・黒褐 内：にぶい黄褐		写真図版 20-35 20120130
図 37-36 11002353	W・V27 区画	縄文土器 鉢	23.5*	-	-	外：橙・灰黄褐 内：にぶい橙・灰白		写真図版 20-36 20120113
図 37-37 11002358	U28 区画	縄文土器 鉢	-	-	-	にぶい黄橙	内外面炭化物付着	写真図版 20-37 20120148
図 37-38 11002354	SX9005 V28 区画	縄文土器 深鉢	28.9*	-	-	外：にぶい褐 内：灰黄褐	内外面炭化物付着	写真図版 20-38 20120144
図 37-39 11002357	U27 区画	縄文土器 鉢	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙		写真図版 20-39 20120147
図 37-40 11002355	U・V27 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・褐 内：灰黄褐	内外面炭化物付着	写真図版 20-40 20120145
図 37-41 11002356	SX9005 V28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐・黄灰 内：黒褐	内外面炭化物付着	写真図版 20-41 20120146
図 37-42 11002359	V27 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐・褐灰 内：にぶい黄褐	外面煤付着 炭素年代測定	写真図版 20-42 20120149
図 37-43 11002360	W・V27 区画	縄文土器 深鉢	18.8*	-	-	外：橙・にぶい黄橙 内：橙・褐灰		写真図版 20-43 20120150
図 37-44 11002413	W27 区画	縄文土器 深鉢	17.8	6.7	15.7	にぶい褐		写真図版 20-44 20120165

表５　西畑瀬遺跡縄文時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 37-45 11002428	W28 区画	縄文土器 浅鉢	19.4*	-	-	にぶい橙・灰黄褐		写真図版 20-45 20120158
図 37-46 11002421	V27・V・ W28 区画	縄文土器 深鉢	31.1*	-	-	外：灰褐・黒褐 内：にぶい黄橙・黒褐		写真図版 20-46 20120157
図 37-47 11002398	V27 区画	縄文土器 深鉢	-	3.9	-	にぶい黄橙・にぶい黄褐		写真図版 20-47 20120169
図 37-48 11002414	V27 区画	縄文土器 浅鉢	17.5*	6.5	7.3	外：明赤褐 内：にぶい橙	内外面炭化物付着	写真図版 20-48 20120175
図 37-49 11002410	W28 区画	縄文土器 深鉢	22.8*	-	-	外：黒・橙 内：黒褐・灰褐	内外面炭化物付着	写真図版 20-49 20120121
図 37-50 11002408	W・V27 区画	縄文土器 鉢	24.9*	7.9	14.0	外：にぶい橙・黒褐 内：褐灰		写真図版 20-50 20120168
図 38-51 11002419	SX9002	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：灰褐 内：灰黄褐・褐灰	外面煤付着 炭素年代測定	写真図版 21-51 20120176
図 38-52 11002420	SX9003	縄文土器 深鉢	-	9.2*	-	外：にぶい黄橙 内：褐灰	外面煤付着	写真図版 21-52 20120167
図 38-53 11002416	SX9013	縄文土器 深鉢	27.3	8.6	28.6	外：にぶい褐 内：褐灰		写真図版 21-53 20120166
図 38-54 11002424	V・W27 区画	縄文土器 深鉢	20.7*	-	-	外：橙・灰黄褐 内：にぶい褐・褐灰	外面煤付着	写真図版 21-54 20120123
図 38-55 11002403	W・V27 区画	縄文土器 深鉢	28.4*	-	-	外：にぶい橙・灰黄褐 内：にぶい黄橙・灰黄	外面煤付着	写真図版 21-55 20120119
図 38-56 11002405	W27 区画	縄文土器 深鉢	33.7*	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい橙・にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 21-56 20120128
図 39-57 11002400	W28 区画	縄文土器 深鉢	27.6*	-	-	外：にぶい黄橙・にぶい黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 21-57 20120316
図 39-58 11002401	W28 区画	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・にぶい黄褐 内：橙・灰黄褐	外面煤付着	写真図版 21-58 20120117
図 39-59 11002422	W27・28 区画	縄文土器 深鉢	25.8*	-	-	外：灰黄褐・明黄褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐	内外面炭化物付着	写真図版 21-59 20120122
図 39-60 11002402	W27・28 区画	縄文土器 深鉢	27.0*	-	-	外：にぶい黄褐・灰黄褐 内：黄褐		写真図版 21-60 20120118
図 39-61 11002406	U28 区画	縄文土器 深鉢	24.8*	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙・にぶい黄褐		写真図版 21-61 20120120
図 39-62 11002417	W・V27 区画	縄文土器 深鉢	27.8*	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 21-62 20120124
図 39-63 11002423	U・V27 区画	縄文土器 深鉢	30.7*	-	-	外：橙・灰黄褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐	外面煤付着	写真図版 21-63 20120131
図 39-64 11002418	W・V27・ W28 区画	縄文土器 深鉢	20.3*	-	-	外：にぶい橙 内：橙・にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 21-64 20120125
図 39-65 11002404	W27・28 区画	縄文土器 深鉢	20.8*	-	-	外：にぶい褐・黒褐 内：明褐・暗褐	外面煤付着	写真図版 21-65 20120114
図 39-66 11002407	V28 区画	縄文土器 深鉢	36.0*	-	-	にぶい橙・灰黄褐		写真図版 21-66 20120129
図 40-67 11002426	W27 区画	縄文土器 鉢	-	6.2	-	外：灰黄褐・にぶい黄橙 内：にぶい黄橙		写真図版 22-67 20120173
図 40-68 11002412	T28 区画	縄文土器 鉢	-	8.2	-	外：橙 内：にぶい黄褐		写真図版 22-68 20120171
図 40-69 11002425	W27 区画	縄文土器 深鉢	-	6.8*	-	外：にぶい褐 内：橙		写真図版 22-69 20120172
図 40-70 11002427	V28 区画	縄文土器 深鉢	-	7.6	-	外：橙・にぶい橙 内：にぶい橙	内外面炭化物付着	写真図版 22-70 20120174
図 40-71 11002411	T・S28 区画	縄文土器 深鉢	-	12.8*	-	外：橙 内：褐灰		写真図版 22-71 20120170
図 40-72 11002351	V27 区画	土製品 円盤形	径 8.9	厚 1.9	-	明赤褐		写真図版 22-72 20120152･153
図 40-73 11002352	V27 区画	土製品 円盤形	径 8.0	厚 1.8	-	橙・黒褐		写真図版 22-73 20120154･155
図 56-183 11002687	R37 区画 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・明赤褐 内：橙		写真図版 25-183 20120184
図 56-184 11002685	S36 区画 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黄灰・灰黄褐 内：黄灰	185 と同一個体	写真図版 25-184 20120180･181
図 56-185 11002686	S36 区画 6 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：黄灰	184 と同一個体	写真図版 25-185 20120182

表 5　西畑瀬遺跡縄文時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 56-186 11002683	S35 区画 3・5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着 187 と同一個体の可能性あり	写真図版 25-186 20120179
図 56-187 11002684	S35 区画 3 層	縄文土器 深鉢	28.7*	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙・灰黄褐	外面煤付着 186 と同一個体の可能性あり	写真図版 25-187 20120188･189
図 56-188 11002688	S34 区画 3 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐	189 と同一個体　外面煤付着 炭素年代測定	写真図版 25-188 20120183
図 56-189 11002691	S34 区画 3・5 層	縄文土器 深鉢	28.6*	-	-	黒褐・にぶい黄橙	外面煤付着 188 と同一個体	写真図版 25-189 20120186
図 56-190 11002682	S36 区画 5 層	縄文土器 鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙		写真図版 25-190 20120177･178
図 56-191 11002690	S38 区画 3・5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：浅黄 内：浅黄・黄灰		写真図版 25-191 20120185
図 56-192 11002689	S35 区画 5 層	縄文土器 深鉢	-	7.1	-	外：にぶい橙・にぶい黄橙 内：にぶい黄橙・褐灰		写真図版 25-192 20120190
図 56-193 11002681	S36 区画 5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙		写真図版 25-193 20120187

表 6　西畑瀬遺跡縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 29-4 11001191	J44 区画 6 層	打製石器 石鏃	1.8	1.1	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 19-4 20111861
図 29-5 11001182	J44 区画 7 層	打製石器 石鏃	1.7+	1.1	0.3	0.4	黒曜岩	先端、脚部端部欠損	写真図版 19-5 20111856
図 29-6 11001180	J44 区画 7 層	打製石器 石鏃	2.0	1.1	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 19-6 20111854
図 29-7 11001186	J44 区画 6 層	打製石器 石鏃	2.2+	1.6+	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 19-7 20111860
図 29-8 11001183	J45 区画 7 層	打製石器 石鏃	2.5+	1.8	0.5	1.6	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 19-8 20111857
図 29-9 11001184	J44 区画 5 層	打製石器 石鏃	2.7	2.1	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-9 20111858
図 29-10 11001185	I45 区画 7 層	打製石器 石鏃	2.8+	1.8+	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 19-10 20111859
図 29-11 11001181	J44 区画 7 層	打製石器 石鏃	2.3	1.2	0.3	1.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-11 20111855
図 29-12 11001189	J45 区画 7 層	打製石器 石鏃	3.1	1.8	0.3	1.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-12 20111862
図 29-13 11001190	J43 区画 5 層	打製石器 石鏃	3.3	1.8+	0.5	2.6	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 19-13 20111863
図 29-14 11001187	M42 区画 8 層	打製石器 石錐	5.2	4.0	1.3	15.4	黒曜岩	完形	写真図版 19-14 20111864
図 29-15 11001188	J45 区画 8 層	打製石器 削器	8.7	5.0	1.2	45.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 19-15 20111865
図 43-74 11001216	U28 区画	打製石器 石鏃	1.4	1.6	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 22-74 20111902
図 43-75 11001286	V27 区画	打製石器 石鏃	1.8+	1.6+	0.3	0.6	黒曜岩	先端、片脚欠損	写真図版 22-75 20111940
図 43-76 11001288	V27 区画	打製石器 石鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 22-76 20111942
図 43-77 11001202	V29 区画	打製石器 石鏃	1.9	1.4	0.2	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 22-77 20111888
図 43-78 11001266	U28 区画	打製石器 石鏃	1.9	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	完形	写真図版 22-78 20111924
図 43-79 11001267	W27 区画	打製石器 石鏃	2.0+	1.8	0.3	0.8	黒曜岩	先端部欠損	写真図版 22-79 20111925
図 43-80 11001284	W28 区画	打製石器 石鏃	2.0+	1.8+	0.3	0.6	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 22-80 20111938
図 43-81 11001228	V27 区画	打製石器 石鏃	2.1	2.1	0.3	0.6	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 22-81 20111914
図 43-82 11001271	W27 区画	打製石器 石鏃	2.2	2.3	0.4	1.1	黒曜岩	完形	写真図版 22-82 20111929

表６　西畑瀬遺跡縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 43-83 11001273	U27 区画	打製石器 石鏃	2.2	1.3	0.3	0.4	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 22-83 20111931
図 43-84 11001269	V27 区画	打製石器 石鏃	2.3	1.3	0.4	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 22-84 20111927
図 43-85 11001218	V27 区画	打製石器 石鏃	2.5	2.2	0.6	2.1	黒曜岩	片脚端部わずかに欠損	写真図版 22-85 20111904
図 43-86 11001233	W27 区画	打製石器 石鏃	2.5+	1.7+	0.3	0.6	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 22-86 20111919
図 43-87 11001222	V27 区画	打製石器 石鏃	2.6+	1.4+	0.3+	1.0	黒曜岩	両脚欠損	写真図版 22-87 20111908
図 43-88 11001274	V27 区画	打製石器 石鏃	2.7	2.0	0.4	1.2	黒曜岩	完形	写真図版 22-88 20111932
図 43-89 11001219	W27 区画	打製石器 石鏃	2.8	1.9+	0.4	1.2	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 22-89 20111905
図 43-90 11001276	V27 区画	打製石器 石鏃	3.0+	1.5	0.4	1.2	黒曜岩	両脚欠損	写真図版 22-90 20111934
図 43-91 11001283	W28 区画	打製石器 RF	2.2+	2.0+	0.5	2.0	黒曜岩	つまみ形石器	写真図版 22-91 20111937
図 43-92 11001287	V27 区画	打製石器 石鏃	1.6	1.6	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 22-92 20111941
図 43-93 11001224	V27 区画	打製石器 石鏃	1.8	1.9	0.4	0.7	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 22-93 20111910
図 43-94 11001285	V27 区画	打製石器 石鏃	1.9	1.5	0.2	0.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 22-94 20111939
図 43-95 11001265	V28 区画	打製石器 石鏃	2.1	2.0	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	先端、片脚端部欠損	写真図版 22-95 20111923
図 43-96 11001270	V27 区画	打製石器 石鏃	2.2+	1.9	0.3	1.2	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 22-96 20111928
図 43-97 11001275	V27 区画	打製石器 石鏃	2.2+	1.7	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 22-97 20111933
図 43-98 11001278	V27 区画	打製石器 石鏃	2.3+	1.6+	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 22-98 20111936
図 43-99 11001232	W27 区画	打製石器 石鏃	2.5+	1.8+	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 22-99 20111918
図 43-100 11001235	W27 区画	打製石器 石鏃	2.5+	1.5+	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	両脚欠損	写真図版 22-100 20111921
図 43-101 11001277	W27 区画	打製石器 石鏃	2.5+	1.8	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 22-101 20111935
図 43-102 11001264	W28 区画	打製石器 石鏃	2.8	1.9	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 22-102 20111922
図 43-103 11001272	W27 区画	打製石器 石鏃	2.8+	1.8	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 22-103 20111930
図 43-104 11001268	W27 区画	打製石器 石鏃	2.8+	2.2+	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	先端、片脚欠損	写真図版 22-104 20111926
図 44-105 11001212	V28 区画	打製石器 石鏃	1.8+	1.6	0.4	0.7	黒曜岩	先端欠損	写真図版 23-105 20111898
図 44-106 11001214	V28 区画	打製石器 石鏃	1.9	0.9+	0.4	0.4	黒曜岩	1/3 程度欠損	写真図版 23-106 20111900
図 44-107 11001220	W27 区画	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.5	1.0	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 23-107 20111906
図 44-108 11001217	V28 区画	打製石器 石鏃	2.1	1.7	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-108 20111903
図 44-109 11001207	W28 区画	打製石器 石鏃	2.2	1.5	0.3	1.1	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-109 20111893
図 44-110 11001213	V28 区画	打製石器 石鏃	2.0	1.7	0.4	1.0	黒曜岩	完形	写真図版 23-110 20111899
図 44-111 11001234	W27 区画	打製石器 石鏃	2.2+	1.5+	0.3	0.8	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 23-111 20111920
図 44-112 11001208	W28 区画	打製石器 石鏃	2.3+	1.6+	0.4	0.8	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 23-112 20111894
図 44-113 11001221	V27 区画	打製石器 石鏃	2.5+	1.8	0.3	1.0	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 23-113 20111907
図 44-114 11001229	T28 区画	打製石器 石鏃	1.9	1.9	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-114 20111915

表 6　西畑瀬遺跡縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 44-115 11001230	V27 区画	打製石器 石鏃	2.0+	2.0	0.4	1.0	黒曜岩	先端欠損	写真図版 23-115 20111916
図 44-116 11001204	U28 区画	打製石器 石鏃	1.9	1.6	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 23-116 20111890
図 44-117 11001227	T28 区画	打製石器 石鏃	1.9+	1.4	0.4	0.6	黒曜岩	先端欠損	写真図版 23-117 20111913
図 44-118 11001231	T28 区画	打製石器 石鏃	2.2	1.2+	0.3	0.4	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 23-118 20111917
図 44-119 11001210	W27 区画	打製石器 石鏃	2.3+	1.5+	0.3	1.0	黒曜岩	片脚端部欠損	写真図版 23-119 20111896
図 44-120 11001206	V28 区画	打製石器 石鏃	2.4	1.4	0.4	1.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-120 20111892
図 44-121 11001209	W27 区画	打製石器 石鏃	2.4+	1.4+	0.4	1.1	無斑晶質安山岩	片脚端部欠損	写真図版 23-121 20111895
図 44-122 11001203	W28 区画	打製石器 石鏃	2.5	1.5	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 23-122 20111889
図 44-123 11001205	W28 区画	打製石器 石鏃	2.7	1.5	0.4	1.0	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 23-123 20111891
図 44-124 11001215	W27 区画	打製石器 石鏃	2.7	2.0	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-124 20111901
図 44-125 11001211	W28 区画	打製石器 石鏃	2.8	1.9	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-125 20111897
図 44-126 11001223	V27 区画	打製石器 石鏃	2.8	1.6+	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 23-126 20111909
図 44-127 11001226	V27 区画	打製石器 石鏃	2.8	1.7+	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 23-127 20111912
図 44-128 11001194	U27 区画	打製石器 石鏃	3.3	1.8+	0.4	1.4	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 23-128 20111945
図 44-129 11001197	W27 区画	打製石器 石鏃	3.3	1.8+	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 23-129 20111948
図 44-130 11001199	W27 区画	打製石器 石鏃	3.4	1.8	0.5	1.8	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 23-130 20111950
図 43-131 11001192	W28 区画	打製石器 石鏃	3.7	1.8	0.6	2.4	黒曜岩	完形	写真図版 23-131 20111943
図 44-132 11001193	U27 区画	打製石器 石鏃	3.5+	1.8+	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	脚部欠損	写真図版 23-132 20111944
図 45-133 11001225	V27 区画	打製石器 石鏃	1.8	1.9	0.4	1.2	黒曜岩	先端欠損	写真図版 23-133 20111911
図 45-134 11001196	V27 区画	打製石器 石鏃	3.2+	2.6+	0.6	3.6	無斑晶質安山岩	先端、片脚端部欠損	写真図版 23-134 20111947
図 45-135 11001195	U27 区画	打製石器 石鏃	3.7	2.1	0.6	3.6	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 23-135 20111946
図 45-136 11001198	W27 区画	打製石器 石鏃	4.6	2.2	0.6	5.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-136 20111949
図 45-137 11001201	T28 区画	打製石器 石槍	4.6+	2.0+	0.6+	6.2	無斑晶質安山岩	先端部残存	写真図版 23-137 20111952
図 45-138 11001279	V28 区画	打製石器 石錐	3.7	1.8	0.6	3.4	黒曜岩	完形	写真図版 23-138 20111953
図 45-139 11001280	W27 区画	打製石器 石錐	3.2+	1.5+	0.5	1.4	黒曜岩	一部欠損	写真図版 23-139 20111954
図 45-140 11001200	U27 区画	打製石器 石錐	4.7	1.3	0.6	3.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-140 20111951
図 45-141 11001262	T28 区画	打製石器 石錐	6.7	4.2	1.0	14.3	無斑晶質安山岩	錐部先端欠損	写真図版 23-141 20111989
図 45-142 11001260	W28 区画	打製石器 石匙	8.7	3.6	1.2	16.6	無斑晶質安山岩	一部欠損	写真図版 23-142 20111987
図 45-143 11001261	W27 区画	打製石器 石匙	5.2	4.0	1.1	19.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-143 20111989
図 45-144 11001239	U28 区画	打製石器 削器	6.2	1.8	0.9	8.8	黒曜岩	完形	写真図版 23-144 20111963
図 45-145 11001259	W27 区画	打製石器 削器	6.3	2.8	0.8	10.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-145 20111973
図 45-146 11001237	U28 区画	打製石器 削器	7.6	4.2	1.3	36.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-146 20111961

表６　西畑瀬遺跡縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 45-147 11001248	W27 区画	打製石器 削器	7.2	4.3	1.0	26.3	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-147 20111968
図 46-148 11001245	W27 区画	打製石器 削器	9.0	3.0	1.3	28.7	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 23-148 20111979
図 46-149 11001253	W27 区画	打製石器 削器	9.4	3.2	0.9	22.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-149 20111982
図 46-150 11001241	W28 区画	打製石器 削器	11.8	3.2	1.4	50.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-150 20111977
図 46-151 11001255	V27 区画	打製石器 削器	9.3	3.8	1.1	41.7	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-151 20111983
図 46-152 11001250	V27 区画	打製石器 削器	8.6	5.2	1.2	37.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 23-152 20111981
図 46-153 11001281	W28 区画	打製石器 削器	4.5	3.2	1.1	11.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-153 20111955
図 46-154 11001236	SX9005	打製石器 削器	5.2	3.5	0.7	12.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-154 20111960
図 46-155 11001246	U28 区画	打製石器 削器	5.7	3.8	0.7	12.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-155 20111966
図 46-156 11001254	W27 区画	打製石器 削器	5.2	5.1	1.0	20.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-156 20111971
図 46-157 11001243	W28 区画	打製石器 削器	6.4	4.2	1.3	26.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-157 20111964
図 47-158 11001249	V27 区画	打製石器 削器	8.8+	5.5	1.4	54.6	無斑晶質安山岩	一部欠損	写真図版 24-158 20111980
図 47-159 11001238	V28 区画	打製石器 削器	6.9	5.6	1.3	45.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-159 20111962
図 47-160 11001257	V27 区画	打製石器 削器	8.7	5.5	1.6	58.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-160 20111984
図 47-161 11001256	V27 区画	打製石器 削器	7.2+	5.6	1.5	68.1	無斑晶質安山岩	一部欠損	写真図版 24-161 20111972
図 47-162 11001247	V27 区画	打製石器 削器	7.7	3.3	0.9	22.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-162 20111967
図 47-163 11001244	V28 区画	打製石器 削器	8.1	3.6	1.4	38.6	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 24-163 20111965
図 47-164 11001258	V27 区画	打製石器 削器	12.0	7.7	2.0	194.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-164 20111985
図 48-165 11001251	V27 区画	打製石器 削器	7.2	5.4	1.6	58.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-165 20111969
図 48-166 11001240	U28 区画	打製石器 削器	9.8	5.8	1.8	55.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-166 20111976
図 48-167 11001242	W28 区画	打製石器 削器	9.1	5.3	1.5	64.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-167 20111978
図 48-168 11001252	W27 区画	打製石器 削器	7.7	7.0	1.3	53.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-168 20111970
図 48-169 11001263	V28 区画	石製品 円盤形	8.7	8.4	1.0	119.0		完形	写真図版 24-169 20111988
図 49-170 11001282	V27 区画	打製石器 MF	4.7	2.5	0.6	5.4	黒曜岩	完形	写真図版 24-170 20111956
図 49-171 11001289	V27 区画	打製石器 MF	11.0	2.9	1.4	30.8	無斑晶質安山岩	側縁一部欠損	写真図版 24-171 20111986
図 49-172 11001293	V27 区画	打製石器 石核	3.2	4.0	1.9	15.8	黒曜岩	完形	写真図版 24-172 20111958
図 49-173 11001294	W27 区画	打製石器 石核	4.0	4.1	2.3	31.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-173 20111959
図 49-174 11001292	V30 区画	打製石器 石核	3.7	3.9	2.7	36.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-174 20111957
図 49-175 11001925	V27 区画	打製石器 石核	3.7	6.0	1.9	44.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-175 20120163
図 49-176 11001290	W28 区画	打製石器 石核	5.4	8.9	2.7	99.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-176 20111974
図 49-177 11001291	V27 区画	打製石器 石核	5.5	5.8	3.8	89.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 24-177 20111975
図 50-178 11001848	W27 区画	磨製石器 磨石	6.5	5.1	4.0	175.2		完形	写真図版 24-178 20120164

表 6　西畑瀬遺跡縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 50-179 11001845	U28 区画	磨製石器 磨石	9.7	9.0	6.4	750.0		完形	写真図版 24-179 20120160
図 50-180 11001847	W27 区画	磨製石器 磨石	9.4	9.1	4.5	550.0		完形	写真図版 24-180 20120162
図 50-181 11001844	P9047	磨製石器 磨石	10.5	8.4	6.3	960.0		完形	写真図版 24-181 20120159
図 50-182 11001846	W27 区画	磨製石器 磨石	14.5	9.1	5.4	1180.0		完形	写真図版 24-182 20120161
図 57-194 11001304	S36 区画 5 層	打製石器 石鏃	1.7	1.5	0.4	0.8	黒曜岩	完形	写真図版 25-194 20111873
図 57-195 11001300	S36 区画 5 層	打製石器 石鏃	1.9+	1.6+	0.4	0.8	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 25-195 20111869
図 57-196 11001309	R35 区画 検出面	打製石器 石鏃	2.0+	1.3+	0.4	0.6	黒曜岩	先端、両脚端部欠損	写真図版 25-196 20111878
図 57-197 11001306	S36 区画 5 層	打製石器 石鏃	1.8+	1.2+	0.3	0.2	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 25-197 20111875
図 57-198 11001299	S38 区画 5 層	打製石器 石鏃	1.9+	1.2+	0.3	0.4	無斑晶質安山岩	先端、片脚欠損	写真図版 25-198 20111868
図 57-199 11001302	R38 区画	打製石器 石鏃	1.9+	1.4+	0.3	0.4	無斑晶質安山岩	片脚端部欠損	写真図版 25-199 20111871
図 57-200 11001303	S36 区画 5 層	打製石器 石鏃	2.1	1.5	0.4	0.6	黒曜岩	完形	写真図版 25-200 20111872
図 57-201 11001307	S36 区画 3 層	打製石器 石鏃	2.1+	1.1+	0.3	0.4	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 25-201 20111876
図 57-202 11001308	S36 区画 5 層	打製石器 石鏃	2.2+	1.5+	0.4	0.6	黒曜岩	片脚欠損　不純物あり	写真図版 25-202 20111877
図 57-203 11001305	S38 区画 5 層	打製石器 石鏃	2.4+	1.3+	0.3	0.6	黒曜岩	先端、片脚欠損	写真図版 25-203 20111874
図 57-204 11001297	R35 区画 3 層	打製石器 石鏃	3.0	1.7	0.3	0.8	黒曜岩	両脚端部欠損	写真図版 25-204 20111866
図 57-205 11001298	S36 区画 3 層	打製石器 石鏃	2.8+	1.7+	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	両脚一部欠損	写真図版 25-205 20111867
図 57-206 11001296	S36 区画 3 層	打製石器 石鏃	3.1	1.7+	0.5	1.4	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 25-206 20111880
図 57-207 11001301	R37 区画	打製石器 石鏃	2.6+	1.4+	0.5	1.4	無斑晶質安山岩	片脚、側縁一部欠損	写真図版 25-207 20111870
図 57-208 11001316	S38 区画 5 層	打製石器 石鏃	2.4+	2.3	0.4	1.2	黒曜岩	先端欠損	写真図版 25-208 20111879
図 57-209 11001295	S36 区画 5 層	打製石器 石匙	2.8	6.7+	1.0	13.2	無斑晶質安山岩	一部欠損	写真図版 25-209 20111881
図 57-210 11001311	9B 区 検出面	打製石器 石匙	5.8	3.4	0.7	15.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 25-210 20111882
図 57-211 11001310	S38 区画 5 層	打製石器 石匙	9.0	4.8	1.2	51.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 25-211 20111885
図 57-212 11001312	S35 区画 5 層	打製石器 掻器	4.6	4.6	2.1	42.8	黒曜岩	完形	写真図版 25-212 20111883
図 57-213 11001314	R35 区画 3 層	打製石器 削器	6.3	4.4	1.1	28.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 25-213 20111884
図 57-214 11001313	S36 区画 3 層	打製石器 削器	9.7	4.4	0.9	42.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 25-214 20111886
図 57-215 11001315	S38 区画	打製石器 削器	8.6	5.3	1.3	44.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 25-215 20111887

３　弥生～古墳時代の遺物

８・９区では、遺構は検出されなかったが、包含層上部などから弥生～古墳時代の土器が出土した。西畑瀬遺跡や８・９区北西側に近接する垣ノ内遺跡は、脊振山間部の中で当該時期の遺構・遺物が比較的多く確認されている。８・９区では、弥生時代で前期・中期初頭～前葉、古墳時代で前期とみられる遺物がある。

弥生土器・土師器（図 59）

216 ～ 220 は弥生土器である。216 は前期と考えられる壺で、短く外反する口縁部は内面がやや肥厚し、器面調整はナデとみられる。217 は前期と考えられる甕で、口縁部が大きく長く外反し、外面に沈線が 1 条巡る。器面調整はナデで、口縁内面にはハケメが残る。218・219 は中期初頭～前葉の甕口縁部で、器面調整はヨコナデとみられる。220 は壺と思われる底部で、器面調整は不明である。

221・222 は古墳時代初頭とみられる土師器甕で、器面調整は口縁部がヨコナデ、胴部内面がケズリである。221 は布留式に近い形態であるが、222 はかなり変容しており、在地的な様相を示している可能性がある。

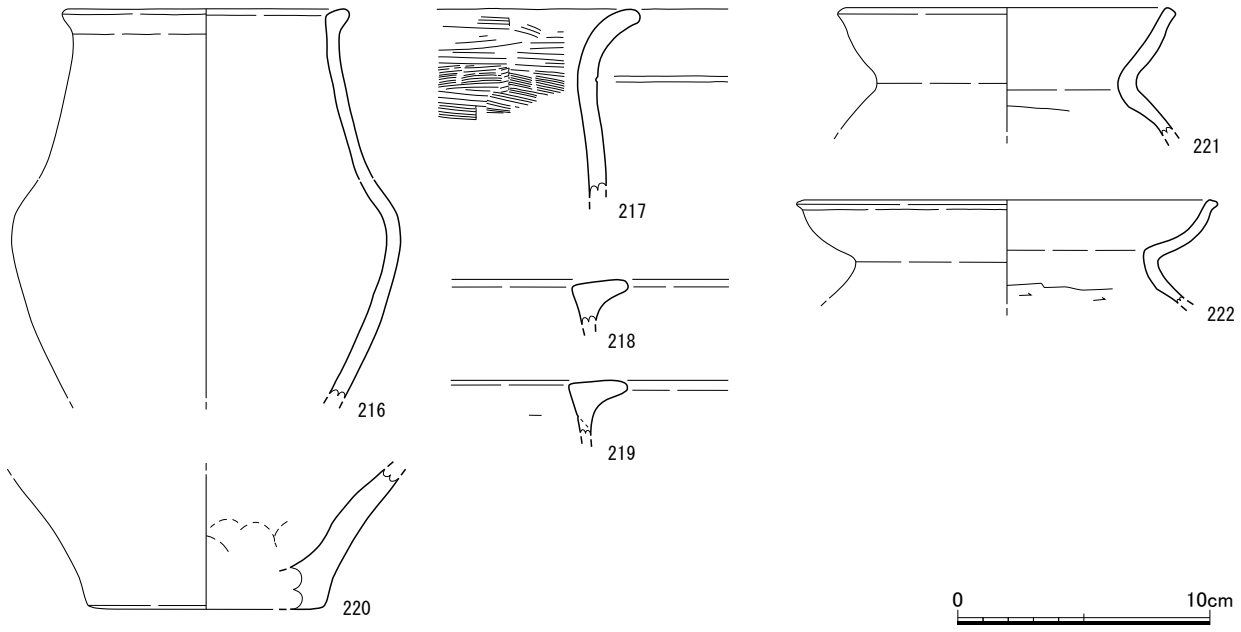


図 59　８・９区弥生・古墳時代の遺物（1/3）

表 7　西畑瀬遺跡弥生～古墳時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
図 59-216 11002429	W28 区画	弥生土器 壺	11.4*	-	-	外：橙 内：橙・灰褐	黒斑あり　図上復元	写真図版 26-216 20120115･116
図 59-217 11001811	9A 区	弥生土器 甕	-	-	-	にぶい黄橙		写真図版 26-217 20120227･228
図 59-218 11001867	8 区 7 層	弥生土器 甕	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙		写真図版 26-218 20120201
図 59-219 11001868	8 区 3tr 5 層	弥生土器 甕	-	-	-	にぶい橙		写真図版 26-219 20120202
図 59-220 11001869	8 区 7 層	弥生土器 壺	-	9.4*	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙		写真図版 26-220 20120317
図 59-221 11002370	9B 区 1 層	土師器 甕	13.4*	-	-	外：にぶい黄橙 内：浅黄橙	外面煤付着	写真図版 26-221 20120314
図 59-222 11001810	9A 区 検出面	土師器 甕	16.7*	-	-	にぶい黄橙		写真図版 26-222 20120226

４　中世の遺構と遺物

８・9A 区上層では、遺構検出面で中世と考えられる小穴群を検出したが（図 60・61）、掘立柱建物や柵列などは認められなかった。9A 区ではやや遺構密度が高いものの、８区では小穴の数も少なく、9B 区では小穴も確認できないため、掘立柱建物や柵列が集中する４・5N 区を中心とした中世集落の縁辺部の状況を示していると考えられる。また、８区北部では浅い谷状の地形に堆積した中世前期を中心とする遺物包含層を確認した。

遺物は、小穴や包含層などから 13 世紀代を中心とする中世前期の土器類・陶磁器が出土しており、13 世紀前葉～ 14 世紀前葉に最盛期を迎える北地区（４・5N 区）の集落の時期とほぼ一致する。中世後期以降の遺物は、近世を含めごく少量であり、この点もこれまでの調査成果と矛盾しない。

中世以降の出土遺物（図 62）

出土量が少ないため、８・９区をまとめて種別に報告する。出土位置については、表を参照されたい。

223 ～ 247 は中世前期の遺物である。223・224 は底部糸切の土師器杯で、224 には内底ナデが施される。225・226 は瓦器碗で、ヘラミガキが施される。

227 ～ 230 は白磁皿で、いずれも口禿の皿Ⅸ類である。227・229 は外面体部下位から底部にかけて施釉されないⅨ２類、230 は全面施釉のⅨ１類である。231 ～ 233 は白磁碗である。232 は高台の削り出しが浅い碗Ⅳ類で、内面見込みに沈線が施される。233 は口禿の碗Ⅸ類である。

234 は青白磁の合子蓋と考えられ、外面に陽刻による文様、内面に糸切状の痕跡がみられる。

235 は白磁皿Ⅷ類に近い器形になるものと思われるが、同安窯系青磁皿とした。類似品が５区 SD5017 から出土している（『西畑瀬遺跡１』所収：図 49-230）。236 は 9A 区 P9031 出土の同安窯系青磁碗で、外面に細かい櫛目文、内面にヘラ状施文具による文様が施される。

237 ～ 240 は竜泉窯系青磁碗である。237・238 は外面に鎬蓮弁文を施す碗Ⅱ bc 類、239 は外面無文の碗Ⅰ類とみられる。239・240 は内面見込みに文様が施され、239 は高台畳付から高台内は一部釉が掛かるが無釉、240 は高台内が無釉である。

241・242 は同一個体と考えられる中国産の陶器壺で、241 が 9A 区 P9004、242 がその周辺の検出面から出土した。釉は口縁部付近がやや薄いものの灰緑色で、図示していない破片には黒褐色の釉が流し掛けられている。

243 ～ 245 は東播諸窯とみられる須恵器系陶器捏鉢の口縁部で、245 は片口部の破片である。

246 は土師器鍋で、L 字状に短く張り出した口縁上面に短沈線状文を施す鍋Ⅱ a 類である。外面はハケメ、内面はハケメのちナデである。

247 は須恵器系陶器甕の体部破片で、外面に格子タタキ、内面にハケメが施される。瓦質焼成にみえ、樺番城窯系の可能性があるが、２次焼成を受けており、確実ではない。

248 ～ 251 は中世後期の遺物とみられる。248 は底部糸切の小皿である。249 は白磁森田 D 群の皿で、陶胎である。250 は粗製の青花皿と思われ、口縁部内外面にそれぞれ圏線が１本描かれる。251 は瓦質土器擂鉢で、内面はハケメののち４本単位の擂目が施され、内面下半には顕著な磨滅痕がみられる。

252・253 は近世の遺物と考えられる。252 は初期の肥前染付磁器あるいは肥前陶器とみられる皿である。253 は肥前陶器壺と思われ、内外面に褐釉が施される。

図 60　８区中世遺構の分布（1/400）

図 61　9A 区中世遺構の分布（1/400）

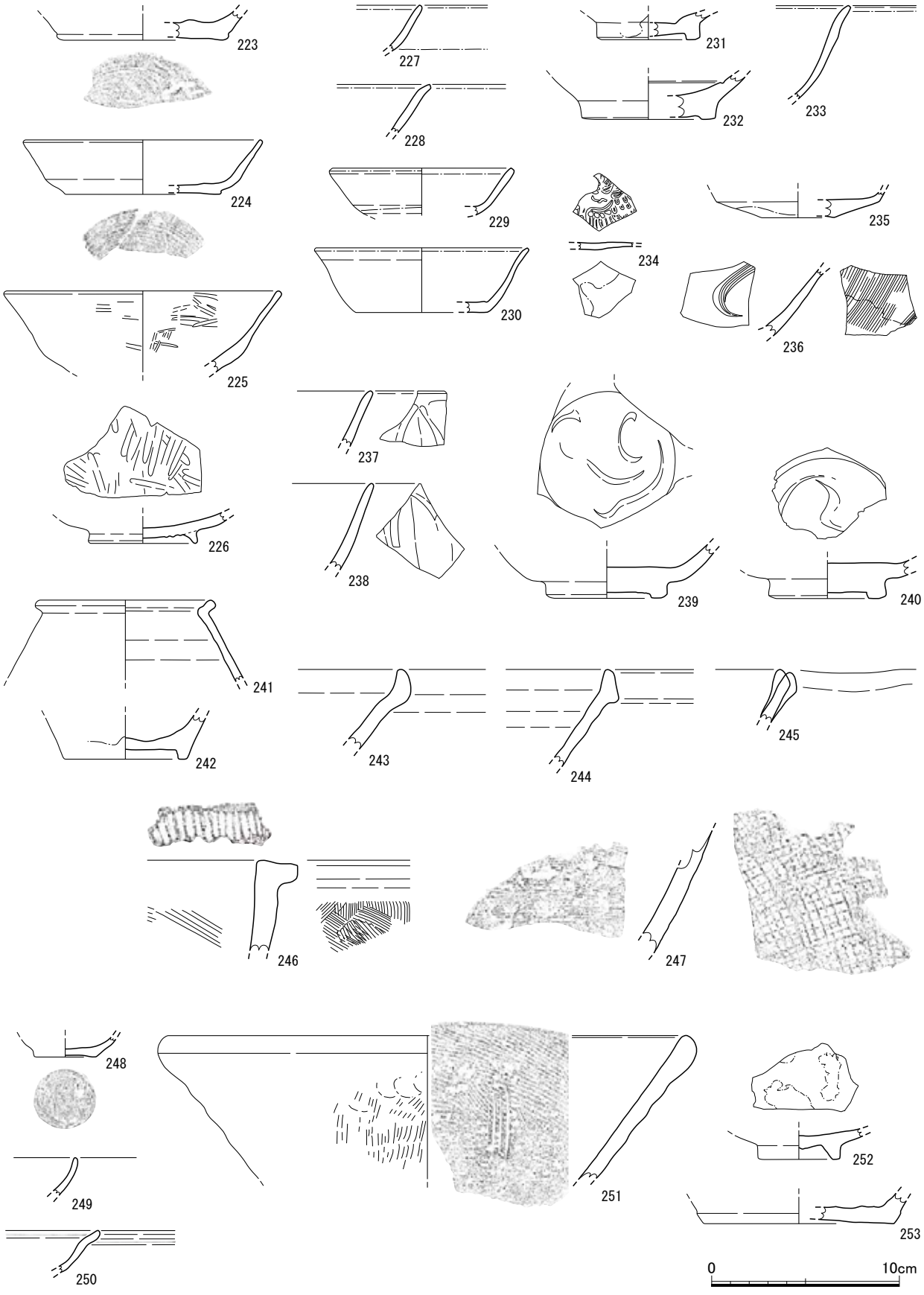


図 62　８・９区中世の遺物

表 8　西畑瀬遺跡中世以降の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色調	備考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 62-223 11001871	8 区 4tr 4 層	土師器 杯	-	9.0*	-	にぶい黄橙	底部糸切　板状圧痕カ	写真図版 26-223 20120204
図 62-224 11001873	8 区 4tr 5 層	土師器 杯	12.7*	8.3*	2.9	にぶい黄橙	底部糸切	写真図版 26-224 20120206
図 62-225 11001808	9A 区 検出面	瓦器 碗	14.8*	-	-	外：にぶい橙・暗灰 内：灰・灰白		写真図版 26-225 20120199
図 62-226 11001872	8 区 4tr 5 層	瓦器 碗	-	5.8*	-	外：灰白・黒褐 内：灰白		写真図版 26-226 20120205
図 62-227 11001880	8 区 7tr 5 層	白磁 皿	-	-	-	胎土：白	皿Ⅸ 2 類	写真図版 26-227 20120211
図 62-228 11002363	9B 区 1 層	白磁 皿	-	-	-	胎土：灰白	皿Ⅸ類	写真図版 26-228 20120218
図 62-229 11001878	8 区 7tr 6 層	白磁 皿	9.8*	-	-	胎土：灰白	皿Ⅸ 2 類	写真図版 26-229 20120209
図 62-230 11001879	8 区 4tr 5 層	白磁 皿	11.4*	7.0*	3.5	胎土：灰白	皿Ⅸ 1 類	写真図版 26-230 20120210
図 62-231 11001882	8 区 4tr 5 層	白磁 碗	-	5.5*	-	胎土：灰白		写真図版 26-231 20120213･214
図 62-232 11002368	9B 区 1 層	白磁 碗	-	7.1*	-	胎土：灰白	碗Ⅳ類	写真図版 26-232 20120223
図 62-233 11001804	9A 区 検出面	白磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	碗Ⅸ類	写真図版 26-233 20120194
図 62-234 11001884	8 区 4tr 5 層	青白磁 合子蓋	-	-	-	胎土：灰白		写真図版 26-234 20120216
図 62-235 11002367	9B 区 1 層	青磁 皿	-	3.9*	-	胎土：灰白	同安窯系カ	写真図版 26-235 20120222
図 62-236 11001805	9A 区 P9031	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	同安窯系	写真図版 26-236 20120195
図 62-237 11001883	8 区 4tr 5 層	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系　碗Ⅱ bc 類	写真図版 26-237 20120215
図 62-238 11002362	9B 区 1 層	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系　碗Ⅱ bc 類	写真図版 26-238 20120217
図 62-239 11002366	9B 区 1 層	青磁 碗	-	6.4	-	胎土：灰	竜泉窯系	写真図版 26-239 20120230･231
図 62-240 11002365	9B 区 1 層	青磁 碗	-	6.2*	-	胎土：灰白	竜泉窯系	写真図版 26-240 20120220･221
図 62-241 11001802	9A 区 P9004	陶器 壺	9.5*	-	-	胎土：灰	中国　242 と同一個体カ	写真図版 26-241 20120191･193
図 62-242 11001803	9A 区 検出面	陶器 壺	-	6.1*	-	胎土：にぶい黄橙	中国　241 と同一個体カ	写真図版 26-242 20120192
図 62-243 11001876	8 区 4tr 5 層	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	外：黄灰・暗灰 内：黄灰	東播諸窯系	写真図版 26-243 20120207
図 62-244 11001877	8 区 5tr 5 層	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 26-244 20120208
図 62-245 11001807	9A 区 検出面	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 26-245 20120198
図 62-246 11001809	9A 区	土師器 鍋	-	-	-	にぶい黄橙	煤付着　鍋Ⅱ a 類	写真図版 26-246 20120200
図 62-247 11001875	8 区 5・6 層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	外：オリーブ黒 内：にぶい黄橙	樺番城窯系カ	写真図版 26-247 20120229
図 62-248 11001870	8 区 7tr 2 層	土師器 小皿	-	3.3	-	外：浅黄 内：にぶい橙	底部糸切	写真図版 26-248 20120203
図 62-249 11001881	8 区 1 層	白磁 皿	-	-	-	胎土：灰白	森田 D 群　陶胎	写真図版 26-249 20120212
図 62-250 11002364	9B 区 1 層	青花カ 皿	-	-	-	胎土：灰白	福建系カ	写真図版 26-250 20120219
図 62-251 11001874	8 区 5 層	瓦質土器 擂鉢	28.7*	-	-	外：黄灰・黒褐 内：にぶい黄橙		写真図版 26-251 20120232
図 62-252 11001806	9A 区 検出面	染付磁器カ 皿	-	4.0*	-	胎土：灰白	肥前カ　陶器の可能性あり	写真図版 26-252 20120196･197
図 62-253 11002369	9B 区 表採	陶器 壺	-	10.1*	-	胎土：橙	肥前カ	写真図版 26-253 20120224･225

5　まとめ

西畑瀬遺跡８・９区では、上層で中世前期を中心とする集落跡、下層で縄文時代の集落跡を確認し、弥生・古墳時代の遺物も少量ながら出土した。このうち、主体となるのは縄文時代後期の集落跡で、土器・石器など遺物が多数出土し、多くはないが遺構も検出された。上層の中世集落は４･5N 区の集落の縁辺部にあたるものと考えられ、西畑瀬遺跡の中世集落の様相をおおよそ明らかにすることができた。ここでは、８・９区の縄文時代の様相について後期後葉を中心として簡単にまとめておきたい。

８・９区の縄文時代

８・９区下層において、８区で土坑、9A 区で集石遺構や配石土坑などの縄文時代の遺構を検出した。中世の遺構検出面下位に広がる遺物包含層からは、８区で前期、9A 区で後期初頭と後期中葉～後葉、9B 区で中期前葉～中葉を中心とする遺物が出土した。このうち、9A 区南東部を中心に出土した太郎迫式～御領式期の遺物が大部分を占める。以下、時間を追って概要を述べていく。

早期では、9B 区で早期中葉の押型文土器が出土したが、遺物はごく少量であり、この時期に８・９区は積極的に利用されていなかったものと考えられる。早期について周辺の遺跡をみると、第３章で報告した垣ノ内遺跡で押型文土器が比較的まとまって出土しているが、押型文土器は西畑瀬遺跡全体でも少量しか出土していない。これに対して、約３km 上流の小ヶ倉遺跡や入道遺跡、九郎遺跡などでは早期前葉の円筒形刺突文土器や刺突文土器があり、押型文土器が多数出土していることから、畑瀬地区とかなり異なった様相を示している。早期後葉になると西畑瀬遺跡 5N 区でアカホヤテフラ下層から塞ノ神 B 式系土器などが出土するようになるが、西畑瀬遺跡で遺物量が増加するのは早期末からで、南部の 5S・７区を中心に轟 A 式系土器などの集中域が認められる。

前期では、８区で轟式・曽畑式系、9B 区で曽畑式系土器が出土したが、早期と同じように遺物量は少ない。西畑瀬遺跡では４区南部から７区にかけて轟 B 式～曽畑式土器が多数出土しており、当該時期と考えられる焼礫集積遺構や焼土遺構なども検出されていることから、前期については遺跡南部が主に利用されていた地区であることが明らかとなった。なお、８区の土坑の時期については不明である。

中期では、9B 区でそれぞれ１個体分と思われる船元・春日式系のものが出土しており、9A 区で中期後葉の並木式土器が認められるが、様相を把握できるほどの遺物量ではない。9A 区西側にあたる４区中央東寄りで船元・春日式系土器がまとまって出土しているが、やはり出土量は多くない。周辺の遺跡でも、九郎遺跡や平畠遺跡で船元式系土器が出土しているが少量であり、特に中期後葉は脊振山間部での人間活動の痕跡があまり認められない時期であるといえよう。

後期では、9A 区南西部で後期初頭の坂の下式期、9A 区南東部で太郎迫式～御領式期を中心とした後期中葉～後葉の遺物がまとまっており、9B 区でも後期中葉の鐘崎式期と考えられる土器が出土した。後期中葉～後葉は８・９区で主体をなす時期であり、9A 区 SX9005 は御領式前後の時期の配石土坑と考えられる。なお、9A 区 SX9004 は周辺から遺物がほとんど出土していないため、時期は不明である。

後期初頭は 9A 区南西部に遺物の集中部がみられ、中津式系や後期阿高式系とみられる土器が出土しているが、これに伴う石器は不明な点が多い。中津式系の図 35-22 は中津Ⅰ式と考えられ[1)]、詳細な時期が分かる佐賀県内での出土例であり、中津式の北部九州における分布が判明する例として貴重である。

後期中葉～後葉は 9A 区南東部を中心に高い密度で遺物が分布しており、太郎迫式～御領式期の土器が主体を占め、その前後の北久根山式や広田式期のものもわずかにみられる。図示した石器もほとんどが南東部からの出土であり、後期中葉～後葉の石器の特徴を示す一群であると考えられる。石鏃の中では、いわゆる剥片鏃の占める比率が高いことが指摘できるが、特に無斑晶質安山岩製のものが相当量あることは特徴的である。剥片鏃は鈴桶型石刃

技法（小畑 2002）と密接に関係するが、もともと黒曜岩を利用する技法であり、西畑瀬遺跡６区で後期中葉の鐘崎式期に伴う剥片鏃のほとんどが黒曜岩製であるのとは対照的である。無斑晶質安山岩の縦長剥片を素材とする削器や石刃も出土しているため、後期中葉～後葉のある時期には鈴桶型石刃技法が無斑晶質安山岩にも用いられたことが考えられる。

西畑瀬遺跡において、後期の遺物は６区北部と 9A 区に集中しており、後期には嘉瀬川に近い東部が主として利用されていた部分であることが明らかとなった。４～７区の縄文時代集落の調査では、石器組成が狩猟具に偏り、漁撈具が欠落することや竪穴住居など定住を示す遺構が検出されていないことなどから、狩猟活動の拠点として一時的に居住した場所と考えられるが、9A 区でも後・晩期に特徴的な扁平打製石斧が出土しないなど同様の状況が認められ、遺跡の性格としては他の時期と大きな変化はないものと思われる。ただ、他の地区とは異なり、埋甕の可能性がある遺構が検出され、後期中葉～後葉と考えられる円盤形の土製品・石製品が出土しており、調査精度の問題があるかもしれないが、出土点数の比率では土器が石器を大きく上回っていることから、他の時期とはやや異なる性格の集落であった可能性もあろう。

晩期では、9A 区で晩期前葉に降る可能性がある精製土器が出土しており、SX9002 付着炭化物の放射性炭素年代が晩期前葉と測定されていることから、少量ながら前葉のものが出土しているものと思われるが、明確に分離できていない。西畑瀬遺跡では 5S 区北東部で晩期中葉の黒川式期の遺物集中部が認められ、再び遺跡南部に利用域が移動したものと考えられる。また、少量ではあるが、６区で刻目突帯文土器も出土している。

今回の８・９区の調査で、西畑瀬遺跡の縄文時代の集落跡をほぼ全域発掘したことになる。１～９区の調査によって、早期中葉から晩期末までの長期間にわたって遺構・遺物が確認され、西畑瀬遺跡が佐賀県を代表する縄文時代の遺跡であることが明らかとなったが、報告書でその内容について十分に分析・検討できなかったことは残念である。今後の研究によって、遺跡の性格が詳細に解明されることを期待したい。

注

１）水ノ江和同氏のご教示による。

第３章　参考・引用文献

小畑弘己（2002）「縄文時代の石刃－鈴桶型石刃技法について」『青丘学術論集』第 20 集　(財) 韓国文化研究振興財団
佐賀県教育委員会（2007）『東畑瀬遺跡１・大野遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 170 集
佐賀県教育委員会（2008）『西畑瀬遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 176 集
佐賀県教育委員会（2009）『西畑瀬遺跡２・大串遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 180 集
佐賀県教育委員会（2011）『小ヶ倉遺跡・入道遺跡・九郎遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 186 集
太宰府市教育委員会（2000）『大宰府条坊跡ⅩⅤ―陶磁器分類編―』太宰府市の文化財第 49 集
徳永貞紹（1990）「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究Ⅵ』　日本中世土器研究会
富士町誌編さん委員会（1968）『富士町誌』　富士町教育委員会
富士町史編さん委員会（2000）『富士町史』　富士町
水ノ江和同（1997）「北部九州の縄紋後・晩期土器―三万田式から刻目突帯文土器の直前まで―」『縄文時代』第８号　縄文時代文化研究会
水ノ江和同・前迫亮一（2010）「九州」『西日本の縄文土器　後期』真陽社
森田　勉（1982）「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2　日本貿易陶磁研究会

第５章　東畑瀬遺跡６Ｔ区

第５章　東畑瀬遺跡 6T 区

1　東畑瀬遺跡 6T 区の概要

東畑瀬遺跡は、佐賀県佐賀市富士町大字関屋字鶴・辻・田野々・平・川向に所在する（図 63）。

東畑瀬地区は、嘉瀬川中流域の左岸に位置し、ダム建設に伴い全戸移転するまで北西向きの山麓部斜面一帯に集落が展開していた。「畑瀬」は暦応２（1339）年４月 25 日石志定阿譲状案（石志氏家文書）に「安冨庄内畑瀬村、同村内火桶」とあるのが史料上の初見である。当地には山内を代表する戦国武将である神代勝利が隠居所とした畑瀬城があったとされ、勝利の墓や菩提寺である宗源院がある。嘉瀬川を挟んだ対岸には西畑瀬地区があり、東西の畑瀬地区は、藩政期には東畑瀬が佐賀本藩領、西畑瀬が小城鍋島家（小城支藩）領に属し、昭和 31（1956）年に旧富士村として合併するまで佐賀郡小関村と小城郡南山村に分かれていた。現在は国道 323 号線が嘉瀬川に沿って古湯地区から西畑瀬に向かっているが、近世以前の基幹道は小副川地区で一旦嘉瀬川沿いから外れ、上小副川まで北上した後、西に向かい峠を越えて東畑瀬に入り、嘉瀬川を渡って西畑瀬に至るという経路であったことが、『正保四年肥前一国絵図』などから読み取れる。

東畑瀬遺跡では、嘉瀬川ダム建設事業に伴い１～９区の発掘調査を実施して、縄文～弥生時代の集落跡、中世の集落跡・城館跡、近世の寺院跡・神社跡・集落跡などを調査している。主なものとして、１区の縄文時代晩期を中心とした集落跡と中世前期の集落跡、宗源院跡（6G 区）と付随する墓地（９区）の調査があるが、神代勝利が隠居所として築いたとされる畑瀬城の居館跡とみられる神代氏畑瀬館跡（6F 区）や、その周辺の小規模な山城跡などの調査成果により、畑瀬城の実態が明らかになりつつある。

今回報告する 6T 区は字鶴の範囲にあり、遺跡の南西部にあたる嘉瀬川に面した標高約 235 ～ 237 ｍの河岸段丘上に位置する（図 64）。6T 区南西側の１区では、縄文時代後期後葉～弥生時代初頭の集落跡、鎌倉時代を中心とする中世前期の集落跡が確認されている。6T 区の調査の結果、縄文時代後期初頭～晩期中葉の集落跡、中世～近世初頭に堆積したとみられる自然流路を検出した。

縄文時代の集落跡は、調査区南東部の段丘面に広がっており、無遺物層を挟んで上層から晩期中葉の黒川式並行期を主体とする遺構・遺物、下層から後期初頭の坂の下式期の遺物が確認された。

上層では、竪穴建物の可能性がある性格不明遺構２基のほか、土坑２基、焼土遺構５基、集石遺構１基などの遺構を検出した。性格不明遺構は平面が隅丸方形で、明確な柱穴などは検出できなかったが、中央部に炉跡と思われる掘り込みがあることや、剥片類が多量に出土していることから、石器製作の作業場であった可能性がある。出土土器は後期後葉の御領式前後のものが少量みられるが、大部分は晩期中葉の黒川式並行期のものである。定形石器の大部分を石鏃が占め、周辺の縄文時代の遺跡と同様の石器組成であることがうかがえる。

下層では、遺構は確認できなかったが、調査区北東部にまとまって後期初頭の遺物が出土した。出土土器は坂の下式がほとんどを占めるが、ごく少量の中津式系土器がある。時期幅は狭く、上層とは無遺物層を挟むため、後期初頭の石器の特徴を知る上で貴重な調査成果となった。

中世では、調査区西部と中央部で自然流路を２条検出して、中世前期を中心とした在地系土器や輸入陶磁器などが出土した。流路以外の遺構は小穴を含め確認できず、１区の中世前期集落の範囲を確定することができた。このほか、近世の遺物も少量ではあるが出土した。

なお、本章でこれまで報告書に掲載できなかった東畑瀬遺跡の出土遺物について、簡単に報告した。

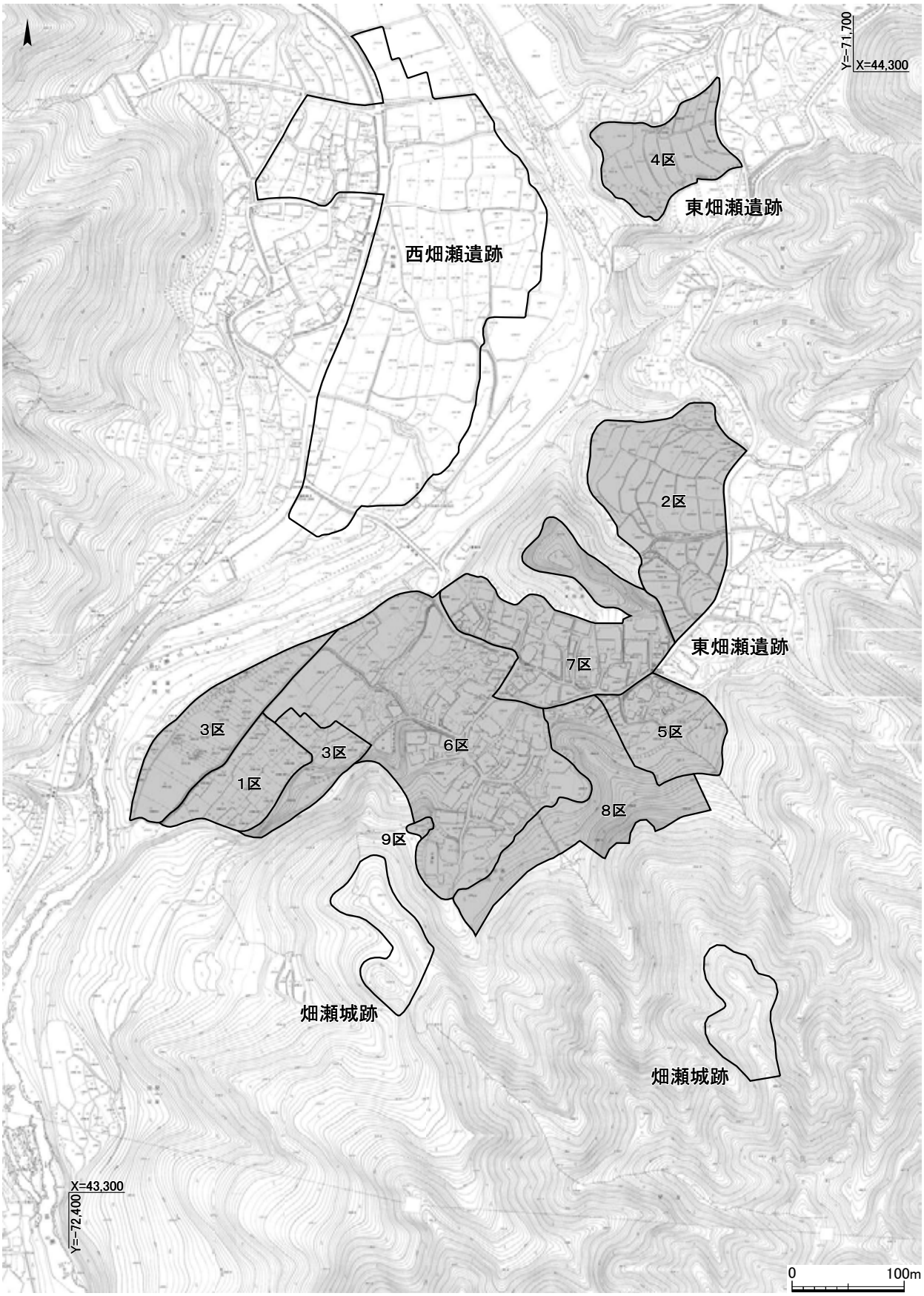


図 63　東畑瀬遺跡周辺の地形（1/5,000）

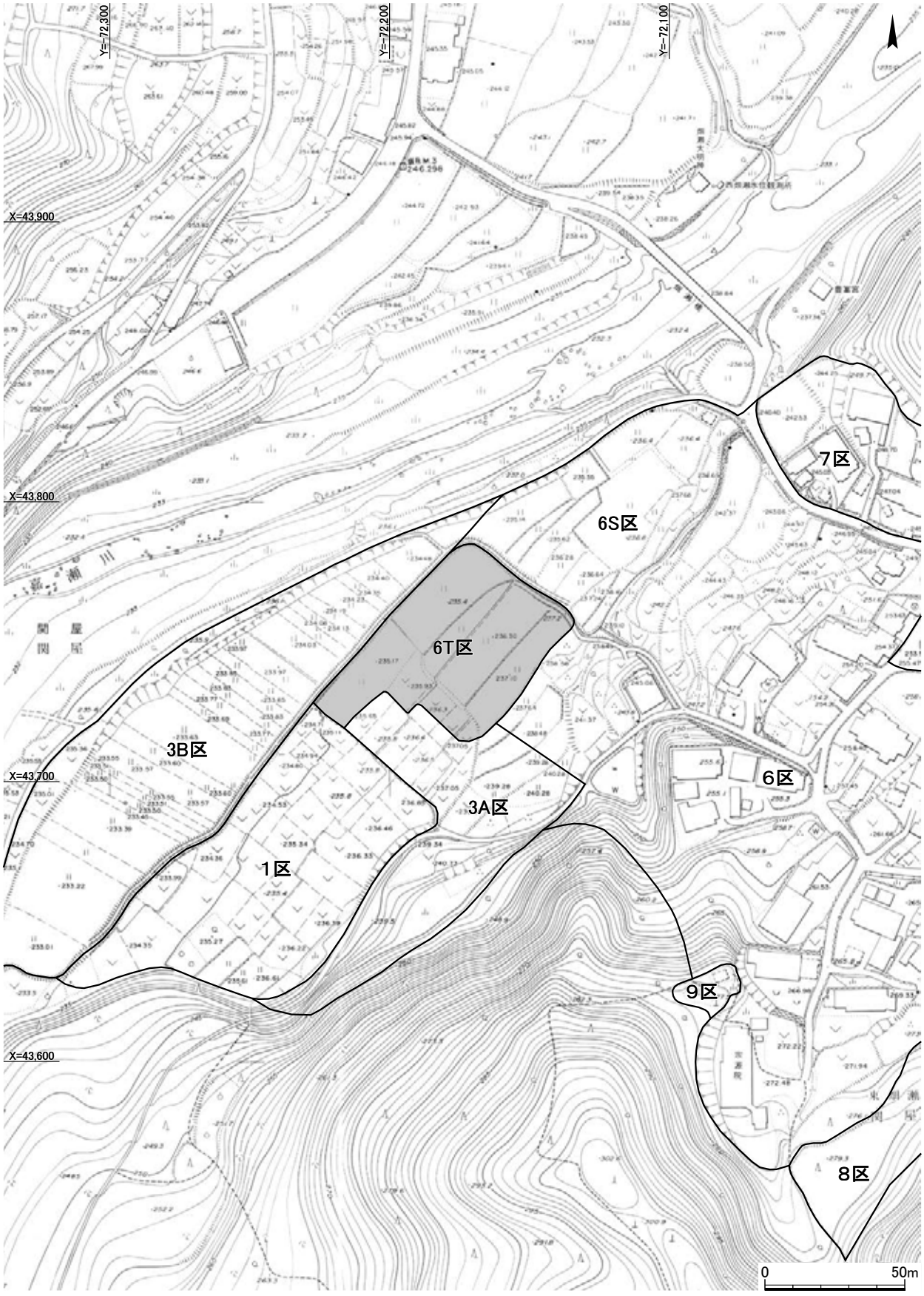


図 64　東畑瀬遺跡 6T 区の位置（1/2,000）

２　6T 区縄文時代の遺構と遺物

6T 区では、調査区南東側にあたる上位の段丘面で縄文時代の遺構と遺物包含層を確認し、土器・石器などが出土した。調査区北東部（区画２）で無遺物層（13 層）を挟んだ上下２層の遺物包含層が認められ（図 67）、上層では晩期中葉の黒川式並行期を中心とする遺構・遺物、下層では後期初頭の坂の下式期の遺物を検出した。調査区南部（区画１）については、上層の黒川式期の遺構・遺物のみ確認した。

なお､調査にあたって南北二つの区画に分けて遺物包含層の掘り下げを行い､それぞれの区画での層序にしたがって遺物を取り上げているため、南側を区画１、北側を区画２として報告を行う。

１）6T 区上層縄文時代の遺構と遺物

上層では、晩期中葉を主体とする遺構と遺物包含層を確認し、遺構や包含層から土器・石器などが出土した。遺構・遺物包含層は調査範囲の南東側を中心に広がっている。

遺構と遺構出土遺物

遺構として､竪穴建物の可能性がある性格不明遺構２基､土坑２基､焼土遺構５基､集石遺構１基を検出した（図 65)。この他に現地で縄文時代の遺構としたものがあるが、風倒木痕（SX6312）と思われるものや、埋土に焼土などを含まないごく浅い掘り込みであるため、遺構として個別に説明しなかった。

性格不明遺構

２基確認された竪穴建物の可能性がある性格不明遺構は、重複して検出され、形状や規模が類似している。SX6315 には炉跡の可能性がある掘り込みがみられるが、２基とも明確な柱穴は確認できなかった。

SX6307（図 68）

区画２のほぼ中央に位置し、重複する SX6315 より古い。長軸 3.28 m、短軸 3.06 m、深さ 0.19 mで、平面は隅丸方形である。壁面は立ち上がりが非常に緩やかで、底面は擂鉢状をなす。中央西寄りに径約 0.60 m、深さ 0.16 mの浅い掘り込みを検出したが、SX6315 とは異なり、内部に焼土層はみられなかった。遺物は埋土（４層）を中心に縄文土器 227 点、石器 438 点が出土した。このうち、磨石（33）は SX6307 から南に約 25 m離れた SX6313 出土磨石（67）と接合した。

SX6307 出土遺物（図 74・75）

１・２は器面調整ミガキの精製浅鉢である。１は碗形になるものと思われ、口縁内面に沈線が１条巡る。２は球状の胴部に短く外反する口縁が付くものと思われる。３～ 11 は粗製深鉢で、器面調整は外面条痕、内面ナデのものがほとんどであるが、内面に条痕を残すものもみられる。３は口縁部にリボン状突起が付く。４は外面に横位の細沈線による文様が施され、器面調整は内外面ナデである。８は口縁端部に刻みが施される。12 ～ 14 は底部である。12 はやや上底気味で、内面の器面調整がミガキであり、精製鉢あるいは深鉢の底部と考えられる。13・14 は粗製深鉢の底部で、器面調整がナデや条痕である。13 の底面には圧痕状のものがみられる。この他、図 82-97 も SX6307 出土土器である。

15 ～ 28 は石鏃で、平面が二等辺三角形のものがほとんどであるが、基部は凹基・微凹基・平基のものがあり、大きさや側縁の形状なども多様である。16 は片面に研磨された部分がみられる。27・28 は製作途中に放棄された未製品である。29 は無斑晶質安山岩製の石錐で、両面調整が施される。30 は打面転移を繰り返した黒曜岩の残核、31 は無斑晶質安山岩の石核である。32 は蛇紋岩製の磨製石斧基部で、両側縁は弱い稜をもって角張るが、左

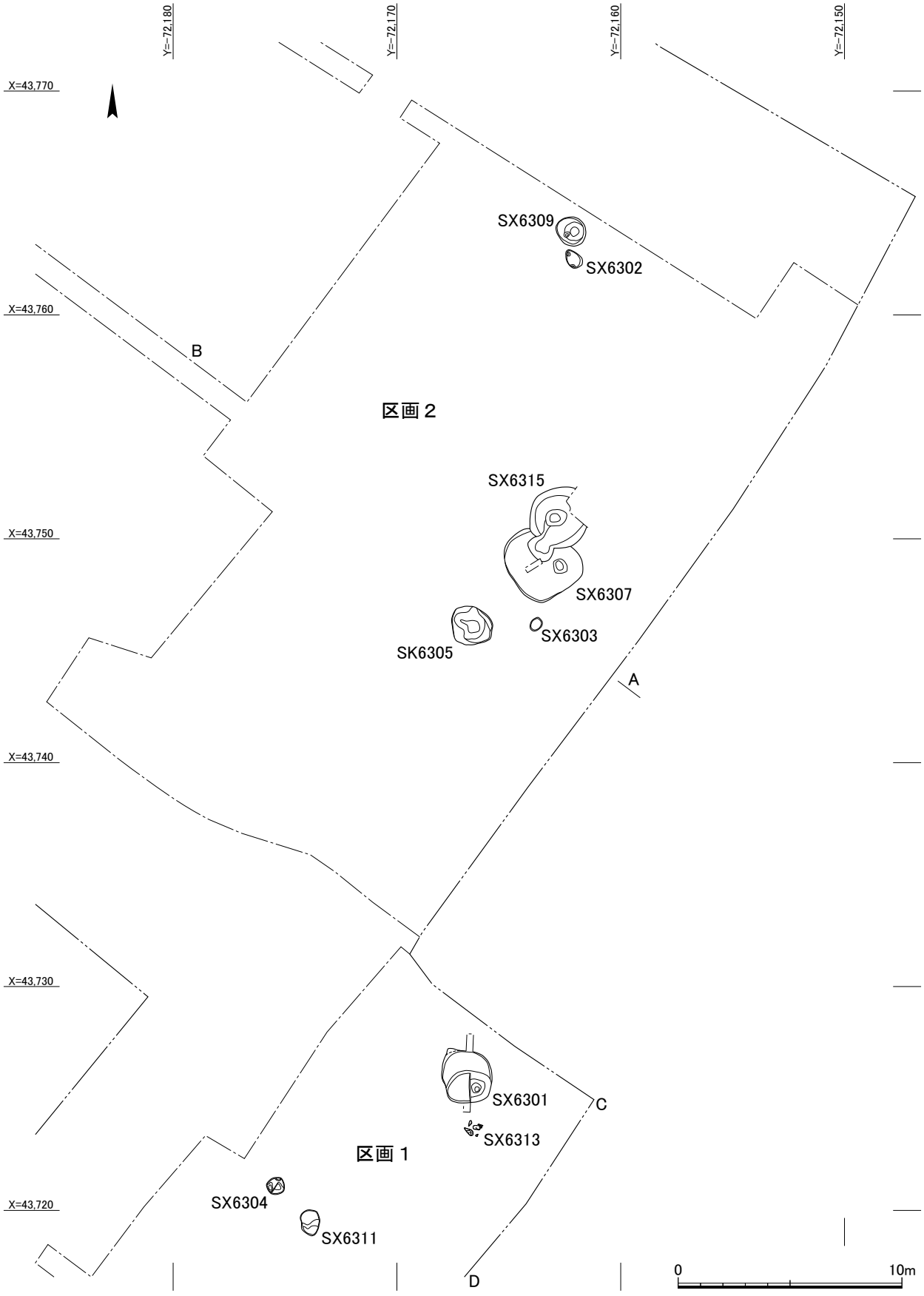


図 65　6T 区上層縄文時代遺構の分布（1/250）

区画１東壁

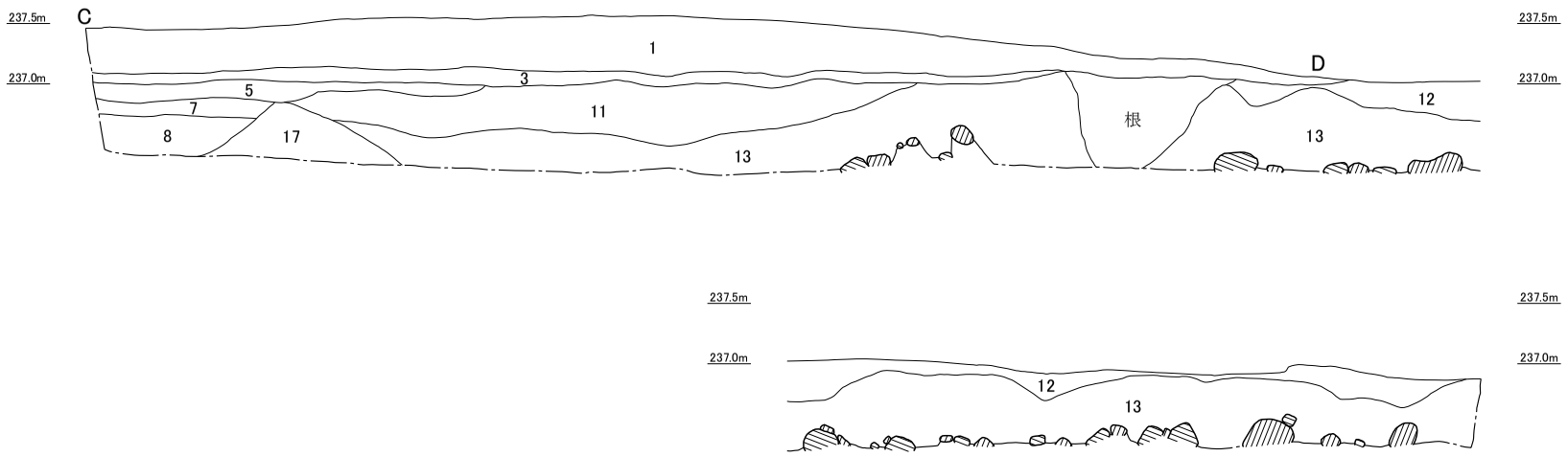
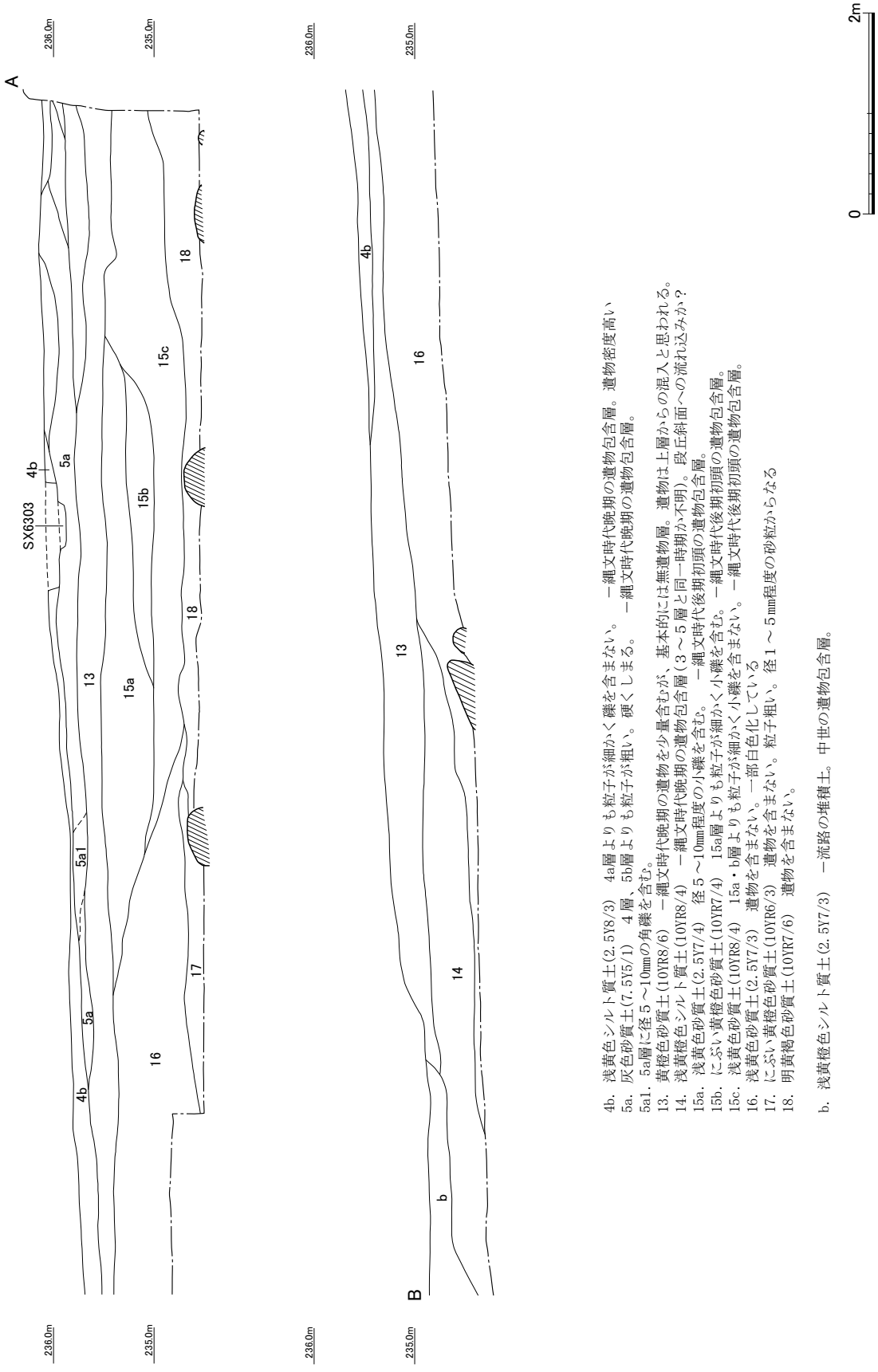


図 66　6T 区縄文時代の土層１（1/60）

１．灰黄褐色砂質土(10YR4/2)　しまりあり、粘性なし。　－現在の表土。
３．明褐色砂質土(7.5Y5/8)　しまりあり、粘性なし。酸化物を含むため褐色が強い。　－中世の遺物包含層。
５．黄褐色砂質土(10YR5/8)　しまりあり、粘性少々あり。　－縄文時代晩期の遺物包含層。
７．暗灰黄色シルト質土(2.5Y5/2)　よくしまる。粘性あり。
８．にぶい黄橙色砂質土(10YR6/4)　しまり、粘性なし。１～５㎜の砂粒が堆積している。
11．褐色シルト質土(7.5YR4/6)　しまりあり、粘性少々あり。酸化物を含み褐色が強い。土質は13層と同質。　－縄文時代晩期の遺物包含層。
12．にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)　しまり、粘性少々あり。土質は13層と同質である。草根などの炭化物により、黒色がかっている。　－縄文時代晩期の遺物包含層。
13．明黄褐色シルト質土(10YR6/6)　しまりあり、粘性少々あり。11・12層と同質の土である。　－縄文時代晩期の遺物包含層。
17．明黄褐色砂質土(10YR6/8)　しまり、粘性あり。流路の壁となる。

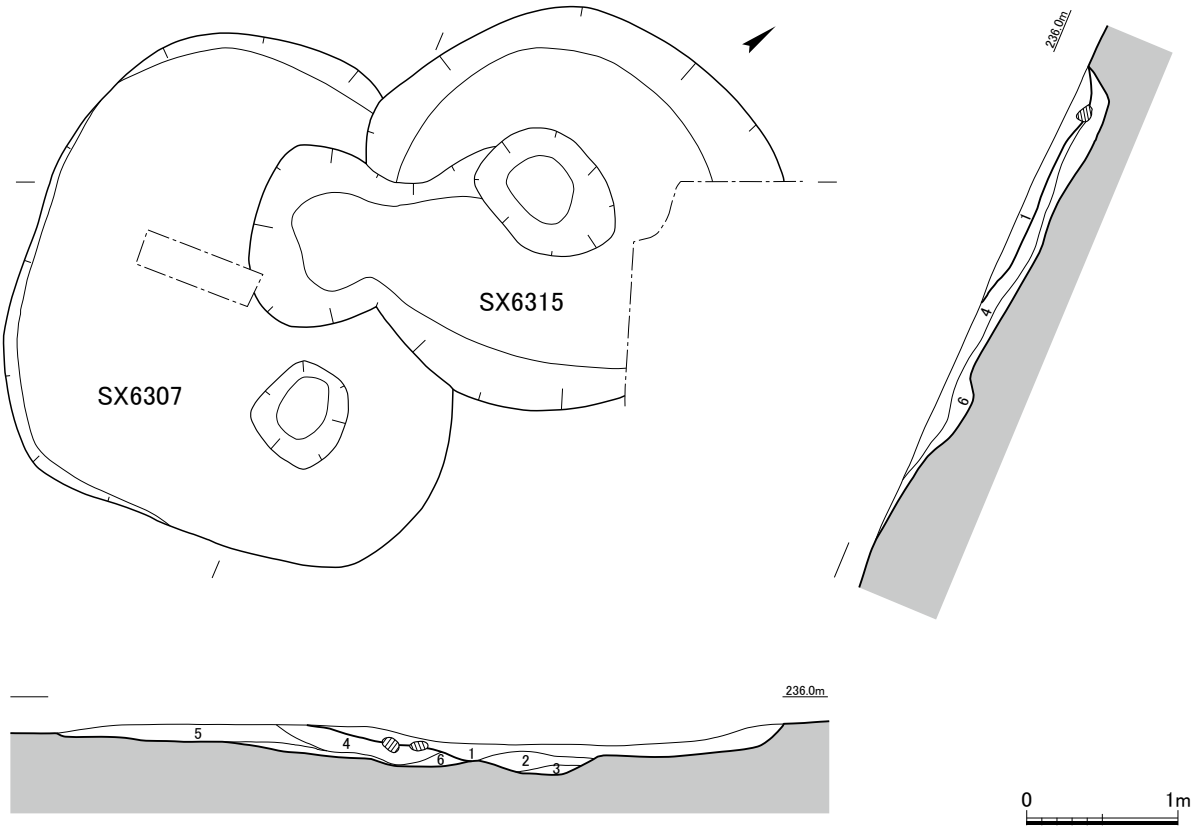
0　2m



4b．浅黄色シルト質土(2.5Y8/3)　4a層よりも粒子が細かく礫を含まない。　－縄文時代晩期の遺物包含層。遺物密度高い
5a．灰色砂質土(7.5Y5/1)　4層、5b層よりも粒子が粗い。硬くしまる。　－縄文時代晩期の遺物包含層。
5a1．5a層に径５～10mmの角礫を含む。
13．黄橙色砂質土(10YR8/6)　－縄文時代晩期の遺物を少量含むが、基本的には無遺物層。遺物は上層からの混入と思われる。
14．浅黄橙色シルト質土(10YR8/4)　－縄文時代晩期の遺物包含層(３～５層と同一時期か不明)。段丘斜面への流れ込みか？
15a．浅黄色砂質土(2.5Y7/4)　径５～10mm程度の小礫を含む。　－縄文時代後期初頭の遺物包含層。
15b．にぶい黄橙色砂質土(10YR7/4)　15a層よりも粒子が細かく小礫を含む。－縄文時代後期初頭の遺物包含層。
15c．浅黄色砂質土(10YR8/4)　15a・b層よりも粒子が細かく小礫を含まない。－縄文時代後期初頭の遺物包含層。
16．浅黄色砂質土(2.5Y7/3)　遺物を含まない。一部白色化している
17．にぶい黄橙色砂質土(10YR6/3)　遺物を含まない。粒子粗い。径１～５mm程度の砂粒からなる
18．明黄褐色砂質土(10YR7/6)　遺物を含まない。

b．浅黄橙色シルト質土(2.5Y7/3)　－流路の堆積土。中世の遺物包含層。

図 67　6T 区縄文時代の土層２（1/60）



SX6315埋土
１．暗褐色(10YR3/3)シルト質土　炭化物を少量含む
２．黒褐色(7.5R3/2)シルト質土　赤褐色(2.5YR4/6)土が20%程度入る。焼土層。
３．橙色(7.5YR7/6)シルト質土　焼土(２層)が40%程度混じる。焼土層。
SX6307埋土
４．黒褐色(10YR3/1)砂質土　固くしまる。炭化物を多量に含む。拳大の礫含む。遺物多数出土。
５．褐灰色(7.5YR5/1)砂質土　固くしまる。炭化物、遺物ともに４層より少ない。
６．にぶい黄橙色(10YR6/4)シルト質土に褐灰色(10YR5/1)砂質土が６：４程度で混じる。遺物は少ない。

図 68　6T 区上層 SX6307・6315（1/50）

側にはわずかに面取り加工がされた部分がある。33 は磨石で、SX6313 出土の 67 と接合する。34 は凹石で、側縁には敲打痕がみられる。ともに岩石鑑定は行っていないが、花崗岩類とみられる。

SX6315（図 68）

区画２のほぼ中央に位置し、重複する SX6307 より新しい。平面は一辺約 2.6 mの隅丸方形と推測され、深さ 0.24 mである。SX6307 同様、壁面は立ち上がりが非常に緩やかで、底面は擂鉢状をなす。ほぼ中央に長軸 0.93 m、短軸 0.72 m、深さ 0.10 mの浅い掘り込みを検出し、内部に焼土層が確認された。埋土（１層）を中心に縄文土器 153 点、石器 199 点が出土した。

SX6315 出土遺物（図 76）

35 は球状の胴部に短く外反する口縁部が付く精製浅鉢で、口縁内面は玉縁状をなし、器面調整は胴部内面がナデで、それ以外はミガキである。71 と同一個体の可能性がある。36 は 35 と同様の形状の精製浅鉢の胴部で、口縁部との接合痕が明瞭に観察できる。37 ～ 39 は粗製深鉢で、器面調整はナデあるいは条痕である。37・38 の口縁端部には部分的に刻みが施される。この他、図 79-77 も SX6315 出土土器である。

40 ～ 42 は石鏃で、いずれも製作途中に放棄された未製品である。43 は磨石で、両面に使用によるものと思わ

れる磨滅がみられる。石材鑑定は行っていないが、花崗岩類であろう。

土坑

土坑としたのは２基であるが、SX6301 は焼土遺構あるいは性格不明遺構とした方がよいかもしれない。

SX6301（図 69）

区画１の北東部に位置する。一辺約 2.3 m、深さ 0.18 mで平面が不整隅丸方形の掘り込みの南半分を、長軸 2.00 m、短軸 1.45 mの平面が不整楕円形に、深さ 0.2 m程さらに掘り込んでいる。掘り込みの部分には焼土層が確認されるので、南半部のみで焼土遺構とすべきかもしれない。あるいは SX6307・6315 と同様の遺構であった可能性もある。上層の１層を中心に縄文土器 80 点、石器 736 点が出土した。

SX6301 出土遺物（図 77）

44 は半精製の鉢とみられ、器面調整は粗いミガキである。45 は粗製深鉢で、器面調整は外面が条痕、内面がナデである。この他、図 80-84 も SX6301 出土土器である。

46 ～ 54 は石鏃で、平面が二等辺三角形で、基部が微凹基のものがほとんどであるが、49 は平面が五角形に近い。側縁はやや膨らむものが多いが、内湾するものもみられる。55 は小型の削器で、両面から丁寧な調整剥離を施して刃部を作出している。56 は打面転移を繰り返した黒曜岩の残核である。なお、出土石器では剥片が大多数を占める。

SK6305（図 69）

区画２のほぼ中央に位置し、長軸 2.02 m、短軸 1.75 m、深さ 0.35 mで、平面は不整楕円形である。埋土から縄文土器 141 点、石器 218 点が出土した。

SK6305 出土遺物（図 77）

57 は粗製深鉢で、口縁端部に刻みが施され、器面調整は条痕である。58 は粗製深鉢の底部で、底面に圧痕状のものがみられる。

59 ～ 61 は石鏃で、59 は未製品の可能性がある。60 は両面に素材面を大きく残し、側縁にのみ調整剥離を施している。62 は小型の削器で、刃部の調整は粗い。

焼土遺構

焼土遺構としたのは、浅い掘り込みに焼土や炭化物が堆積した５基である。

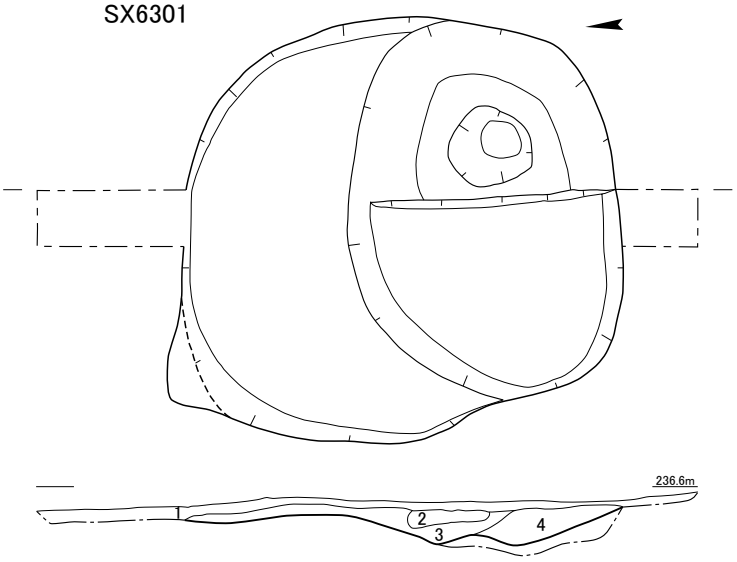
SX6302（図 69）

区画２の北東部に位置し、SX6309 と近接する。長軸 0.92 m、短軸 0.63 m、深さ 0.07 mで、平面は不整楕円形である。埋土はにぶい赤褐色砂質土で、焼土・炭化物を多量に含んでいる。遺物は縄文土器片８点、石器剥片２点が出土したが、小片であり図示していない。

SX6303（図 69）

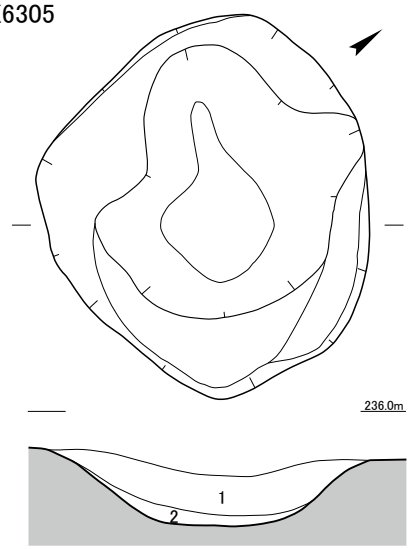
区画２のほぼ中央に位置し、長軸 0.62 m、短軸 0.50 m、深さ 0.07 mで、平面は楕円形である。埋土は褐色砂質土で、他の焼土遺構に比べて焼土・炭化物を含む割合は低い。遺物は石器剥片２点が出土したが、小片であり図示していない。

SX6301



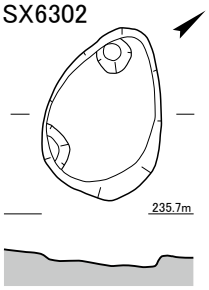
１．褐色(10YR4/4)砂質土　しまりあり。粘性少々あり。
　　暗褐色(10YR3/4)砂質土が混じる。遺物を多く含む。
２．明赤褐色(5YR5/8)砂質土　しまりなし。
　　５㎜程度の砂粒を多く含む。（焼土層）
３．褐色(10YR4/6)砂質土　しまりあり。粘性少々あり。
４．オリーブ褐色(2.5Y4/4)砂質土　しまり・粘性あり。
　　５～10㎜程度の砂粒が所々に含まれる。

SK6305

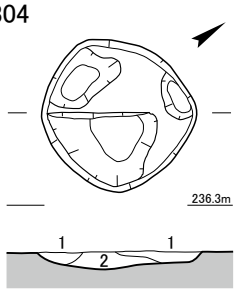


１．褐灰色(10YR4/1)砂質土　しまりあり。
　　炭化物をわずかに含む。
　　土器・石器を多く含む。
２．暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質土　しまりあり。

SX6302

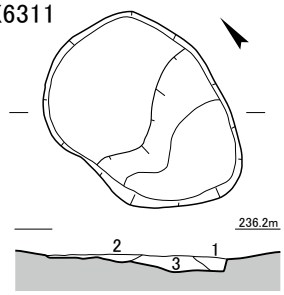


SX6304



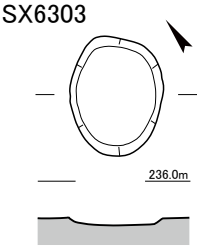
１．褐色(10YR4/4)砂質土
　　粘性なし、しまり少々あり。
　　遺物を含む。
２．明赤褐色(5YR4/8)砂質土
　　粘性・しまりなし。５㎜程度の小礫を含む。
　　暗赤褐色(2.5YR3/3)土を含む。（焼土層）

SX6311

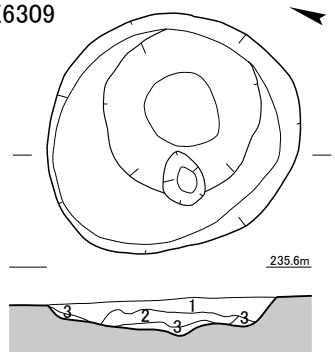


１．にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土　粘性なし。しまりあり。
２．暗褐色(10YR3/3)砂質土　粘性なし。しまり少々あり。
３．にぶい赤褐色(5YR4/3)砂質土　粘性・しまりなし。
　　炭化物を含む。
　　赤褐色(5YR4/6)の土質が混じる。（焼土層）

SX6303

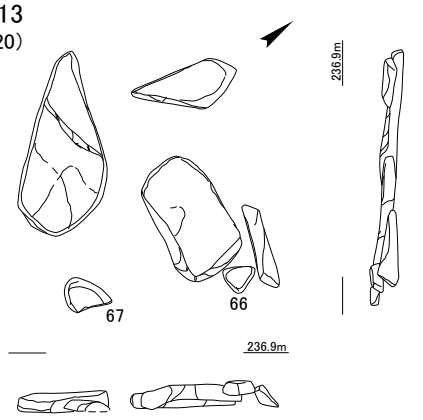


SX6309



１．極暗赤褐色(5YR3/3)砂質土
　　しまりあり。粘性少々あり。
　　炭化物が少量混じる。
　　遺物を含む。
２．明赤褐色(5YR5/8)砂質土
　　しまり、粘性なし
　　（焼土層）
３．褐色(10YR4/6)砂質土
　　しまりあり。粘性少々あり。
　　地山であるが、２層の土質が混入している

SX6313
(S=1/20)



0　1m

0　50cm

図 69　6T 区上層縄文時代の遺構（SX6313 は 1/20、他は 1/40）

SX6304（図 69）

区画 1 のほぼ中央に位置し、径 0.82 m、深さ 0.11 mで、平面は不整円形である。遺物は縄文土器片 5 点が出土したが、小片であり図示していない。

SX6309（図 69）

区画 2 の北東部に位置し、SX6302 と近接する。長軸 1.40 m、短軸 1.25 m、深さ 0.27 mで、平面は不整円形である。遺物は縄文土器片 46 点、石鏃 1 点、削器 1 点、剥片 44 点が出土した。

SX6309 出土遺物（図 78）

63 は精製浅鉢の口縁部で、外面に沈線が 1 条巡り、内面は沈線状をなしている。器面調整は非常に丁寧なミガキである。64 は深鉢で、器面調整はナデであるが、胴部内面などにミガキが施されており、半精製品とすべきものであろう。

SX6311（図 69）

区画 1 のほぼ中央に位置し、長軸 1.16 m、短軸 0.85 m、深さ 0.14 mで、平面は不整楕円形である。遺物は縄文土器片 1 点が出土したが、小片であり図示していない。

集石遺構

集石遺構は 1 基検出した。

SX6313（図 69）

区画 1 の北東部に位置する。0.7 m四方の範囲に、0.1 ～ 0.5 mの大きさの平坦な礫を 6 点人為的に並べている。下部に掘り込み等は確認できなかった。部分的に焼けた礫もみられるが、性格は不明である。集石を構成する礫のうち磨石が 2 点あり、67 は SX6313 から北に約 25 m離れた SX6307 出土磨石（33）と接合した。遺物は礫直下から縄文土器が出土した。

SX6313 出土遺物（図 78）

65 は粗製深鉢で、器面調整は外面が条痕、内面がナデである。66・67 は磨石で、使用によると思われる磨滅がみられる。石材鑑定は行っていないが、花崗岩類とみられる。

遺物包含層出土遺物

6T 区上層では、遺構周辺を中心にしてブロック状に土器・土製品・石器が出土した。ブロックの内容については整理期間の都合で詳細な検討ができなかった。大部分は晩期中葉の黒川式並行期のものであるが、後期後葉の御領式並行期前後の遺物も少量みられる。

縄文土器（図 79 ～ 85）

68・69 は後期後葉の御領式前後の精製土器と考えられる。68 は皿状で屈曲する胴部から更に屈曲して直線的に外傾する口縁部と続く器形の精製浅鉢で、器面調整は丁寧なミガキである。内外面に炭化物が付着しており、放射性炭素年代を測定している。69 は精製深鉢の胴部屈曲部で、外面に沈線が 1 条巡る。

70 ～ 96 は晩期中葉の黒川式系の精製あるいは半精製土器である。70 ～ 75 は球状の胴部に短く外反する口縁部が付く精製浅鉢で、器面調整はミガキであるが、胴部内面がナデのものもある。71 以外の口縁外面には沈線が 1 条巡るが、75 は部分的に沈線が消失している。口縁内面は玉縁状をなすが、72 は沈線が 1 条巡る。74 の胴部

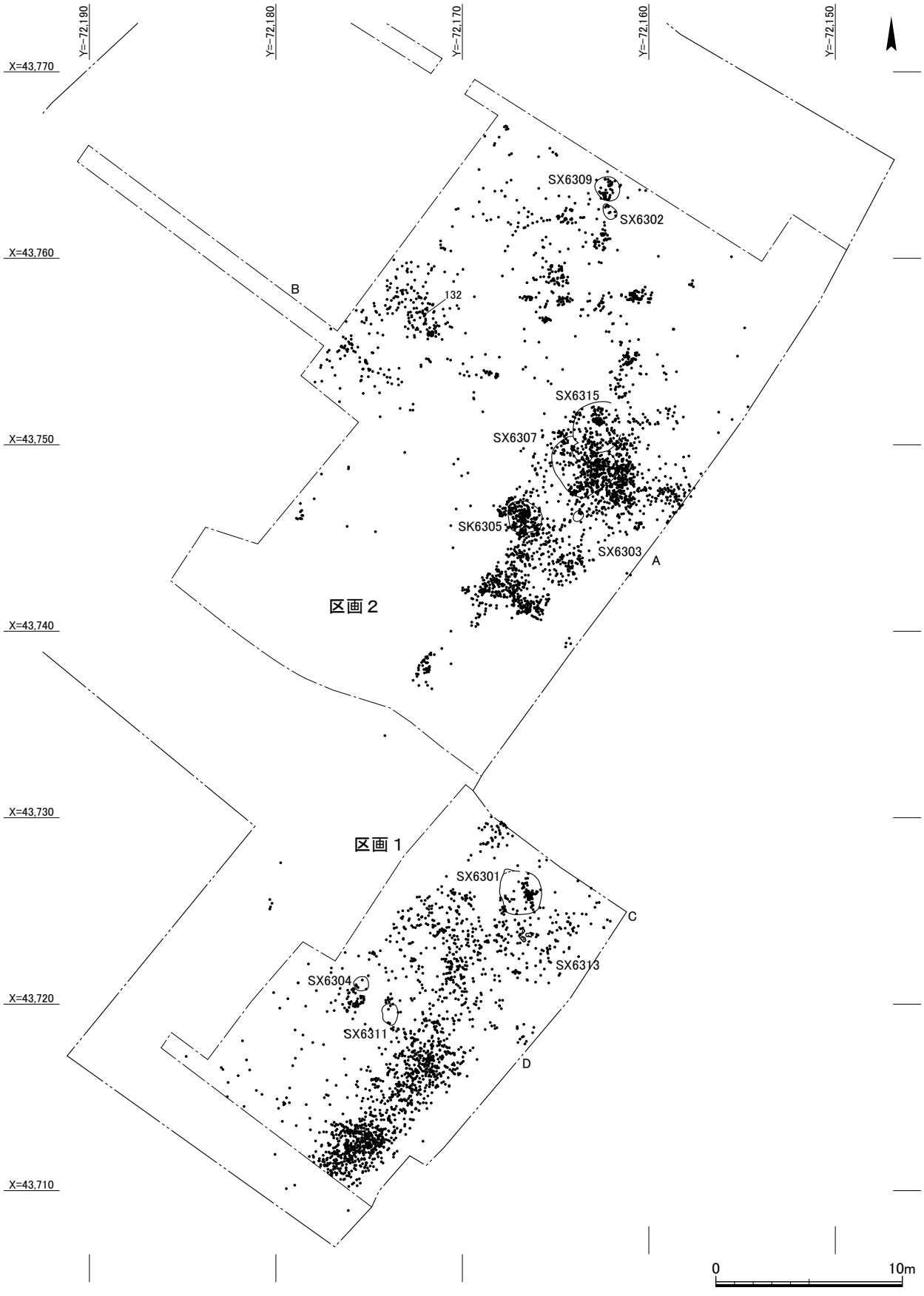


図 70　6T 区上層縄文時代土器・土製品の分布（1/300）

図 71　6T 区上層縄文時代定形石器の分布（1/300）

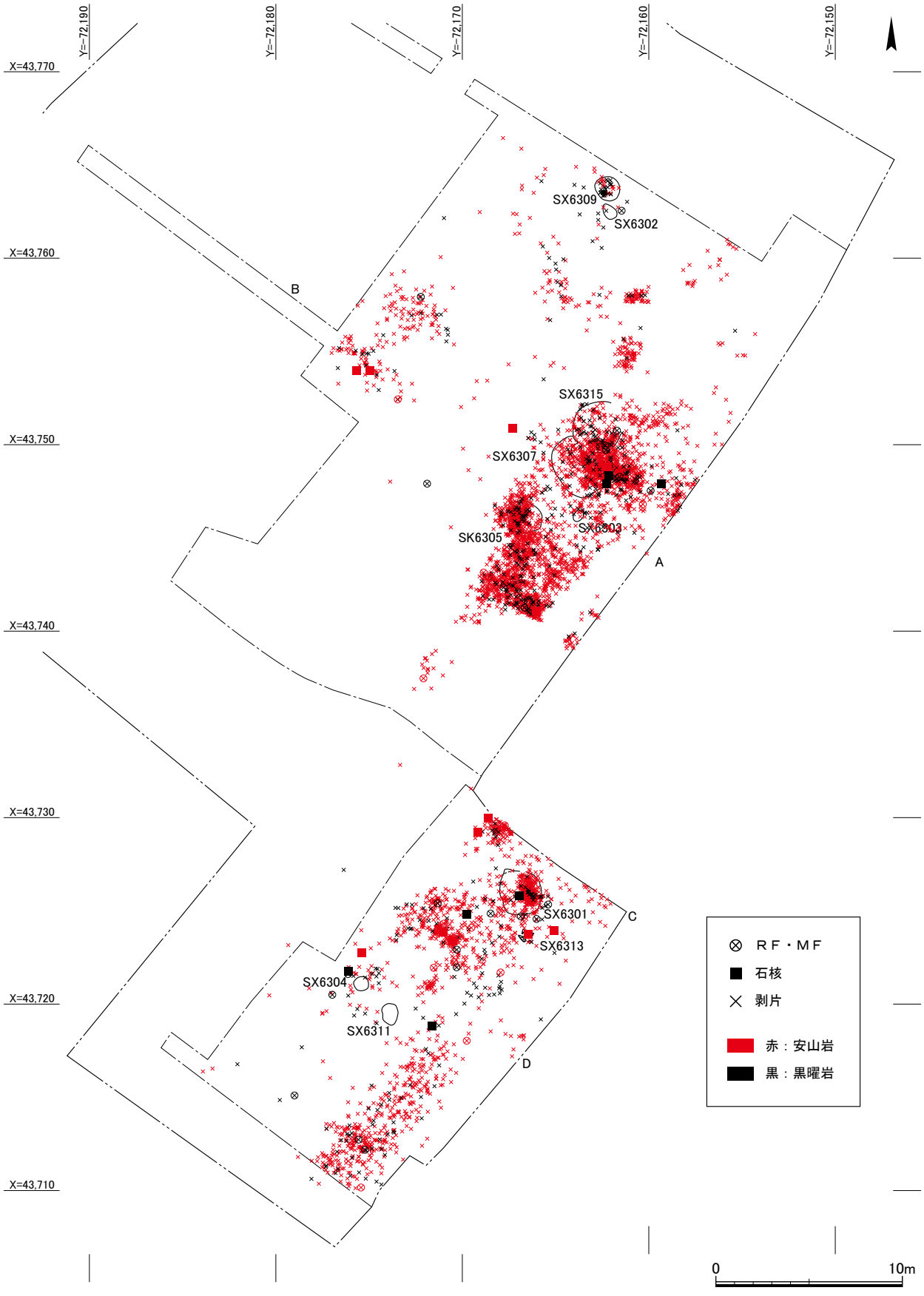


図 72　6T 区上層縄文時代剥片・石核類の分布（1/300）

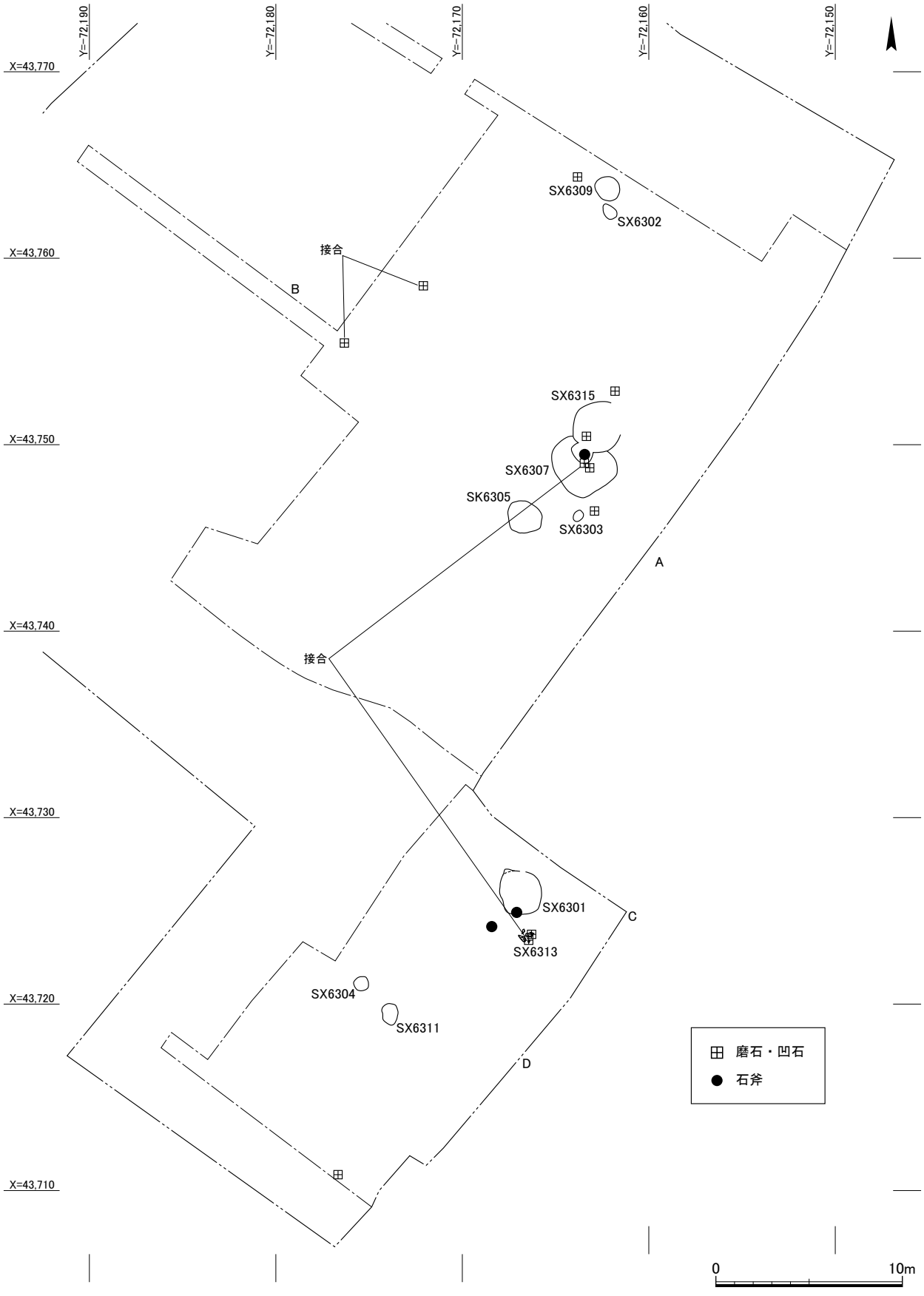


図 73　6T 区上層縄文時代磨製石器・礫石器の分布（1/300）

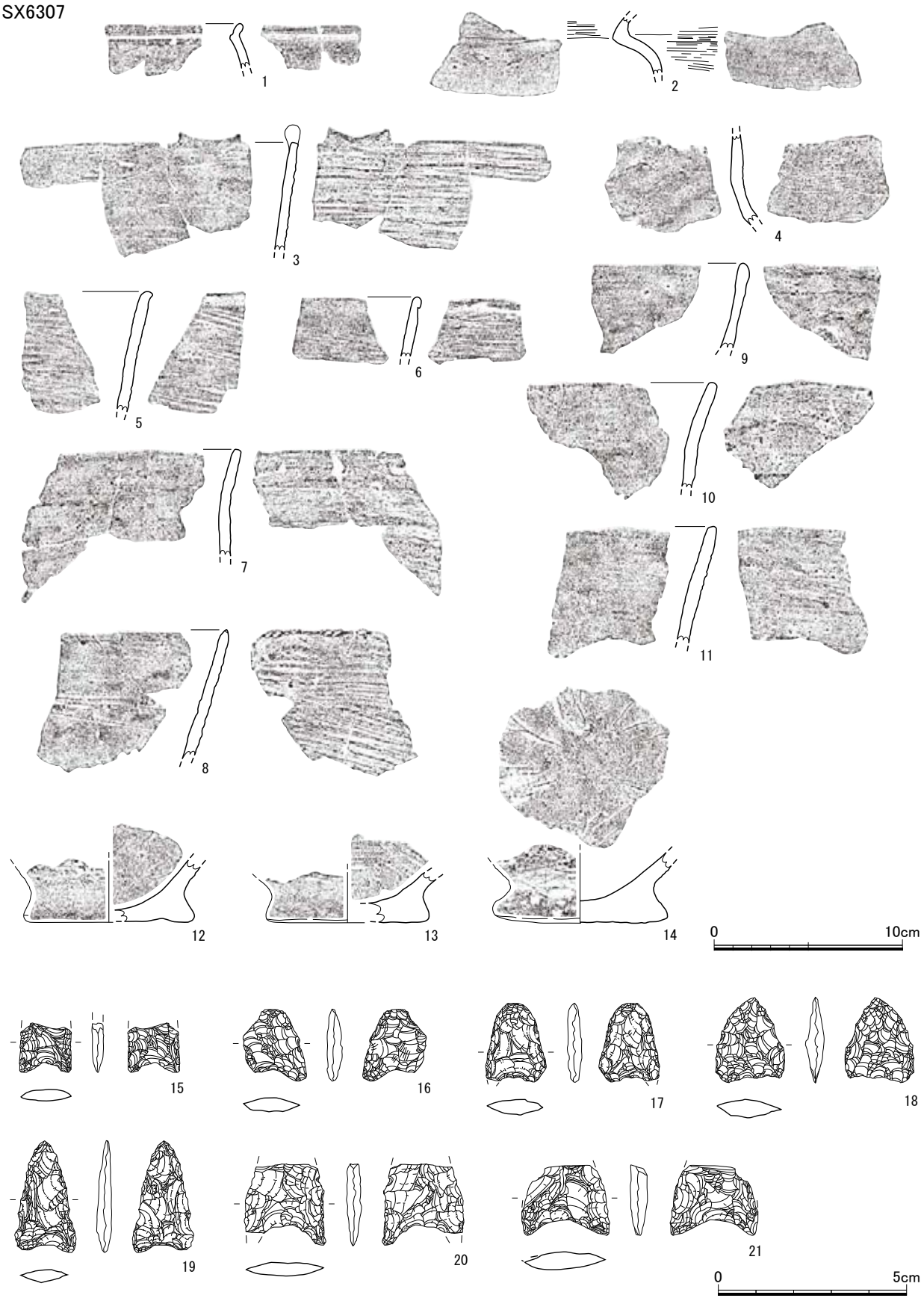


図 74　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物 1 （1 ～ 14 は 1/3、15 ～ 21 は 2/3）

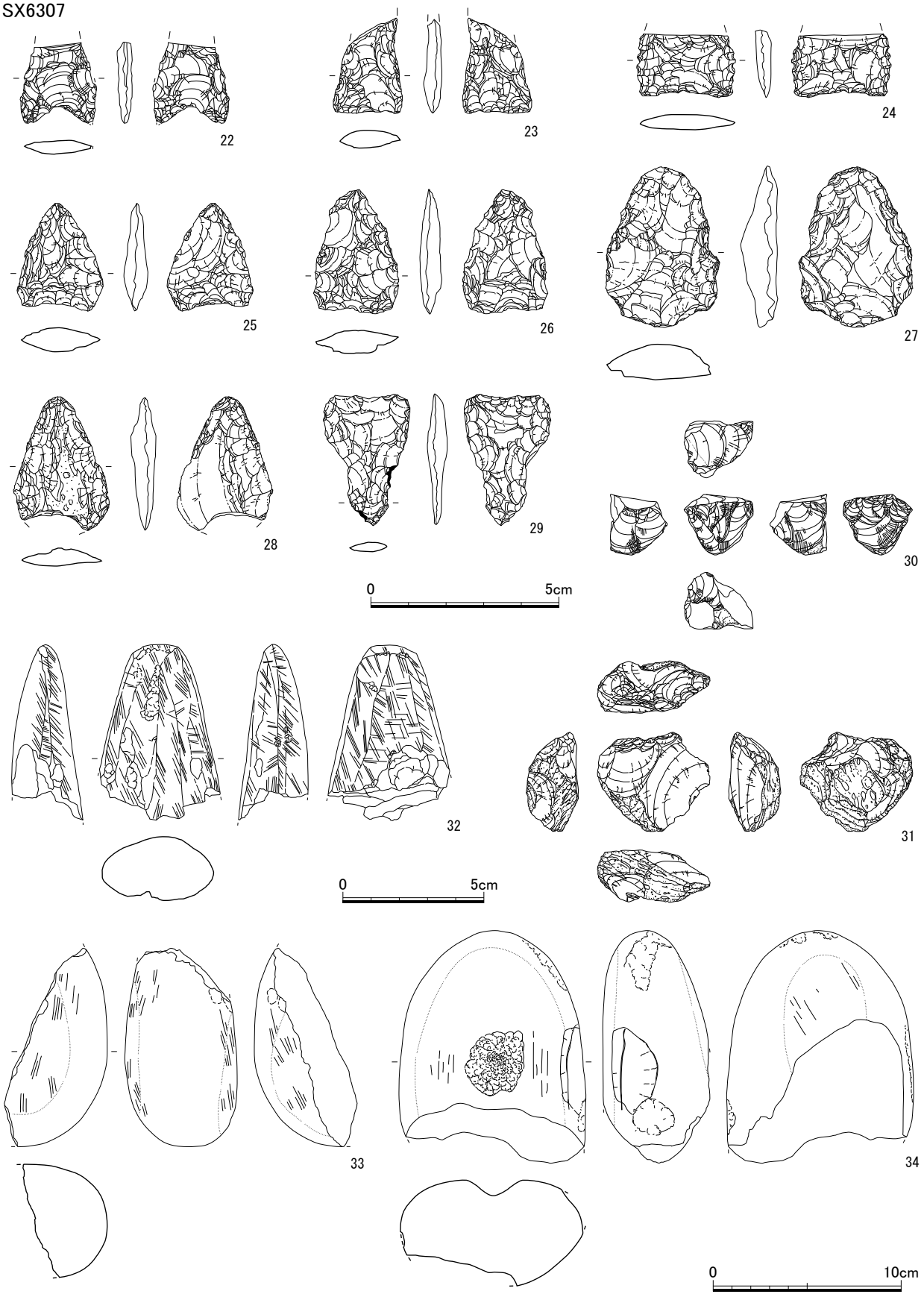


図 75　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物２（23 ～ 29 は 2/3、30・32 は 1/2、他は 1/3）

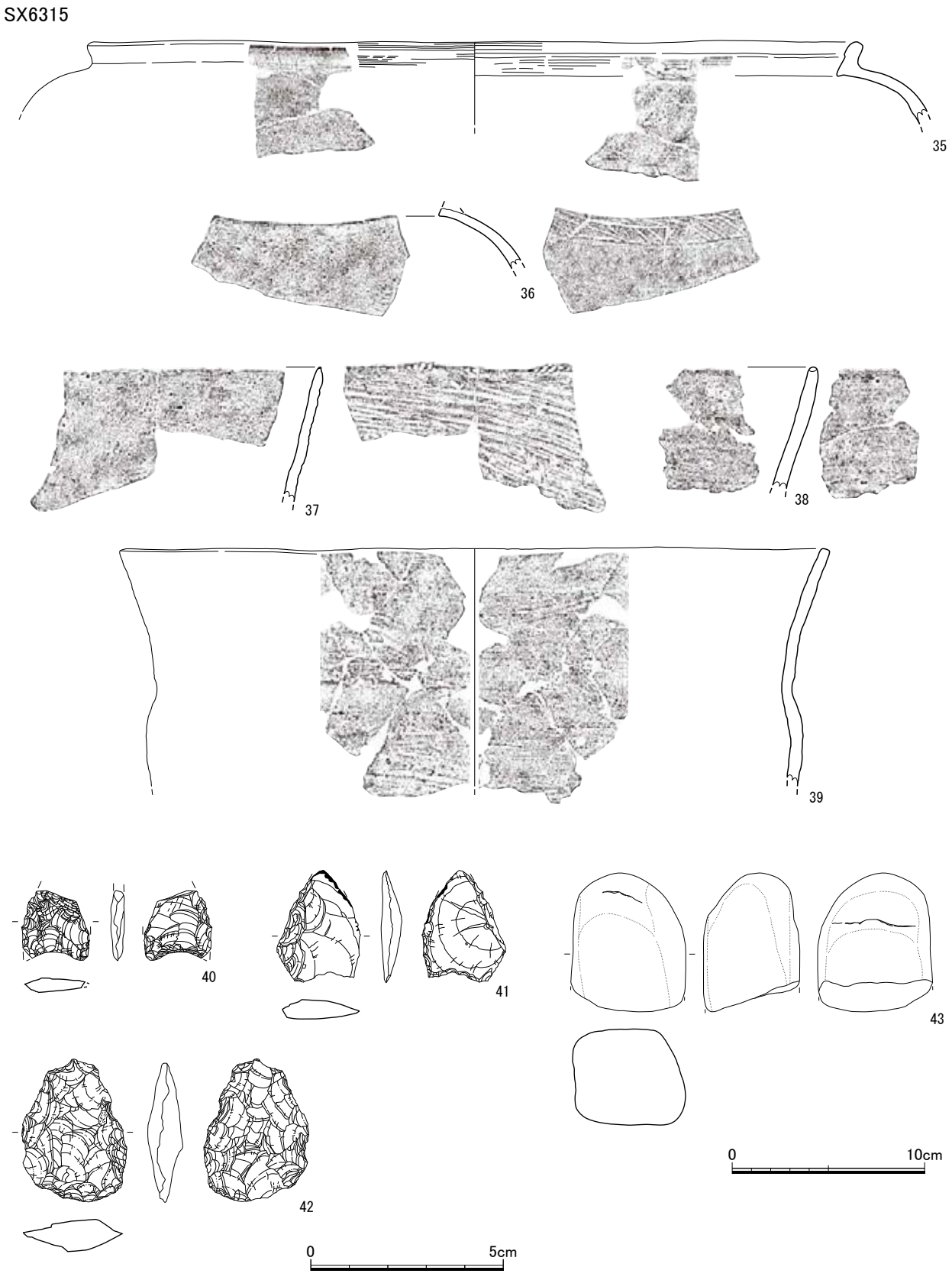
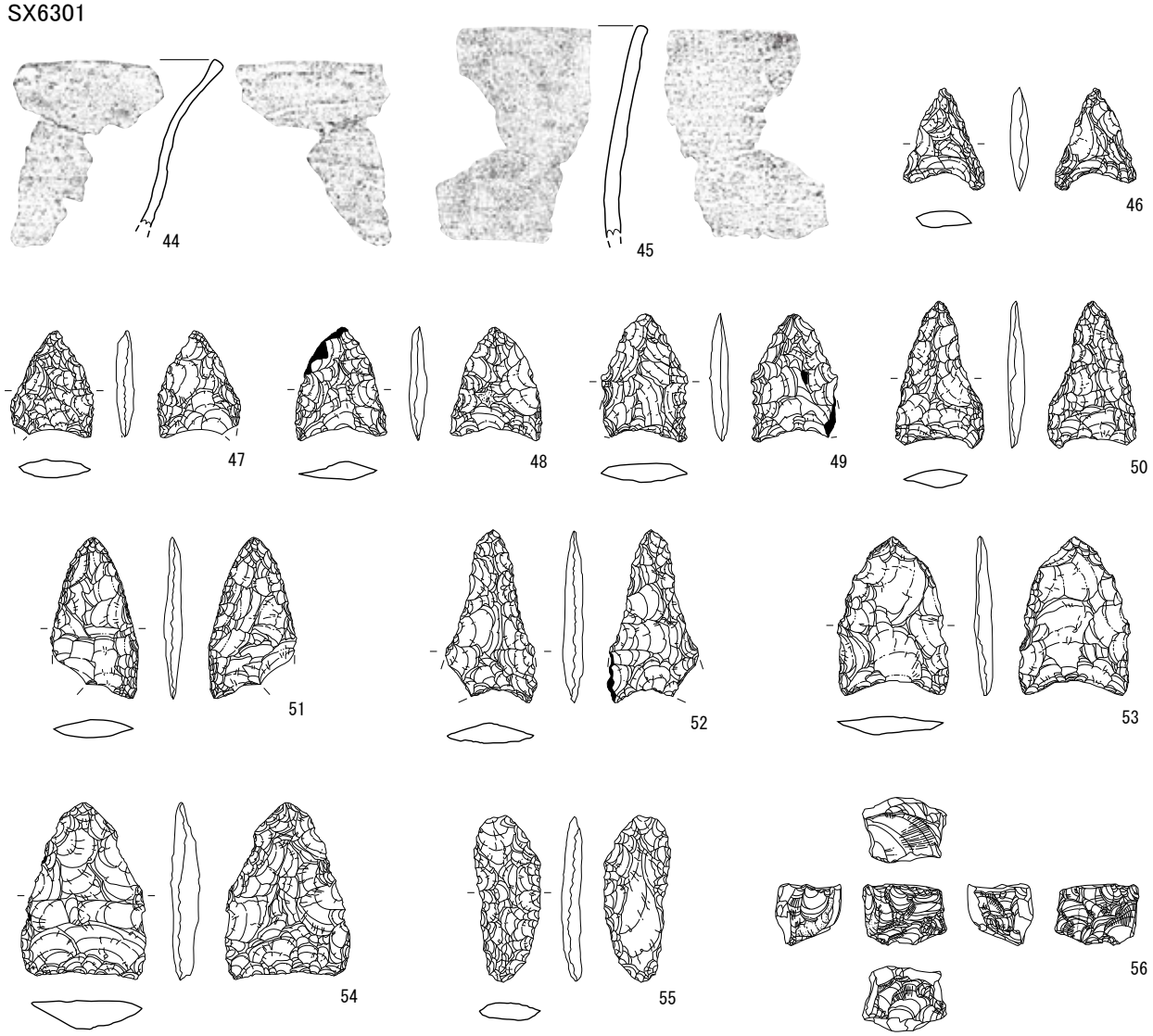


図 76　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物 3（40 ～ 42 は 2/3、他は 1/3）

SX6301



SK6305

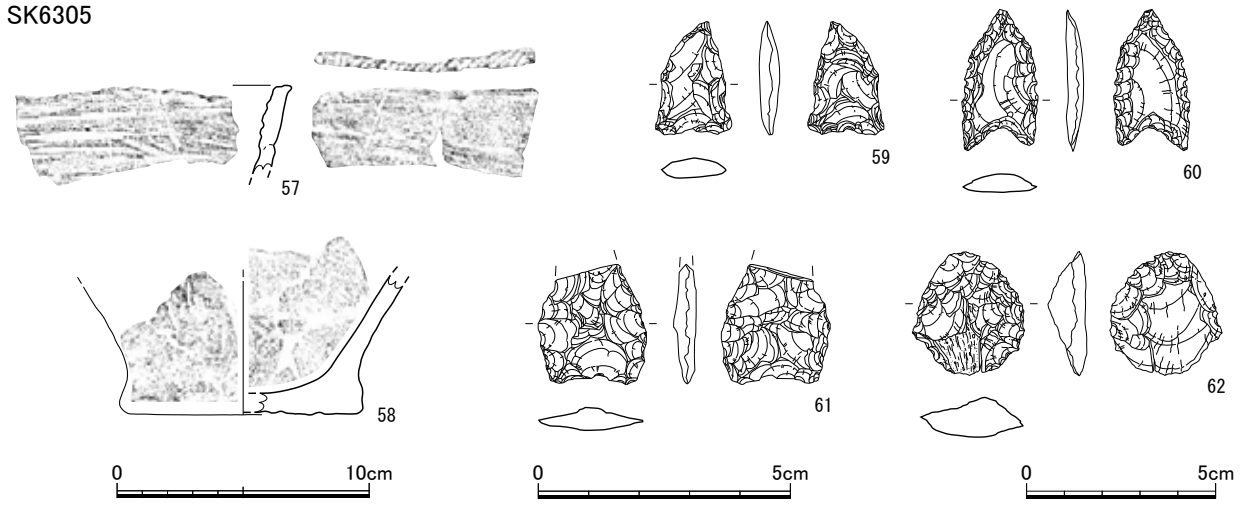


図 77　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物４（44・45・57・58 は 1/3、56・62 は 1/2、他は 2/3）

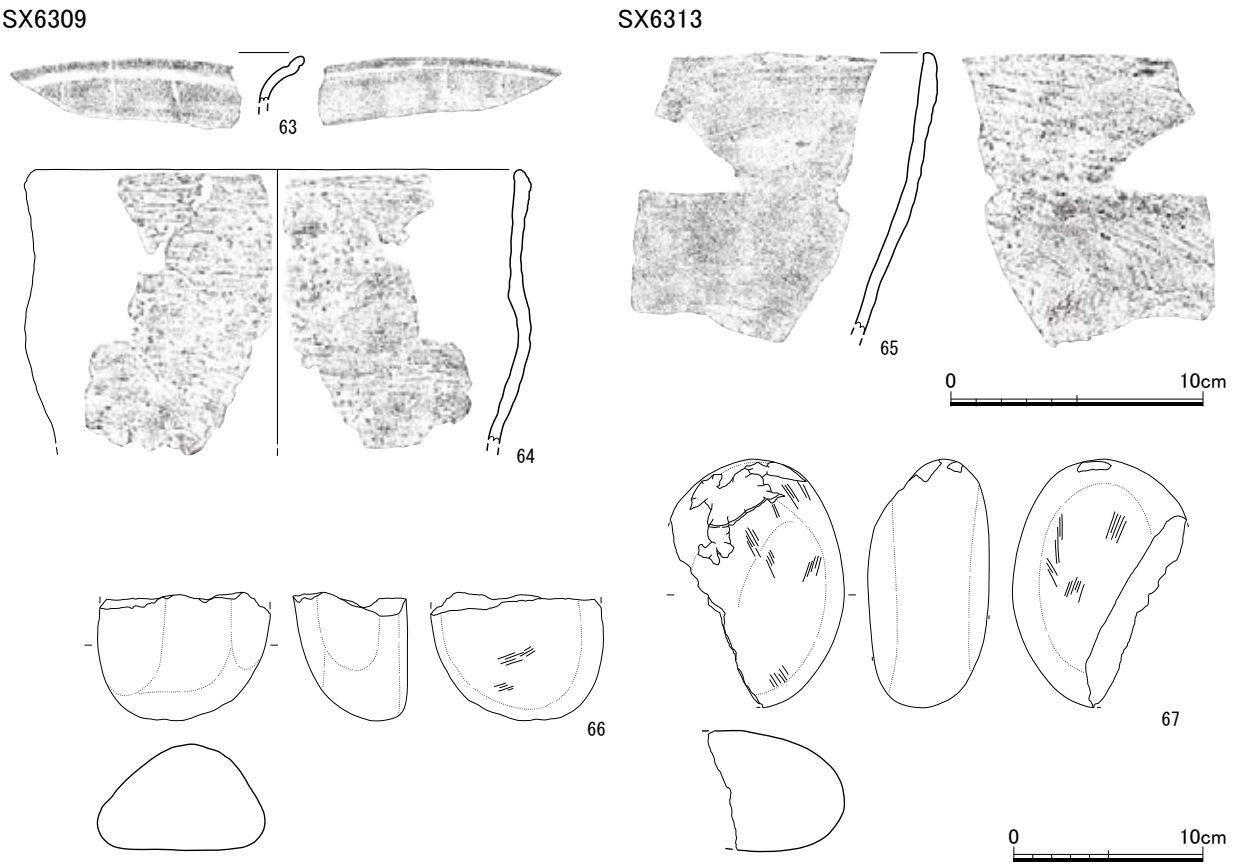


図 78　6T 区上層縄文時代の遺構出土遺物 5（63 ～ 65 は 1/3、66・67 は 1/4）

には補修孔がみられる。76 は強く屈曲する胴部に外反する口縁部が付く精製浅鉢で、口縁内外面にそれぞれ沈線が 1 条巡り、器面調整は丁寧なミガキである。77・78 は皿状で屈曲する胴部に大きく外反する口縁部が付く精製浅鉢で、器面調整はミガキである。

79・80 はやや粗いミガキが施される精製土器で、79 が浅鉢、80 が深鉢と思われ、ともに口縁部にリボン状の突起が付く。

81 ～ 85 は深鉢で、器面調整が粗いミガキであることから半精製としたが、粗製土器と一瞥での区別は難しい。胴部が確認できるものはすべて屈曲がみられる。81・85 の口縁端部には刻みが施され、83・84 はわずかな山形口縁になる可能性がある。86 は胴部上半の器面調整が粗いミガキであるため、半精製の深鉢とした。口縁部には突起が付き、欠損により明確ではないが、口縁部の突起に対応する胴部屈曲部には幅広い「X」字状に突帯が貼り付けられる。器面調整は胴部外面下半が条痕、内面がナデである。

87・88 は碗形の精製浅鉢で、器面調整はミガキである。89・90 は同一個体とみられ、長く外傾する口縁部の精製浅鉢としたが、晩期中葉以外の時期である可能性もある。波状口縁で、器面調整はミガキである。

91・92 は半精製の鉢で、器面調整は外面が条痕、内面がミガキである。91 の口縁端部には刻みが施される。93・94 も同様の半精製の鉢としたが、ミガキは 93 が口縁内面、94 が口縁外面にしか施されていない。器面調整は 93 が条痕、94 が板状工具によるナデである。95 も半精製の鉢としたもので、口縁外面は沈線状をなし、器面調整は外面が条痕、内面がミガキと思われる。96 は内面にミガキが施された半精製の鉢で、外面の器面調整は条痕である。口縁の一部が突起状をなし、外面には沈線文が施される。

97・98 は外面に細沈線で文様が施された粗製深鉢で、器面調整はナデである。97 の口縁端部には刻みが施される。99 ～ 101 は粗製深鉢の口縁部に突起などがみられるもので、99 はリボン状突起、100・101 は山形口縁

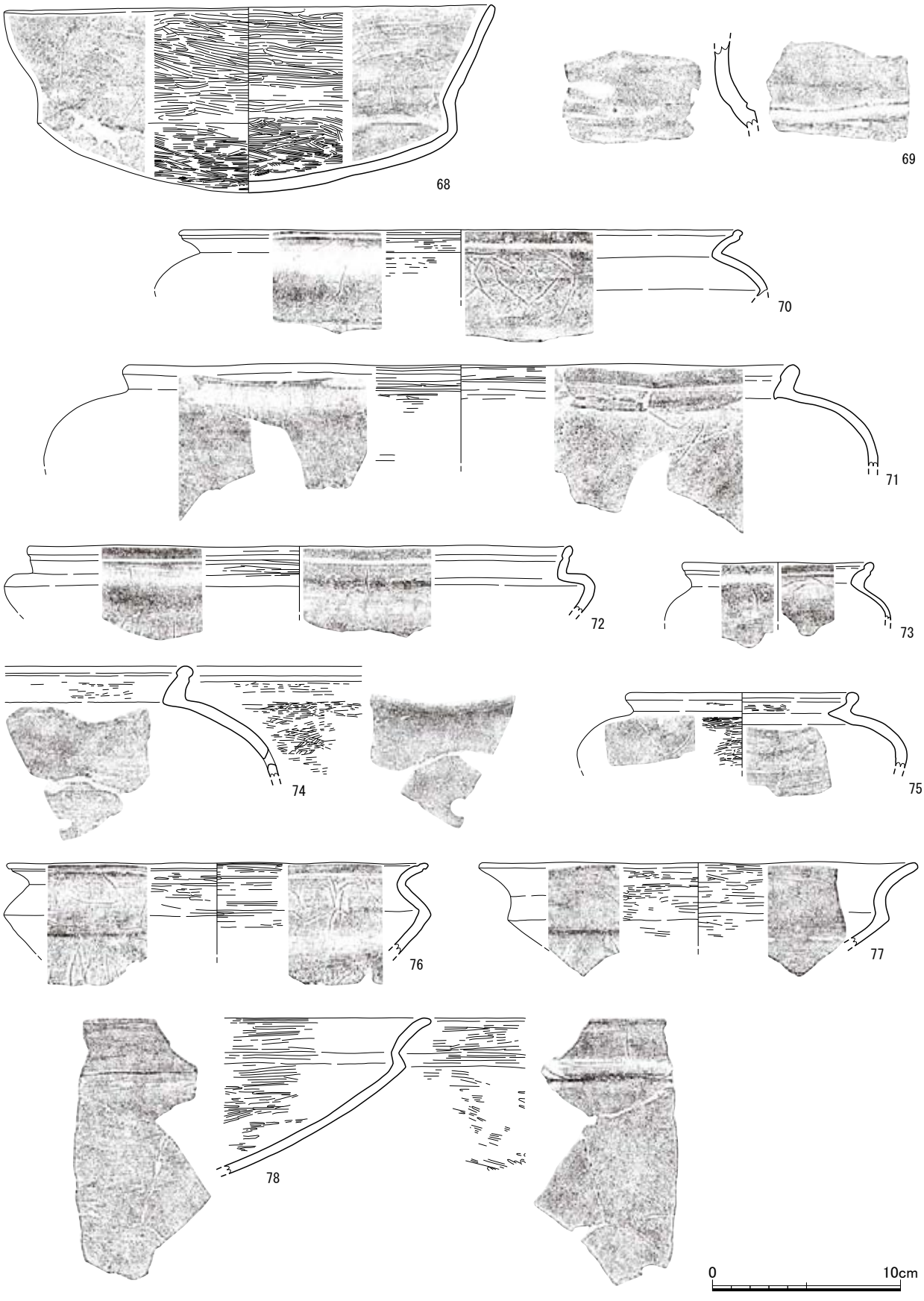


図 79　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器１（1/3）

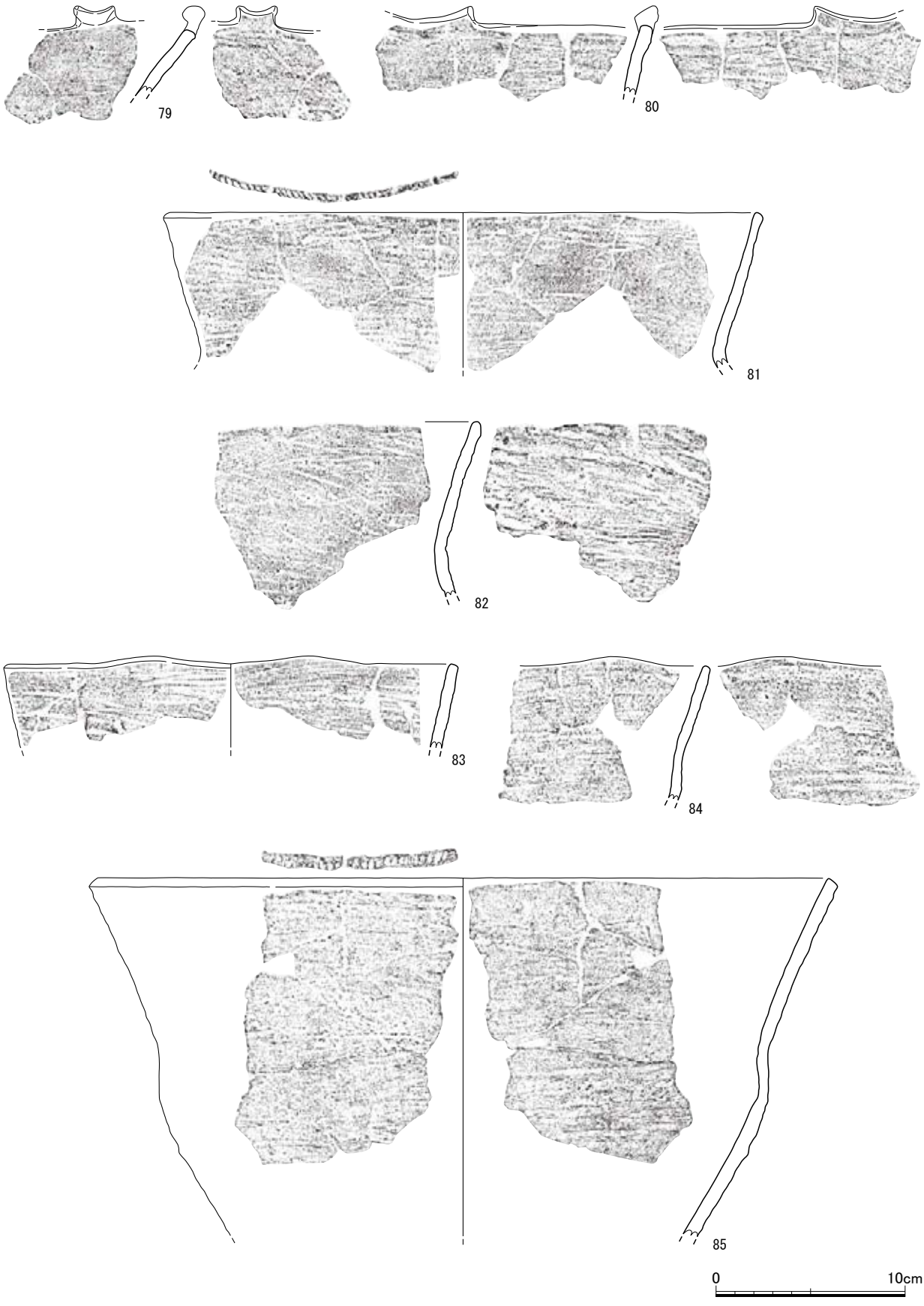


図 80　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器 2 （1/3）

図 81　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器３（1/3）

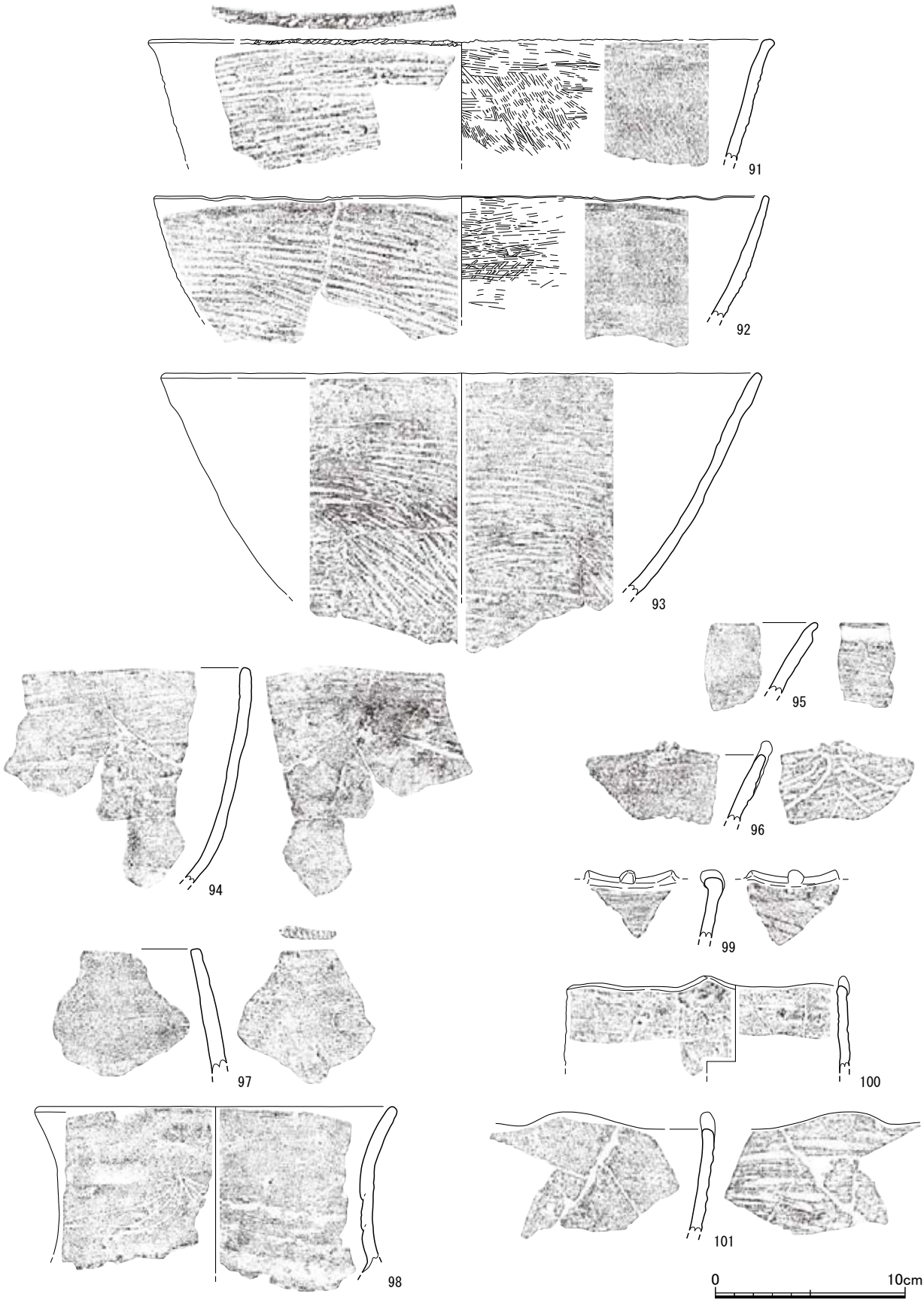


図 82　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器４（1/3）

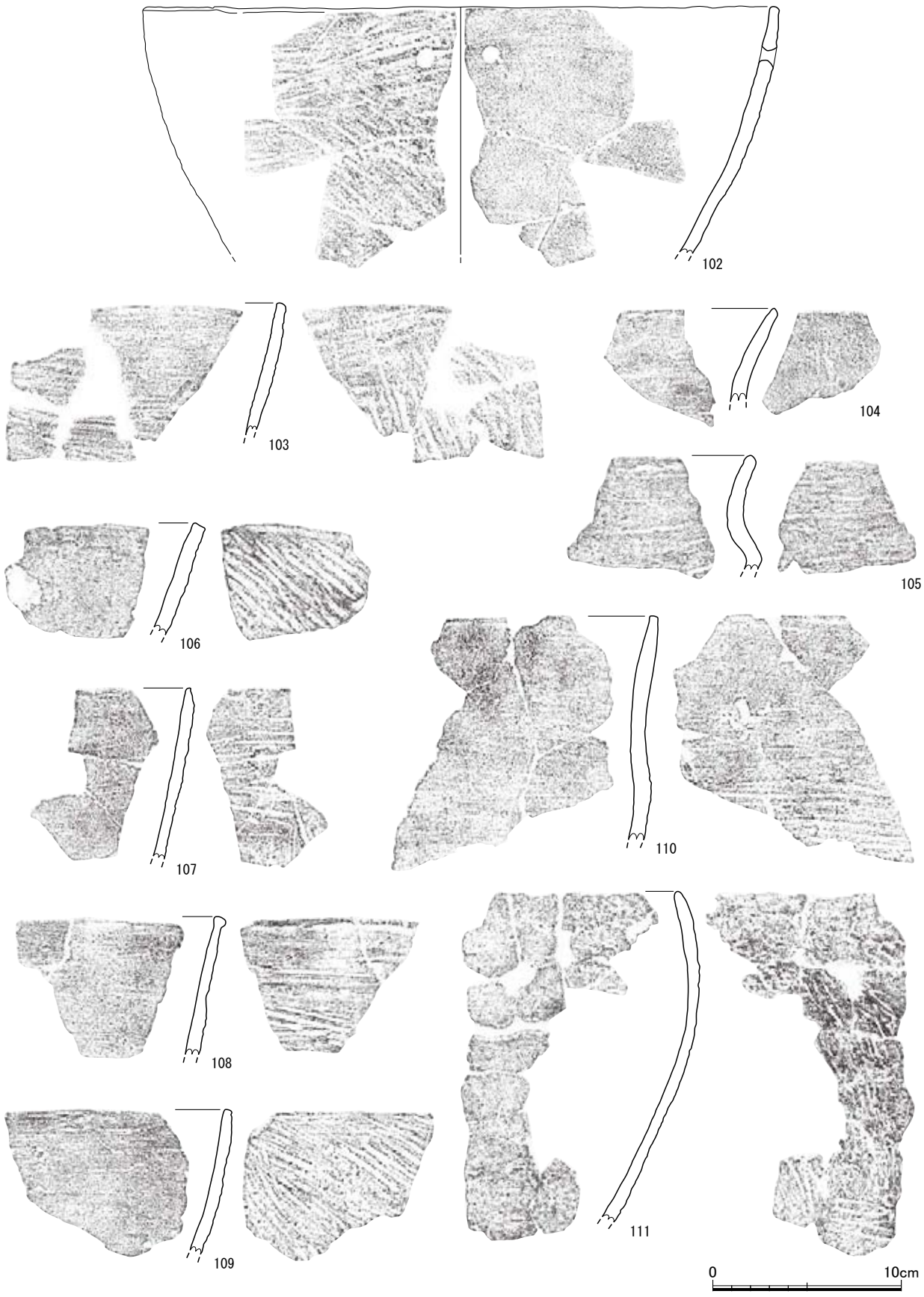


図 83　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器５（1/3）

図 84　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器６（1/3）

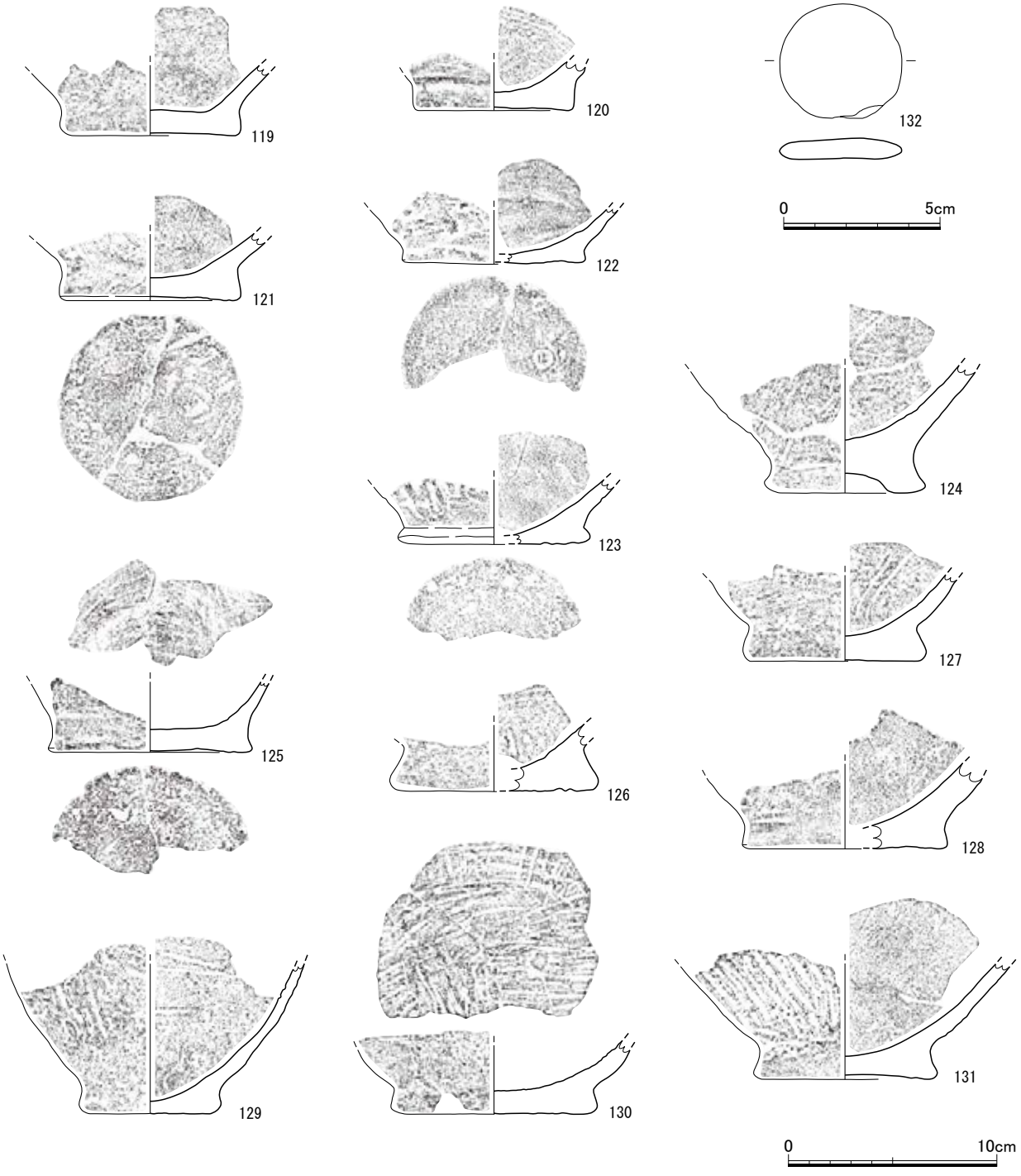


図 85　6T 区上層縄文時代の遺物　出土土器７（1/3）・土製品（1/2）

をなす。

102・103 は 91・92 に類似した半精製の鉢である可能性があるが、内面の器面調整が 102 はナデ、103 はミガキと断定できなかったため、粗製土器とした。102 には補修孔がみられる。

104 ～ 116 は粗製深鉢で、胴部の器形は直線的なもの、わずかに屈曲するもの、強く屈曲するものなどがある。器面調整は 104・105 がナデ、106 ～ 111 が外面条痕、内面ナデ、112 が外面条痕、内面板状工具によるナデ、113 が板状工具によるナデ、114 ～ 118 が内外面条痕である。115 の外面には S 字を崩したような沈線が施されるが、文様として意識されていたかは明確ではない。116 には補修孔がみられる。

119 ～ 131 は底部である。119 ～ 121 は内面の器面調整がミガキや粗いミガキで、精製あるいは半精製土器の底部と思われる。122 ～ 131 は粗製深鉢・鉢の底部で、器面調整は条痕あるいはナデである。121 ～ 123・125 ～ 127・131 の底面には圧痕状のものがみられる。

土製品（図 85）

132 は小型の円盤形土製品で、文様などは施されず、器面調整はナデである。

石器（図 86 ～ 91）

石器は、既述した遺構出土分を含め 6,102 点の出土位置を３次元で計測して取り上げた（図 71 ～ 73）。このうち剥片石器とその石核・剥片類がほとんどを占め、磨製石器・礫石器は 15 点と少ない。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 171 点（うち黒曜岩 29 点、無斑晶質安山岩 142 点）、石錐が４点（うち黒曜岩１点、無斑晶質安山岩３点）、削器・掻器が 45 点（うち黒曜岩３点、無斑晶質安山岩 42 点）で、定形石器のうち８割近くを石鏃が占める。このほか、二次加工ある剥片が 21 点（うち黒曜岩６点、無斑晶質安山岩 15 点）、微細剥離痕ある剥片が 26 点（うち黒曜岩 16 点、無斑晶質安山岩 10 点）、剥片が 5,801 点（うち黒曜岩 540 点、無斑晶質安山岩 5,261 点）、石核が 19 点（うち黒曜岩７点、無斑晶質安山岩 12 点）であり、剥片石器類のほとんどを剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は、無斑晶質安山岩が約９割を占め、黒曜岩は１割に満たない。

磨製石器･礫石器は、磨製石斧３点、磨石 11 点（接合するものが２件あり製品としては９点）、凹石１点である。嘉瀬川ダム建設に伴って調査された他の遺跡と同じく、嘉瀬川に面していながら石錘はみられない。

133 ～ 195 は石鏃である。133 は黒曜岩の小型の剥片鏃とみられ、134 は無斑晶質安山岩の剥片鏃である。135 は長脚、136 は基部が凹基で、大型のものである。137 ～ 186 は平面が二等辺三角形、基部が微凹基から平基のもので、出土した石鏃の主体を占める形態である。長さは 1.7 ～ 4.3cm で、2.8 ～ 3.5cm のものが多い。側縁はやや膨らむものが多く、直線的なもの、五角形に近い形状にするものなどがある。両面調整が施されたものが多いが、下層の後期初頭のものに比べると、剥離が粗雑な印象を受け、自然面や素材面を残すものもある。137・141 は片面に、145・184 は両面に研磨された部分がみられ、184 はかなり広い範囲にわたる。187 ～ 195 は製作途中に放棄された未製品としたが、製品として使用可能なものも含まれる。

196 ～ 198 は石錐で、196 は両面調整が施された黒曜岩製、197・198 は錐部を中心に側縁にのみ調整加工が施された無斑晶質安山岩製である。

199 は無斑晶質安山岩の残核を利用した掻器である。200・201 は小型の削器としたが、石鏃の未製品である可能性もある。202・203 は黒曜岩の石刃状の縦長剥片を用いた削器である。204 ～ 210 は無斑晶質安山岩の大小の剥片を用いた削器で、刃部の加工の程度はさまざまである。207 は石錐の未製品である可能性がある。

211・212 は二次加工ある剥片で、212 は黒曜岩の石刃を用いた石錐未製品の可能性がある。213 ～ 215 は無斑晶質安山岩の石核である。

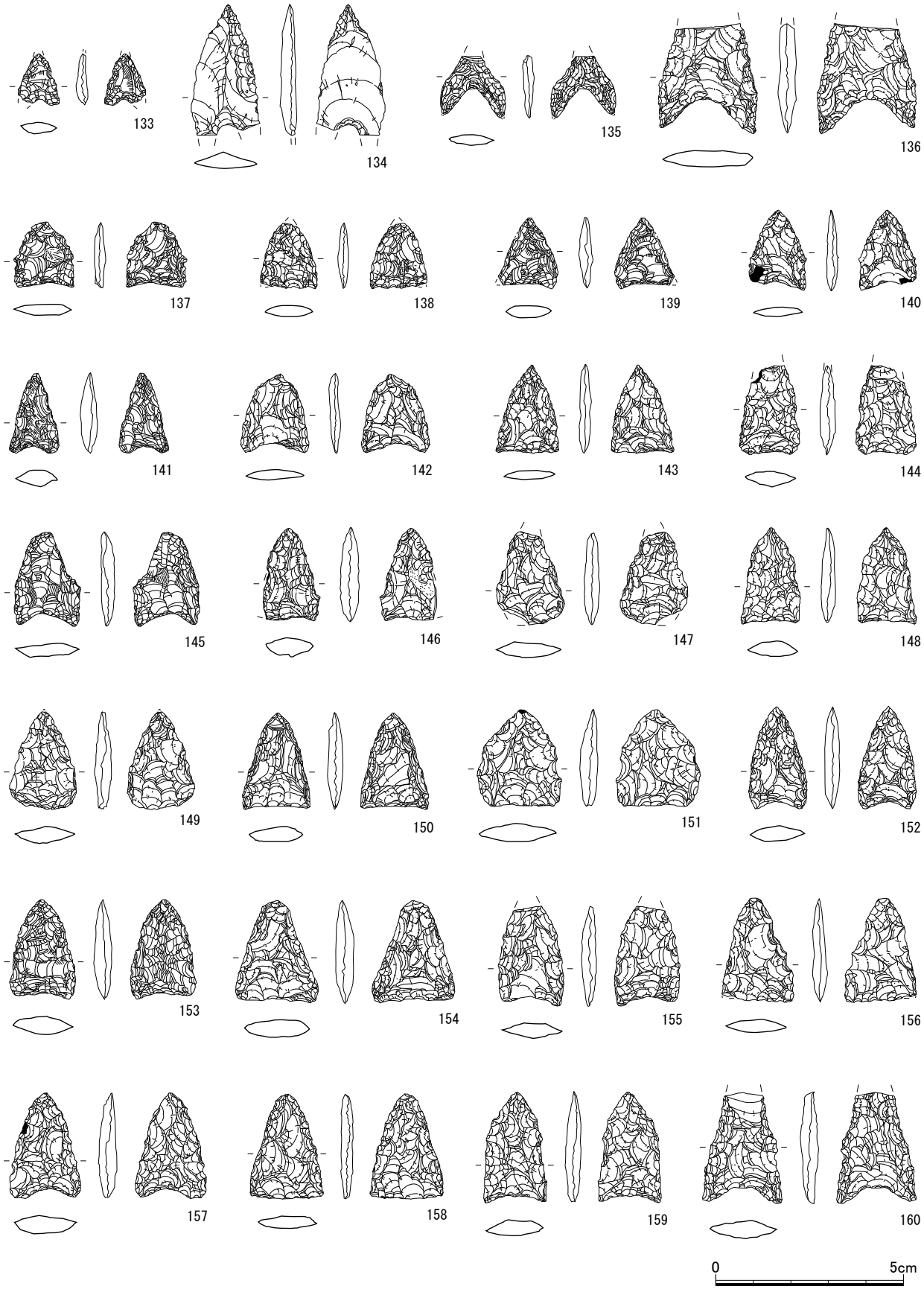


図 86　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器１（2/3）

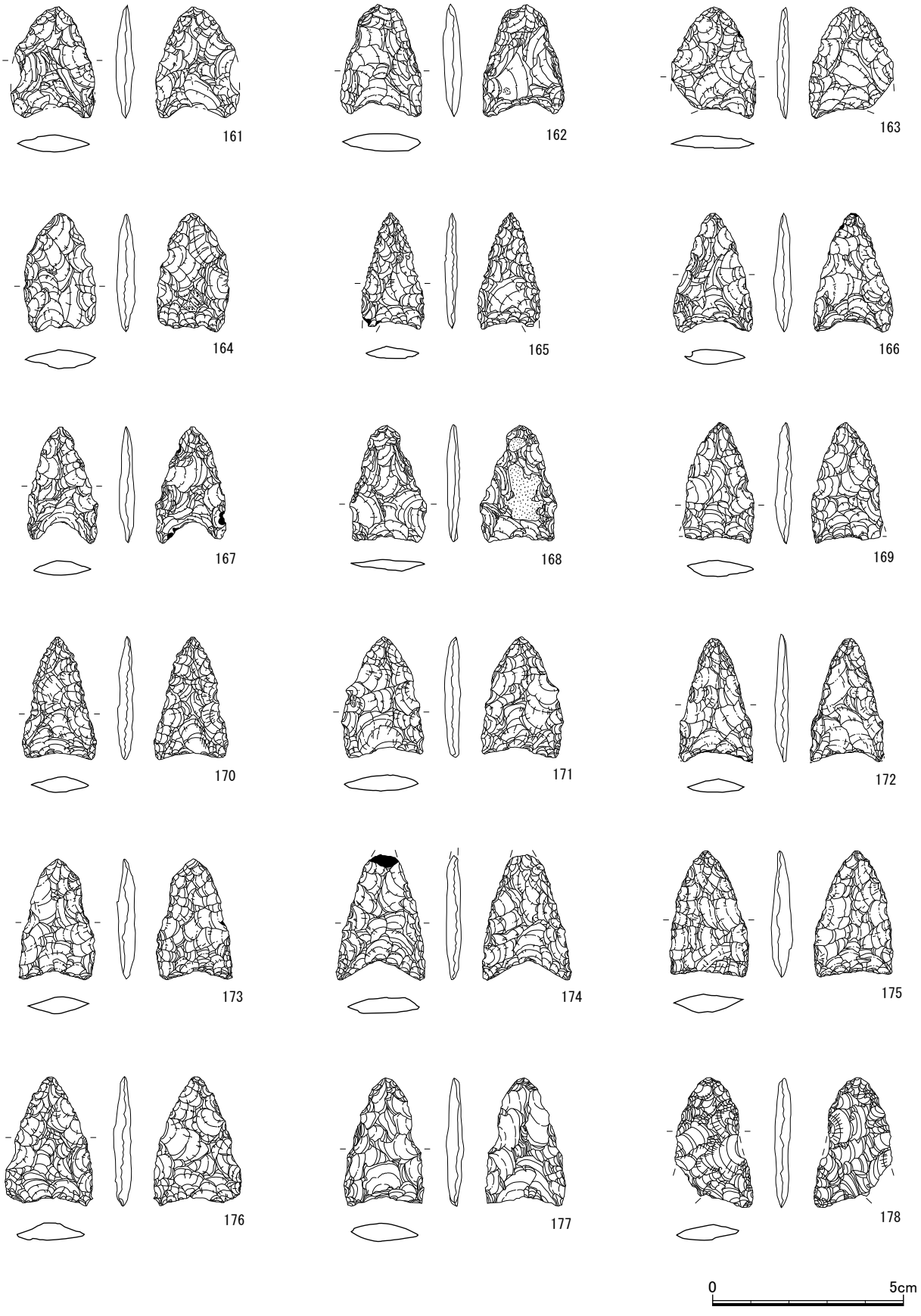


図 87　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器２（2/3）

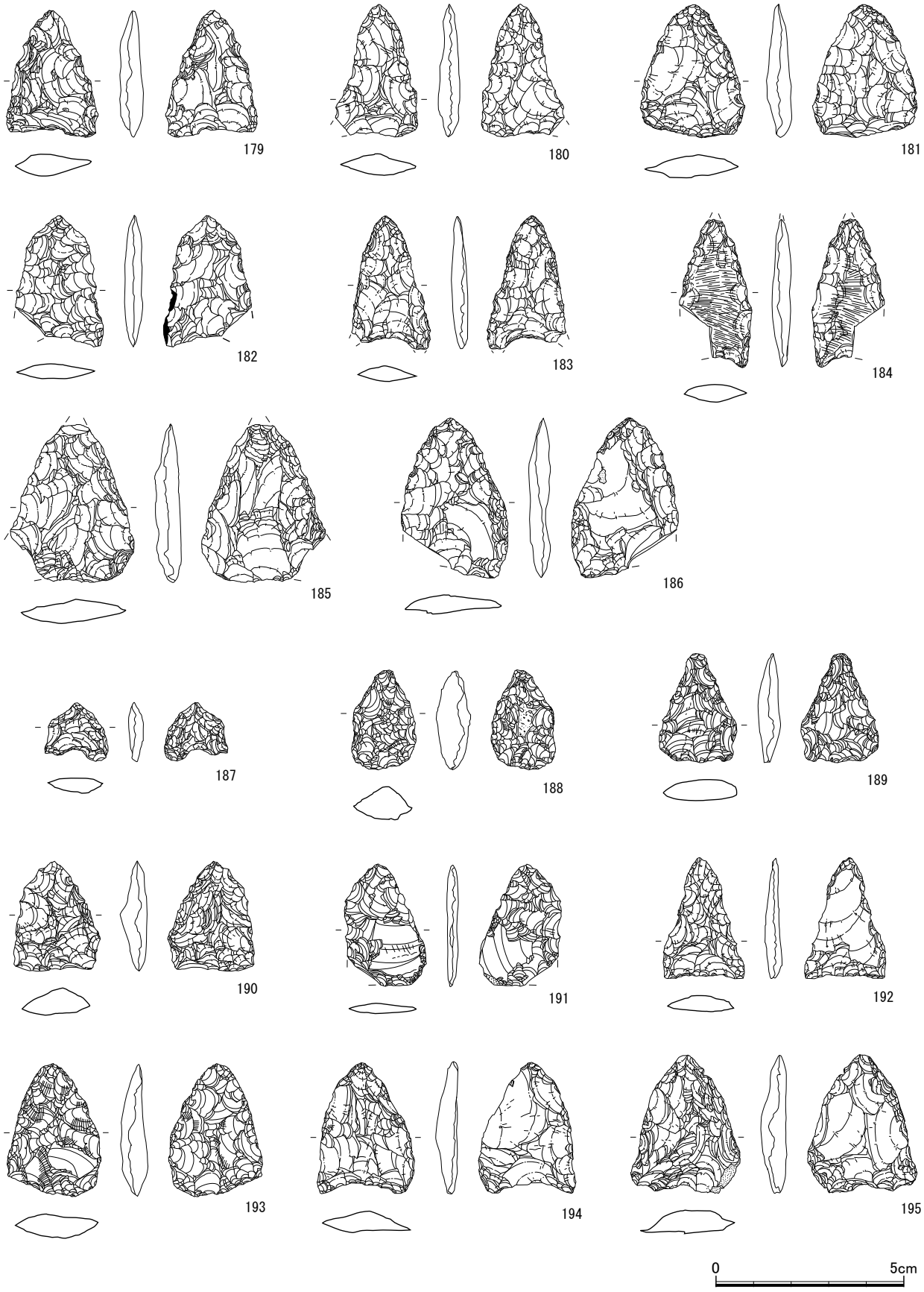


図 88　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器３（2/3）

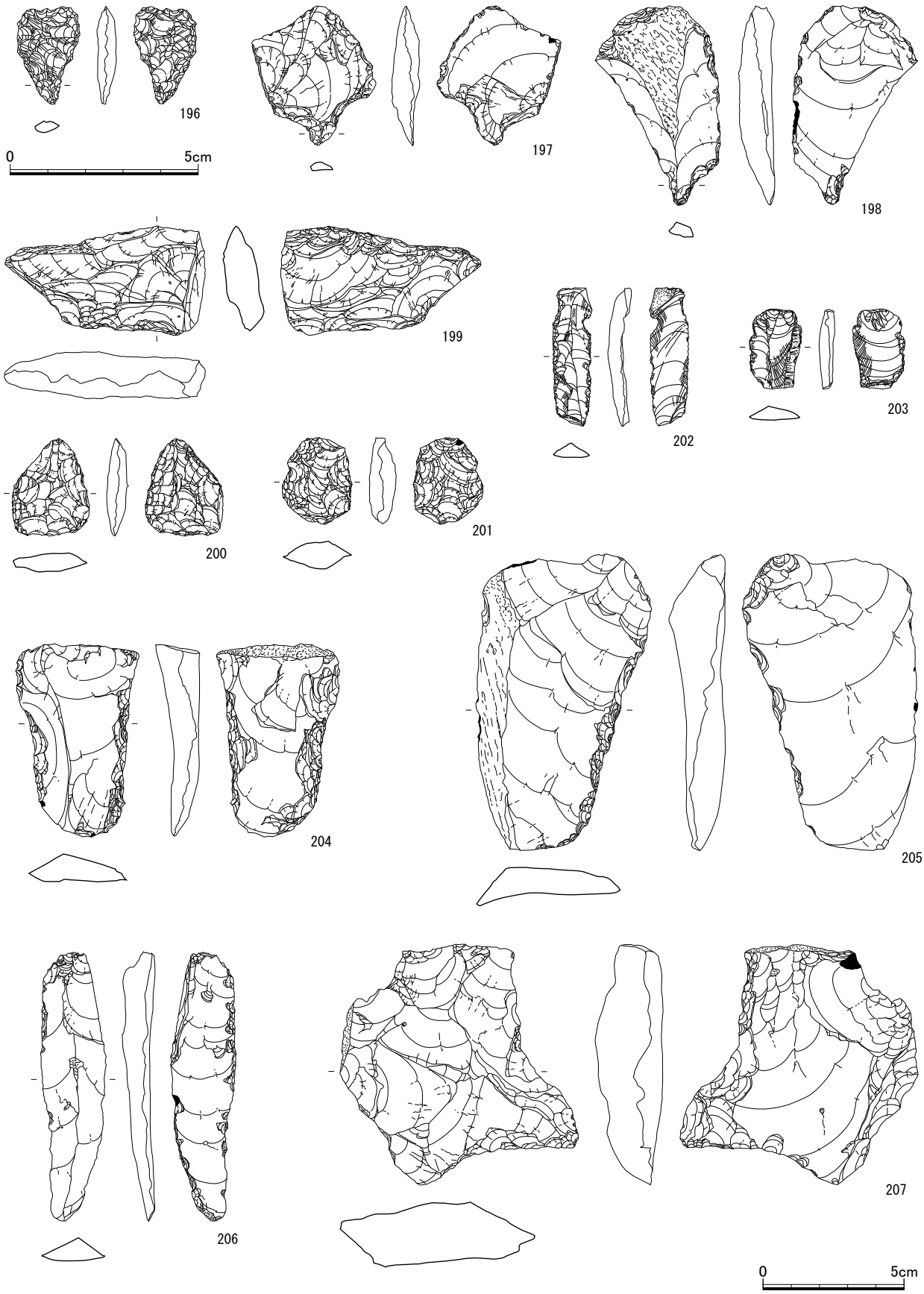


図 89　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器４（196 は 2/3、他は 1/2）

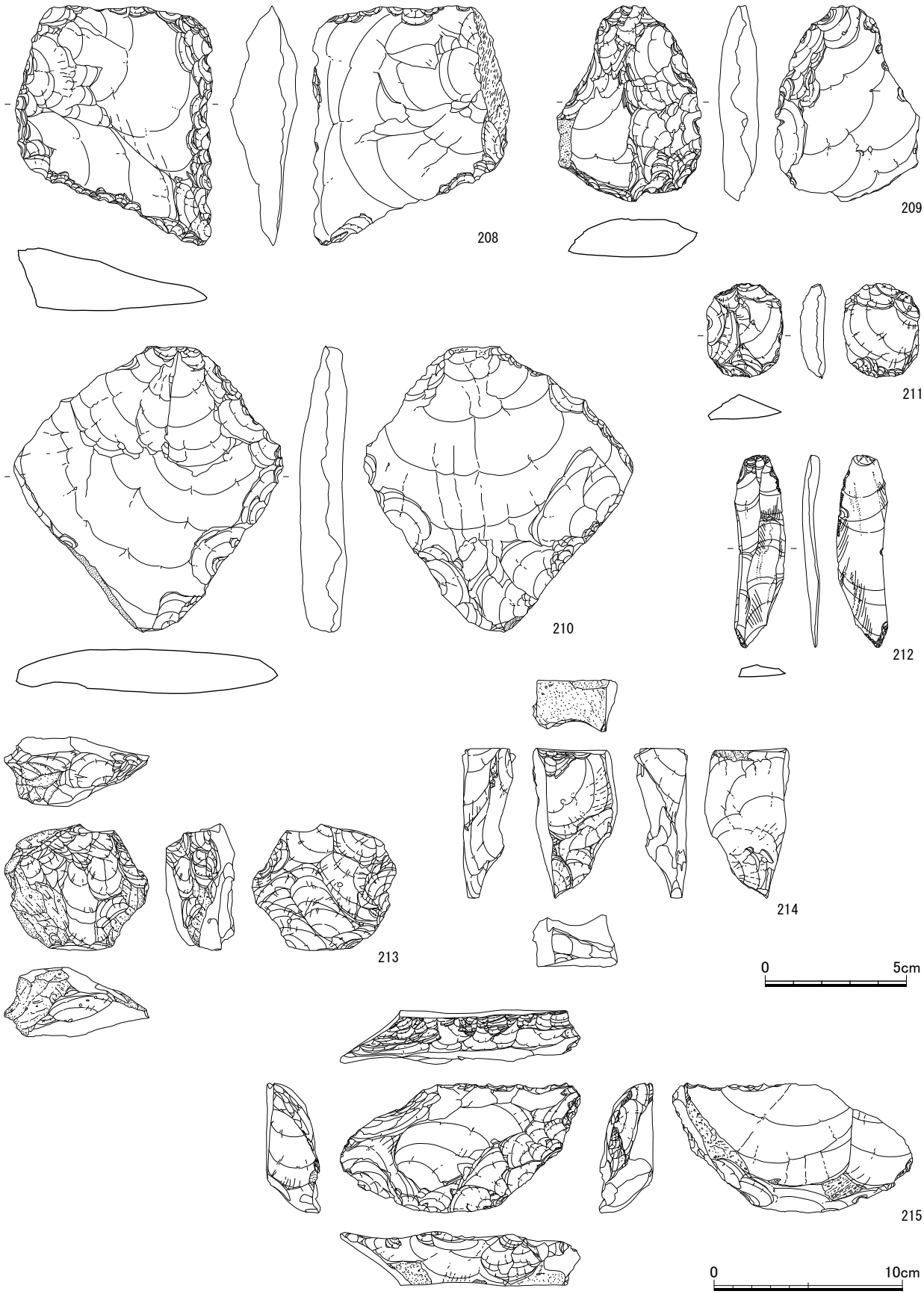


図 90　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器５（215 は 1/3、他は 1/2）

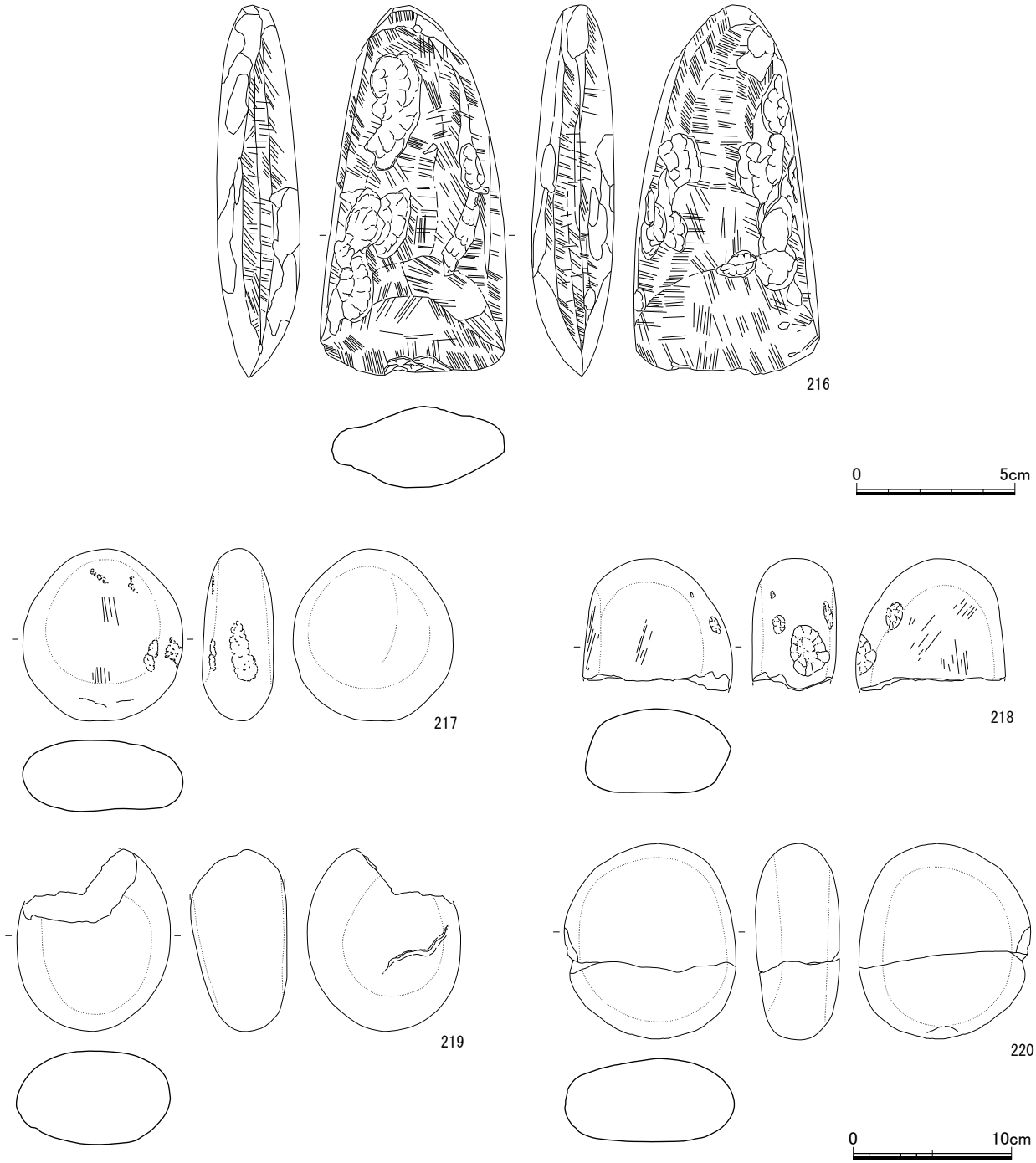


図 91　6T 区上層縄文時代の遺物　出土石器 6（216 は 1/2、他は 1/4）

216 は蛇紋岩製でほぼ完形の磨製石斧である。刃部の縦断面は左右非対称の蛤刃状をなし、使用によるものと思われる欠損がある。側縁は鏑をもち、部分的に平坦面が形成される。両面の剥離痕は研磨以前ものであるが、全体に丁寧な研磨が施される。

217 ～ 220 は磨石で、使用によると思われる磨滅が主として片面にみられる。218・220 の側縁には敲打痕があり、敲石としても利用している。石材鑑定は行っていないが、すべて花崗岩類とみられる。

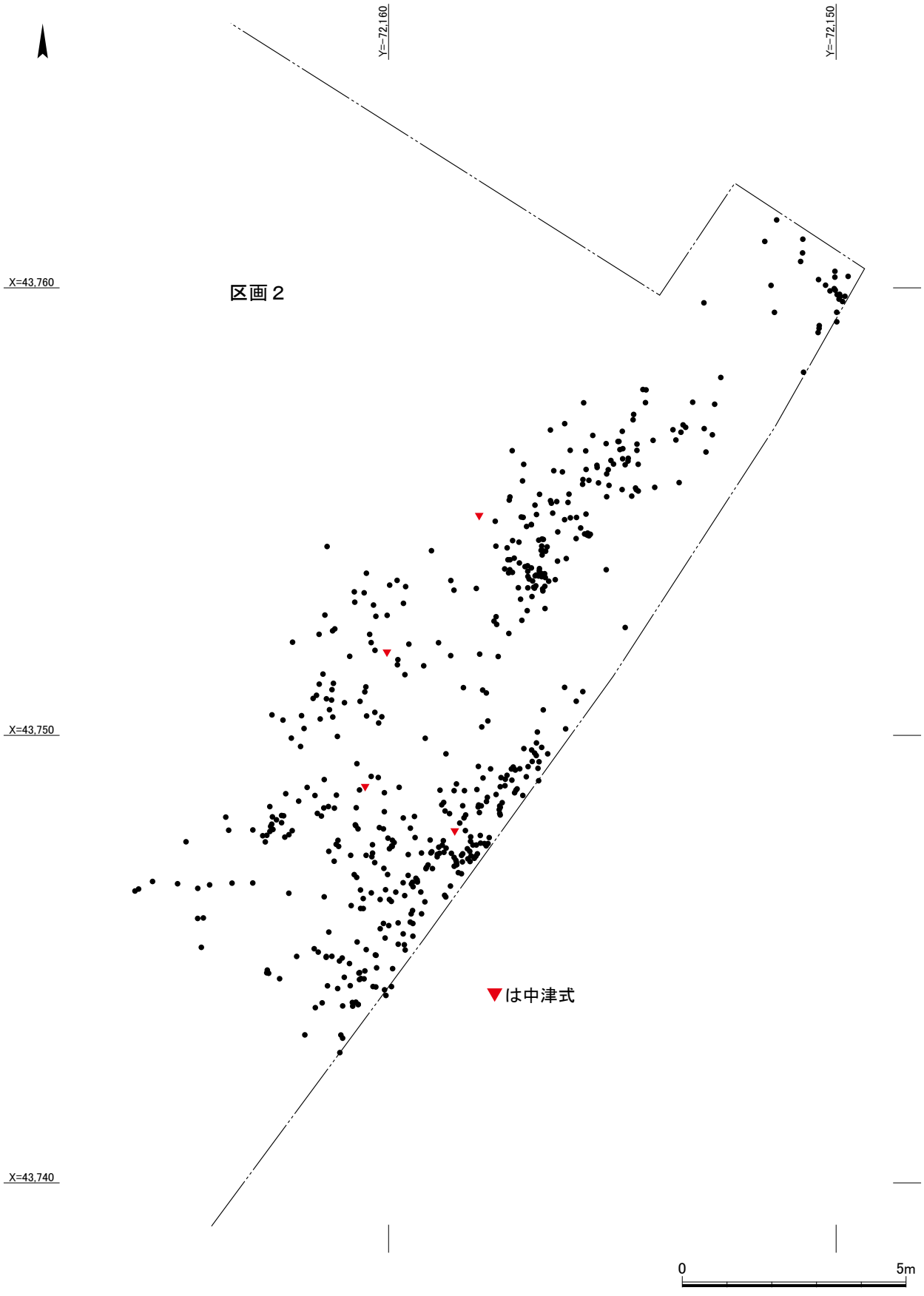


図 92　6T 区下層縄文時代土器の分布（1/125）

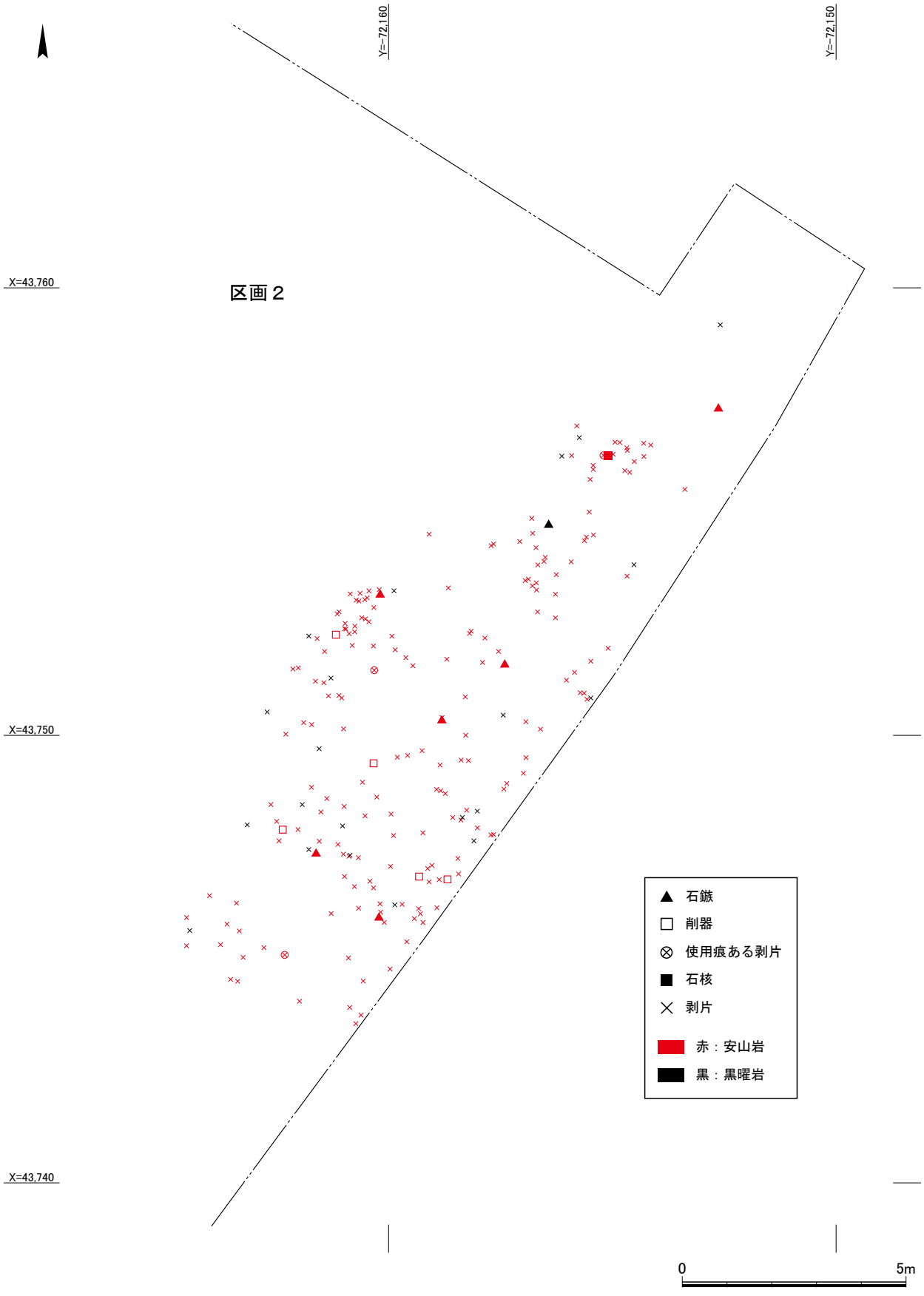


図 93　6T 区下層縄文時代石器の分布（1/125）

２）6T 区下層縄文時代の遺物

区画２下層では、遺構は確認されなかったが、区画の南東側を中心に後期初頭の遺物包含層（15 層）を検出し、土器・石器が出土した。

縄文土器（図 94 ～ 96）

土器は、530 点の出土位置を３次元で計測して取り上げた（図 92）。大部分は坂の下式土器とみられるが、数点中津式系土器が確認された。

221 ～ 245 は坂の下式で、器面調整はナデを基本として、胎土に滑石を含むものが大多数を占める。

221 ～ 233 は外面に凹点文が列状に施された口縁部で、凹点内部には原体によるものとみられる縦位の痕跡が残るものがほとんどである。221・222 は胴部に凹線による文様が施されたものである。223 ～ 225 は凹点文列の下位に 1 条の凹線が横位に巡るもので、口縁端部にも凹点文が施される。226 は 225 と同一個体と考えられる底部付近である。227 ～ 233 は文様が凹点文のみで構成されたもので、232 以外は口縁端部にも凹点文が施される。232 は胴部上半に 1 箇所、下半に 5 箇所の補修孔が認められ、底面には鯨骨による圧痕がみられる。

234 は口縁部に付加された突起と考えられ、上面に浅い凹点が施される。235 は口縁外面の文様が凹線文のもので、山形口縁である。

236 ～ 241 は胴部で、外面に条痕を残すものが多い。242 ～ 245 は底部で、いずれも底面に圧痕は認められない。242 は底面からの屈折部をやや外側に張り出させ、凹点文を施しているものと思われる。

246 は中津式系で、巻貝によるとみられる擬縄文により充填施文されている。

石器（図 96）

石器は、216 点の出土位置を３次元で計測して取り上げたが（図 93）、すべて剥片石器とその石核・剥片類で、磨製石器・礫石器は出土しなかった。

剥片石器類を器種・石材別にみると、石鏃が 7 点（うち黒曜岩 1 点、無斑晶質安山岩 6 点）、削器が 5 点（無斑晶質安山岩）、微細剥離痕ある剥片が 3 点（無斑晶質安山岩）、剥片が 200 点（うち黒曜岩 21 点、無斑晶質安山岩 179 点）、石核が 1 点（無斑晶質安山岩）であり、剥片石器類のほとんどを剥片・石核類が占める。剥片石器に用いられた石材は、黒曜岩が約 1 割、無斑晶質安山岩が約 9 割と無斑晶質安山岩が圧倒的に多い。

247 ～ 253 は石鏃である。247 ～ 251 は平面が細長い二等辺三角形、基部が凹基のもので、両面に丁寧な調整剥離が施される。247・249・251 の側縁は鋸歯状をなす。252 は両面に素材面を大きく残し、未製品の可能性がある。253 は 247 ～ 251 と同様の形状であるが、片面に素材面を大きく残す。

254 ～ 256 は削器で、縁部に両面から丁寧な連続剥離を施し、刃部を作出している。

257 は無斑晶質安山岩製の石核である。

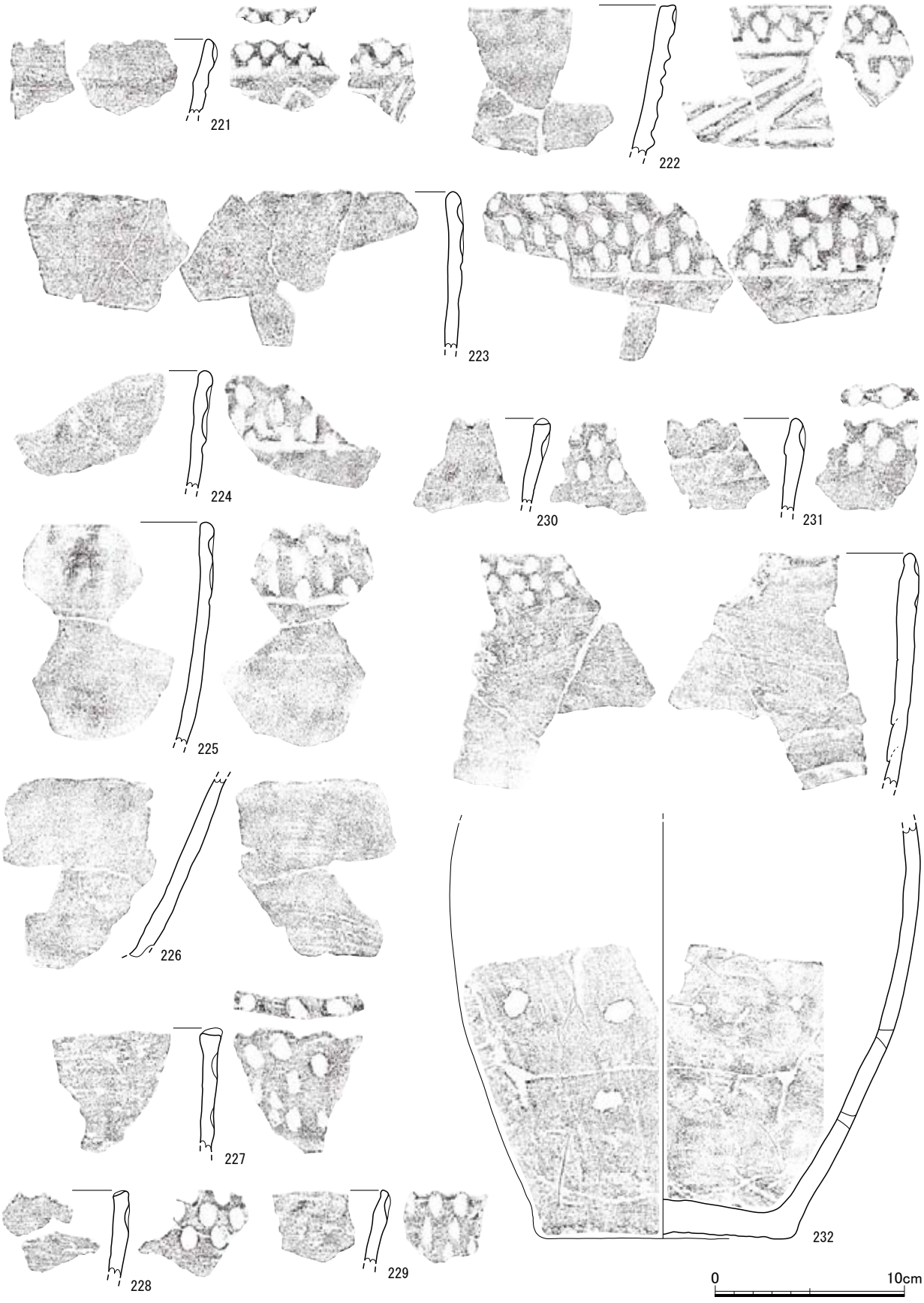


図 94　6T 区下層縄文時代の出土遺物１（1/3）

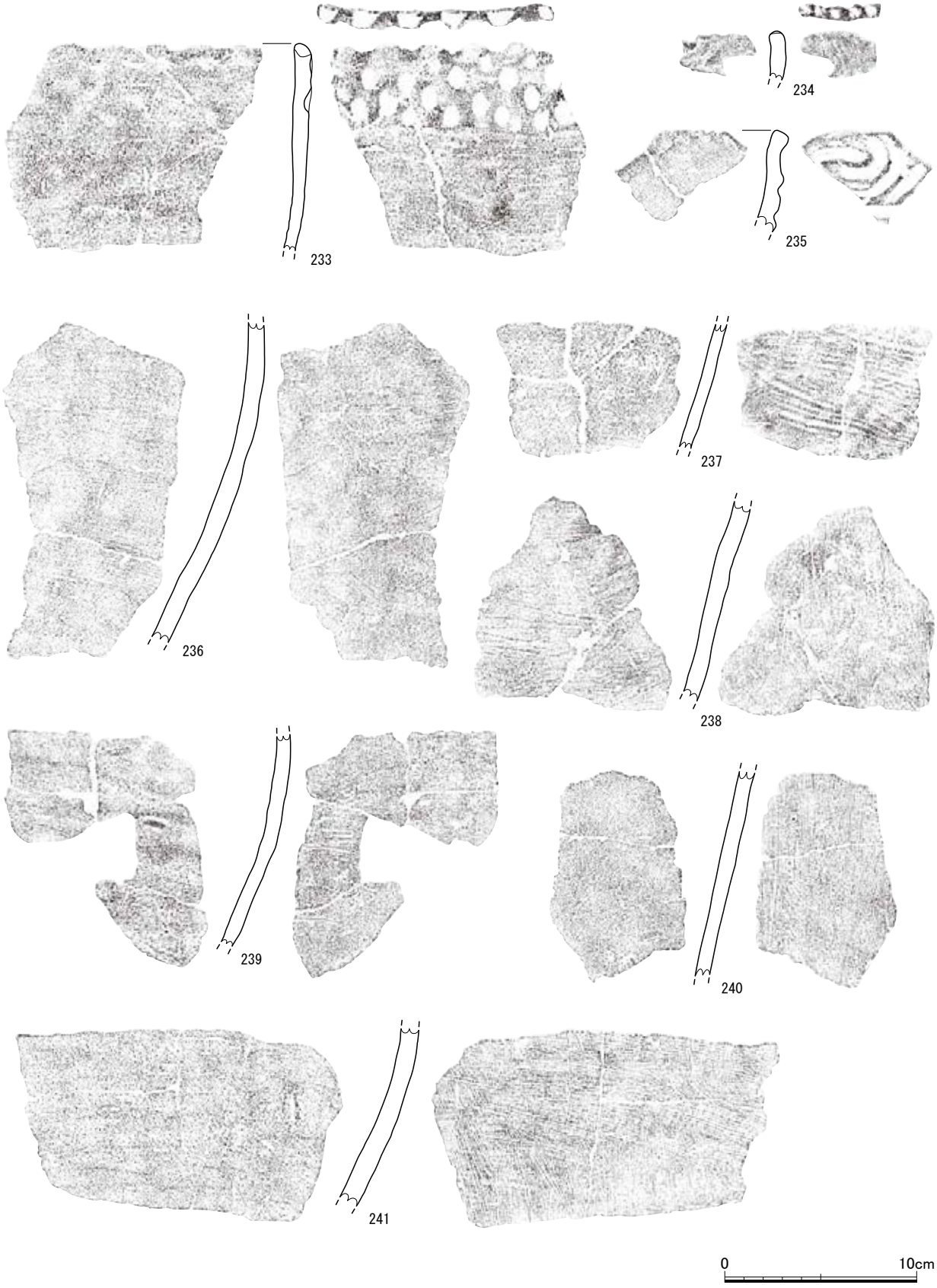


図 95　6T 区下層縄文時代の出土遺物２（1/3）

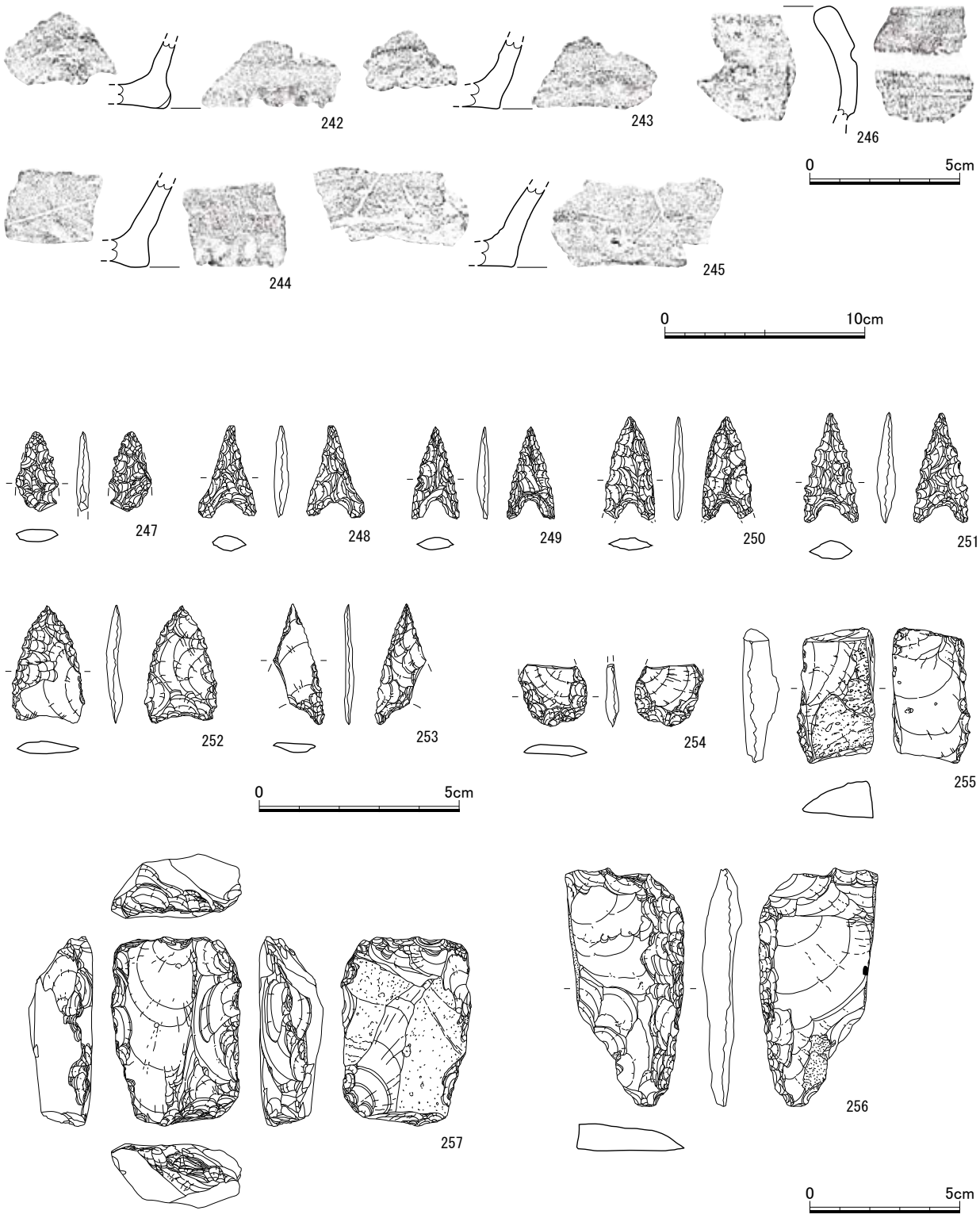


図 96　6T 区下層縄文時代の出土遺物 3 （242 ～ 245 は 1/3、247 ～ 253 は 2/3、他は 1/2）

表 9　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 74-1 11001830	SX6307	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：橙・にぶい赤褐 内：橙	外面煤付着	写真図版 32-1 20120026･27
図 74-2 11001831	SX6307	縄文土器 浅鉢	-	-	-	灰		写真図版 32-2 20120044
図 74-3 11001821	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐・黒 内：橙・黒		写真図版 32-3 20120039
図 74-4 11001829	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐・灰黄褐 内：にぶい褐・褐	線刻文	写真図版 32-4 20120028
図 74-5 11001827	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙・にぶい黄橙		写真図版 32-5 20120043
図 74-6 11001828	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・褐灰 内：にぶい黄橙		写真図版 32-6 20120025
図 74-7 11001822	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・灰黄褐 内：にぶい橙・にぶい黄橙		写真図版 32-7 20120040
図 74-8 11001825	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい橙・灰褐 内：橙・灰褐	外面煤付着	写真図版 32-8 20120042
図 74-9 11001826	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐・褐灰 内：褐灰・黒褐		写真図版 32-9 20120024
図 74-10 11001817	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	写真図版 32-10 20120037
図 74-11 11001824	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙・にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 32-11 20120041
図 74-12 11001833	SX6307	縄文土器 深鉢	-	9.1	-	外：橙 内：褐・黒褐		写真図版 32-12 20120001
図 74-13 11001832	SX6307	縄文土器 深鉢	-	8.6*	-	外：橙。にぶい黄橙 内：灰褐・にぶい黄褐		写真図版 32-13 20120045
図 74-14 11001834	SX6307	縄文土器 深鉢	-	9.3	-	外：にぶい橙 内：明赤褐・にぶい赤褐		写真図版 32-14 20120002
図 76-35 11001820	SX6315	縄文土器 浅鉢	40.3*	-	-	外：灰・オリーブ黒 内：灰		写真図版 32-35 20120019
図 76-36 11001818	SX6315	縄文土器 浅鉢	-	-	-	黄灰・黒褐		写真図版 32-36 20120038
図 76-37 11001815	SX6315	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐・にぶい褐 内：橙・にぶい橙	外面煤付着	写真図版 32-37 20120035
図 76-38 11001816	SX6315	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐・黒褐 内：にぶい褐・黒褐		写真図版 32-38 20120036
図 76-39 11001819	SX6315	縄文土器 深鉢	36.8*	-	-	外：橙・明赤褐 内：にぶい黄橙・灰黄褐		写真図版 33-39 20120078
図 77-44 11002039	SX6301	縄文土器 鉢	-	-	-	外：灰褐・にぶい褐 内：にぶい黄橙・にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 33-44 20120068
図 77-45 11002038	SX6301	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい褐・黒褐 内：灰褐・黒褐	外面煤付着	写真図版 33-45 20120067
図 77-57 11002040	SX6305	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：黒褐 内：灰黄褐・にぶい褐	外面煤付着	写真図版 33-57 20120070
図 77-58 11002041	SX6305	縄文土器 深鉢	-	9.7*	-	外：明赤褐・橙 内：にぶい褐	底面圧痕カ	写真図版 33-58 20120003
図 78-63 11002043	SX6309	縄文土器 浅鉢	-	-	-	灰黄褐・褐灰		写真図版 33-63 20120071
図 78-64 11002042	SX6309	縄文土器 深鉢	19.3*	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄褐 内：橙・にぶい橙・褐・褐灰		写真図版 33-64 20120090･91
図 78-65 11002045	SX6313	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙・褐灰	内外面炭化物付着	写真図版 33-65 20120092
図 79-68 11001917	区画 2 4 層	縄文土器 浅鉢	26.1	-	10.0	外：灰黄褐 内：黒褐	内外面炭化物付着 炭素年代測定	写真図版 33-68 20120016
図 79-69 11002049	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐 内：にぶい褐	外面煤付着	写真図版 33-69 20120072
図 79-70 11001843	区画 2 5 層	縄文土器 浅鉢	30.0*	-	-	外：灰黄褐・黒褐 内：褐灰・黒褐・灰黄褐		写真図版 34-70 20120018
図 79-71 11001838	区画 2 5 層	縄文土器 浅鉢	36.0*	-	-	外：灰・灰黄 内：灰・暗灰黄		写真図版 34-71 20120020
図 79-72 11001842	区画 2 4 層	縄文土器 浅鉢	29.0*	-	-	灰・淡黄		写真図版 34-72 20120049
図 79-73 11001839	区画 2 5 層	縄文土器 浅鉢	10.2*	-	-	外：黄灰・にぶい黄橙 内：黄灰		写真図版 34-73 20120023

表 9　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 79-74 11001916	区画 1 13 層	縄文土器 浅鉢	-	-	-	褐灰・にぶい黄橙		写真図版 34-74 20120022
図 79-75 11001915	区画 1 11 層	縄文土器 浅鉢	12.4*	-	-	褐灰・にぶい黄橙		写真図版 34-75 20120021
図 79-76 11001841	区画 2 13 層	縄文土器 浅鉢	22.4*	-	-	外：灰黄褐・にぶい黄橙 内：灰黄褐・黒褐		写真図版 34-76 20120048
図 79-77 11001840	SX6315	縄文土器 浅鉢	23.4*	-	-	黄灰・にぶい黄褐		写真図版 34-77 20120047
図 79-78 11001837	区画 2 5 層	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：灰・にぶい黄褐 内：灰・暗灰黄		写真図版 34-78 20120080
図 80-79 11001892	区画 1 13 層	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：明赤褐 内：橙		写真図版 34-79 20120054･55
図 80-80 11001891	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐・灰黄褐 内：橙・明赤褐	外面煤付着	写真図版 34-80 20120266･267
図 80-81 11001910	区画 1 11 層	縄文土器 深鉢	31.6*	-	-	外：黄灰・にぶい黄褐 内：黒褐・にぶい黄橙		写真図版 34-81 20120086･87
図 80-82 11001907	区画 2 5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰・にぶい橙 内：明褐・にぶい橙		写真図版 34-82 20120083･84
図 80-83 11001908	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	24.0*	-	-	外：にぶい赤褐・褐灰 内：明赤褐・にぶい赤褐		写真図版 34-83 20120063･64
図 80-84 11001911	SX6301	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰 内：灰褐・にぶい赤褐	外面煤付着	写真図版 34-84 20120065･66
図 80-85 11002056	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	40.0*	-	-	明赤褐		写真図版 34-85 20120103･104
図 81-86 11002053	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	36.9*	-	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄		写真図版 35-86 20120106
図 81-87 11001894	区画 1 13 層	縄文土器 浅鉢	-	-	-	灰褐・にぶい橙		写真図版 35-87 20120056
図 81-88 11001913	区画 1 13 層	縄文土器 浅鉢	15.6*	-	-	外：にぶい赤褐・黒褐 内：褐灰・にぶい赤褐	外面煤付着	写真図版 35-88 20120089
図 81-89 11001835	区画 2 13 層	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：橙・灰褐 内：にぶい黄褐・灰黄褐	外面煤付着	写真図版 35-89 20120079
図 81-90 11001836	区画 2 4 層	縄文土器 浅鉢	-	-	-	外：灰褐・黒褐 内：黒・黒褐		写真図版 35-90 20120046
図 82-91 11001886	区画 1 13 層	縄文土器 鉢	33.0*	-	-	外：灰褐・にぶい褐 内：にぶい赤褐・黒褐	外面煤付着	写真図版 35-91 20120050･51
図 82-92 11001885	区画 1 13 層	縄文土器 鉢	32.4*	-	-	外：黒褐・灰黄褐 内：明赤褐・にぶい褐	内外面炭化物付着	写真図版 35-92 20120081･82
図 82-93 11002054	区画 2 5 層	縄文土器 鉢	31.7*	-	-	外：橙 内：にぶい赤褐	外面煤付着	写真図版 35-93 20120100･101
図 82-94 11002057	区画 2 14 層	縄文土器 鉢	-	-	-	外：にぶい黄褐 内：明赤褐	煤付着	写真図版 36-94 20120095･96
図 82-95 11002044	SX6312	縄文土器 鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄褐	外面煤付着	写真図版 36-95 20120031
図 82-96 11002062	区画 2 5 層	縄文土器 鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：橙		写真図版 36-96 20120034
図 82-97 11002050	SX6307	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：橙	線刻文　外面煤付着	写真図版 36-97 20120073
図 82-98 11002046	区画 2 5 層	縄文土器 深鉢	19.1*	-	-	外：褐灰・灰褐 内：褐灰・灰褐・にぶい褐	線刻文	写真図版 36-98 20120094
図 82-99 11001893	検出面	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐・にぶい黄褐 内：橙・にぶい黄橙		写真図版 36-99 20120029･30
図 82-100 11001890	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	14.8*	-	-	外：にぶい赤褐・灰褐 内：褐灰・にぶい赤褐		写真図版 36-100 20120053
図 82-101 11002063	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙		写真図版 36-101 20120076
図 83-102 11001888	区画 1 13 層	縄文土器 鉢	23.8*	-	-	外：褐灰・にぶい黄橙 内：にぶい黄橙・暗灰黄	外面煤付着	写真図版 36-102 20120102
図 83-103 11001887	区画 1 13 層	縄文土器 鉢カ	-	-	-	外：灰褐・にぶい黄橙 内：灰褐・黒褐		写真図版 36-103 20120052
図 83-104 11001906	区画 1 16 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐・明赤褐 内：にぶい褐・明赤褐		写真図版 36-104 20120062
図 83-105 11002060	区画 2 7 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい橙		写真図版 36-105 20120075

表 9　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 83-106 11002059	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙 内：にぶい橙	外面煤付着	写真図版 36-106 20120074
図 83-107 11001903	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：橙・明黄褐 内：黄灰	外面煤付着	写真図版 36-107 20120059
図 83-108 11001902	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐・褐灰 内：暗灰黄・にぶい褐	外面煤付着	写真図版 36-108 20120058
図 83-109 11001901	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙・にぶい橙 内：にぶい橙・黄灰		写真図版 36-109 20120057
図 83-110 11001909	区画 2 5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰褐・黒 内：灰黄褐・黄灰		写真図版 36-110 20120085
図 83-111 11002061	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰黄褐	内外面炭化物付着	写真図版 36-111 20120105
図 84-112 11002048	区画 2	縄文土器 深鉢	32.5*	-	-	外：にぶい黄橙・灰黄褐 内：にぶい黄橙・黒褐		写真図版 37-112 20120093
図 84-113 11002047	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	24.7*	-	-	外：橙・にぶい赤褐 内：黄灰・黒褐		写真図版 37-113 20120099
図 84-114 11002058	区画 2 5 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：明赤褐	外面煤付着	写真図版 37-114 20120097
図 84-115 11001914	区画 1 11 層	縄文土器 深鉢	26.0*	-	-	外：灰黄褐・にぶい黄橙 内：褐灰・にぶい黄橙		写真図版 37-115 20120098
図 84-116 11001912	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	27.0*	-	-	外：黒褐・橙 内：橙・褐灰	外面煤付着	写真図版 37-116 20120088
図 84-117 11001904	区画 1 11 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰・にぶい橙 内：褐灰・にぶい黄橙		写真図版 37-117 20120060
図 84-118 11001905	区画 1 11 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：褐灰・にぶい橙 内：灰黄褐・にぶい黄橙		写真図版 37-118 20120061
図 85-119 11002069	区画 2 14 層	縄文土器 鉢カ	-	8.7	-	橙		写真図版 37-119 20120015･238･239
図 85-120 11001898	区画 1 13 層	縄文土器 鉢カ	-	7.7	-	外：にぶい黄橙・にぶい橙 内：灰黄褐・にぶい黄橙		写真図版 37-120 20120007
図 85-121 11001897	区画 1 11 層	縄文土器 鉢カ	-	8.7	-	外：灰黄褐・橙 内：にぶい黄橙・灰黄褐	底面圧痕カ	写真図版 37-121 20120006
図 85-122 11001900	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	-	8.8	-	外：暗灰黄・にぶい黄橙 内：褐灰・明黄褐	底面圧痕カ	写真図版 37-122 20120009
図 85-123 11001899	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	-	9.2*	-	外：にぶい黄橙・にぶい橙 内：にぶい黄・黄灰	底面圧痕カ	写真図版 37-123 20120008
図 85-124 11002064	区画 2 14 層	縄文土器 深鉢	-	7.7	-	外：橙 内：にぶい赤褐		写真図版 37-124 20120011
図 85-125 11001895	検出面	縄文土器 深鉢	-	9.8*	-	外：にぶい褐 内：黄灰	底面圧痕カ	写真図版 37-125 20120004
図 85-126 11002066	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	-	10.0*	-	橙	底面圧痕カ	写真図版 37-126 20120077
図 85-127 11002065	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	-	8.8	-	外：明赤褐 内：褐	底面圧痕カ	写真図版 37-127 20120012
図 85-128 11001896	区画 1 13 層	縄文土器 深鉢	-	9.9*	-	にぶい黄橙・灰黄褐		写真図版 37-128 20120005
図 85-129 11002068	区画 2 4 層	縄文土器 深鉢	-	6.8	-	外：明黄褐 内：灰黄褐		写真図版 37-129 20120014
図 85-130 11002055	区画 2 5 層	縄文土器 深鉢	-	9.9*	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙		写真図版 37-130 20120010
図 85-131 11002067	区画 2 5 層	縄文土器 深鉢	-	8.9*	-	外：にぶい褐 内：暗灰黄	底面圧痕カ	写真図版 37-131 20120013
図 85-132 11002052	区画 2 4 層	土製品 円盤形	径 3.9	厚 0.6	-	にぶい黄橙		写真図版 37-132 20120033
図 94-221 11002394	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐・にぶい赤褐	滑石を含む	写真図版 40-221 20120253･254
図 94-222 11002387	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：暗赤褐 内：赤褐		写真図版 40-222 20120245
図 94-223 11002371	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙・にぶい赤褐	滑石を含む	写真図版 40-223 20120263
図 94-224 11002376	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙・明赤褐	滑石を含む	写真図版 40-224 20120241
図 94-225 11002372	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	明赤褐・にぶい褐	滑石を含む	写真図版 40-225 20120256

表 9　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土土器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 94-226 11002373	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙・にぶい褐	滑石を含む	写真図版 40-226 20120257
図 94-227 11002374	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐・灰赤 内：にぶい黄橙	滑石を含む	写真図版 40-227 20120240
図 94-228 11002395	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい赤褐	滑石を含む	写真図版 40-228 20120255
図 94-229 11002380	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	黒褐・灰褐		写真図版 40-229 20120250
図 94-230 11002393	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰褐・明赤褐	滑石を含む　外面煤付着	写真図版 40-230 20120252
図 94-231 11002392	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	暗赤褐・にぶい赤褐	滑石を含む　外面煤付着	写真図版 40-231 20120251
図 94-232 11002377	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	14.0	-	外：赤橙・にぶい褐 内：赤褐・灰黄褐	滑石を含む　外面煤付着 底面鯨骨の圧痕	写真図版 40-232 20120017･264
図 95-233 11002385	区画 2 15c 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	灰黄褐・にぶい赤褐	滑石を含む　外面煤付着 炭素年代測定	写真図版 40-233 20120261
図 95-234 11002379	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい赤褐・暗赤褐	外面煤付着	写真図版 40-234 20120249
図 95-235 11002381	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	明赤褐・赤褐		写真図版 40-235 20120242
図 95-236 11002378	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい橙・橙		写真図版 40-236 20120265
図 95-237 11002386	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	明赤褐・にぶい赤褐	滑石を含む	写真図版 40-237 20120244
図 95-238 11002383	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい橙・にぶい黄橙	滑石をわずかに含む	写真図版 40-238 20120260
図 95-239 11002382	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	褐・にぶい赤褐		写真図版 40-239 20120259
図 95-240 11002388	区画 2 15c 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：にぶい赤褐 内：明赤褐		写真図版 40-240 20120262
図 95-241 11002375	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：明赤褐・灰褐 内：灰褐・にぶい赤褐	滑石を含む	写真図版 40-241 20120258
図 96-242 11002389	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	橙・明黄褐		写真図版 41-242 20120246
図 96-243 11002391	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい赤褐・明赤褐	滑石を含む	写真図版 41-243 20120248
図 96-244 11002390	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	にぶい黄橙・明黄褐	滑石を含む	写真図版 41-244 20120247
図 96-245 11002384	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：赤褐 内：にぶい赤褐・暗赤褐	滑石を含む	写真図版 41-245 20120243
図 96-246 11002051	区画 2 15 層	縄文土器 深鉢	-	-	-	外：灰黄褐・にぶい黄橙 内：灰褐・にぶい橙	外面煤付着	写真図版 41-246 20120032

表 10　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 74-15 09002402	SX6307	打製石器 石鏃	1.3+	1.4	0.3	0.8	黒曜岩	先端欠損	写真図版 32-15 20112521
図 74-16 09002406	SX6307	打製石器 石鏃	1.9	1.7	0.4	1.2	黒曜岩	完形　局部磨製	写真図版 32-16 20112525
図 74-17 09002405	SX6307	打製石器 石鏃	2.1+	1.6	0.4	1.2	無斑晶質安山岩	片脚端部欠損	写真図版 32-17 20112524
図 74-18 09002434	SX6307	打製石器 石鏃	2.3	1.8	0.5	1.6	黒曜岩	完形	写真図版 32-18 20112553
図 74-19 09002431	SX6307	打製石器 石鏃	2.9	1.6	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 32-19 20112550
図 74-20 09002413	SX6307	打製石器 石鏃	2.2+	2.1+	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	先端、片脚端部欠損	写真図版 32-20 20112532
図 74-21 09002419	SX6307	打製石器 石鏃	1.9+	2.3	0.5	2.2	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 32-21 20112538
図 75-22 09002430	SX6307	打製石器 石鏃	2.1+	2.0	0.4	1.6	黒曜岩	先端、片脚端部欠損	写真図版 32-22 20112549
図 75-23 09002420	SX6307	打製石器 石鏃	2.5+	1.8	0.5	2.0	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 32-23 20112539
図 75-24 09002408	SX6307	打製石器 石鏃	1.7+	2.6	0.4+	2.8	無斑晶質安山岩	上半部欠損	写真図版 32-24 20112527
図 75-25 09002404	SX6307	打製石器 石鏃	2.9	2.3	0.6	3.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 32-25 20112523
図 75-26 09002369	SX6307	打製石器 石鏃	3.3	2.3	0.6	3.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 32-26 20112593
図 75-27 09002370	SX6307	打製石器 石鏃	4.3	3.0	1.0	11.6	無斑晶質安山岩	未製品　完形	写真図版 32-27 20112594
図 75-28 09002375	SX6307	打製石器 石鏃	3.6+	2.5	0.7	4.2	無斑晶質安山岩	未製品　下端部欠損	写真図版 32-28 20112599
図 75-29 09002377	SX6307	打製石器 石錐	3.5	2.3	0.5	3.4	無斑晶質安山岩	一部欠損	写真図版 32-29 20112601
図 75-30 09002467	SX6307	打製石器 石核	2.2	2.4	2.0	8.0	黒曜岩	完形	写真図版 32-30 20112609
図 75-31 09002463	SX6307	打製石器 石核	5.3	6.0	2.8	70.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 32-31 20120279
図 75-32 09002475	SX6307	磨製石器 石斧	6.2+	4.3+	2.3+	64.0	蛇紋岩	基部のみ残存	写真図版 32-32 20120282
図 75-33 09002469	SX6307	磨製石器 磨石	10.5+	5.5+	6.0	320.4		67 と接合	写真図版 32-33 20120284
図 75-34 09002473	SX6307	磨製石器 凹石	12.3+	10.0	5.7	890.0		約 1/2 残存	写真図版 32-34 20120292
図 76-40 09002433	SX6315	打製石器 石鏃	1.8+	1.7+	0.3	1.2	無斑晶質安山岩	未製品 先端、片脚端部欠損	写真図版 33-40 20112552
図 76-41 09002448	SX6315	打製石器 石鏃	2.9	1.2	0.5	3.0	無斑晶質安山岩	未製品　ほぼ完形	写真図版 33-41 20112558
図 76-42 09002376	SX6315	打製石器 石鏃	3.7	2.7	0.9	8.0	無斑晶質安山岩	未製品　完形	写真図版 33-42 20112600
図 76-43 09002478	SX6315	磨製石器 磨石	7.2+	6.0+	5.0+	322.0			写真図版 33-43 20120291
図 77-46 09002384	SX6301	打製石器 石鏃	2.2	1.7	0.4	1.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-46 20112503
図 77-47 09002394	SX6301	打製石器 石鏃	2.3+	1.8	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	片脚端部欠損	写真図版 33-47 20112513
図 77-48 09002385	SX6301	打製石器 石鏃	2.4	1.9	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-48 20112504
図 77-49 09002389	SX6301	打製石器 石鏃	2.7+	1.8+	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	側縁一部欠損	写真図版 33-49 20112508
図 77-50 09002349	SX6301	打製石器 石鏃	3.2	1.9	0.4	2.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-50 20112573
図 77-51 09002351	SX6301	打製石器 石鏃	3.4	1.9+	0.4	2.4	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 33-51 20112575
図 77-52 09002360	SX6301	打製石器 石鏃	3.7+	1.9+	0.4	2.2	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 33-52 20112584
図 77-53 09002350	SX6301	打製石器 石鏃	3.4	2.4	0.4	3.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-53 20112574

表 10　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 77-54 09002359	SX6301	打製石器 石鏃	3.8	2.7	0.6	5.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-54 20112583
図 77-55 09002451	SX6301	打製石器 削器	3.2	1.3	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-55 20112604
図 77-56 09002466	SX6301	打製石器 石核	1.8	2.4	1.9	8.4	黒曜岩	完形	写真図版 33-56 20112608
図 77-59 09002398	SK6305	打製石器 石鏃	2.2	1.5	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-59 20112517
図 77-60 09002447	SK6305	打製石器 石鏃	2.8	1.5	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-60 20112557
図 77-61 09002424	SK6305	打製石器 石鏃	2.4+	2.1	0.4	2.0	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 33-61 20112543
図 77-62 09002453	SK6305	打製石器 削器	3.3	2.9	1.1	7.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 33-62 20112606
図 78-66 09002477	SX6313	磨製石器 磨石	6.8+	9.1+	6.1	459.0			写真図版 33-66 20120290
図 78-67 09002471	SX6313	磨製石器 磨石	13.2+	9.2+	6.5	865.0		33 と接合	写真図版 33-67 20120286
図 86-133 09002459	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	1.4+	1.1+	0.3	0.4	黒曜岩	先端、脚部端部わずかに欠損	写真図版 38-133 20112561
図 86-134 09002449	区画 2 13 層	打製石器 石鏃	3.5+	1.8+	0.4	2.0	無斑晶質安山岩	両脚端部欠損	写真図版 38-134 20112603
図 86-135 09002432	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	1.7+	1.7+	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	先端、両脚端部わずかに欠損	写真図版 38-135 20112551
図 86-136 09002379	区画 2 7 層	打製石器 石鏃	2.9+	2.6	0.5	3.8	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 38-136 20112498
図 86-137 09002387	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	1.7	1.6	0.3	1.0	黒曜岩	完形　局部磨製	写真図版 38-137 20112506
図 86-138 09002416	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	1.8+	1.5+	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	先端、片脚端部欠損	写真図版 38-138 20112535
図 86-139 09002399	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	1.9+	1.6+	0.4	1.0	黒曜岩	片脚端部欠損	写真図版 38-139 20112518
図 86-140 09002381	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	2.1	1.5+	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 38-140 20112500
図 86-141 09002388	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	2.1	1.3	0.5	1.0	黒曜岩	完形　局部磨製	写真図版 38-141 20112507
図 86-142 09002401	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	2.1	1.8	0.3	1.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-142 20112520
図 86-143 09002380	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	2.4	1.7	0.3	1.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-143 20112499
図 86-144 09002422	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	2.4+	1.6	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 38-144 20112541
図 86-145 09002407	区画 2 13 層	打製石器 石鏃	2.5	1.8	0.4	1.6	黒曜岩	完形　局部磨製	写真図版 38-145 20112526
図 86-146 09002409	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	2.5	1.5+	0.5	1.6	無斑晶質安山岩	側縁欠損	写真図版 38-146 20112528
図 86-147 09002415	SX6312	打製石器 石鏃	2.5+	1.8+	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	先端、基部一部欠損	写真図版 38-147 20112534
図 86-148 09002393	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	2.6	1.6	0.4	1.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-148 20112512
図 86-149 09002414	SX6312	打製石器 石鏃	2.6+	1.8	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	先端わずかに欠損	写真図版 38-149 20112533
図 86-150 09002418	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	2.6	1.8	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-150 20112537
図 86-151 09002421	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	2.6	2.2	0.5	2.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-151 20112540
図 86-152 09002382	SX6312	打製石器 石鏃	2.7	1.5	0.4	1.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-152 20112501
図 86-153 09002386	区画 1 6 層	打製石器 石鏃	2.7	1.7	0.5	1.8	黒曜岩	完形	写真図版 38-153 20112505
図 86-154 09002403	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	2.7	2.2	0.5	3.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-154 20112522
図 86-155 09002410	区画 1 11 層	打製石器 石鏃	2.7+	1.7	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	頭部端部欠損	写真図版 38-155 20112529

表 10　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 86-156 09002391	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	2.8	1.9+	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	片脚端部わずかに欠損	写真図版 38-156 20112510
図 86-157 09002396	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	2.8	1.9	0.5	2.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-157 20112515
図 86-158 09002423	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	2.8	1.9	0.3	1.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-158 20112542
図 86-159 09002392	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	2.9	1.7	0.4	2.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-159 20112511
図 86-160 09002412	区画 2 7 層	打製石器 石鏃	2.9+	2.1+	0.5	2.6	無斑晶質安山岩	先端、片脚端部欠損	写真図版 38-160 20112531
図 87-161 09002383	区画 1 11 層	打製石器 石鏃	2.9	2.2	0.5	2.6	無斑晶質安山岩	側縁一部欠損	写真図版 38-161 20112502
図 87-162 09002390	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	2.9	2.1	0.5	3.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-162 20112509
図 87-163 09002397	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	2.9	2.2+	0.3	2.0	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 38-163 20112516
図 87-164 09002340	区画 1	打製石器 石鏃	3.1	1.9	0.5	2.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-164 20112564
図 87-165 09002345	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	3.1	1.6	0.3	1.4	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 38-165 20112569
図 87-166 09002355	区画 1 11 層	打製石器 石鏃	3.1	2.1	0.5	2.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-166 20112579
図 87-167 09002366	区画 2 14 層	打製石器 石鏃	3.1	1.8	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-167 20112590
図 87-168 09002367	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	3.1	2.0	0.3	1.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-168 20112591
図 87-169 09002342	区画 1	打製石器 石鏃	3.2	1.9	0.4	2.4	無斑晶質安山岩	片脚端部欠損	写真図版 38-169 20112566
図 87-170 09002361	区画 2 13 層	打製石器 石鏃	3.2	1.9	0.4	2.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-170 20112585
図 87-171 09002363	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	3.2	2.2	0.4	2.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-171 20112587
図 87-172 09002371	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	3.2	1.9	0.4	2.0	無斑晶質安山岩	ほぼ完形	写真図版 38-172 20112595
図 87-173 09002373	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	3.2	2.0	0.5	2.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-173 20112597
図 87-174 09002358	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	3.3+	2.3	0.4	2.8	無斑晶質安山岩	先端欠損	写真図版 38-174 20112582
図 87-175 09002374	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	3.3	2.1	0.6	3.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-175 20112598
図 87-176 09002341	区画 1	打製石器 石鏃	3.4	2.3	0.5	3.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-176 20112565
図 87-177 09002352	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	3.4	2.1	0.5	2.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-177 20112576
図 87-178 09002353	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	3.4	2.0	0.5	2.4	黒曜岩	片脚、側縁欠損	写真図版 38-178 20112577
図 88-179 09002354	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	3.4	2.4	0.7	4.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-179 20112578
図 88-180 09002344	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	3.5	2.2+	0.6	3.2	無斑晶質安山岩	片脚端部欠損	写真図版 38-180 20112568
図 88-181 09002346	区画 1 11 層	打製石器 石鏃	3.5	2.8	0.7	6.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 38-181 20112570
図 88-182 09002356	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	3.5	2.3+	0.5	3.4	無斑晶質安山岩	片脚、側縁欠損	写真図版 38-182 20112580
図 88-183 09002372	区画 2 13 層	打製石器 石鏃	3.5+	2.1+	0.5	2.8	無斑晶質安山岩	両脚端部欠損	写真図版 38-183 20112596
図 88-184 09002347	区画 1 11 層	打製石器 石鏃	3.9+	1.9+	0.5	3.4	無斑晶質安山岩	先端、片脚欠損 局部磨製	写真図版 38-184 20112571
図 88-185 09002368	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	4.2+	3.3+	0.7	8.4	無斑晶質安山岩	先端、片脚欠損	写真図版 38-185 20112592
図 88-186 09002365	区画 2 13 層	打製石器 石鏃	4.3	2.8+	0.6	5.4	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 38-186 20112589
図 88-187 09002411	区画 1 11 層	打製石器 石鏃	1.6	1.7	0.4	1.0	無斑晶質安山岩	未製品　完形	写真図版 39-187 20112530

表 10　東畑瀬遺跡 6T 区縄文時代の出土石器

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 88-188 09002395	区画 2 5 層	打製石器 石鏃	2.7	1.7	0.9	3.4	黒曜岩	未製品　完形	写真図版 39-188 20112514
図 88-189 09002400	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	2.9	2.1	0.6	3.0	黒曜岩	未製品　完形	写真図版 39-189 20112519
図 88-190 09002417	区画 2 4 層	打製石器 石鏃	2.9	2.3	0.7	4.2	無斑晶質安山岩	未製品　完形	写真図版 39-190 20112536
図 88-191 09002357	区画 1 11 層	打製石器 石鏃	3.2	2.2	0.3	2.2	黒曜岩	未製品　一部欠損	写真図版 39-191 20112581
図 88-192 09002362	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	3.2	2.2	0.5	2.4	無斑晶質安山岩	未製品　完形	写真図版 39-192 20112586
図 88-193 09002343	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	3.5	2.5	0.7	4.8	黒曜岩	未製品　完形	写真図版 39-193 20112567
図 88-194 09002348	区画 1 1 層	打製石器 石鏃	3.5	2.6	0.6	4.2	無斑晶質安山岩	未製品　完形	写真図版 39-194 20112572
図 88-195 09002364	区画 1 13 層	打製石器 石鏃	3.7	2.9	0.7	6.8	無斑晶質安山岩	未製品　完形	写真図版 39-195 20112588
図 89-196 09002436	区画 2 5 層	打製石器 石錐	2.6	1.7	0.5	1.8	黒曜岩	完形	写真図版 39-196 20112555
図 89-197 09002450	区画 1 13 層	打製石器 石錐	4.9	4.4	1.0	15.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-197 20112614
図 89-198 09002437	区画 2 14 層	打製石器 石錐	7.0	3.5	1.3	31.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-198 20120268
図 89-199 09002339	区画 2 5 層	打製石器 掻器	3.8	7.1	1.7	45.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-199 20112613
図 89-200 09002378	SX6312	打製石器 削器	3.5	2.7	0.8	7.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-200 20112602
図 89-201 09002452	区画 2 5 層	打製石器 削器	3.1	2.5	1.0	7.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-201 20112605
図 89-202 09002455	区画 2 4 層	打製石器 削器	4.9	1.4	0.8	3.2	黒曜岩	完形	写真図版 39-202 20112615
図 89-203 09002454	区画 1 13 層	打製石器 削器	2.9	1.8	0.6	2.8	黒曜岩	完形	写真図版 39-203 20112559
図 89-204 09002442	区画 1 11 層	打製石器 削器	6.8	4.3	1.5	36.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-204 20120270
図 89-205 09002441	区画 1 11 層	打製石器 削器	10.5	6.2	2.0	81.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-205 20120274
図 89-206 09002443	SX6312	打製石器 削器	9.5	2.3	1.1	16.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-206 20120275
図 89-207 09002438	区画 2	打製石器 削器	8.5	8.4	2.4	135.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-207 20120272
図 90-208 09002444	区画 2 5 層	打製石器 削器	7.4	8.1	2.4	99.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-208 20120276
図 90-209 09002440	区画 1 13 層	打製石器 削器	6.9	5.1	1.4	56.2	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-209 20120269
図 90-210 09002439	区画 2	打製石器 削器	10.1	9.5	1.6	147.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-210 20120273
図 90-211 09002458	区画 1 11 層	打製石器 RF	3.3	2.7	0.9	8.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-211 20112607
図 90-212 09002460	区画 2 13 層	打製石器 RF	6.8	1.8	0.6	5.6	黒曜岩	完形	写真図版 39-212 20112617
図 90-213 09002464	区画 2 14 層	打製石器 石核	4.5	5.1	2.4	51.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-213 20120280
図 90-214 09002462	区画 2 4 層	打製石器 石核	5.3	3.0	1.9	26.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-214 20120278
図 90-215 09002461	区画 2	打製石器 石核	6.9	12.7	2.9	234.4	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 39-215 20120277
図 91-216 09002468	区画 1 11 層	磨製石器 石斧	11.8	5.9	2.6	245.6	蛇紋岩	ほぼ完形	写真図版 39-216 20120283
図 91-217 09002472	区画 2 5 層	磨製石器 磨石	10.3	10.1	4.5	710.0		完形	写真図版 39-217 20120287
図 91-218 09002476	区画 1 13 層	磨製石器 磨石	8.4+	9.4	5.3	598.2			写真図版 39-218 20120289
図 91-219 09002474	区画 2 4 層	磨製石器 磨石	11.6+	9.7	5.6	775.0		約 1/4 欠損	写真図版 39-219 20120288

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	石　材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 91-220 09002470	区画 2 14 層	磨製石器 磨石	12.4	10.9	5.3	1040.0		一部欠損	写真図版 39-220 20120285
図 96-247 09002426	区画 2 15 層	打製石器 石鏃	2.0+	1.1+	0.3	0.6	黒曜岩	片脚欠損	写真図版 41-247 20112545
図 96-248 09002427	区画 2 15 層	打製石器 石鏃	2.3	1.4	0.4	0.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 41-248 20112546
図 96-249 09002428	区画 2 15 層	打製石器 石鏃	2.3	1.2	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 41-249 20112547
図 96-250 09002429	区画 2 15 層	打製石器 石鏃	2.6+	1.3+	0.3	0.8	無斑晶質安山岩	両脚端部欠損	写真図版 41-250 20112548
図 96-251 09002425	区画 2 15 層	打製石器 石鏃	2.7	1.4	0.5	1.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 41-251 20112544
図 96-252 09002446	区画 2 15 層	打製石器 石鏃	2.9	1.8	0.4	1.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 41-252 20112556
図 96-253 09002435	区画 2 15 層	打製石器 石鏃	3.0	1.3+	0.3	0.6	無斑晶質安山岩	片脚欠損	写真図版 41-253 20112554
図 96-254 09002456	区画 2 15 層	打製石器 削器	2.1+	2.3	0.4	2.0	無斑晶質安山岩	上半部欠損	写真図版 41-254 20112560
図 96-255 09002457	区画 2 15 層	打製石器 削器	4.5	2.6	1.2	14.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 41-255 20112616
図 96-256 09002445	区画 2 15 層	打製石器 削器	7.9	4.0	1.3	35.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 41-256 20120271
図 96-257 09002465	区画 2 15 層	打製石器 石核	6.3	4.3	2.1	60.8	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 41-257 20120281

３　6T 区中世以降の遺構と遺物

6T 区では、中世以降の遺構は確認できなかったが、中世～近世初期に堆積したと考えられる自然流路を２条検出した（図 97）。調査区西側の流路は嘉瀬川に沿うように北東から南西に、調査区中央のものは南東から北西へ流れていたものと推測され、調査区西部で二つの流路は合流している。西側の流路は浅黄橙～灰褐色の砂質土（図 67 のｂ層）で比較的均一に堆積しているが、中央の流路は中世の堆積層の下位に礫層、さらにその下位に縄文時代の遺物包含層が確認できるなど、堆積状況に違いがある。流路からは白磁碗、同安窯系青磁碗、竜泉窯系青磁碗、土師器杯・小皿、瓦器碗、須恵器系陶器捏鉢、肥前陶器皿などが出土した。中世の遺物では、12 世紀後半代の遺物が中心である。

6T 区南西側の１区では、鎌倉時代とその前後に営まれた屋敷地が確認されているが、6T 区で中世の遺構が検出されなかったことから、この屋敷地の範囲を確定することができる。6T 区出土遺物は１区の屋敷地が存続する時期の前半である平安時代末期にやや偏っているが、屋敷地の存続時期にその周辺が利用されていたことを示す資料であると考えられる。また、6T 区東部の６・７区では、神代勝利が隠居所として築いたとされる畑瀬城の居館跡と推定される館跡をはじめとして、中世後期の遺構・遺物が確認されているが、6T 区ではこの時期の遺物については出土していない。中世後期には嘉瀬川に近い河岸段丘上は積極的に利用されておらず、山麓部に集落などの主体が移動したことを示しているものと思われる。

この他、図示していないが、西側の流路の更に西側には近世の造成土が確認され、17 世紀後半～ 18 世紀代の肥前陶磁器などが出土した。恐らく、水田を作るため造成した痕跡と思われ、東畑瀬地区の近世における開発の状況を知る上で参考になるものと考えられる。

中世の出土遺物（図 98）

258 ～ 273 は自然流路や検出面などから出土した中世の遺物である。種別ごとに説明するため、出土位置については表を参照されたい。

258 は底部糸切の土師器杯で、内底ナデが施される。259・260 は瓦器碗で、260 は底部外面に板状圧痕がみられる。

261 は白磁碗で、口縁が玉縁の碗Ⅳ類である。262 は白磁皿で、口禿の皿Ⅸ類である。263・264 は同安窯系青磁碗で、外面に櫛目文、内面にヘラ状の施文具による文様や点描文が施される。265 ～ 268 は竜泉窯系青磁碗で、いずれも外面無文の碗Ⅰ類とみられる。265 は内面を区画するⅠ 4 類と思われる。266・267 は内面見込みに片彫による文様を描き、高台内は無釉である。268 は内面に櫛目で文様を描くⅠ 3 類とみられ、高台畳付から高台内は無釉である。

269 ～ 272 は東播諸窯とみられる須恵器系陶器捏鉢で、270 はやや瓦質焼成である。273 は外面にタタキ調整を施す須恵器系陶器甕で、やや瓦質焼成である。内面の調整はナデとハケメがみられる。

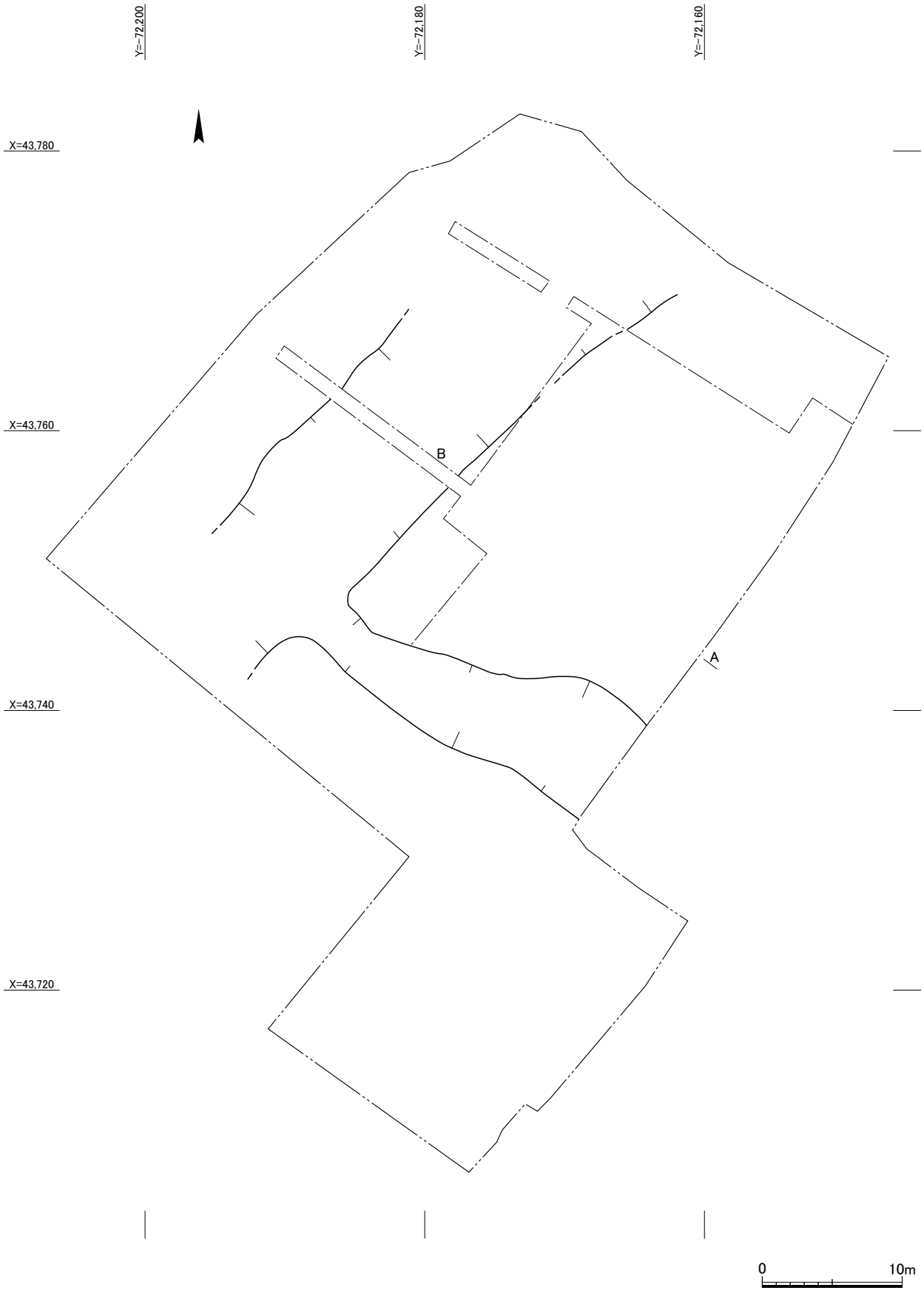


図 97　6T 区中世以降の遺構分布（1/400）

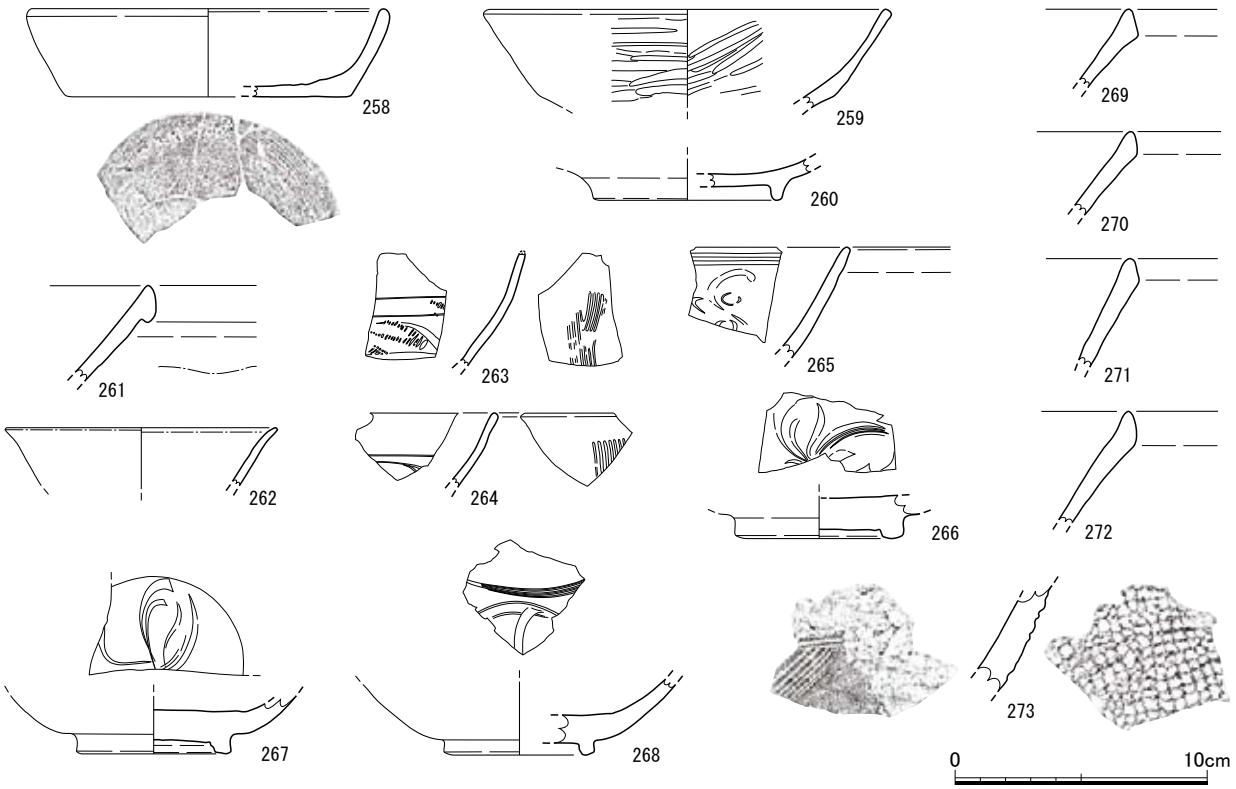


図 98　6T 区中世の遺物（1/3）

表 11　東畑瀬遺跡 6T 区中世の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm			色　調	備　考	写真図版 写真登録番号
			口径	底径	器高			
図 98-258 11000135	区画 2 2 層	土師器 杯	14.4*	11.4*	3.5	淡黄		写真図版 41-258 20120312
図 98-259 11000149	b 層	瓦器 碗	16.2*	-	-	青灰		写真図版 41-259 20120313
図 98-260 11000148	b 層	瓦器 碗	-	7.5*	-	灰・灰白		写真図版 41-260 20120311
図 98-261 11000152	b 層	白磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	碗Ⅳ類	写真図版 41-261 20120301
図 98-262 11000139	検出面	白磁 皿	10.8*	-	-	胎土：灰白	皿Ⅸ類	写真図版 41-262 20120295
図 98-263 11000154	b 層	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	同安窯系	写真図版 41-263 20120303･304
図 98-264 11000155	b 層	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	同安窯系	写真図版 41-264 20120305･306
図 98-265 11000153	b 層	青磁 碗	-	-	-	胎土：灰白	竜泉窯系　碗Ⅰ２類	写真図版 41-265 20120302
図 98-266 11000147	b 層	青磁 碗	-	6.6	-	胎土：灰白	竜泉窯系　碗Ⅰ類カ	写真図版 41-266 20120297･298
図 98-267 11000136	検出面	青磁 碗	-	6.0*	-	胎土：灰白・灰黄	竜泉窯系　碗Ⅰ類	写真図版 41-267 20120309･310
図 98-268 11000137	検出面	青磁 碗	-	5.9*	-	胎土：灰白	竜泉窯系　碗Ⅰ３類	写真図版 41-268 20120293
図 98-269 11000138	検出面	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰白・青灰	東播諸窯系	写真図版 41-269 20120294
図 98-270 11000150	b 層	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰白	東播諸窯系	写真図版 41-270 20120299
図 98-271 11000151	b 層	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 41-271 20120300
図 98-272 11000140	検出面	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	写真図版 41-272 20120296
図 98-273 11000157	b 層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	淡黄	櫛番城系カ	写真図版 41-273 20120307

４　東畑瀬遺跡出土の遺物（補遺）

ここでは、嘉瀬川ダム建設事業に伴う東畑瀬遺跡の発掘調査で出土したが、これまで報告できていなかった遺物について説明する。

東畑瀬遺跡１・３・６区の出土遺物（図 99）

274 は 6D 区出土の押型文土器で、外面に斜走する楕円押型文が施され、内面の器面調整はナデである。

275 ～ 280 は６区から出土した縄文時代の石器である。275 は小型の石槍と考えられ、先端部か基部かは不明である。両面に丁寧な調整剥離が施される。276 は石槍もしくは大型の石鏃で、両面に丁寧な調整剥離が施される。277・278 は平面が二等辺三角形、基部が凹基の石鏃で、277 は両面に素材面を残し、278 は両面に丁寧な調整剥離が施される。279 は平面が二等辺三角形で、基部が微凹基の石鏃で、両面にやや粗雑な調整剥離が施される。280 は無斑晶質安山岩の縦長剥片を用いた削器で、両面から連続剥離を施して刃部を作出している。

281・282 は報告書（佐賀県教委 2007）で図示していなかった１区から出土した槌石である。扁平な円礫の周縁に細かな敲打痕が多数観察できるもので、多量の剥片石器類と共に出土していることから、打製石器の製作に用いられたものと考えられる。岩石鑑定は行っていないが、ともに石英質である。

283 ～ 286 は３区から出土した銅銭で、八龍社跡南西端部の斜面に堆積した土層のうち、土師器杯・小皿が数多く出土した層より上位で出土した。283 は唐銭の開元通宝である。284 ～ 286 は寛永通宝で、284 は古寛永、285 は新寛永のいわゆる文銭、286 は新寛永である。

表 12　東畑瀬遺跡１・３・６区の出土遺物

挿図 - 番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 mm			重量 g	色調 / 石材	備　考	写真図版 写真登録番号
			長さ	幅	厚さ				
図 99-274 10001772	6D 区 検出面	縄文土器 深鉢	-	-	-	-	外：にぶい褐 内：褐灰		
図 99-275 10000203	6Q 区 1tr	打製石器 石槍	3.7	1.2	0.5	2.4	無斑晶質安山岩		写真図版 41-275 20112612
図 99-276 10000201	6F 区 表採	打製石器 石槍か石鏃	3.8+	1.8	0.7	3.8	無斑晶質安山岩	先端と下部欠損	写真図版 41-276 20112610
図 99-277 10000205	6Q 区 1tr	打製石器 石鏃	1.8	1.5+	0.3	0.8	黒曜岩	片脚端部僅かに欠損	写真図版 41-277 20112563
図 99-278 10000204	6B 区 SX6103 南東	打製石器 石鏃	2.1+	1.6	0.4	0.8	黒曜岩	先端僅かに欠損	写真図版 41-278 20112562
図 99-279 10000202	6H 区 4tr	打製石器 石鏃	3.3	1.7	0.5	2.0	黒曜岩	先端僅かに欠損	写真図版 41-279 20112611
図 99-280 10000206	6Q 区 2tr	打製石器 削器	7.7	3.8	1.0	27.0	無斑晶質安山岩	完形	写真図版 41-280 20120233
図 99-281 09002337	1 区 F13 区画	磨製石器 槌石	4.0	3.4	1.9	36.0		完形	写真図版 41-281 20120234･235
図 99-282 09002338	1 区 F13 区画	磨製石器 槌石	4.5	4.7	1.3	42.6		完形	写真図版 41-282 20120236･237
図 99-283 11002692	3 区	銭貨 銅銭	-	径 2.4	-	-		開元通宝	写真図版 41-283 20120318
図 99-284 11002694	3 区	銭貨 銅銭	-	径 2.5	-	-		寛永通宝（古寛永）	写真図版 41-284 20120320
図 99-285 11002693	3 区	銭貨 銅銭	-	径 2.5	-	-		寛永通宝（新寛永） 文銭	写真図版 41-285 20120319
図 99-286 11002695	3 区	銭貨 銅銭	-	径 2.2	-	-		寛永通宝（新寛永）	写真図版 41-286 20120321

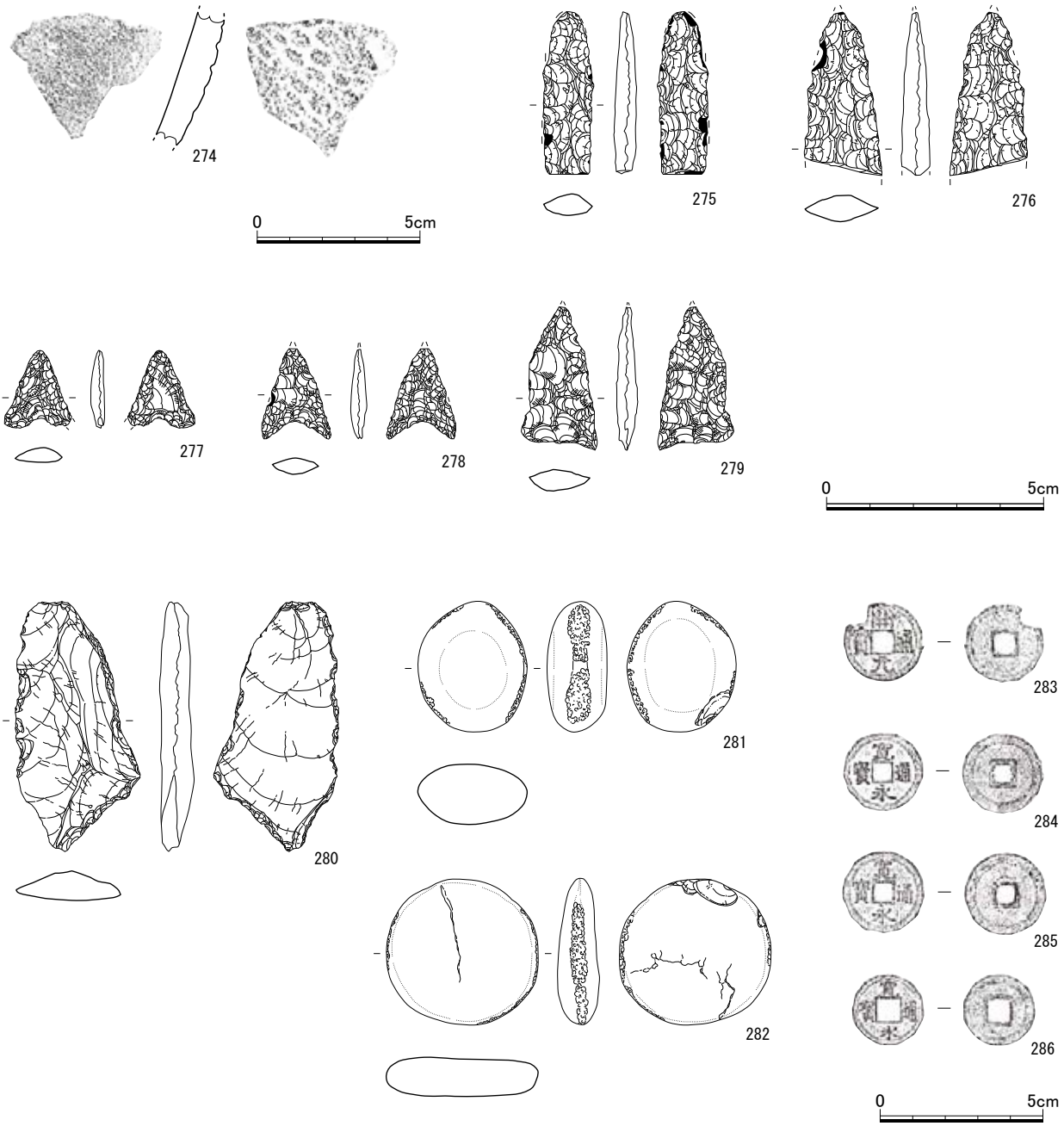

274
275
276
277
278
279
281
280
282
283
284
285
286
0
5cm
0
5cm
0
5cm

図 99　１・３・６区の遺物

５　まとめ

東畑瀬遺跡 6T 区では、縄文時代後期初頭～晩期中葉、中世の遺構・遺物などを調査した。このうち主体をなすのが、縄文時代後期初頭と晩期中葉の集落跡である。また、中世では 6T 区の調査によって、１区の中世集落の範囲を確定することができた。以下、縄文時代の様相について簡単にまとめておきたい。

6T 区の縄文時代の集落は、無遺物層を挟んで晩期中葉を中心とする上層、後期初頭の下層に分けることができた。上層では竪穴建物の可能性がある遺構２基のほか土坑２基、焼土遺構５基、集石遺構１基などを検出したが、下層で遺構は確認できなかった。ただ、無遺物層を挟んで遺物包含層を調査できたため、下層の出土遺物は時期が限定できる資料として貴重である。

6T 区上層の様相

遺構はすべて上層で確認された。上層から出土した土器は、わずかに後期後葉の御領式並行期前後の遺物を含むが、ほとんどが晩期中葉の黒川式並行期のものと考えられ、遺構から出土した遺物も黒川式並行期のものであり、検出された遺構は晩期中葉のものと推定される。

竪穴建物の可能性がある性格不明遺構２基は形状や規模が類似するが、SX6315 には炉跡の可能性がある焼土を含む浅い掘り込みがあるのに対して、SX6307 には確認できない。ともに明確な主柱穴や硬化面はみられないが、形状などから竪穴建物の可能性がある。性格としては、特に SX6307 やその周辺で剥片類が集中していることから、石器製作の作業場であったことが推測されよう。定住のための住居ではなく、簡易な建物であったため、主柱穴などが確認されなかったのかもしれない。

土坑とした SX6301 は全体の形状を明らかにできないが、剥片類が集中することや焼土層がみられることから、性格不明遺構と同様の遺構であった可能性がある。また、SK6305 も周辺を含め剥片類が集中していることから、石器製作にかかわる場所であったことが推測される。焼土遺構としたものは SX6309 を除き、遺物がほとんど出土していないことから、屋外炉の痕跡であったことも考えられるが、SX6315 で確認された焼土を含む掘り込み部分のみが検出されたことも考慮すべきであろう。

上層出土土器のうち、精製浅鉢は球状の胴部に短く外反する口縁が付くタイプが多く、そのほとんどが口縁外面に沈線が１条巡るものである。6T 区南西側の東畑瀬遺跡１区でも黒川式並行期の集落が調査されているが、6T 区より新しいタイプの精製浅鉢が主体を占めており、時期差が認められ、時期幅も 6T 区出土土器がより限定されると考えられる。なお、御領式前後の遺物が少量みられることは、１区と共通している。

上層出土石器の組成をみると、剥片・石核類が大部分を占め、定形石器の中では打製石鏃が多く、磨製石器・礫石器が非常に少ない。このような石器組成は、東畑瀬遺跡や対岸の西畑瀬遺跡をはじめとする嘉瀬川ダム建設に伴い調査された縄文時代の遺跡と同様の傾向であるが、特に定形石器の中で石鏃が占める比率が非常に高いことが、１区出土石器とともにこの時期の東畑瀬遺跡の特徴とみられる。

石鏃は平面二等辺三角形で、基部が微凹基から平基のものが主体を占め、統計的な分析を行っていないが、晩期以前の石鏃に比べ全体的に大型化している傾向が認められるようである。この特徴も１区と同様であり、無斑晶質安山岩が黒曜岩を圧倒するという利用された石材の比率とともに、晩期中葉の石鏃の特徴がおおよそ明らかになったものと思われる。また、磨石の接合する二つの破片が約 25 m離れた遺構からそれぞれ出土した例が確認され、二つに割れたのち、SX6313 集石遺構を構成する礫に転用されたものと考えられる。

以上のような遺構の性格や石器組成などから、6T 区は縄文時代晩期中葉に狩猟活動のため一時的に居住し、狩猟具を中心に石器を盛んに製作していた場所であったと推定される。これは、東畑瀬遺跡１区や対岸の西畑瀬遺跡など周辺の縄文時代の遺跡と共通する特徴であるといえよう。

6T 区下層の様相

区画２下層からは、後期初頭の坂の下式期の土器・石器が出土した。基本的に無遺物層である 13 層の下位にこの時期の遺物包含層（15 層）が検出されており、層位的に時期が限定できる貴重な例となる。

土器はその多くが胎土に滑石を含むもので、口縁外面に凹点文列が施される坂の下式がほとんどであると考えられる。その中にごく少量ではあるが、中津式系のものがあり、その他の時期の土器は出土していないことから、後期初頭の土器相を知る上で好例となろう。

石器は、出土点数が多くないものの、この地域での後期初頭の特徴を示している石器群と評価できる。特に、石鏃は平面が細長い二等辺三角形で、基部が凹基のものがほとんどを占めており、後期前半以降に盛行する鈴桶型石刃技法（小畑 2002）による剥片鏃は出土していない。黒曜岩製の縦長剥片なども確認されておらず、そもそも剥片石器に使用された石材はその９割が無斑晶質安山岩であることから、鈴桶型石刃技法の始まりや広がりを研究する上で貴重な資料と位置付けられる。

石器組成については、分析できるほどの出土量ではないが、剥片・石核類が大部分を占め、磨製石器・礫石器が非常に少ないという周辺の遺跡と同じ傾向を示していると思われる。

このように 6T 区の調査によって、脊振山間部における縄文時代の様相を示す資料がさらに追加されることになった。嘉瀬川ダム建設に伴って発掘調査を行った嘉瀬川流域の縄文時代の遺跡は、長期間の定住生活による拠点的な集落ではなく、一時的に利用されたことによって形成された遺跡であることが明らかとなってきた。その多くは、東畑瀬遺跡や西畑瀬遺跡のように狩猟活動の拠点となっていたようである。したがって、今後佐賀平野や玄界灘沿岸地域などとの関係を研究することによって、北部九州の縄文時代の状況がより詳細に解明されるものと期待される。

第５章　参考・引用文献

小畑弘己（2002）「縄文時代の石刃－鈴桶型石刃技法について」『青丘学術論集』第 20 集 （財）韓国文化研究振興財団
嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』 富士町教育委員会
佐賀県教育委員会（2007）『東畑瀬遺跡１・大野遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 170 集
佐賀県教育委員会（2008）『西畑瀬遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 176 集
佐賀県教育委員会（2009）『西畑瀬遺跡２・大串遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 180 集
佐賀県教育委員会（2010）『東畑瀬遺跡２・畑瀬城跡』佐賀県文化財調査報告書第 185 集
佐賀県教育委員会（2010）『東畑瀬遺跡３』佐賀県文化財調査報告書第 190 集
佐賀県立図書館（1986）『佐賀縣史料集成　古文書編』第 27 巻
全国神代ゆかりの会（1980）「神代家伝記」『神代家とその一族』１号
太宰府市教育委員会（2000）『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市の文化財第 49 集
富士町教育委員会（2005）『畑瀬城跡』富士町文化財調査報告書第４集
富士町誌編さん委員会（1968）『富士町誌』 富士町教育委員会
富士町史編さん委員会（2000）『富士町史』 富士町
水ノ江和同（1997）「北部九州の縄紋後・晩期土器―三万田式から刻目突帯文土器の直前まで―」『縄文時代』第８号　縄文時代文化研究会
水ノ江和同・前迫亮一（2010）「１.九州」『西日本の縄文土器　後期』真陽社

第６章　自然科学分析

1　西畑瀬遺跡・東畑瀬遺跡・垣ノ内遺跡出土縄文時代資料の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤茂・安昭炫・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・菊地有希子

1）はじめに

佐賀市富士町大字畑瀬に位置する西畑瀬遺跡と垣ノ内遺跡、佐賀市富士町大字関屋に位置する東畑瀬遺跡の３遺跡より出土した縄文土器の付着炭化物について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2）試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 13 のとおりである。

試料は、西畑瀬遺跡から６点、東畑瀬遺跡から２点、垣ノ内遺跡から１点の縄文土器付着炭化物、計９点である。

西畑瀬遺跡の試料は、9A 区 SX9002 から出土した縄文時代後期後葉と推定される土器の胴部下半外面に付着した炭化物（試料 No.11：PLD-19403）、9B 区包含層から出土した縄文時代中期中葉の春日式土器の口縁部外面に付着した炭化物（試料 No.12：PLD-19404）、9A 区包含層から出土した縄文時代後期中葉の太郎迫式土器の胴部上半外面に付着した炭化物（試料 No.3：PLD-19405）と縄文時代後期後葉の御領式土器の胴部上半外面に付着した炭化物（試料 No.4：PLD-19406）、６区包含層から出土した縄文時代後期前葉～中葉の鐘崎式土器と推定され

表 13　測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	考古学的な想定年代	前処理
PLD-19403	試料 No.11 遺跡名：西畑瀬遺跡 調査区：9A 区 出土位置：SX9002	試料の種類：土器付着物 (煤類) 部位：胴部下半外面 状態：dry	縄文時代後期後葉？	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-19404	試料 No.12 遺跡名：西畑瀬遺跡 調査区：9B 区 出土位置：包含層	試料の種類：土器付着物 (ふきこぼれの可能性大) 部位：口縁部外面 状態：dry	縄文時代中期中葉 春日式	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-19405	試料 No.3 遺跡名：西畑瀬遺跡 調査区：9A 区 出土位置：包含層	試料の種類：土器付着物 (煤類) 部位：胴部上半外面 状態：dry	縄文時代後期中葉 太郎迫式	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-19406	試料 No.4 遺跡名：西畑瀬遺跡 調査区：9A 区 出土位置：包含層	試料の種類：土器付着物 (煤類) 部位：胴部上半外面 状態：dry	縄文時代後期後葉 御領式	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-19407	試料 No.13 遺跡名：西畑瀬遺跡 調査区：6 区 出土位置：包含層	試料の種類：土器付着物 (ふきこぼれの可能性大) 部位：口縁部外面 状態：dry	縄文時代後期前葉～中葉？ 粗製土器 (鐘崎式？)	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-19408	試料 No.6 遺跡名：西畑瀬遺跡 調査区：7 区 出土位置：包含層	試料の種類：土器付着物 (煤類) 部位：胴部中位外面 状態：dry	縄文時代早期末？ 粗製土器	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-19409	試料 No.7 遺跡名：東畑瀬遺跡 調査区：6T 区 出土位置：包含層	試料の種類：土器付着物 (煤類) 部位：口縁部外面～口唇部 状態：dry	縄文時代後期初頭 坂の下式	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-19410	試料 No.8 遺跡名：東畑瀬遺跡 調査区：6T 区 出土位置：包含層	試料の種類：土器付着物 (煤類) 部位：胴部～底部外面 状態：dry	縄文時代晩期中葉 黒川式	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)
PLD-19411	試料 No.9 遺跡名：垣ノ内遺跡 出土位置：包含層	試料の種類：土器付着物 (煤類) 部位：口縁部外面 状態：dry	縄文時代早期後葉 塞ノ神式	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 :1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N)

る粗製土器の口縁部外面に付着した炭化物（試料 No.13：PLD-19407）、７区包含層から出土した縄文時代早期末と推定される粗製土器の胴部中位外面に付着した炭化物（試料 No.6：PLD-19408）である。

東畑瀬遺跡の試料は、6T 区包含層から出土した縄文時代後期初頭の坂の下式土器に付着した炭化物（試料 No.7：PLD-19409）と縄文時代晩期中葉の黒川式土器に付着した炭化物（試料 No.8：PLD-19410）である。

垣ノ内遺跡の試料は、包含層から出土した縄文時代早期後葉の塞ノ神式土器に付着した炭化物（試料 No.9：PLD-19411）である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3）結果

表 14 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図 100 と図 101 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4）考察

各試料の暦年較正結果のうち、2 σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して、土器による推定年代の古い順に結果を整理する。なお、縄文時代の暦年代については、小林（2008）による縄文土器編年と暦年代の対応関係や八木澤（2008）、泉（2008）、水ノ江（2008）、冨井（2008）、宮地（2008）に集成された測定例を参照した。

縄文時代早期の土器の付着炭化物は、垣ノ内遺跡から出土した早期後葉の塞ノ神式土器付着炭化物（試料 No.9：PLD-19411）と西畑瀬遺跡から出土した早期末と推定される粗製土器付着炭化物（試料 No.6：PLD-19408）の２点である。塞ノ神式土器の付着炭化物は、7029-6931 cal BC(24.7%)、6921-6877 cal BC(13.7%)、6862-6692 cal BC(56.9%) の暦年代範囲を示した。これは縄文時代早期後半に相当する。また、早期末と推定される粗製土器の付着炭化物は、5312-5207 cal BC(91.7%)、5162-5151 cal BC(1.0%)、5145-5138 cal BC(0.7%)、5128-5121 cal BC(0.7%)、5093-5080 cal BC(1.3%) の暦年代範囲を示した。これは縄文時代早期末～前期初頭に相当する。縄文時代早期の土器に付着した炭化物の年代は、いずれも土器型式の年代観と整合的であった。

縄文時代中期の土器の付着炭化物は、西畑瀬遺跡から出土した中期中葉の春日式土器付着炭化物（試料 No.12：PLD-19404） 1 点のみである。この春日式土器の付着炭化物は、2873-2829 cal BC(18.7%) および 2824-2626 cal BC(76.7%) の暦年代範囲を示した。これは縄文時代中期後半に相当し、土器型式の年代観と整合的であった。

表 14　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

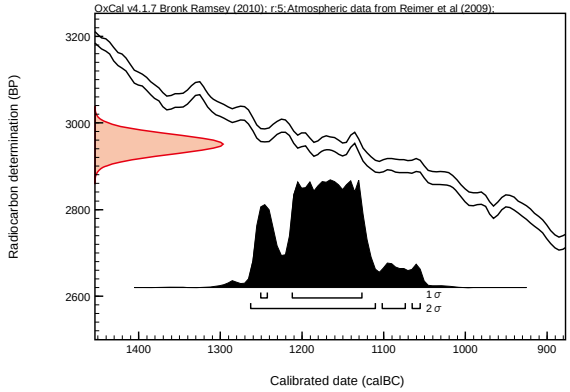
測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-19403 試料 No.11	-26.68 ± 0.11	2951 ± 23	2950 ± 25	1251BC(4.8%)1243BC 1213BC(63.4%)1127BC	1264BC(89.5%)1111BC 1103BC(4.4%)1074BC 1066BC(1.4%)1056BC
PLD-19404 試料 No.12	-27.98 ± 0.11	4142 ± 25	4140 ± 25	2864BC(14.7%)2834BC 2818BC(5.0%)2807BC 2759BC(21.1%)2717BC 2711BC(23.1%)2663BC 2647BC(4.3%)2636BC	2873BC(18.7%)2829BC 2824BC(76.7%)2626BC
PLD-19405 試料 No.3	-26.95 ± 0.13	3296 ± 23	3295 ± 25	1609BC(68.2%)1531BC	1629BC(95.4%)1509BC
PLD-19406 試料 No.4	-27.35 ± 0.12	3062 ± 23	3060 ± 25	1387BC(68.2%)1312BC	1406BC(95.4%)1268BC
PLD-19407 試料 No.13	-29.11 ± 0.12	3680 ± 25	3680 ± 25	2134BC(43.3%)2081BC 2061BC(24.9%)2027BC	2141BC(95.4%)1976BC
PLD-19408 試料 No.6	-25.81 ± 0.11	6253 ± 27	6255 ± 25	5297BC(52.7%)5248BC 5230BC(15.5%)5216BC	5312BC(91.7%)5207BC 5162BC(1.0%)5151BC 5145BC(0.7%)5138BC 5128BC(0.7%)5121BC 5093BC(1.3%)5080BC
PLD-19409 試料 No.7	-27.85 ± 0.10	3846 ± 23	3845 ± 25	2397BC(5.3%)2385BC 2346BC(46.0%)2279BC 2251BC(12.3%)2230BC 2220BC(4.6%)2211BC	2458BC(8.9%)2418BC 2408BC(10.7%)2376BC 2367BC(52.1%)2267BC 2261BC(23.8%)2206BC
PLD-19410 試料 No.8	-29.68 ± 0.13	3086 ± 20	3085 ± 20	1408BC(41.1%)1373BC 1342BC(27.1%)1318BC	1417BC(95.4%)1306BC
PLD-19411 試料 No.9	-29.62 ± 0.12	7937 ± 27	7935 ± 25	7020BC(1.6%)7014BC 7003BC(10.3%)6970BC 6942BC(0.7%)6940BC 6913BC(10.9%)6883BC 6831BC(35.6%)6746BC 6726BC(9.0%)6700BC	7029BC(24.7%)6931BC 6921BC(13.7%)6877BC 6862BC(56.9%)6692BC

縄文時代後期の土器の付着炭化物は、5点ある。土器型式の古い順に整理すると、東畑瀬遺跡から出土した縄文時代後期初頭の坂の下式土器付着炭化物（試料 No.7：PLD-19409）は、2458-2418 cal BC(8.9 %)、2408-2376 cal BC(10.7%)、2367-2267 cal BC(52.1%)、2261-2206 cal BC(23.8%) の暦年代範囲を示した。これは、縄文時代後期初頭～前葉に相当する。西畑瀬遺跡から出土した縄文時代後期前葉～中葉の鐘崎式土器と推定される土器の付着炭化物 (試料 No.13：PLD-19407）は、2141-1976 cal BC(95.4%) の暦年代範囲を示した。これは、縄文時代後期前葉に相当する。同じ西畑瀬遺跡から出土した縄文時代後期中葉の太郎迫式土器付着炭化物（試料 No.3：PLD-19405）は、1629-1509 cal BC(95.4%) の暦年代範囲を示した。これは、縄文時代後期中葉～後葉に相当する。さらに同じ西畑瀬遺跡から出土した縄文時代後期後葉の御領式土器付着炭化物（試料 No.4：PLD-19406）は、1406-1268 cal BC(95.4%) の歴年代範囲を示した。これは、縄文時代後期後葉に相当する。また、後期後葉と推定された土器付着炭化物（試料 No.11：PLD-19403）は、1264-1111 cal BC(89.5%)、1103-1074 cal BC(4.4%)、1066-1056 cal BC(1.4%) の暦年代範囲を示した。これは、縄文時代晩期前葉に相当し、想定された年代よりも新しい結果となったが、この土器自体には明確な型式学的特徴が少なく、かつ出土した西畑瀬遺跡 9A 区では晩期前半の遺物も出土していて晩期前葉の遺物が出土しても不自然ではないため、考古学的な推定時期が違っていた可能性もあると考えられる。これ以外の縄文時代後期の土器の付着炭化物については、土器型式の年代観と整合的であった。

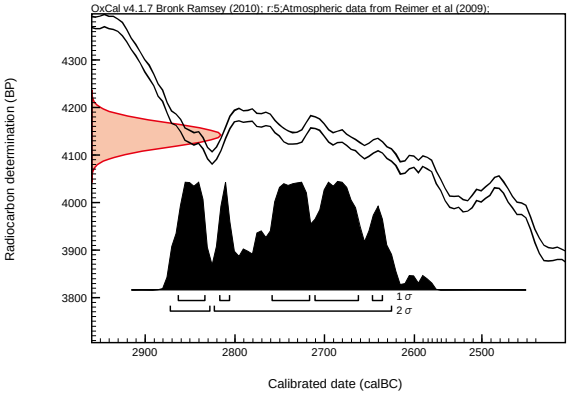
縄文時代晩期の土器の付着炭化物は、東畑瀬遺跡から出土した晩期中葉の黒川式土器付着炭化物（試料 No.8：PLD-19410）は、1417-1306 cal BC(95.4%) の暦年代範囲を示した。これは、縄文時代後期後葉に相当し、土器型式から推定された年代よりも古い結果となった。ただしこの土器は、出土した 6T 区の出土遺物の大半が晩期の黒川式土器であったために晩期と推定されていたが、器形としては後期後葉の御領式前後の器形を呈しているようである。また、6T 区に隣接する調査区からは後期後葉の土器も出土しているようであり、試料の土器が縄文時代後期後葉の土器であるとすれば、今回の付着炭化物の測定結果は整合的であるといえる。

第６章　参考文献

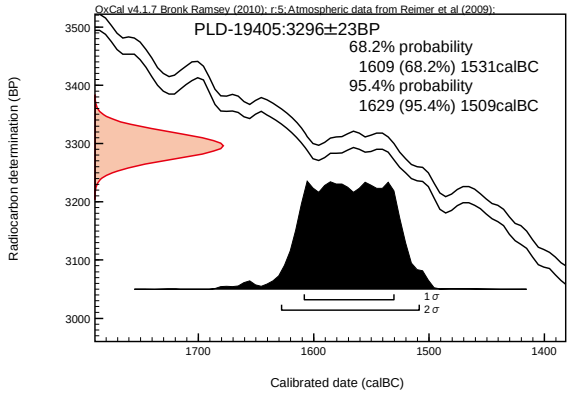
Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
泉　拓良（2008）鷹島式・船元式・里木Ⅱ式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：502-509，アム・プロモーション．
小林謙一（2008）縄文時代の暦年代．小杉　康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学２　歴史のものさし」：257-269，同成社
宮地聡一郎（2008）黒色磨研土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：790-797，アム・プロモーション．
水ノ江和同（2008）九州磨消縄文系土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：666-673，アム・プロモーション．
中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎 . 日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」：3-20, 日本第四紀学会 .
Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.
冨井　眞（2008）並木式・阿高式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：658-665，アム・プロモーション．
八木澤一郎（2008）平栫式・塞ノ神式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：194-201，アム・プロモーション．

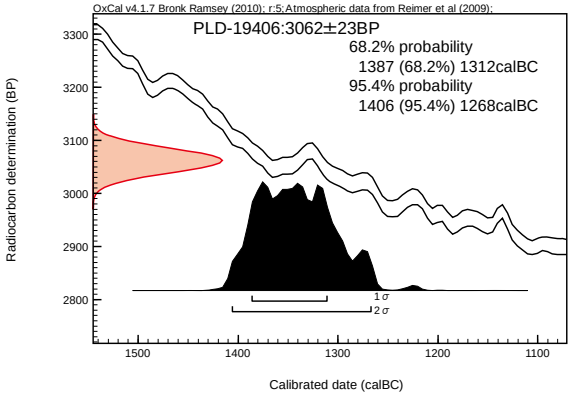


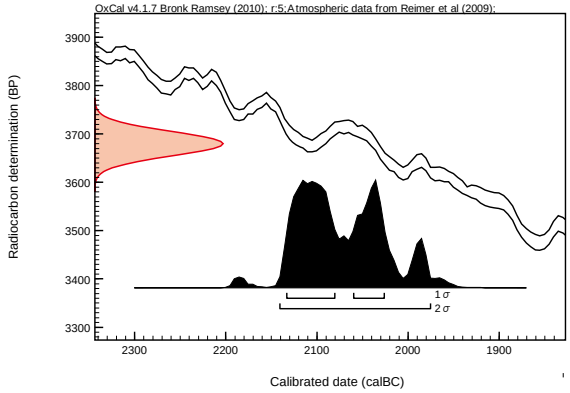
PLD-19403:2951±23BP
68.2% probability
1251 (4.8%) 1243calBC
1213 (63.4%) 1127calBC
95.4% probability
1264 (89.5%) 1111calBC
1103 (4.4%) 1074calBC
1066 (1.4%) 1056calBC



PLD-19404:4142±25BP
68.2% probability
2864 (14.7%) 2834calBC
2818 (5.0%) 2807calBC
2759 (21.1%) 2717calBC
2711 (23.1%) 2663calBC
2647 (4.3%) 2636calBC
95.4% probability
2873 (18.7%) 2829calBC
2824 (76.7%) 2626calBC

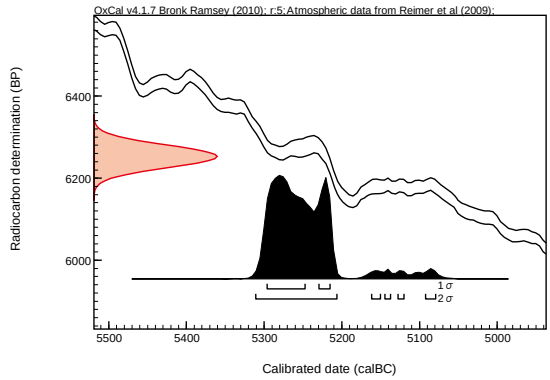




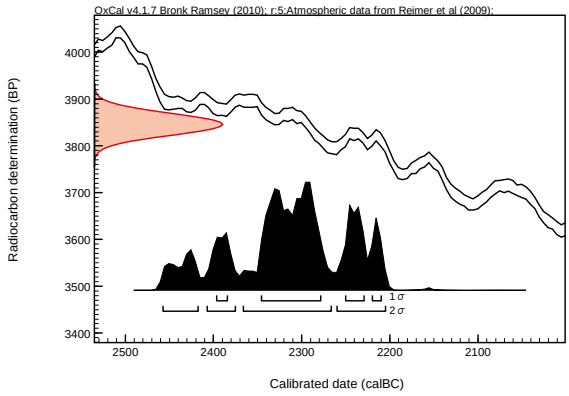


PLD-19407:3680±25BP
68.2% probability
2134 (43.3%) 2081calBC
2061 (24.9%) 2027calBC
95.4% probability
2141 (95.4%) 1976calBC

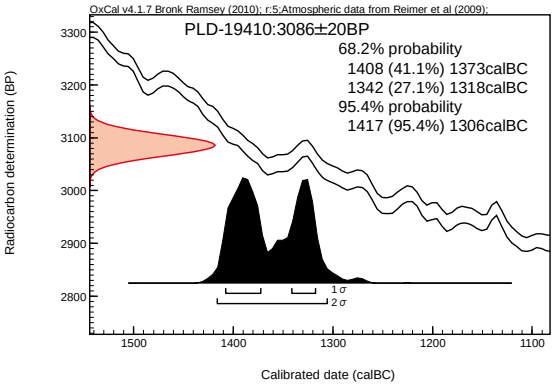
図 100　暦年較正結果（1）

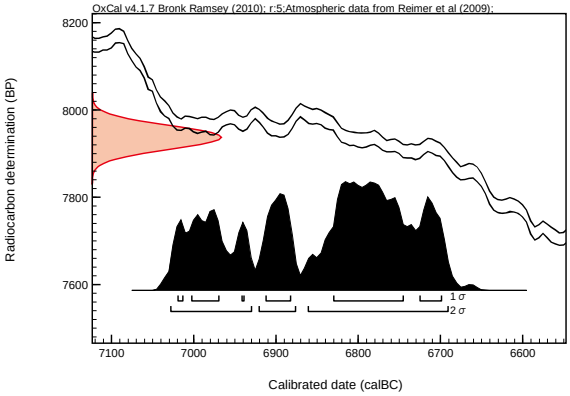


PLD-19408:6253±27BP
68.2% probability
5297 (52.7%) 5248calBC
5230 (15.5%) 5216calBC
95.4% probability
5312 (91.7%) 5207calBC
5162 (1.0%) 5151calBC
5145 (0.7%) 5138calBC
5128 (0.7%) 5121calBC
5093 (1.3%) 5080calBC



PLD-19409:3846±23BP
68.2% probability
2397 (5.3%) 2385calBC
2346 (46.0%) 2279calBC
2251 (12.3%) 2230calBC
2220 (4.6%) 2211calBC
95.4% probability
2458 (8.9%) 2418calBC
2408 (10.7%) 2376calBC
2367 (52.1%) 2267calBC
2261 (23.8%) 2206calBC





PLD-19411:7937±27BP
68.2% probability
7020 (1.6%) 7014calBC
7003 (10.3%) 6970calBC
6942 (0.7%) 6940calBC
6913 (10.9%) 6883calBC
6831 (35.6%) 6746calBC
6726 (9.0%) 6700calBC
95.4% probability
7029 (24.7%) 6931calBC
6921 (13.7%) 6877calBC
6862 (56.9%) 6692calBC

図 101　暦年較正結果（２）

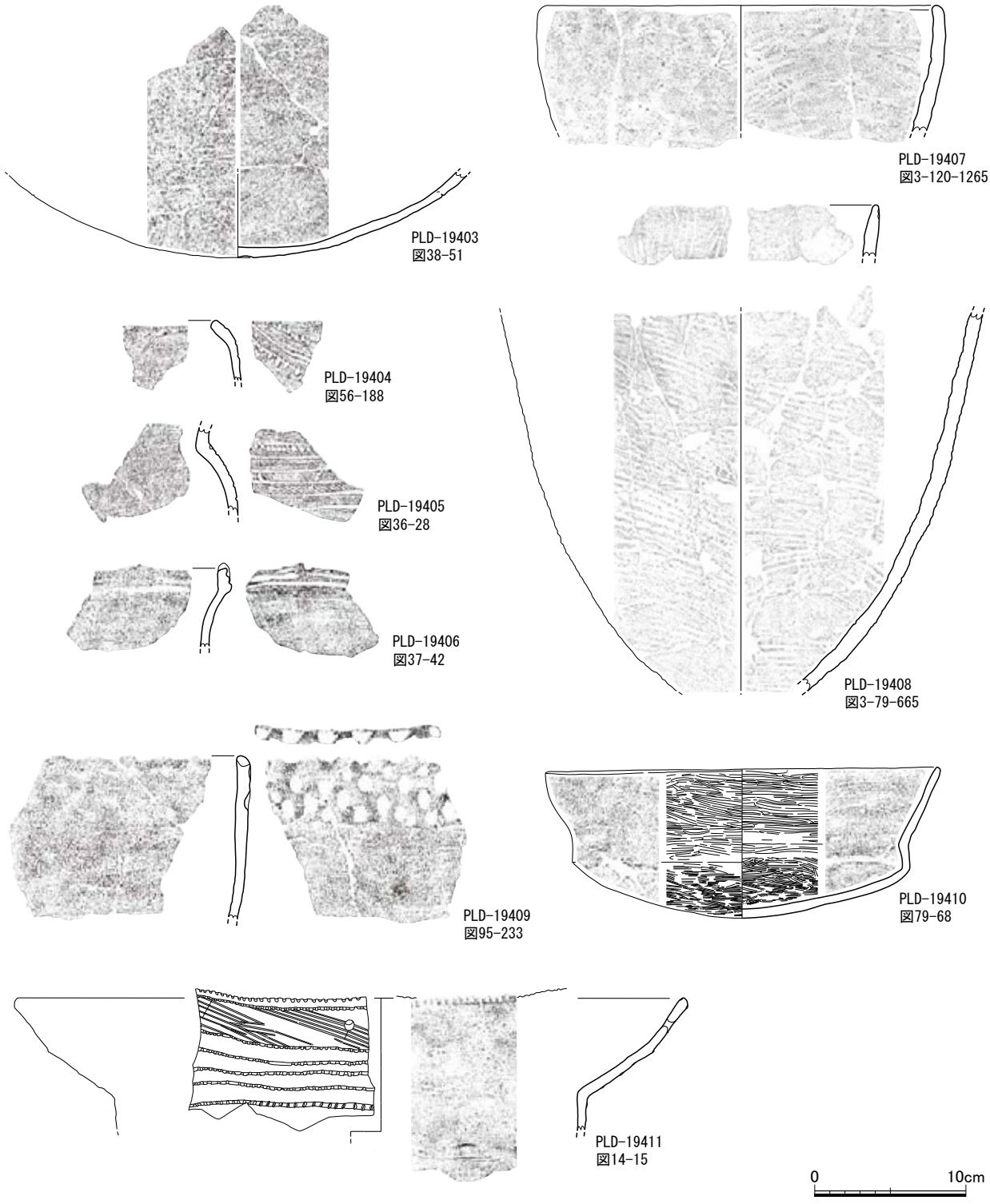


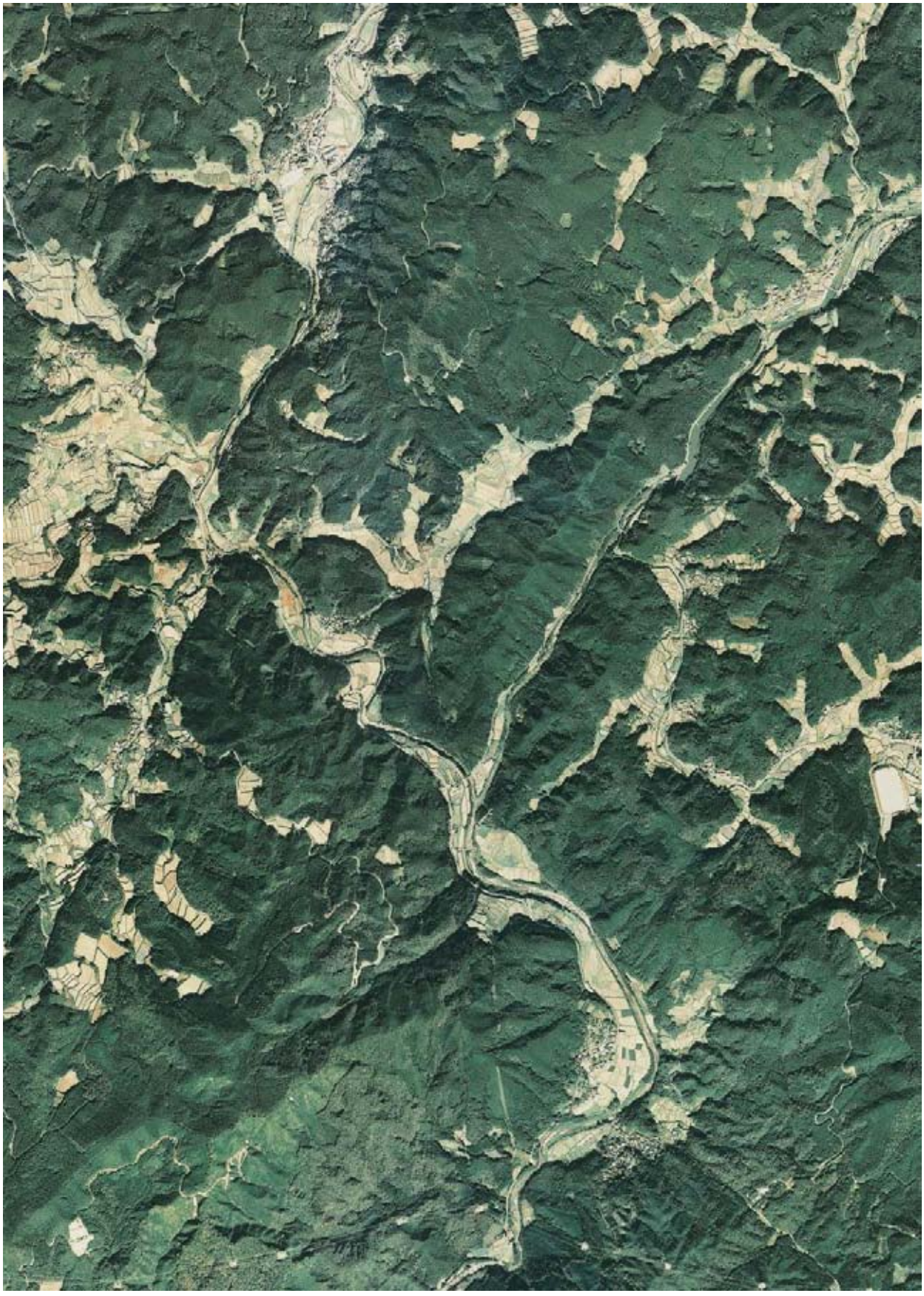
図 102　放射性炭素年代測定資料を採集した土器（1/4）

補注

PLD-19407（鐘崎式期か：図 3-120-1265）と PLD-19408（早期末か：図 3-79-665）は、『西畑瀬遺跡 2・大串遺跡』（佐賀県教委 2009）に掲載されている。それ以外は本書で報告しており、図の番号と遺物番号を記しているので、参考にされたい。

佐賀県教育委員会（2009）『西畑瀬遺跡 2・大串遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 180 集

写真図版



嘉瀬川ダム予定地中心部（真俯瞰合成）（平成４年 10 月　嘉瀬川ダム工事事務所提供）

垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡・東畑瀬遺跡全景（南から）（平成４年 10 月　嘉瀬川ダム工事事務所提供）

垣ノ内遺跡全景（南東から）（平成４年 10 月　嘉瀬川ダム工事事務所提供）

1・2区全景（南東から）

3・4区全景（南東から）

１区全景（上が北）

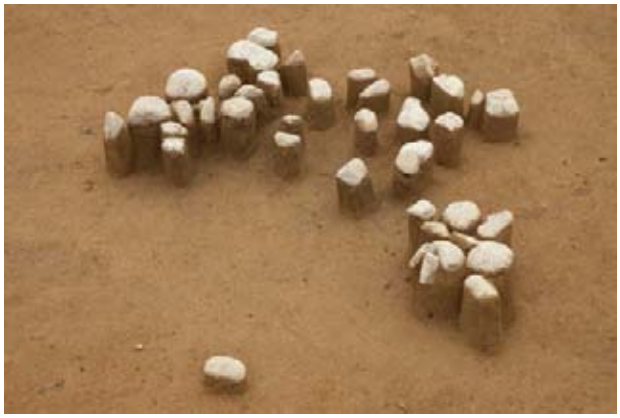
２区全景（上が北）

写真図版６

３区全景（上が北西）

４区全景（上が北西）

SX1001 検出状況（東から）



SX1001（南東から）

試掘坑 M3　北壁土層および土器出土状況（南東から）

押型文土器出土状況

試掘坑 I6　北壁土層（南東から）

試掘坑 K4　北壁土層（南東から）

試掘坑 K4　西壁土層（南東から）

試掘坑 K9　北壁土層（南東から）

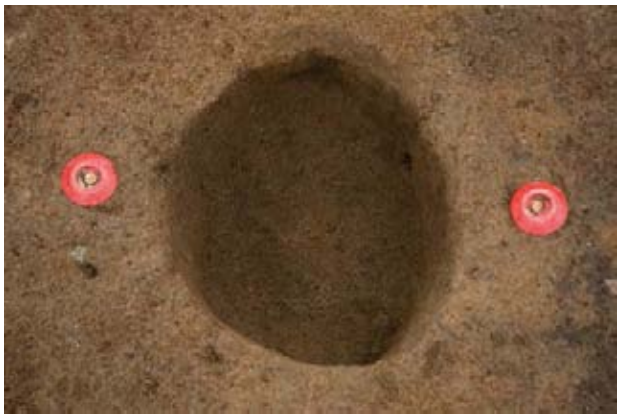
試掘坑 L7　北壁土層（南東から）

押型文土器出土状況

塞ノ神式土器出土状況

塞ノ神式土器出土状況

SX3001（南から）



SX3001 完掘状況（南から）

SX3003（東から）

SX3003 完掘状況（東から）

試掘坑 C14　北壁土層（南東から）

試掘坑 C14　東壁土層（西から）

土師器出土状況

作業状況（南東から）

試掘坑 C17　北壁土層（南東から）

弥生土器出土状況

試掘坑 C16　北壁土層（南東から）

弥生土器出土状況

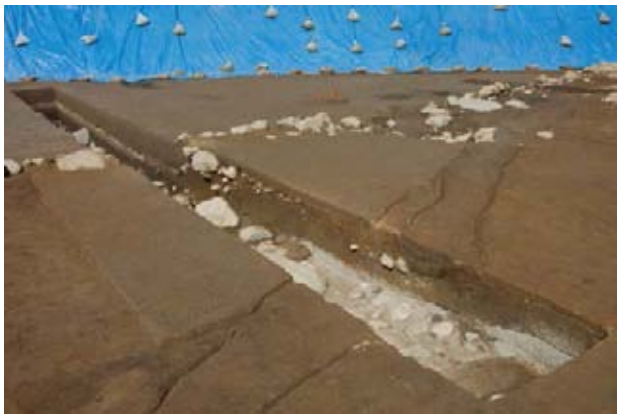
弥生土器出土状況

弥生土器・土師器出土状況

試掘坑 D15　北壁土層（南東から）

弥生土器・土師器出土状況

SX3002（南西から）


SX3002 試掘坑 1　北壁土層（南東から）

SX3002 試掘坑 1　北壁土層西側（南東から）

SX3002 試掘坑 2　北壁土層（南東から）

垣ノ内遺跡の出土遺物 1

垣ノ内遺跡の出土遺物２

垣ノ内遺跡の出土遺物３

西畑瀬遺跡全景（北東から）（平成４年 10 月　嘉瀬川ダム工事事務所提供）

8・9区　全景（南から）

9A 区　上層全景（真上から）

8区　全景（真上から）

9B区　全景（真上から）

9B区　全景（北西から）

8区　A-B 土層（南西から）

8区　試掘坑 5 西壁土層（東から）

8区　SK8001（東から）

8区　SK8002（東から）

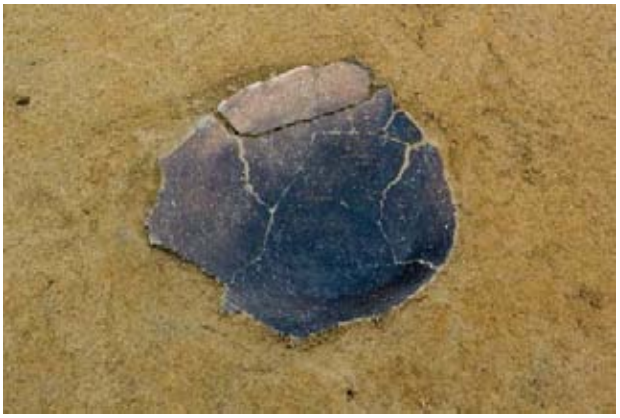
9A 区　土層（南西から）

9A 区　W28 区画土層（南から）

9A 区　SX9004 検出状況（東から）

9A 区　SX9004 完掘状況（東から）

9A 区　SX9005（南から）



9A 区　SX9002（南から）

9A 区　SX9003（東から）

9A 区　SX9013（北から）

9A 区　作業風景（西から）

9B 区　R36 区画土層（南東から）

9B 区　S36 区画遺物出土状況（東から）

9B 区　S36 区画土層（南東から）

8・9区縄文時代の出土遺物 1

8・9区縄文時代の出土遺物 2

8・9区縄文時代の出土遺物３

8・9区縄文時代の出土遺物４

8・9区縄文時代の出土遺物 5

8・9区縄文時代の出土遺物6

8・9区縄文時代の出土遺物7

8・9区弥生時代～中世の出土遺物

東畑瀬遺跡主要部全景（北西から）（平成４年 10 月　嘉瀬川ダム工事事務所提供）

6T 区　遠景（西から）

6T 区　全景（北西から）

6T 区　SX6307・6315（東から）

6T 区　区画 1 完掘状況（南西から）

6T 区　区画 2 完掘状況（東から）

6T 区　区画 1 （C-D）土層（北西から）

6T 区　区画 2 （A-B）土層（南西から）

6T 区　区画 2 （A-B）土層（南東から）

6T 区　SX6307・6315 検出状況（東から）

6T 区　SX6315 焼土検出状況（南東から）

6T 区　SX6302・6309 検出状況（南西から）

6T 区　SK6305 土層（南東から）

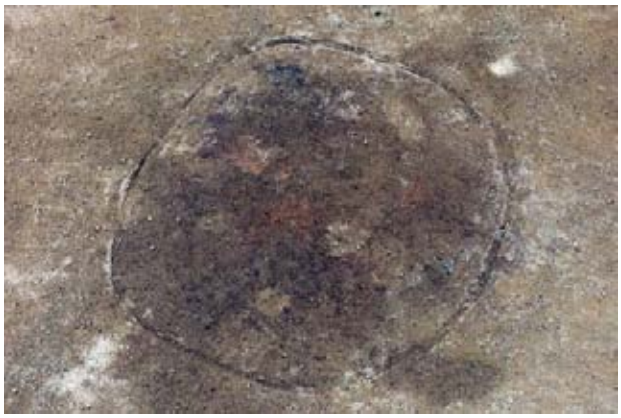
6T 区　SK6305 完掘状況（北東から）

6T 区　SX6301 土層（西から）

6T 区　SX6301 完掘状況（西から）

6T 区　SX6302 検出状況（西から）

6T 区　SX6303 検出状況（南東から）



6T 区　SX6304 検出状況（南西から）

6T 区　SX6304 土層（東から）

6T 区　SX6309 検出状況（南西から）

6T 区　SX6309 土層（東から）

6T 区　SX6311 検出状況（東から）

6T 区　SX6311 土層（南西から）

6T 区　上層区画 1 遺物出土状況（東から）

6T 区　SX6313（南西から）

6T 区　下層遺物出土状況（南東から）

6T 区　坂の下式土器出土状況（南東から）

6T 区縄文時代の出土遺物 1

6T 区縄文時代の出土遺物 2

6T 区縄文時代の出土遺物 3

6T 区縄文時代の出土遺物 4

6T 区縄文時代の出土遺物 5

6T 区縄文時代の出土遺物 6

6T 区縄文時代の出土遺物 7

6T 区縄文時代の出土遺物 8

6T 区縄文時代の出土遺物 9

6T 区縄文時代の出土遺物 10・中世の出土遺物、１・３・６区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かきのうちいせき・にしはたせいせき３・ひがしはたぜいせき４
書名	垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡３・東畑瀬遺跡４
副書名	嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	９
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 197 集
編著者名	渋谷　格・徳永貞紹・吉田大輔・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
発行機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒 840-8570　佐賀市城内一丁目 1 番 59 号
発行年月日	平成 24（西暦 2012）年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯 °′″	東　経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
垣ノ内遺跡	佐賀市富士町大字畑瀬	412045	0094	33° 23′ 55″ 世界測地系 （33° 24′ 7″）	130° 13′ 24″ 世界測地系 （130° 13′ 16″）	20090414 ～ 20100917	21,000	嘉瀬川ダム建設に伴う事前調査
西畑瀬遺跡 ８・９区	佐賀市富士町大字畑瀬	412045	0093	33° 23′ 48″ 世界測地系 （33° 24′ 0″）	130° 13′ 31″ 世界測地系 （130° 13′ 23″）	20071024 ～ 20100112	10,900	
東畑瀬遺跡 6T 区	佐賀市富士町大字関屋	412045	0089	33° 23′ 32″ 世界測地系 （33° 23′ 44″）	130° 13′ 26″ 世界測地系 （130° 13′ 18″）	20070808 ～ 20071220	3,700	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
垣ノ内遺跡	集落跡	縄文	集石遺構 1	縄文土器 石器	早期中葉～後葉の集落跡
	集落跡	弥生～古墳	土器埋納遺構 2	弥生土器 土師器	古墳前期の土器埋納遺構
	不明	中世以降	石列 1	-	
西畑瀬遺跡 ８・９区	不明	縄文～古墳	集石遺構 1 配石土坑 1 土坑 2	縄文土器 円盤形土製品 石器 円盤形石製品	後期初頭・中葉～後葉の集落跡
	集落跡	弥生～古墳	-	弥生土器 土師器	
	集落跡	中世	小穴	在地系土器 須恵器系陶器 中国陶磁	
東畑瀬遺跡 6T 区	集落跡	縄文	性格不明遺構 2 土坑 2 焼土遺構 5 集石遺構 1	縄文土器 円盤形土製品 石器	後期初頭と晩期中葉の集落跡
	集落跡	中世	自然流路 2	在地系土器 須恵器系陶器 中国磁器	

佐賀県文化財調査報告書第 197 集

垣ノ内遺跡・西畑瀬遺跡３・東畑瀬遺跡４

－嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書９－

平成 24 年（2012）年 3 月 31 日

発行　　佐賀県教育委員会

〒 840-8570　　佐賀県佐賀市城内 1 丁目 1 番 59 号

印刷　　株式会社 佐賀印刷社

〒 849-0921　　佐賀県佐賀市高木瀬西 6 丁目 11 番 7 号